

研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係

第1章 研究抄録関係

1. 病院における研究（課題別研究費）

<研究課題1>

がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究

Clinical evaluation of interventional radiology in oncology

<研究者氏名>

所属部：放射線診断・IVR部

研究者氏名：稲葉吉隆

共同研究者：山浦秀和、佐藤洋造、加藤弥菜、川田紘資、
村田慎一、長谷川貴章

【目的】

悪性食道閉塞にステント治療を試みるためには、まずその食道閉塞をガイドワイヤーやカテーテルで通過させる必要があるが、経口的または経鼻的による順行性アプローチでは全く不可能な場合が少数ながら存在する。順行性アプローチが不可能な場合に経胃的に逆行性アプローチを試みる価値があるか否かを検証した。

【方法】

平成13年～25年に当科で悪性食道閉塞にステント治療を試みた症例は125例であり、その内、経口的または経鼻的による順行性アプローチが不可能であった症例は4例で、男性3例、女性1例、平均年齢60.8（53～76）歳であった。2例は頸部食道癌による閉塞であり、血管造影用カテーテルと親水性ガイドワイヤーを駆使しても通過不可能であった。1例は頸部食道癌への内視鏡治療後の閉塞であり、同様に通過不可能であった。もう1例は胸部食道癌による食道気管瘻を合併していたが、口腔癌への治療後で強度の開口障害と気道分泌物喀出が頻回のため、順行性アプローチが困難であった。

これら4例について、食道閉塞へのアプローチ方法、閉塞通過の成否、ステント留置を実施し得たか否かを調査した。

【結果】

全4例ともに、経胃的逆行性アプローチにより最終的に食道閉塞の再開通に成功し、閉塞部にステントを留置し得た。

症例1と症例2では、経皮的に胃瘻を造設し、逆行性に食道閉塞を血管造影用カテーテルと親水性ガイドワイヤーにより再開通させ、ガイドワイヤーにより口または鼻と胃との間にブルスルー経路を作製して、症例1では一期的に膜付きスパイラルZステントを、症例2では二期的（一時的に12F胃管を留置）に膜付きウルトラフレックスステントを順行性に留置した。

症例3は、食道気管瘻合併症例であるが、経皮的に造設した胃瘻経路から食道閉塞を通過させ、そのまま逆行性に膜付きNiti-Sステントを留置した。

症例4は、外科的に造設されていた胃瘻経路から血管造影用カテーテルと親水性ガイドワイヤーによる再開通を試みるも不

可能であったが、閉塞の近位側と遠位側からの造影で、閉塞は短く、直線的であったため、TIPS（経内頸静脈肝内門脈静脈短絡）造設キットのスタイレット針を用いて、経胃経路から閉塞を突破した。ガイドワイヤーで鼻-胃間にブルスルー経路を作製し、一時的に14F胃管をブジーとして留置してから、順行性に膜付きNiti-Sステントを留置した。

逆行性アプローチでガイドワイヤーによる縦隔穿孔を2例で生じたが、重篤な合併症には至らなかった。ステント留置に伴い、嚥下痛を2例に、誤嚥性肺炎を1例に認めた。

ステント留置後、半固形物まで経口摂取できたものが2例、液体摂取のみにとどまったものが2例であった。食道気管瘻を合併していた1例では気道分泌は軽減し得た。

全例死亡しており、ステント留置後の平均生存期間67（16～136）日であった。

【考察】

悪性食道閉塞にステント治療を試みる際に、経口的または経鼻的による順行性アプローチが困難な場合には、経胃的に逆行性アプローチを試みる価値はあると考えられた。

また、閉塞部の詳細な評価によって、TIPS造設キットのスタイレット針のような穿刺デバイスを利用できる場合もあり得た。

<研究課題2>

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based on the treatment sensitivity and the relapse risk

<研究者氏名>

所属部：乳腺科部

研究者氏名：岩田広治

共同研究者：澤木正孝、服部正也、近藤直人、吉村章代

【1年間の総括】

この1年間にも乳癌の術前後薬物療法に関する膨大な情報が世界中から流入し、我々が参加している国内・国外の臨床試験も多方面にわたって進行した。

1：術後内分泌療法に関する研究

報告：2014年に閉経前ホルモン陽性乳癌に対する大規模臨床試験（SOFT & TEXT）の結果が報告された。術後TAMが標準治療に対して、Zoladexの卵巣機能抑制の有効性を検証する試験であった。結果として有効性は証明されなかったが、年齢が若い方やリスクの高い方、ホルモン感受性の極めて高い方ではZoladexによる卵巣機能抑制の有用性が示された。またリスクの高い方では、Zoladexと併用する内服薬はアロマター

ゼ阻害剤の有用性が示された。以上の結果から日常臨床でもZoladexの使用頻度が減少した。

2：術後化学療法に関する研究

報告：術後化学療法の適応をmolecular subtypeで考えようとする方向性は定着したが、以前“luminal B like 乳がん”と定義される乳がんでは化学療法の是非がカンファレンスでよく議論になる。OncotypeDXが解決の1つのツールであるが、保険適応がなく高額な為に、普及していないのが現状である。薬剤の開発はADR, Taxan系抗がん剤以降、術後新規抗がん剤のエビデンスはでていない。日本でluminal type乳癌を対象に、経口5FU (S-1) の有効性を検証する先進医療の枠組みで行っているPOTENT試験の結果が期待されるエビデンスとしては重要である。

3：術後分子標的治療に関する研究

報告：2014年度にlapatinibを使った大規模診療試験 (ALLTO study) の結果が報告された。Trastuzumab1年投与が標準治療に対してLapatinibを併用、逐次投与する有効性は残念ながら示されず、今後もTrastuzumab1年投与が標準治療である。再発乳癌で極めて大きな有用性を示したPertuzumab (Affinity試験) やT-DM1 (Kaitlin試験) を使った大規模臨床試験も登録が終了し、経過観察中である。さらに高齢者HER2陽性乳癌患者における化学療法省略の是非を問うN-SAS-BC07試験 (PI: 当院の澤木先生) も登録が終了した。

4：術前化学内分分泌療法に関する研究

報告：閉経後ホルモン感受性乳癌では術前ホルモン療法の効果で術後の抗がん剤の必要性を検証する第III相多施設共同比較試験 (NEOS study: PIは岩田) の登録が終了し、経過観察中である。閉経後の方を対象にホルモン剤と併用してゾメタと投与する医師主導治験が進行中である。

上記のような多くのエビデンスをもとに、2015年3月にウィーンで開催されたSt gallenコンセンサス会議で術後の標準治療が話し合われた。この結果をもとに、当院での術後治療指針を改訂し、東海地区を中心にして広く配布している。

<研究課題 3>

臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発

Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

<研究者氏名>

所属部 臨床検査部
研究代表者 谷田部 恭
共同研究者 岡田恭孝、田中里枝、長谷川かおり、
柴田典子、藤田奈央、
早川 登、野中綾子

【研究成果】

臨床検査部では各部門別に、本年度に得られた成果および研究経過を報告する。

生化学部門では、尿中有形成成分分析装置を導入し、尿沈渣検

査の効率化を図った。尿管上皮と尿路上皮が識別不可、円柱の検出不可など、完全に自動化するにはまだまだであるが、スクリーニングとしては非常に有用であり、一部の検体の鏡検確認が不要となった。また必要検体量が少ないので、排尿困難で少量しか尿が採取できなかった場合でもスクリーニング可能となった。今後さらに効率的な運用を検討していきたい。

血液検査部門では、フローサイトメトリー検査で提出される針穿刺検体について解析精度を向上させる目的で細胞取り込み法に工夫を試みた。穿刺検体では、殆どがデブリス (夾雑物) のため解析対象となる細胞集団をごく僅かしか得られない場合がある。このような検体に対して一旦FSC-SSC展開図で解析対象となる領域をゲートで囲い、解析用の取り込み数をゲート内の細胞数で規定することで解析細胞数の増加を図った。検診症例数が少なく、異常クローンの検出に有効であったケースは現時点で2例のみであったが、今後も検討を続ける予定である。

生理検査部門では、心毒性のあるハーセプチンによる不可逆的な心不全の発症防止のため、心エコー検査で収縮能の指標である駆出率 (EF) が低下していないかチェックをしている。しかし、心不全には様々な病態があり、EFが保たれた心不全も存在する。そこで拡張能について検討した。

【方法】

ハーセプチンによる化学療法前後の心エコー検査で、器質的異常や壁運動異常を認めないEF \geq 50%以上の女性47名 (年齢 54 ± 11 歳) を対象とし、化療前後で収縮能の指標であるEF、拡張能の指標であるE/e' (左室流入血流速度/僧帽弁輪移動速度) の変化を比較した。

【結果】

化療前と比較し、EFは化療後で有意に低下の傾向を認めたが、E/e' は有意な変化はなかった。

【考察】

心不全への経過は拡張能が収縮能に先行して低下すると考えられているが、ハーセプチンによる心筋障害は拡張能に比し、収縮能に与える影響が大であることが示唆された。よって、ハーセプチンによる心筋障害のモニタリングはEFが有用であると考えられた。

病理検査部門では、通常のHE染色に加え、癌の確定、補助診断に必要な免疫染色を行っている。今年度は、自動免疫染色装置を追加導入し、肺癌の診断に欠かせないP40、TTF-1、Synaptophysin、ALK抗体やリンパ腫関連の抗体について染色条件等の検討を行った。その結果、安定した染色結果が得られる条件を確立し、依頼枚数の増加にも対応できる体制を整えた。また、昨年に引き続き、固定条件についても検討を行った。乳腺や消化器材料において固定板に密着しすぎることによりホルマリン浸透不良が起きていることが考えられた。そこで固定板に形態保持には影響を与えない程度の溝を作り、適度な隙間を作ることで浸透しやすい状態にしたところ、固定状態の改善が見られた。その他にもホルマリン固定液の調整時期、使用回数、濃度管理等に留意し、安定した組織標本が作製できる体制を整えている。

細胞診検査室では腭臓の腺扁平上皮癌について細胞学的検討を行った。腭臓における腺扁平上皮癌は稀な腫瘍であるが、角化細胞の判別が難しく診断に苦慮する場合がある。そこで当施設にてEUS-FNAによる細胞診、セルブロック診、外科切除材料にて腺扁平上皮癌と診断された症例の細胞診標本を再度観察し、特徴となる所見の有無を検討した。その結果、腺扁平上皮癌症例では細胞異型が強く、顕著な壊死を伴うという分化度の低い癌の特徴を有しており、多くの症例ではOG好性の角化型異型細胞も認められた。またOG好性の角化型異型細胞が少ない場合においてもDiff Quik染色でrobin's egg blueと呼ばれる厚みのある細胞質を有する異型細胞を認めた場合には腺扁平上皮癌の推定は可能と思われた。これらの結果を認知し、今後、より正確な細胞診判定を行うための有用な所見として取り入れていく。

細菌検査室では2011年7月から2014年9月までに血液培養にてカンジダが検出された40例について、患者背景、カンジダ菌種、予後、続発症について検討した。患者背景としては全体の60%が基礎疾患に消化器癌がある患者で、また81%の患者に中心静脈カテーテル留置があり、危険因子と考えられた。検出された菌種は*Candida albicans*が43%と最も多く、次に*C.parapsilosis* 24%、*C.grabata* 19%であり、他施設での報告に比べ当院では*C.parapsilosis*が比較的多かった。これは、抗癌剤投与や中心静脈栄養目的でのカテーテル留置患者が多く、カテーテル関連血流感染症が多いためと考えられる。予後については一般にカンジダ血症の死亡率は40%前後と報告されているが、当院では23%だった。続発症では他施設での報告と同様に、真菌性眼内炎が最も多く12.5%、他に敗血症ショック、真菌性肺炎などがあった。眼内炎を発症した患者では感染してから診断までに苦慮し、時間を要したため、治療開始が遅れた例があり、速やかな診断と治療開始が重要であると再認識できた。今回の検討から、カンジダによるカテーテル関連血流感染症は頻度が高く、重要な課題であることが確認できた。感染対策チームの一翼を担っている細菌検査室として、ラウンド時に、適切なカテーテル管理、およびカテーテルの早期抜去の重要性の周知、眼科受診と治療効果判定のための血液培養検査の確実な実施を進めていきたい。

遺伝子検査部門では主に分子標的薬の効果予測としての遺伝子検査を行っており、その検査方法や、測定項目は年々変化している。検査室として臨床側からの要望に応えられるよう、

検体の保存、結果のデータベース化を進め、新規検査方法、検査項目を迅速に取り入れられるよう体制を整えている。平成26年度には進行期大腸がん治療において行われているKRAS遺伝子検査に加え、測定が求められているBRAF遺伝子、NRAS遺伝子、HRAS遺伝子、PIK3C遺伝子検査等解析のための新規分析機器を導入し、試薬の検討を行い、ルーチン検査として軌道に乗せた。また、ALK陽性肺癌において出現する治療による耐性変異を検出する系も確立し、日常検査として導入した。

<研究課題 4>

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究
Development of molecular analysis on cancer diagnosis

<研究者氏名>

所属部 遺伝子病理診断部
研究代表者 谷田部 恭
共同研究者 細田和貴、佐々木英一、村上善子

【研究成果】

近年の分子生物学の飛躍的な発達により、がんの発生・悪性度の評価・薬剤応答性などの知見が蓄積され、それは現在も増えつつある。これら情報の一部は実臨床に直結しており、その応用により適切な診断・治療に結びつくものも多い。そこで、これらの知見を検証した上で、実際の病理診断、細胞診断に導入、応用することを目標に掲げた。その際に、診断に用いられる臨床検体は、生検検体などの小さな組織を利用しなければならなかったり、正常細胞が多数混じているなどの問題点も多い。そこで、それらの点を踏まえた新たなアッセイ系の確立を検討した。

本年度はKRAS遺伝子変異についての新しいアッセイ系を確立した。使用した機材はLuminex100を用い、既知のKRAS変異と本方法での結果を対比した。当初は表1に示すごとく既存の方法で野生型とされた検体においてもKRAS変異があるとの結果を示したが、PCR条件の設定およびハイブリダイゼーションの至適化を行うことで100%の一致率を示すまでに至った。さらに、Luminex100のKRASキットの保険償還に伴い、内容が変更されたが40例を両キットで検討することによりその一致率についても検討した。その結果を表2に示す。ベースラインの上昇がG12Sでは観察されるものの、すべての遺伝子変異は両キットにおいて一致し、新キットとの相関性も確認できた。

表1 すでに確立されたKRAS変異検査法であるcycleave法とLuminex100を用いたKRAS変異検出法の比較（至適化前）

Cycleave results					Luminex results					
	検出不可	G12C	G12D	G12V	G13D	G13DR	G12C	G12S	Wild type	Total
検出不可	2									2
G12D	3		2							5
G12V	1			2						3
G12X	1	1	2	2				1		7
G13DR					2	1				3
G12C							1			1
G13DR	1									1
Wild type	5	11					2		4	22
Total	13	12	4	4	2	1	3	1	4	44

これらの結果より、KRAS変異についてはこの系を用いて大腸癌の効果予測因子としての遺伝子検査としての院内実施を考慮していきたい。

表 2 従来のアッセイ法と新法RASKET キットとの比較検討

従来のアッセイ	BRAF D594G	BRAF G466E	BRAF V600E	KRAS A146A	KRAS G12A	KRAS G12D	KRAS G12S	KRAS G12V	KRAS G13D	NRAS G12D	Wild type	Grand Total
BRAF V600E			1									1
KRAS A146A				1								1
KRAS G12A					1							1
KRAS G12D						6						6
KRAS G12S							1					1
KRAS G12V								5 ^{*1}				5
KRAS G13D									1			1
NRAS G12D										1		1
Wild type	1 ^{*2}	1 ^{*2}									18	20
Grand Total	1	1	1	1	1	6	1	5	1	1	18	37

*1 KRAS G12Aのシグナル強度の増強を認めた。

*2 従来法では検出対象外の変異

<研究課題 5>

トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用

<研究者氏名>

所属部 放射線治療部

研究者氏名 古平 毅

共同研究者 立花弘之、富田夏夫、牧田智誉子

【はじめに】

当院では2006/6にトモセラピー（TomoTherapy社TomoTherapy Hi-Art System）が設置されて以来、臨床例のIMRTによる治療を開始してきた。今回われわれはIMRTの治療効果とその有用性の指標である唾液腺機能を評価検討し当院での頭頸部IMRTの臨床的評価を試み、臨床的有用性・妥当性の評価を行うことを目的とした。

【方法】

我々は今回IMRTの臨床的評価の目的で咽頭がんおよび頭頸部リンパ腫症例に対し、治療前後での唾液腺機能評価の目的で唾液腺シンチグラフィを実施してきた。

2006/6-2013/12に頭頸部癌に対しヘリカルトモセラピーを用い584例の頭頸部癌へのIMRT治療の経験を得た。上咽頭および中咽頭はIMRTによる耳下腺の線量低減のメリットが大きいと考えられ、積極的にIMRTの適応を勧めてきた。誌面の関係で上咽頭癌の成績を紹介するにとどめる。対象は1990年以降2013年までに化学放射線療法を行った上咽頭がん患者で年齢は中央値54歳（11-76）、男性80：26という内訳だった。WHOの病理組織分類のtype IIは24例、type II-IIIは81例、のこ

り1例は組織型判別不能であった。予後調査の解析時点で観察期間中央値は47.2月（16-97ヵ月）、無病生存は71例、担癌生存は16例、原病死が12例、他病死7例の内訳だった。3/5年粗生存率は83.3/79.5%、3/5年無増悪生存率は69.8/63.6%という結果であった。G2の口腔乾燥割合は6ヶ月：1年：2年で66:23:16%と経時的な改善傾向を認めた。

【まとめ】

当院におけるトモセラピーを用いた頭頸部癌のIMRTにおいて治療効果および治療後QOL改善の点で、その高い臨床的有用性が示された。

2. 研究所における研究（人当研究費）

疫学・予防部

<研究課題> 1-1

（主題） がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

（副題） 地域がん登録データによる小細胞肺癌の長期予後

<研究者氏名>

尾瀬 功、伊藤秀美、細野覚代、西野善一¹⁾、服部昌和²⁾、井岡亜希子³⁾、中山富雄⁴⁾、田中英夫、伊藤ゆり⁴⁾

<目的・概要・進捗状況>

肺癌は小細胞肺癌（SCLC; small cell lung cancer）と非小細胞肺癌（NSCLC; non-small cell lung cancer）の2つの組織型に大別され、それぞれ治療・予後が異なる。地域がん登録から得られる肺癌患者の生存率は、その悉皆性の高さから一般集団をよく代表すると考えられるが、組織型別生存率の報告はこれまでほとんど見られない。一方で、臨床研究などで報告される生存率は詳細な反面、状態の良い患者や特定の病院のデータに偏ることが多く、一般の患者への適用には注意を要する。そこで我々は小細胞肺癌患者の代表性の高い生存率を明らかにすべく、地域がん登録データの解析を行った。

1993年から2006年の間にSCLCと診断された患者の情報を、六府県（山形、宮城、福井、新潟、大阪、長崎）の地域がん登録より得た。SCLCの治療の変遷に従い、1993-1998年、1999-2001年、2002-2006年の3期間に分類した。臨床進行度分類の限局、所属リンパ節転移を限局期（LD; limited disease）とし、遠隔転移を進展期（ED; extensive disease）とした。10年生存率はcohort法とperiod法を用いて計算した。Excess mortality modelを用いて多変量解析を行った。

EDの割合、75歳以上の割合はそれぞれ期間1で43.4%、26.0%、期間3で50.0%、33.3%であった。LD患者の1, 5, 10年生存率はそれぞれ期間1で56.8%、16.8%、12.4%、期間3で66.2%、21.4%、15.6%であった。診断後5年生存者における5年生存率はLDで73%、EDで53%であった。期間1と比較して期間2と3の生存率は有意（共に $p<0.001$ ）に改善していた。

ED、高齢者割合の増加にもかかわらず、SCLC患者の生存率の経年的な改善が見られた。理由として支持療法を含む治療の進歩、CT、MRIなど診断機器の進歩による診断精度の向上、治療の均てん化などによる影響が考えられる。

<今後の方向>

NSCLCについても、長期生存率の傾向を検討してゆく必要がある。

¹⁾ 金沢医科大学、²⁾ 福井県立病院、

³⁾ 琉球大学医学部付属病院、

⁴⁾ 大阪府立成人病センター

<研究課題> 1-2

（主題） がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

（副題） 日本人における大腸がん部位別罹患率の経年変化の検討：1978年～2004年

<研究者氏名>

中川弘子¹⁾、伊藤秀美、細野覚代、尾瀬 功、三上春夫²⁾、服部 昌和³⁾、西野善一⁴⁾、中田佳世⁵⁾、杉山裕美⁶⁾、田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんは日本人において食事・生活スタイルの欧米化に伴い戦後急激に増加したがんであり、2010年がん罹患統計において男性3位女性2位のがんである。欧米の先行研究にて大腸がん罹患率の経年変化は大腸部位により差異があると報告されたものの日本人における報告はこれまでほとんど見られない。そこで、我々は日本人における大腸がんの部位別罹患率の経年変化について検討を行った。

日本の地域がん登録事業を代表する計10の地域がん登録室から提供された大腸がん症例をプールし解析に用いた。対象年においてDCN<30%、DCO<25%である地域がん登録を対象とし、観察期間は大腸がん登録罹患年1978年～2004年、がん部位別として大腸がんを右側結腸がん（回盲～脾湾曲部C18.0-C18.5）、左側結腸がん（下行結腸～S状結腸C18.6,C18.7）、直腸がん（C19.9,C20.9）の3部位に分けた。

合計約47万症例につき1978年から2004年の27年間における検討を行った。全観察期間における全大腸がんは1978年から1993年まで増加（年変化率4.9%）、1993年からは横ばいに転じ、年齢調整罹患率は1978年人口10万人対22.2から2004年45.6へ増加を示した。右側結腸がんは全期間に渡り増加傾向を示し、1978年3.4から1991年11.7と増加（年変化率7.1%）、1991年11.1から1996年12.8（年変化率3.8%）、1996年12.8から2004年14へ増加を認めた（年変化率0.9%）。左側結腸がんは、1978年4.9から1991年13.6へ増加（年変化率7.4%）、1991年より横ばいに移行した。一方、直腸がんは1978年12.5から1992年20.4に増加したものの（～1988年 年変化率2.8%、1992年～ 年変化率10.2%）、1992年20.4から2004年17.9と一転減少傾向に転じた（年変化率-1.0%）。

それまで増加傾向であった大腸がん罹患率が1990年代初頭に一転横ばいに転じた。この一因は、食事の欧米化が1970年代までに日本に定着したことや、1990年初頭より導入された大腸がん検診により前がん病変の早期発見やポリプ除去（Polypectomy）による大腸がん予防効果と推測される。また、本研究より日本人の大腸がん罹患率の経年変化は1990年代より大腸部位により異なる経年変化の傾向を示すことを初めて示した。

<今後の方向>

大腸がん罹患率経年変化が1990年代より大腸部位により差

が生じた原因を探る。また、大腸がんリスクファクターの大腸部位による効果の違いについての検討も必要とされる。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 千葉県がんセンター、

³⁾ 福井県立病院、⁴⁾ 金沢医科大学、

⁵⁾ 大阪府立成人病センター、

⁶⁾ 放射線影響研究所 広島研究所

<研究課題> 1-3

(主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

(副題) 愛知県における市別の早期がん割合と I/M 比の関係について

<研究者氏名>

山口通代¹⁾、伊藤秀美、田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

愛知県がん登録では、2011年診断症例においてDCN割合13.6%、DCO割合6.9%、I/M比(罹患数と死亡数との比)2.33と、MCIJ(全国がん罹患モニタリング集計)2011において「精度基準A」を満たしており、より正確な罹患率の把握ができるようになった。地域別にみても登録精度の地域間較差が改善され、地域単位での比較が可能な状況となっている。

今回、愛知県がん登録資料を用いて、「早期がん割合」と、精度指標のうち生存率との正の相関が高い「I/M比」の関係について、性別、市別、部位別で分析し、生存率の向上へとつながる早期がん割合を観察した。

愛知県がん登録資料のうち、人口10万人以上の15市の2007年から2011年の罹患データと、2008年から2013年の死亡データを用い、性別、部位別(胃、大腸、肺、乳房(女)、子宮)に、「早期がん」(臨床進行度が「上皮内」と「限局」に分類された者)と「I/M比」の割合を求め、その関係について比較検討した。

集計にあたっては、まず、臨床進行度から、早期がん割合 = $\{(\text{上皮内} + \text{限局}) / (\text{全体から不明を除く})\} \times 100$ として、2007年から2011年の罹患データから5年間の合計値を用いてその割合を求めた。「I/M比」については、2007年から2011年の罹患データから罹患数(I)を求め、2008年から2012年の死亡データから死亡数(M1)を、2009年から2013年の死亡データから死亡数(M2)を求めて、各々5年間の合計値を用いて15市のI/M比を性別、部位別に算出した。

なお、「I/M比」の算出にあたり、IとMの間隔を決定するため、第3次対がん総合戦略研究事業「革新的な統計手法を用いたがん患者の生存期間分析とその情報還元に関する研究」班(以下、「研究班」という。)により報告された「非治癒患者の中央生存時間」に準拠し、胃、肺、乳房(女)についてはI/M比=I/M1を、大腸、子宮はI/M比=I/M2と設定し分析を行った。

また、15市(胃(男)はDCN割合が外れ値となったため、胃(男)の分析から除外)の早期がん割合とI/M比の各値を用いて散布図を作成し、それぞれの部位における単線形回帰分析を行い、早期がん割合とI/M比の関係について観察した。

部位別に回帰係数を観察すると胃(男)回帰係数:0.040、大腸(男:0.073、女:0.068)、肺(女)0.013、乳房(女)0.195、子宮0.204で有意な正の関係がみられた。一方、胃(女)0.009、肺(男)0.011では有意な関係はみられなかった。また、I/M比については、市間で差が確認された。このような地域間でのI/M比の違いは、15市間で罹患率がほぼ同じと考えた場合、主として、死亡率の違いによってもたらされるものである。この場合、I/M比は、がん罹患患者の中の治癒患者割合と正の相関を示すと考えられる。このような状況において、地域別にみたI/M比と早期がん割合に有意な正の相関が認められるという今回の結果から、早期発見がんの割合を地域で高めることが、その地域のそのがん患者の治癒率の向上に繋がることが推察された。

従って、早期がん割合が低い地域においては、当該がんを早期に発見するため、「がん検診未受診者」や「精密検査未受診者」への効果的な受診勧奨を実施するとともに、有症状者に対しては、広報活動等により広く市民に医療の必要性を伝え、受診行動を促す積極的な取組みを行うことが、その地域のがん罹患患者の救命率を高める効果に繋がることが示唆された。

<今後の方向>

回帰式から大きく離れている市においては、その要因が、がん検診の実施状況によるものか、医療機関の診断・治療精度によるものか等、さらに分析を行うことで、がん対策の効果的な実施に活用できると思われる。また、正確な罹患状況を把握するため、医療機関に対しては、届出の推進のみではなく、臨床進行度等の登録内容の質に関して、精度向上につながる指導等が必要であろう。

現行の地域がん登録は、医療機関からの任意の届出であるため、結果の解釈にあたり、届出の偏り等を考慮する必要があるが、今後、「がん登録等の推進に関する法律」に基づき開始される「全国がん登録」では、悉皆性の高いデータ収集が可能となるため、効果的ながん対策推進に向けての貴重な資料として、積極的な活用が期待される。

¹⁾ 研修生

<研究課題> 2-1

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) 飲酒、喫煙、ALDH2、ADH1B遺伝子多型による食道がんリスク予測

<研究者氏名>

伊藤秀美、小柳友理子¹⁾、尾瀬 功、細野覚代、渡邊美貴、田中英夫、松尾恵太郎¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

飲酒と喫煙は食道がんの確立されたリスク要因である。また、我々はこれまでに、日本人における食道がんリスクと、アルコール代謝に関連するalcohol dehydrogenases 1Bと

aldehyde dehydrogenases 2の遺伝子多型 *ADH1B-rs1229984* と *ALDH2-rs671* との関連を見いだしている (Matsuo K, et al., 2001, Oze I, et al., 2009)。しかしながら、これらの生活習慣 (環境要因) や遺伝的要因が日本人の食道がんリスク予測にどの程度寄与しているのかは明らかになっていない。本研究では、飲酒、喫煙、*ADH1B*、*ALDH2*多型による日本人の食道がんのリスク予測モデルを構築し、その予測能を評価するため、症例対照研究を実施した。

対象は、愛知県がんセンター病院疫学研究プログラム (通称HERPACC) に2001年から2005年に参加した、食道がん症例265例と、性と年齢を適合させた非がん対照者530名である。条件付きロジスティックモデルを用いて、環境要因 (飲酒と喫煙)、遺伝的要因 (*ADH1B*、*ALDH2*) との関連を評価した上で、リスク予測モデルを構築した。モデルの精度は、Receiver-operating characteristics (ROC) 解析による識別能、Calibration plotとHosmer-Lemeshow testによる適合度の較正、Integrated discrimination improvement (IDI) 指標による再分類の観点から評価した。

飲酒、喫煙、*ADH1B*多型、*ALDH2*多型はそれぞれ、食道がんリスクと統計学的有意な関連を認めた。ROC解析による曲線下面積 (AUC) は、環境要因 (飲酒と喫煙のみ) モデル、遺伝的要因 (*ALDH2*と*ADH1B*多型) モデル、両者を含むモデルでそれぞれ、0.873, 0.747, 0.931で、すべてを含むモデルの識別能が統計学的有意に高かった。Calibration plotのslopeの傾きは1.0、Hosmer-lemeshow testのp値は0.7697と、適合度の較正は保たれていた。また、性と年齢によるモデルに環境要因、遺伝的要因、環境+遺伝的要因を追加した時のIDIは、それぞれ0.280, 0.110, 0.414であった。

飲酒、喫煙、*ADH1B*多型、*ALDH2*多型による食道がんリスク予測モデルを構築した。環境要因と遺伝的要因の両者を含むモデルでは識別能、適合度の較正、再分類能とも極めて高く、本研究にて構築したリスク予測モデルによって、食道がんの高リスク群を捕捉できることが分かった。本リスク予測モデルは、食道がんの個別化予防におけるリスク評価に大きく貢献するものであることが示唆された。

<今後の方向>

実用化に向けて、外的妥当性の評価や正しくリスクを伝え正しい予防行動へ導くリスクコミュニケーション法の確立などが必要となるであろう。

¹⁾ 九州大学

<研究課題> 2-2

- (主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病因疫学研究
- (副題) 遺伝子多型と環境要因を用いた日本人の食道がんリスク予測モデル作成

<研究者氏名>

細野覚代、松尾恵太郎¹⁾、伊藤秀美、尾瀬 功、渡邊美貴、田島和雄²⁾、田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

近年ゲノムワイド関連解析 (GWAS) によって、大腸がんリスクと関連する遺伝子多型が報告されている。今回我々はGWASで同定された遺伝子多型から24個を選び、特に有意な関連を示した6遺伝子多型を用いて日本人の大腸がんリスク予測モデルを構築し、評価を行った。

当院で実施している大規模病院疫学研究プログラム (HERPACC) のデータベースから大腸がん症例558名と非がんと判明している1,116名を対象に症例対照研究を行った。6遺伝子多型のリスクアレル総数により、研究対象者を低危険群 (0-4アレル)、中危険群 (5-7アレル)、高危険群 (8-12アレル) に分類した。条件付きロジスティック回帰分析を用いて、オッズ比 (OR) と95%信頼区間 (95%CI) を推定した。がんの部位、性別、大腸がんの家族歴との交互作用を検討した。さらにc統計量を使って、既存の環境要因に関する危険因子のみを用いた予測モデルとこれらに遺伝リスク分類を組み合わせたモデルを比較検討した。

低危険群と比較して、中危険群と高危険群のORと95%CIはそれぞれ1.40 (95%CI : 1.07-1.83) と2.23 (95%CI : 1.50-3.30) であった (傾向P値<0.001)。がんの部位、性別、大腸がんの家族歴で層別化解析を行った後も、この有意な関連は一貫して保たれた。

既存の危険因子のみを用いた大腸がん予測モデルのc統計量は0.701、遺伝リスク分類を追加したモデルは0.717で統計学的に有意に増加した (P=0.001)。

この遺伝リスク分類は日本人の大腸がん予測モデルとして使用できる可能性がある。

<今後の方向>

今後は他施設の研究者と協力し、本リスク予測モデルの妥当性を確認する予定である。また、アジア人のGWAS研究の知見を追加してモデルの再構築も実施する予定である。

¹⁾ 九州大学

²⁾ 三重大学

<研究課題> 2-3

- (主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究
- (副題) 日本人集団における血清*Helicobacter pylori* 抗体および血清ペプシノゲンによる出生年別にみた*Helicobacter pylori* 感染者および胃がんハイリスク者割合の傾向

<研究者氏名>

渡邊美貴、伊藤秀美、細野覚代、尾瀬 功、加藤久登¹⁾、松尾恵太郎²⁾、田中英夫

<目的・概要・進捗状況>

日本における胃がんの罹患率が高いことが知られているが、1980年頃から減少傾向を示している。この減少傾向は、胃がんの主な原因の1つである*Helicobacter pylori* (*H. pylori*) の感染者の減少が影響していると考えられる。そこで、日本人集団において、*H. pylori* 抗体陽性者、血清ペプシノゲンテスト陽性者の割合の出生年代間の傾向を検討した。

2005年9月～2013年3月に愛知県がんセンター中央病院を受診した出生年が1926～1989年の患者のうち、当部が行っている病院疫学研究参加者で胃がんとMALTリンパ腫と診断された患者を除いた4,285人を対象者とした。血清*H. pylori* 抗体陽性者を*H. pylori* 感染者、さらに*H. pylori* 抗体陰性であるが血清ペプシノゲンテスト陽性者を胃がんのハイリスク者とした。*H. pylori* 感染者、胃がんハイリスク者の割合の出生年ごとの変化割合 (birth-year percent change : BPC) をジョインポイント解析により求めた。

H. pylori 感染者割合は、出生年が1927年から1949年の者で54.0%から42.0%と減少し、BPCは-1.2% (95%信頼区間: -1.6% ~ -0.8%) であった。出生年が1949年から1961年の者では42.0%から24.0%、BPCは-4.5% (95%信頼区間: -6.0% ~ -3.0%) と急激な減少が認められた。胃がんハイリスク者の割合は、出生年が1927年から1942年の者で62.0%から55.0%と減少し、BPCは-0.8% (95%信頼区間: -1.4% ~ -0.1%) であった。出生年が1942年から1972年の者では55.0%から18.0%、BPCは-3.6% (95%信頼区間: -6.0% ~ -3.0%) と急激な減少が認められた。

H. pylori 感染者、胃がんハイリスク者ともに、後生まれほどその割合が低くなっていた。さらに、*H. pylori* 感染者の割合は1949年生まれ以降、急激な減少が認められた。これは、戦後に上下水道の整備が進み、衛生環境の劇的な改善がもたらしたものと考えられる。さらには、1942年以降に生れた者における胃がんのハイリスク者割合の劇的な減少は、衛生環境の改善に加え、胃の萎縮が加齢により生じることによるものと考えられる。

以上のような*H. pylori* 感染者、胃がんハイリスク者の減少傾向から、今後も胃がんの罹患率の減少は続くものと考えられる。

<今後の方向>

一般集団における*H. pylori* 感染者、胃がんハイリスク者の割合の出生年間の傾向を検討するとともに、がん登録データを用いて胃がんの罹患率の傾向を検討する。

¹⁾ 株式会社ファルコルコバイオシステムズ東海中央研究所

²⁾ 九州大学

<研究課題> 3

(主題) 「健康日本21あいち」に基づく愛知県民のためのがん予防啓発技術の開発研究

(副題) 禁煙治療受療者における禁煙成功に関連する諸要因の同定

<研究者氏名>

田中英夫、谷口千枝¹⁾、伊藤秀美、尾瀬 功

<目的・概要・進捗状況>

保険を使った禁煙治療が日本に導入されて9年になるが、その受療者における禁煙成功に関連する諸要因を、認知行動科学的要因を含めて包括的に探索、同定した報告はほとんどない。我々は、愛知県がんセンター中央病院、国立病院機構、名古屋医療センター他、計6病院において、2008年～12年に禁煙治療外来を受療した660名(うち、がん患者119名を含む)を対象に、初回診療時点で把握したベースライン情報と、それから12週間後の禁煙治療終了時点における、禁煙成功(7日間以上の持続禁煙)との関連を、多重ロジスティック回帰分析で検討した。その結果、年齢が高いこと、自己効力感が高いこと、がんなどの疾患に罹っていること、バレニクリンによる治療を受けていたことが、有意な禁煙成功関連要因であった。予想に反し、うつ病の指標であるCES-Dや、ニコチン依存度の指標であるFTND、同居家族に喫煙者がいないことは、有意な関連を示さなかった。

<今後の方向>

禁煙成功に対する自己効力感を高めるためのカウンセリング、およびバレニクリンを用いた薬物治療が、禁煙治療介入で重要であることが確認できた。今後は、治療終了12ヶ月後の時点での、長期的な禁煙の継続に関連する要因を同定し、効果的な長期介入法を検討する。

¹⁾ 椋山女学院大学

<研究課題> 4

(主題) がん治療の長期予後(効果)に影響する要因の分析

(副題) 胃・大腸新生物患者の予後に関連する環境要因・遺伝的要因に関する病院疫学研究

<研究者氏名>

尾瀬 功、細野覚代、伊藤秀美、田中英夫、渡邊美貴、室 圭、丹羽康正、清水泰博、山雄健次、谷田部恭、松尾恵太郎、西山 毅¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

疫学・予防部では1988年より26年にわたり、愛知県がんセンター中央病院の患者を対象とした病院疫学研究HERPACC (Hospital-based Epidemiological Research Program at Aichi Cancer Center)を行ってきた。国内有数の大規模病院疫学研究としてがん罹患の原因となる環境要因・遺伝的要因およびその交互作用を多数解明してきた。

胃がん・大腸がん(結腸がん+直腸がん)はそれぞれ罹患数の第1位、第2位であるが、治療の進歩により、多くの胃がん・大腸がん患者が長期生存している。がん長期生存者はがんの再発・二次がん罹患のリスクがある他、生活習慣病などのリスクも一般集団より高いと言われているが、がん生存者における生

活習慣等の環境要因・遺伝要因と健康リスクのエビデンスはほとんど無い。そのため、胃がん・大腸がんと診断された患者を対象として環境要因・遺伝要因の調査と予後の追跡を行い、予後に関連する要因を明らかにできれば、エビデンスに基づいた生活改善により、多くの胃がん・大腸がん生存者の予後を改善できると考えられる。

胃・大腸の新生物の診断で愛知県がんセンター中央病院で初回治療を行う患者を対象に質問票により環境要因の調査と血液検体の採取を行う。追跡調査として3ヶ月後、1年後に血液検体の採取、1年・3年・5年後に環境要因の調査を行う。がんの治療、再発などの臨床情報は愛知県がんセンター中央病院のカルテより収集し、二次がんの罹患については愛知県がん登録および全国がん登録データベースとの照合により行う。プライマリーエンドポイントは胃がん・大腸がんの予後に関連する環境要因・遺伝要因およびその交互作用の同定とし、セカンダリーエンドポイントはがん以外の生活習慣病や二次がんのリスクに関連する環境要因・遺伝要因およびその交互作用の同定である。

2015年1月より患者登録を開始し、2015年6月時点で60人の参加がみられている。

<今後の方向>

患者の参加登録および追跡調査を進めてゆく予定である。

¹⁾ 愛知医科大学

腫瘍病理学部

<研究課題> 1-1

(主題) 難治がんの分子病理学的特徴解析の研究
(副題) 固形癌細胞膜表面レセプター CXADR (CAR) を介する増殖制御機構の解析

<研究者氏名>

近藤英作、齊藤 憲、飯岡英和¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

従来ウイルスレセプターとして同定されている分子は多種類のヒトがん細胞で、ウイルス非存在下に恒常的な発現を維持する現象が認められる。これはウイルス感染以外に重要かつ必須の役割を細胞において果たしているからと推察される。われわれは、アデノウイルスレセプター CXADR (Coxsackie and Adenovirus receptor; CAR) に注目し、その恒常的な発現ががん細胞の動態にいかなる役割を担っているのかを検討した。約20種類のヒト悪性腫瘍細胞株についてqPCR法を用いてCARの発現の特徴を解析し、高発現する固形癌の代表として頭頸部扁平上皮癌細胞系でCARの発現抑制を行ったところ、増殖能の顕著な低下が認められた。また増殖抑制の分子機序としてCARが細胞骨格の制御に重要な役割を果たす酵素 (ROCK) の機能を制御していることを明らかにし、研究成果を学術誌 Oncogene (vol.33 (10), 2014) に発表した。

<今後の方向>

CARとROCKの相互反応を詳細に検討し、扁平上皮癌増殖制御 (抑制) 医薬のデザインをめざす。

¹⁾ 客員研究員 (愛知医科大学先端医学研究センター)

<研究課題> 1-2

(主題) 難治がんの分子病理学的特徴解析の研究
(副題) 腺癌細胞における上皮極性制御分子Crb3aの発現と機能の研究

<研究者氏名>

飯岡英和¹⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

上皮極性制御分子は正常器官の発生・分化・機能に必須の分子群である。この中でわれわれは管腔形成に関わるCrb3aに注目し、腺がんを中心とする悪性腫瘍における発現・機能異常の解析を進めている。

<今後の方向>

がんにおけるCrb3aの異常点を具体的に洗い出し、がん (とくに腺がん) 制御のための基盤戦略構築のための手掛かりをつかんでいきたい。

¹⁾ 客員研究員 (愛知医科大学先端医学研究センター)

<研究課題> 1-3

(主題) 難治がんの分子病理学的特徴解析の研究
(副題) がん幹細胞の探索的研究

<研究者氏名>

中田晋、斎藤 憲、飯岡英和¹⁾、中西速夫、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

がん幹細胞は近年多大な注目を集める医生物学研究領域で、がんの発生・再発の根幹を成す細胞群として真の治療標的ではないかとの議論が高まっている。われわれは、膵がん、胃がん、大腸がんなどの消化器がんや脳腫瘍 (グリオーマ)、また難治性リンパ腫などを解析材料に、がん幹細胞としての特徴を備えるマーカーの同定やその細胞学的特徴を分子病理学的に解析している。さらに、これら細胞群の分子標的薬などを中心とする抗腫瘍薬に対する耐性の分子機序を併せて明らかにすべく研究を進めている。

<今後の方向>

具体的ながん幹細胞マーカーの洗い出し、その分子機能を特定する。この結果から、がん幹細胞の増殖を制御する方策を構築していく。

¹⁾ 客員研究員（愛知医科大学先端医学研究センター）

<研究課題> 2-1

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術の開発研究

（副題） がん細胞選択的吸収性ペプチド（腫瘍ホーミングペプチド）の開発

<研究者氏名>

近藤英作、斎藤 憲、飯岡英和¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

我が国の制がん医療における先進医療の新しいレパトリーを創出することを目標に、選択的にがん細胞上の細胞膜透過能を発揮する新規ペプチドを開発し、これを基盤材料とした細胞内分子輸送システムや分子標的治療システム、疾患診断用イメージングシステムの構築を目指している。現在まで発生系統の異なる約10種類のヒト悪性腫瘍細胞に対して選択的勾配を示して高透過能を発揮する新規配列をコードする細胞膜透過ペプチドを得た（特許申請済み）。さらにこれらの中から白血病・肝細胞がん標的ペプチドと癌抑制遺伝子p16INK4aの機能を代償する配列を融合した抗腫瘍ペプチドを作成、さらに現在機能の大幅な増強を目指した改変技術を検討した。一連の研究結果は「がんに吸収されるペプチド」として、Nature Communicationsに掲載されるとともに、新聞（日経、読売、中日、時事通信各社など）やTV（NHKニュース、東海テレビなど）のメディアに取り上げられた。

<今後の方向>

今後はこれらペプチドを用いた腫瘍イメージングやペプチド医薬の創成など、がん医療への応用のための具体的な開発研究を推進していく。

¹⁾ 客員研究員（愛知医科大学先端医学研究センター）

<研究課題> 2-2

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術の開発研究

（副題） ゲフィティニブ耐性肺がんに対する抗腫瘍性細胞内分子機能制御ペプチドの開発研究

<研究者氏名>

斎藤 憲、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

肺がんにおける先進医療の領域ではgefitinib（イレッサ）、erlotinib（タルセバ）などの分子標的薬がベッドサイドに登場し活躍しているが、近年、現行の分子標的薬による耐性クローン腫瘍の出現が新たに大きな治療学上の大きな問題となっている。このような現状に鑑みて、われわれはゲフィティニブ不応

性肺がんに焦点を当て、耐性がんと感受性がんの分子学的特徴の差異を解析し、増殖抑制に大きな影響を与える分子p14ARFの誘導反応の違いを明らかにした。さらにこの結果に基づいて、肺がん標的ペプチド（抗腫瘍ペプチド）の作成に成功した。

<今後の方向>

作成した抗腫瘍ペプチドのin vivo tumor modelマウスにおける実効性の検討、さらに機能増強を企図したペプチドの修飾改良、また治療対象を肺がんのみならず多彩な悪性腫瘍に適用拡大するための基礎研究などを次段階として行っている。

<研究課題> 2-3

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術の開発研究

（副題） 新規血液中循環がん細胞（CTC）デバイスの開発とその臨床応用

<研究者氏名>

中西速夫、遊佐亜希子¹⁾、舎人 誠²⁾、寺澤佳世子¹⁾、伊藤誠二²⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

近年、血液中循環がん細胞（Circulating tumor cells=CTC）がLiquid biopsyとして注目を集めている。我々は愛知県「知の拠点」重点研究プロジェクトの一環として簡便、低コストにCTCを分離検出することのできるバイオデバイスの開発を名大工学部などと医工連携で進めている。開発したフィルター型デバイスは簡便、高感度にCTCを検出し、かつ生きたまま1個ずつ単離でき、その後各種の遺伝子解析が可能である。また、本デバイスはこれまでブラックボックスとされてきたCTCの生体内動態解析にも有用でGFP遺伝子を導入したマウスCTCモデル（転移モデル）を作成してその一端を明らかにした。

<今後の方向>

今後、本デバイスを用いて臨床研究を進め、転移の早期診断や治療効果判定のバイオマーカーとしての有用性について検討してゆく予定である。

¹⁾ 研修生、²⁾ 愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 2-4

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術の開発研究

（副題） 消化器がん転移に対する近赤外蛍光腹腔鏡イメージング法の研究

<研究者氏名>

中西速夫、伊藤彰洋¹⁾、三澤一成²⁾、伊藤友一²⁾、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

腹腔微小転移巣を特異的かつ高感度に検出する近赤外蛍光腹腔鏡イメージング法の開発を進めている。ICG直接標識EGFR抗体（ICG封入りポゾム標識抗体）を、あらかじめ腹膜転移を作成したヌードマウスの腹腔内あるいは静脈内に接種し、ICG用CCDカメラを装着した新規腹腔鏡試作機とレーザー光源（波長800 nm）を組み合わせて構築したICG蛍光腹腔鏡により1 mm以下のサイズの腹膜転移を特異的かつほぼリアルタイムに検出することに成功した。近赤外蛍光標識抗体を用いた光イメージング法は、胃がんの腹膜転移に対して高い感度・特異性を有し、蛍光腹腔鏡による光イメージング法として臨床応用の可能性が示唆された。

<今後の方向>

臨床的に重要なリンパ節転移についても独自にマウスのリンパ節転移モデルを開発しており、今後これを用いてリンパ節転移巣の蛍光イメージングについても検討する予定である。

¹⁾ 研修生、²⁾ 愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 3

（主題） 病理剖検症例の病理組織学的研究

<研究者氏名>

山下大祐¹⁾、中西速夫、斎藤典子、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

本年度も継続して、病理解剖を担当した。これらの症例は組織検査後、病理診断・解剖所見を付して担当医に報告されると同時に、日本病理学会の剖検輯報に掲載される。学問的に貴重な症例、臨床的（診断並びに治療上）に重要で検討を要する症例に関しては、担当医との意見の交換は勿論であるが、適時行われるCPC（臨床病理検討会）に提出し相互討議を深め、当がんセンターの医療水準の向上の一役を担った。

<今後の方向>

がんの診断技術、制がん手段（手術・照射・制がん剤・免疫療法）の進歩によって、根治例の増加は勿論、非根治例でも長期間寛解をもたらす機会が開かれつつある。悪性リンパ腫等に対する幹細胞移植を組み合わせた超大量化学療法や分子標的治療、食道がん、脳転移巣への分割照射の治療効果などがその代表で、剖検時腫瘍の顕著な縮小、瘢痕治癒を認めることが少なくない。しかし一方で感染症をはじめ出血、血栓症などの合併症が死因となる例も決して稀ではない。かかる症例を疾患の自然史的立場から系統的な病理学的検討を行い、良好な予後に導く要因を引き出すのが今後の重要な課題である。また近年増加傾向にある臨床試験（治験）が行われている症例や医療事故が疑われる症例の剖検については臨床側との密接な協力、また第3者機関へのコンサルテーション等により積極的に症例報告、情報開示を行ってゆくことが大切である。

¹⁾ リサーチレジデント

分子腫瘍学部

<研究課題> 1

（主題） 肺がんの発症・進展機序の解明と分子標的療法の探索

（副題） 肺がんの浸潤・転移に関連する新規遺伝子CLCP1の機能解析と治療への応用

<研究者氏名>

長田啓隆、立松義朗、関戸好孝、谷田部恭、八木香澄¹⁾、赤塚淳一¹⁾、加藤 省²⁾、小野健一郎¹⁾、柳澤 聖²⁾、高橋 隆²⁾

<目的・概要・進捗状況>

多くの先進諸国において癌死亡率第一位を占める難治性の肺癌の予後改善のために革新的な新規治療法の開発が求められており、そのために肺癌の発生・進展機序に関する分子生物学的な解析が精力的になされ、肺癌に特徴的な遺伝子発現プロファイルが、肺癌の病理組織像や臨床予後と強い関連を持つことが明らかとなってきている。そのような知見の蓄積のもと、現在我々は、高転移性の肺癌細胞株で高発現しているI型膜貫通型の新規転移関連遺伝子CLCP1の機能解析を進め、その知見を新規のがん診断法・治療法へ応用することを目的とし研究を進めている。これまでCLCP1が肺がん発症のドライバーとなるEGFR・MET等のチロシンキナーゼ受容体（RTK）と相互作用し、機能的なクロストークを行って、RTK活性を制御している結果を得ている。

今年度では、ノックダウンによるCLCP1発現低下と肺がん細胞の増殖との関係を検討した。CLCP1をノックダウンしたところ、多くの肺がん細胞株において通常の接着培養で細胞増殖抑制効果が得られた。この抑制効果は有意ではあったが、軽度～中程度であった。そこでさらに軟寒天培地内の細胞非接着状態で培養を行ったところ、CLCP1ノックダウンにより強い細胞死の誘導が見られた。この時に、Apoptosisの直接の原因であるミトコンドリア膜電位差の低下も見られた。これは細胞非接着により誘導されるAnoikisと呼ばれる細胞死であり、正常細胞では細胞非接着状態でAnoikisが誘導されるが、がん細胞ではAnoikisが誘導されなくなることが多い。このAnoikis抵抗性の獲得が、がんの浸潤能・遠隔転移能と関連すると考えられており、がんで高発現しているCLCP1はAnoikisを抑制することで、がんの浸潤・転移に関与することが強く示唆された。

また、CLCP1とRTKとのヘテロ複合体形成や、それに対する抗CLCP1抗体FA19-1の作用も検討した。CLCP1とRTKとの複合体形成の動態を検討するために、CLCP1とEGFRと異なるtagを付加して293T細胞に発現させ、抗CLCP1抗体を一定時間暴露し免疫沈降-ウェスタン解析を行った。その結果、CLCP1とEGFRとは恒常的に結合しているが、抗CLCP1抗体はそのCLCP1-EGFR複合体の形成を更に促進した。そこで次に、肺がん細胞株PC9を抗CLCP1抗体に暴露して、時系列的

にEGFRの発現およびリン酸化の変化を検討したところ、抗CLCP1抗体曝露によりEGFRの発現低下とリン酸化の低下が観察された。抗CLCP1抗体は、CLCP1-RTKヘテロ複合体形成を促進し、その結果RTK内在化・活性抑制を起こすと考えられた。

<今後の方向>

Anoikis抑制に関与するCLCP1の細胞内シグナル伝達機構の解明のために、CLCP1細胞内ドメインに結合する分子群の探索を進める。RTKの内在化・活性抑制を誘導する抗CLCP1抗体が、*in vitro*及び*in vivo*において単独でどの程度、腫瘍増殖抑制及び浸潤転移抑制作用を発揮し得るかも検討していく。

¹⁾ 医学生物学研究所、

²⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科分子腫瘍学分野

<研究課題> 2

(主題) 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) 中皮腫細胞におけるBAP1腫瘍抑制遺伝子の機能解析

<研究者氏名>

羽切周平、長田啓隆、石黒太志、村上優子、関戸好孝

<目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療は確立していない。他の高頻度な腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A, NF2, BAP1遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子異常は稀である。BAP1遺伝子は染色体3p21.1領域に局在し、729個のアミノ酸からなる脱ユビキチン化酵素をコードする。我々は、BAP1遺伝子の日本人中皮腫患者における不活性化の頻度と、変異したBAP1蛋白質の機能異常についての詳細を明らかにするため研究を進めた。

我々が樹立した日本人患者由来中皮腫細胞株19株を詳細に検討したところ、5株(26%)において不活性化変異が認められた。最初に、野生型BAP1と変異型BAP1について細胞内の局在について検討した。蛍光免疫染色法にて、野生型BAP1蛋白質は主として細胞核内に、変異型BAP1蛋白質はA95D変異、Y724X変異、F679LFsX37変異(いずれも中皮腫細胞株で同定された変異)の順に、より細胞質に局在がシフトすることが明らかとなった。次に、野生型、変異型3種を用い、BAP1がホモザイガス欠失した中皮腫細胞株(Y-MESO-25株)にそれぞれ導入して、細胞増殖抑制能を検討した。BAP1野生型はY-MESO-25株に対して約50%の増殖抑制能が観察されたが、A95DやY724Xの変異型でも弱いながら腫瘍増殖抑制能が観察された。さらに、細胞株に放射線を照射してDNA傷害を誘導し、

BAP1の活性化(リン酸化)の誘導を検討した。放射線照射により野生型BAP1蛋白質のみならず、変異型BAP1蛋白質もリン酸化されることが明らかとなり機能的活性化を受けることが示唆された。

BAP1蛋白質はもともと遺伝性乳がんの原因遺伝子産物であるBRCA1に結合する分子として同定されたが、中皮腫細胞株パネルで発現を検討したところ、BAP1変異株ではBRCA1の発現が低下していることが示唆された。BAP1の不活性化がBRCA1の不安定化に寄与していることが想定されたため、BAP1欠失細胞株にBAP1を導入して、BRCA1の安定化の検討を行った。その結果、BRCA1の蛋白レベルが上昇したが、この効果は野生型BAP1のみならず変異型BAP1でも認められ、変異型BAP1でもBRCA1の安定化機能が一部保存されている可能性が示唆された。

最後に、BAP1はDNA修復における関与が示唆されているため、BAP1導入前後におけるDNA損傷からの中皮腫細胞株の細胞生存能を検討した。BAP1ホモザイガス欠失細胞株(Y-MESO-25)は放射線照射後に著明な細胞死が誘導されたが、野生型、また弱いながらも変異型BAP1導入にて細胞生存能が回復した。これは、BAP1が放射線照射(DNA損傷)においては、DNA修復を促進して中皮腫細胞をプロテクトする機能があることを示唆した。

<今後の方向>

悪性中皮腫細胞において腫瘍抑制性に機能するBAP1遺伝子の不活性化は極めて重要であり、その機能的な意義について検討することが中皮腫に対する新たな治療法開発への足がかりになるものと期待される。今回の検討により、1) BAP1は中皮腫細胞に対して腫瘍抑制性に機能すること、2) 変異したBAP1も一部、機能的に保存されていること、3) BAP1はBRCA1の安定化に寄与していること、4) 放射線照射(DNA損傷)時に、BAP1は腫瘍抑制性の側面からでなく、逆にDNA修復を促進し細胞生存に働くこと、が明らかとなった。これらの知見は、実際の中皮腫患者に対してBAP1遺伝子異常の存在の有無によりどのような治療戦略を開発していくべきかという観点から、極めて重要な示唆を与えるものと考えられた。

遺伝子医療研究部

<研究課題> 1-1

(主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副題) 悪性リンパ腫は、細胞分化を伴ったヒエラルキーに基づいた細胞構成から成る：ヒエラルキーの上部には、初発及び再発腫瘍の源となる細胞が存在する一方、腫瘍の大部分を占める細胞はヒエラルキーの末端に位置し、その増殖能力は多くの場合限定的である

<研究者氏名>

片山 幸、高原大志¹⁾、垣内辰雄²⁾、竹内一郎³⁾、Toby Dylan Hocking⁴⁾、都築 忍、瀬戸加大⁵⁾

<目的・概要・進捗状況>

悪性リンパ腫は、全腫瘍の5%を占めるリンパ球起源の腫瘍であり、化学療法によく反応するが再発率も高い。その予後の改善には、腫瘍の発症及び再発機構の解明が重要である。我々はこの発症及び再発機構を検討するため、悪性リンパ腫患者9症例の初発/再発腫瘍の染色体増幅欠損異常の検討を行った。この結果、再発時に染色体異常を同定出来なかった1例を除いた9例中8例において再発時には、初発時にあった染色体異常の一部が必ず“消失”している事が判明した。このことから、再発時には、初発時の大部分を占めていた腫瘍クローンは消失していることが明らかとなり、ヒエラルキーの上部から新たなクローンは供給されて増殖していることが示唆された。再発時の腫瘍クローンはヒエラルキーの上部から発生することは、染色体異常だけではなく、同一検体に対するB細胞受容体の検討からも同様に示された。8症例における推定ヒエラルキー上位の細胞は、高確率で9番染色体短腕の欠損および18番染色体の増幅を伴っており、長期生存して新たな下位腫瘍クローンを生成するためにこのような染色体異常を利用している可能性が高いと考えられる。

<今後の方向>

マウスB細胞性リンパ腫において、細胞表面マーカーを用いることで、腫瘍細胞の中に実際に未分化な細胞分画が存在することを示し、これらの細胞分画における染色体異常を検討する。更にこの未分化な細胞分画のみが腫瘍再構築能を有することを示すことで、リンパ腫がヒエラルキーに基づいて発症することを証明し、よって再発予防の一助とすることを旨とする。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 研修生、³⁾ 名古屋工業大学、

⁴⁾ McGill University、⁵⁾ 久留米大学医学部・病理

<研究課題> 1-2

(主眼) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副眼) マウスモデルを用いたDLBCL (Diffuse Large B Cell Lymphoma) 関連遺伝子の機能解析

<研究者氏名>

高原大志¹⁾、都築 忍

<目的・概要・進捗状況>

DLBCL (びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫) は悪性リンパ腫の一亜型であり、胚中心B細胞から発生するとされている。DLBCLについて多数の遺伝子異常がこれまでに報告されているものの、何れの遺伝子異常が発症に寄与しているのか、また複数の遺伝子異常の間に協調作用があるのかといった問題は十分に解明されていない。この問題を検証するため、以前我々が確立した、*in vitro*で成熟B細胞から胚中心B細胞を誘導し、レトロウイルスにより腫瘍関連遺伝子を導入して免疫不全マウスに移植する系を用いた。今回我々はDLBCLのリンパ腫関連遺伝子として知られているCard11 (L225LI)、Bcl2、Bcl6につ

いて評価した。これらの3種の全てと、任意の2種の遺伝子を導入したところ、3種すべてを導入した群とCard11 (L225LI)、Bcl6を導入した群においては、いずれの個体においても2か月以内にDLBCLの発症がみられた。一方、それ以外の群においては、リンパ腫の発症は大きく遅延するか、認められなかった。腫瘍細胞における転写因子の発現を検討したところ、胚中心後 (post-GC) のB細胞と同様の発現を示していた。今回の結果により、NF- κ B経路の恒常的な活性化をもたらす変異型Card11と、分化の停止をもたらすBcl6の協調がDLBCLの発症に重要な役割を果たしていることが示された。

<今後の方向>

DLBCLにおいて報告されている多数の遺伝子異常に関して、今回の検討と同様の評価が可能と考えている。さらに、治療薬の効果を評価するための*in vivo*モデルとしての応用を期待している。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 1-3

(主眼) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副眼) 急性型ATLマウスモデルの作製

<研究者氏名>

春日井由美子、瀬戸加大¹⁾、都築 忍

<目的・概要・進捗状況>

成人T細胞性白血病 (Adult T-cell Leukemia: ATL) は human T-cell leukemia virus type 1 (HTLV-1) 感染者に発症する予後不良のT細胞性腫瘍で、約60年という長い期間を経て、感染者の約5%以下に発症する。このことから、ATL発症にはHTLV-1感染だけでは不十分で、他の要因の蓄積が必要であることが示唆されるものの、その特定には至っていない。HTLV-1がコードし、ATL発症に重要な役割を果たしていると考えられるbZip factor (*HBZ*遺伝子) のトランスジェニックマウスの研究においても同様の結果が示されており、生後2年の長期観察でも発症率は40%に過ぎない。

我々は、独自のデータや公開されているデータをもとに、ATL発症に加担する遺伝子異常の候補を探索し、*Akt*、*BCLxL* 遺伝子の発現増加、*Ink4a/Arf*遺伝子ゲノム領域の欠失がATLに特徴的な遺伝子異常であることを確認した。さらにこれらの遺伝子異常と*HBZ*を組み合わせることにより、急性型ATL様疾患を発症するマウスモデルを確立した。

具体的には、*Ink4a/Arf*ノックアウトマウスより採取した胎児肝細胞をOP9-DL1細胞上でサイトカインを加えてT細胞に分化・増殖させ、このT細胞に*HBZ*、*BCLxL*、*Akt*の3遺伝子を導入したところ、OP9-DL1細胞上では、サイトカイン非存在下でも増殖することを見出した。しかし任意の2遺伝子を組み合わせると導入したT細胞は同条件では増殖しなかった。そこで次に上記3遺伝子を導入した*Ink4a/Arf*ノックアウトT細胞をマウスに移植したところATL様疾患を発症し、その白血病

細胞は、3 遺伝子がともに導入された細胞でほとんどが占められており、かつCD4シングルポジティブでヒトの急性型ATLに特徴的なFlower Cellに類似していた。一方、比較対象として、*BCLxL*と*Akt*遺伝子を導入した*Ink4a/Arf*ノックアウトT細胞を移植したマウスは150日以上経過してもほとんどが無病であった。

<今後の方向>

確立したマウスモデルの系を応用し、ATLに特徴的な他の遺伝子異常の探索や、ATL特異的に有効な薬剤のスクリーニングを行う。

¹⁾ 久留米大学医学部・病理

<研究課題> 2-1

(主題) 造血器細胞の分化・増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究

(副題) リンパ性白血病関連遺伝子の機能解析

<研究者氏名>

都築 忍

<目的・概要・進捗状況>

白血病は様々な遺伝子異常によって生じるヘテロな疾患群だが、その疾患単位を特徴づける遺伝子変異も存在する。今回リンパ性白血病関連遺伝子の機能解析を通して、その遺伝子が白血病の成立・維持に果たす役割を考察し、さらに白血病の表現型との相関について検討した。

コントロールのマウス未分化Bリンパ球は、移植後マウス体内で急速に分化し、1か月程度で体内から検出できなくなった。これに対して、遺伝子Aをマウス未分化Bリンパ球に発現させて移植すると、細胞は最も未分化なプロBの段階で分化が停止して、マウス体内に長期（1か月以上）存在し続けた。さらに、遺伝子Aを発現させたこのBリンパ球は2次移植後も分化が停止したまま体内で増殖し続け、さらに3次移植も可能であった。

遺伝子Bをマウス未分化Bリンパ球に発現させてマウスに移植すると、細胞はプレBの段階で分化が停止し、それ以降への分化が完全に阻害された。同細胞も2次移植が可能であった。遺伝子Cの機能解析は現在進行中であるが、Bリンパ球の分化抑制作用は不完全であるという予備的結果を得ている。

以上より、遺伝子A、Bは各々異なる分化段階で細胞の分化を止めること、遺伝子Cの分化抑制作用が弱いことから、各々の遺伝子は白血病の異なる表現型と相関を示す可能性がある。遺伝子A、B、Cを発現させたBリンパ球を移植したマウスは3か月以上生存しており、単独では白血病には至らない可能性、したがって他の遺伝子異常と協調して白血病が発症する可能性が示唆された。一方で、遺伝子A、Bを発現させたBリンパ球はマウスに連続移植が可能であり、このことは白血病性幹細胞と共通する特性であることから、遺伝子A、Bの作用を抑制することで白血病性幹細胞を標的とした新しい治療法の開発につながる可能性が示唆された。

<今後の方向>

遺伝子機能のさらなる解析のためにChIP-seqや免疫沈降/質量分析等を行う。

<研究課題> 2-2

(主題) 造血器細胞の分化・増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究

(副題) 不死化中皮細胞株に対する遺伝子導入による悪性化の検討

<研究者氏名>

垣内辰雄¹⁾、高原大志²⁾、中西速夫³⁾、長田啓隆⁴⁾、関戸好孝⁴⁾、都築 忍、瀬戸加大⁵⁾

<目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫においても造血器腫瘍と共通する遺伝子異常がみられることがあるため、悪性中皮腫の増殖、腫瘍化における遺伝子異常の役割について検討した。これまで悪性中皮腫に関連する遺伝子異常は、中皮腫の細胞株を用いてその機能が評価されて来たが、正常中皮細胞から悪性中皮腫への形質転換における役割に関しては評価されていない。今回、われわれはヒトパピローマウイルスE6/E7およびhTERTを導入した不死化中皮細胞株を用いて、中皮腫関連遺伝子の形質転換能を検討した。

悪性中皮腫臨床検体や細胞株に認める遺伝子異常は、Hippo経路を高頻度に不活化させる。Hippo経路の不活化により、転写活性化補助因子YAPのリン酸化が抑制され、その結果YAPは核内に移動し、特定の遺伝子発現を制御する。

今回我々は不死化中皮細胞株を用いてYAPを過剰発現させることでHippo経路の不活化を再現した。その結果、YAPを過剰発現させた不死化中皮細胞株はin vitroでの増殖能が亢進し、ヌードマウスに移植すると腫瘍を形成することを見出した。YAPによる形質転換において重要な役割を担う遺伝子を明らかにするために、YAP遺伝子導入前後の不死化中皮細胞株に対して遺伝子発現解析を行った。その結果、YAPの下流にあって、細胞増殖促進に機能する遺伝子の1つを新たに同定することができた。

<今後の方向>

今回同定した遺伝子が、YAPと直接的な相互作用を示すかどうか検討する。また、中皮腫細胞株の増殖動態における役割を明らかにする。

¹⁾ 研修生、²⁾ リサーチレジデント、

³⁾ 愛知県がんセンター愛知病院 臨床研究検査科、

⁴⁾ 愛知県がんセンター分子腫瘍学部、

⁵⁾ 久留米大学医学部・病理

腫瘍免疫学部

<研究課題> 1-1

(主題) 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索

(副題) 非遺伝性散発性乳癌におけるTREX2複合体の機能解析

<研究者氏名>

桑原一彦、榎藤なおみ¹⁾、葛島清隆

<目的・概要・進捗状況>

乳癌の90%以上を占める非遺伝性散発性乳癌は多因子疾患と考えられ、GWAS解析から多くの疾患感受性遺伝子が同定されている。我々は転写共役型DNA傷害の研究の過程で哺乳動物TREX2複合体の構成分子の一つGANPが乳癌発症に関与することを二種類の遺伝子欠損マウスの解析から明らかにしてきた。哺乳動物TREX2複合体はGANP-Pcid2-DSS1-Centrin 3/4-ENY2からなり、出芽酵母ではTREX2複合体のどの因子が欠損しても転写共役型DNA傷害を誘導する。しかし、哺乳動物では遺伝子転写時にTREX2複合体の個々の構成分子の役割が異なることが示されており、生体内で類似した機能を司るのかは不明である。乳癌発症や悪性進展における転写共役型DNA傷害の意義を明らかにする目的で、GANP以外の他のTREX2複合体の分子DSS1に着目して解析を行った。

約270例の非遺伝性散発性乳癌検体を用いてDSS1 mRNAの発現解析を行い、DSS1高発現群がDSS1低発現群に比べて無再発生存期間が短縮しているということを見出した。DSS1 mRNAの発現と増殖能の指標であるKi67の発現は関連しないため、薬剤感受性と関連する可能性を考えた。そこで乳癌細胞株MCF7にレトロウィルスベクターを用いてDSS1安定発現株(MCF7/DSS1)を樹立した。乳癌の標準的治療として用いられるドキソルビシンとパクリタキセルによる細胞死がコントロール細胞に比べてMCF7/DSS1で減少した。逆にDSS1をノックダウンしたMCF7ではコントロール細胞に比べて両薬剤が誘導する細胞死が増加した。これらの結果は、乳癌細胞における化学療法感受性にDSS1の発現量が関与することを示しており、化学療法抵抗性を示す乳癌の治療効果改善のためにDSS1が良い標的となることが期待される。

<今後の方向>

DSS1はTREX2複合体の他の因子に加えて、遺伝性乳癌の癌抑制遺伝子BRCA2やプロテアソーム構成分子と結合することが知られている。DSS1ノックダウンによる薬剤感受性増加がどの経路と関係するのかを明らかにする。MCF7以外の細胞株、特に治療抵抗性を示すトリプルネガティブ乳癌細胞株においても薬剤感受性に影響を与えるのかを解析する。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 1-2

(主題) 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索

(副題) がん細胞で提示されるTAP非依存的エピトープの解析

<研究者氏名>

岡村文子、赤塚美樹²⁾、葛島清隆

<目的・概要・進捗状況>

がん免疫療法ではがん細胞を攻撃するエフェクターである細胞傷害性Tリンパ球(CTL)が認識する抗原の情報が治療に重要な役割を果たす。我々は腫瘍抗原を同定するための様々な人工抗原提示細胞を構築している。以前にK562をベースとした人工抗原提示細胞を用いて樹立したCTLクローンが認識するHSP90 β を抗原として同定した。この抗原はHLA-A24拘束性に、9アミノ酸からなるペプチドを認識していた。さらにTAP1の発現をRNA干渉法にて抑制したところ、CTL応答が惹起された。TAPの発現低下は免疫回避機構としてがん細胞でのみ見られる現象である。より広くがん免疫療法を展開するために、がん細胞でTAPの発現が低下していても提示されると考えられるTAP非依存的エピトープを解析した。

TAPの機能を阻害することが報告されている、単純ヘルペスウイルスのICP47遺伝子およびヒトサイトメガロウイルスのUS6遺伝子を導入すると、細胞表面のHLAの発現が低下する一方で、CTL応答が惹起していた。また、もともとTAP2発現が低下しているがん細胞はCTLから認識されるが、TAP1およびTAP2遺伝子を導入すると認識されなくなった。これらのことから本エピトープはTAP非依存的な生成過程を経て抗原提示されていると考えられた。

さらに、TAP非依存的エピトープの解析を幅広く行うためにゲノム編集法によるTAP遺伝子改変細胞の作製を行った。CRISPR/Cas9を用いてゲノム編集法を行い、HEK-293T細胞およびがん細胞を対象に検討した。TAP2遺伝子内にCas9もしくはヌクレアーゼドメインに変異があるため、ニックアーゼ活性のみを有するCas9D10Aに認識される候補配列をウェブでデザインして、プラスミドに組み込んだ。各候補2個についてより効率のよいものをプラスミドのトランスフェクションを行った後、HLAの発現を低下させる効果が高いものとして選んだ。バイアリアルに遺伝子編集を行う可能性を高めるために繰り返しトランスフェクションを行う検討をしたところ、HEK-293T細胞では初回トランスフェクション時からゲノム編集の高い効果が見られ、繰り返すことでより多くの細胞でゲノム編集された。しかしながら複数のがん細胞で検討したが、いずれにおいてもゲノム編集効率は初回トランスフェクション時も繰り返しトランスフェクション時も非常に低かった。

がん細胞であるKP-3細胞でも同様の手法でゲノム編集を2回行ったのち、細胞表面のHLA発現低下群をセルソーターにて分取することで高い割合でTAP 2遺伝子のゲノム編集が行われたバルク細胞を得た。このKP-3バルク細胞から限界希釈法にてクローンを樹立することができた。

<今後の方向>

がん細胞からのTAP遺伝子改変細胞を作製することができたことから、このエピトープの解析に使用できるだけでなく、TAPの有無によるがん特異的エピトープのレパートリーを解析できるよいツールになると考えている。

²⁾ 客員研究員（藤田保健衛生大学血液内科）

<研究課題> 2

- (主題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究
(副題) 高親和性T細胞受容体による分子標的治療薬の開発

<研究者氏名>

太田里永子、葛島清隆

<目的・概要・進捗状況>

腫瘍に対する特異的な細胞傷害性T細胞 (CTL) は、癌患者において存在したとしても、その機能は制御性T細胞や、腫瘍に発現しているPD-L1などにより、強く抑制されている。そこで腫瘍を効率よくターゲティングし、免疫応答による腫瘍破壊を誘導するために、T細胞受容体 (TCR) 分子に着目した。TCRは、主要組織適合複合体 (MHC) /抗原ペプチド-複合体に結合する。抗体と同様、多種多様な抗原に対して、遺伝子再構成によって様々なバリエーションのTCRが作られる。抗体と抗原の結合は強力 (解離定数: $KD=10^{-9} \sim 10^{-11}M$) であるのに対して、TCR とMHC-ペプチド複合体との結合は比較的弱い ($KD=10^{-4}M \sim 10^{-7}M$)。しかしながら、抗体は、腫瘍細胞表面に発現している抗原にしか反応できないのに対し、TCRは、MHCを介して提示された細胞内抗原も認識することができる。私共は、抗体に匹敵する親和性の可溶性TCRを得ることで、新規の分子標的治療薬の開発を目指している。例えば、高親和性のTCRと抗CD3抗体のscFv (single chain fragments variant) を繋げた分子は、免疫アナジーや免疫疲労に陥っていない“元気な”CD3陽性T細胞を腫瘍局所に集積させ、活性化し、腫瘍の破壊に動員することができると考えられる。

in vitroにおいてTCRを親和性成熟 (affinity maturation) させるリーディング実験として、研究室に解析システムが完備されている、サイトメガロウイルス由来のタンパク質pp65を用いた。HLA-A*24:02拘束性pp65特異的CTLクローンの α および β TCR遺伝子を5' race法にてクローニングし、各遺伝子をファージミドベクターに組換えた。現在、TCR発現ファージの作製を行っている。

また、クローニングしたTCRの特異性、および改良後TCRの抗原結合力を簡便に評価するための解析用細胞を作製した。すなわち、TCRの細胞表面での発現に必要な4種類のCD3分子を、ウイルスベクターを用いて293T細胞に導入した。この細胞に、A24/pp65-TCRのcDNAを導入し、HLA-A24/pp65複合体 (MHCテトラマー) との反応性を確認した。MHCテトラマーで染色される細胞分画は、細胞表面CD3の発現分画と一致していた。この293T-CD3細胞に、改良したTCRを遺伝子導入し、MHCテトラマーとの反応性をフローサイトメトリー法により

解析することにより、TCRの抗原に対する結合力を評価することが可能となった。

<今後の方向>

今後は、TCRのCDR3領域にrandom mutationを入れたファージディスプレイライブラリーを構築する。パニング法にて高親和性のTCRクローンを取得した後、上記のCD3発現293T細胞に導入してMHCテトラマーとの結合性の改善を評価する。また、TCRを大腸菌リコンビナントタンパクとして作製するシステムを確立しているため、将来はBiacoreによる分子間相互作用解析も行う予定である。

感染腫瘍学部

<研究課題> 1

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析
(副題) ウイルスがん遺伝子産物LMP1のウイルス株間における機能的差異

<研究者氏名>

神田 輝

<目的・概要・進捗状況>

EBウイルスは、B細胞のみならず、咽頭口腔領域および胃の上皮細胞にも感染し、時に発がんに関与する。最近、上咽頭がん由来のEBウイルス株は、リンパ芽球様細胞株由来のB95-8株と機能的差異が認められることが報告された。そこで今回の研究では、上咽頭がん由来EBウイルス株のLMP1遺伝子と、Bリンパ芽球様細胞株であるB95-8株のLMP1遺伝子の機能的差異について組換えウイルスを用いた検討を行った。その結果、上咽頭がん由来LMP1遺伝子を組み込んだ組換えウイルスは、親株であるB95-8株組換えウイルスと比較して、上皮細胞におけるウイルス産生効率に優れることを明らかにした。さらにこうした効率の良いウイルス産生において、上咽頭がん由来LMP1遺伝子産物とウイルスマイクロRNA群が協調して寄与することを明らかにした。

<今後の方向>

上咽頭がん由来のLMP1蛋白質を発現することが、ウイルスの上皮細胞への感染において有利に働く可能性が考えられた。今後、中央病院頭頸部外科との共同研究により、上咽頭がん生検組織由来のEBウイルス株のLMP1遺伝子についても解析していく予定である。

<研究課題> 2

- (主題) 遺伝子組み換えウイルスを用いた発がん研究
(副題) EBウイルスによるヒト上皮細胞がん化メカニズムの解析

<研究者氏名>

神田 輝

<目的・概要・進捗状況>

ヒト腫瘍ウイルスであるEBウイルスは、Bリンパ球を主な感染宿主細胞とする一方で、咽頭や胃の上皮細胞へも感染し、その発がんに関与すると考えられている。しかしEBウイルスによる上皮細胞がん化のメカニズムの詳細は不明である。最近、シーケンス技術の進歩に伴い、EBウイルス株間に予想以上の多様性が存在することが明らかになりつつある。がん組織に感染したEBウイルス株が発がん能の亢進した特殊なウイルス株である可能性も否定できない。そこでがん組織に潜伏感染したEBウイルス株の解析に向けて、EBウイルス陽性上咽頭がん、胃がん細胞株より、EBウイルスゲノムのクローン化を試みている。既にクローン化に必要なターゲティングコンストラクトを作製し、相同組換えクローンを得るための実験条件を決定した。

<今後の方向>

上咽頭がん、胃がん細胞のEBウイルスゲノムをクローン化し、これをもとに組換えウイルスを産生する実験系を確立する。そしてがん細胞由来のEBウイルス株と、Bリンパ球由来のEBウイルス株の機能的差異について、組換えウイルスを用いて解析する。

分子病態学

<研究課題> 1-1

(主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究

(副題) 腸管腫瘍形成におけるJNK/mTORC1経路の活性化機構

<研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠¹⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんの多くで最初に生じる遺伝子レベルの変化は、APCがん抑制遺伝子の変異と考えられている。Apc遺伝子にヘテロ接合変異を持つ遺伝子改変マウス（以下Apc変異マウス）では、腸上皮細胞のApc遺伝子座でのヘテロ接合性の消失（LOH）によりAPCタンパクの機能が失われる結果、Wnt経路が恒常的に活性化し、腺腫性ポリープを発症する。我々は、Apc変異マウスの腸管ポリープの成長にはWnt経路の活性化に加えて、mammalian target of rapamycin complex 1 (mTORC1) 経路の活性化が重要な役割を果たすこと、mTORC1の活性化はその構成因子であるRaptorがJNKによってリン酸化されて引き起こされることなどを報告してきた。しかしながら、Apc変異マウスのポリープでJNKが活性化する機序については不明であった。前年度までに、野生型マウスの小腸正常陰窩およびApc変異マウスのポリープに由来するオルガノイド培養を用い

た解析により、JNKの活性化は細胞外因子によることを示唆する結果を得ていた。一方、培養細胞系の実験においてTLR経路や炎症性サイトカイン等の自然免疫応答に関わる因子がJNKを活性化させるといった知見もあり、これらはApc変異マウスのポリープにおいてJNKの活性化を引き起こす細胞外因子の候補と考えられた。そこで、平成26年度は、TLR経路の主要なアダプター因子であるMyD88の機能を腸管上皮特異的に欠損させ、Apc変異マウスにおけるポリープ形成への影響を検討した。その結果、MyD88の機能欠損により、Apc変異マウスのポリープ形成数が減少する傾向がみられた。次に、サイトカインの寄与について、Apc変異マウスのポリープに由来するオルガノイド培養をサイトカインで刺激することで検討したところ、サイトカイン刺激により、JNKとmTORC1の活性化が引き起こされた。

<今後の方向>

腸管腫瘍におけるJNK活性化の分子機序の一端が明らかになりつつあるので、引き続き関与する因子の同定に取り組み、腸管腫瘍の形成・進展における自然免疫の関与、さらにJNK活性化と自然免疫との関係を解明していきたい。

¹⁾ 京大・国際高等教育院

<研究課題> 1-2

(主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究

(副題) 腸管腫瘍の悪性化におけるmTORC1経路の役割

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、武藤 誠¹⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

家族性大腸腺腫症のマウスモデルであるApc変異マウスは良性的腺腫性ポリープを発症し、さらにSmad4遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つcis-Apc/Smad4マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。我々はこれまでに、Apc変異マウスの腸管ポリープおよびcis-Apc/Smad4マウスの腸がんの管腔側への成長にはmTORC1経路の活性化が重要な役割を果たし、mTORC1選択的阻害薬RAD001によって腫瘍形成が顕著に抑制されることを明らかにした。一方、cis-Apc/Smad4マウスの腺がんの浸潤はRAD001投与およびmTORC1、mTORC2の両方を阻害するmTORキナーゼ阻害薬AZD8055でも抑制できないことを見出した。平成26年度はmTORキナーゼ阻害薬投与によるフィードバック経路の活性化を介して、特定の受容体型チロシンキナーゼとその下流シグナル経路が顕著に活性化していることを見出した。mTORキナーゼ阻害薬に加えてこのチロシンキナーゼ、及びその下流の経路の一つを阻害する薬剤を投与したところ、腺がんの形成とそれに伴う浸潤を強力に抑制した。

<今後の方向>

大腸がんがmTOR経路阻害薬に対する抵抗性を獲得する分子機構を明らかにし、その克服戦略を確立したい。また、mTOR阻害薬と併用することで腺がんの浸潤を抑制できる分子標的薬の探索・評価を行う。

¹⁾ 京大・国際高等教育院

<研究課題> 1-3

- (主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究
(副題) 肺がんの微小環境と悪性化機構に関する研究

<研究者氏名>

前田 亮¹⁾、小島 康、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

肺がんは我が国のがん死の第一位であり、年間約5万人以上が肺がんで死亡している。肺がん患者の特徴としては、高齢者が多く、また慢性閉塞性肺疾患や間質性肺疾患などの呼吸器疾患を基礎疾患に持つ患者が多いことがあげられる。間質性肺炎合併肺がんの研究領域において、間質性肺炎と発がんとの関連や、肺がん治療に関連した間質性肺炎急性増悪因子の同定に関する研究は多くなされているが、間質性肺炎合併肺がんの生物学的特性そのものに関する報告はこれまでなかった。我々は、間質性肺炎の肺の微小環境自体が肺がんの悪性度を高める因子として働いているのではないかとこの仮説を立てた。この仮説を検証し、そのメカニズムを解明することにより、治療困難な間質性肺炎合併肺がん患者の診療及び治療成績を向上させるための革新的治療戦略を構築したいと考えている。

平成26年度は、C57BL/6マウスにプレオマイシンを経気道的に投与することで、プレオマイシン誘導性間質性肺炎を発症するモデル、および同じくC57BL/6マウスの左肺に同系マウス由来の肺がん細胞株であるLLC (Lewis lung carcinoma cell) を移植する肺がん同所性肺移植モデル、C57BL/6系統の遺伝子背景をもったK-rasLSL-G12D/+; p53fl/fl (KP) マウスを導入し、Cre発現アデノウイルスベクターを経気道的に投与することで肺がんが発症するマウスモデルの解析を継続して、プレオマイシン誘導性間質性肺炎の炎症が、リンパ節転移を促進する可能性を示唆するデータが得られた。

<今後の方向>

プレオマイシン誘導性間質性肺炎の炎症が、リンパ節転移を促進することを実証し、その分子機構について検討を加える。また間質性肺炎合併肺がんの臨床データの解析を開始する。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 1-4

- (主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究
(副題) マウスモデルを用いた大腸がんのがん関連線維芽細胞の解析

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、武藤 誠¹⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

KRAS遺伝子の変異は大腸がんを含む多くのがんで確認されている。KRASは様々な下流のシグナル経路を調節するが、なかでもRAS/RAF/MEK/ERK経路の活性化は細胞増殖を促進させることから、KRASに変異のあるがんの治療標的として、この経路を阻害する薬剤の開発が進められている。特に日本で開発されたMEK阻害薬trametinibはBRAF変異メラノーマの治療に既に利用されている。我々はKRAS変異大腸がんにおけるMEK/ERK経路の役割を検証することを最終目標としているが、この経路が良性の腸管ポリープにおいて果たす役割が明らかではなかったことから、まずApc変異マウスの腸管ポリープを用いて検証した。MEK/ERK経路は、腫瘍上皮細胞よりも、むしろ管腔側に存在する間質細胞、特に血管内皮細胞及び線維芽細胞で強く活性化していることを見出した。また、Apc変異マウスにtrametinibを投与したところ、腸管ポリープの形成が顕著に阻害され、腫瘍上皮細胞の増殖と血管新生が抑制されていた。これらの結果は、間質細胞のMEK/ERK経路の活性化が何らかの形でポリープ形成を促進することを示唆している。

<今後の方向>

間質細胞におけるMEK/ERK経路の活性化がポリープ形成を促進する機序を解明する。特にMEK/ERK経路が活性化している間質細胞は、腸管ポリープ形成に関与するCOX-2 (cyclooxygenase-2) を発現する細胞と局在が近いことから、COX-2の関与について検証する。

¹⁾ 京大・国際高等教育院

<研究課題> 2

- (主題) がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築
(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

<研究者氏名>

小島 康、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義¹⁾、武藤 誠²⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者のPerformance Status (PS)、Quality of Life (QOL) を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。我々は、

悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、大腸がんマウスモデルの*Apc*変異マウスと*cis-Apc/Smad4*複合変異マウスの解析に取り組んでいる。

*Apc*変異マウスでは約20週齢から、*cis-Apc/Smad4*変異マウスでは14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。平成26年度は、悪液質を発症した*Apc*変異マウスと*cis-Apc/Smad4*複合変異マウスの肝臓、骨格筋、血漿、腫瘍組織の代謝変化に関して、キャピラリー質量分析法（CE-MS）を用いた解析を行い、データに関して統計学的検討を加えて、肝臓に関して悪液質に特徴的な代謝プロファイルが存在することを確認した。

<今後の方向>

悪液質を発症した肝臓に特徴的な代謝プロファイルに関して、生化学的解析、薬理学的解析を行い、その妥当性、生物学的意義に関して検討を加える。

¹⁾ 慶應大・先端生命科学研究所

²⁾ 京大・国際高等教育院

<研究課題> 3-1

(主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出

(副題) 大腸がんマウスモデルを用いた転移抑制遺伝子の体内スクリーニング

<研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一¹⁾、木村賢哉²⁾、清水泰博²⁾、谷田部恭¹⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

がん転移は転移促進因子と抑制因子の機能バランスが崩れることによって進行すると考えられるが、転移抑制因子は未だ少数しか同定されておらず、生体レベルで機能を解明した報告は極めて少ない。我々は、shRNAライブラリーを用いたマウス生体内スクリーニング系を確立し、これまでに47個の転移抑制遺伝子候補を同定した。中でも、*Hnrpll* (*heterogeneous nuclear ribonucleoprotein L-like*) は複数の個体および転移巣から検出され、ヒトにもオルソログ (*HNRPLL*) が存在することから、この遺伝子の研究を先行させている。

低転移性マウス大腸がん細胞株CMT93の*Hnrpll*を、スクリーニングで検出したshRNAおよびその他の配列のshRNAでノックダウンしたところ、いずれもマトリゲル浸潤能と生体内での肺転移能が亢進した。さらに、shRNA抵抗性の*Hnrpll*を強制発現することでこの浸潤・転移能の亢進がキャンセルされたことから、*Hnrpll*は大腸がんの転移抑制遺伝子であることが強く示唆された。ヒトHNRPLLについても現在検証を進めている。

HNRPLLはRNA結合タンパクであり、リンパ球では*CD44*や*STAT5A*のpre-mRNAスプライシングを制御することが報告されている。CMT93細胞で*Hnrpll*をノックダウンすると、転

移を促進することで知られる*Cd44 variant exon 6* (*Cd44v6*) の発現増加を認めた。*Cd44v6*に対する中和抗体でマトリゲル浸潤能が抑制されたことから、*Hnrpll*は少なくとも部分的には*Cd44*のスプライシングを介して転移を抑制する可能性が考えられる。

がん細胞の悪性化に伴うHNRPLL発現低下機序についても検討を進めている。これまでに、大腸がん細胞に*in vitro*で上皮間葉転換 (EMT) を誘導するとHNRPLLの発現がタンパクレベルで低下することを見出した。大腸がん患者検体でも浸潤先端のより低分化ながん細胞でHNRPLLの発現が低下する傾向がみられた。

<今後の方向>

EMT誘導によってHNRPLLの発現が低下する機序を解明する。臨床検体の検証については症例数を蓄積し、予後や転移との相関を明らかにしたい。

また、スクリーニングで同定されたHNRPLL以外の遺伝子についても検証を開始したい。

¹⁾ 遺伝子病理診断部

²⁾ 消化器外科部

<研究課題> 3-2

(主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出

(副題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法に進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。近年のゲノム・トランスクリプトーム解析により大腸がん転移のシグネチャー遺伝子が同定され、大腸がん細胞株の移植実験などからも転移に関与するとされる遺伝子が発見されているが、これらの遺伝子を改変することによって安定的に転移する大腸がんマウスモデルが作出されたという報告はまだない。このことは、生体レベルで大腸がんの転移に関与することが証明された遺伝子は未だないことを示している。我々は、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBacトランスポゾンを用いたスクリーニングを開始した。現在、大腸がんモデルとして腸管に良性の腺腫を発症する*Villin-creER^{T2};Ctnnb^{+/loxEx3}*マウス (VBマウス) および*Lgr5-creER^{T2};Ctnnb^{+/loxEx3}*マウス (LBマウス) にトランスポゾン (ATP1-S2) マウス、さらにトランスポゼース (*Rosa-LSL-PBase*) マウスを交配させることにより、タモキシフェン依存的に腸管ポリープを形成させると同時に、その細胞でトランスポゼースを発現させる系を構築している。このようなマウスに発生した腸管腫瘍細胞内では、トランスポゾンの転移により遺伝子の活性化または不活性化がランダムに起こり、その結果として転移能を獲

得することが期待される。

<今後の方向>

目的とするマウスが近々産まると予想されるので、それらにタモキシフェンを投与し、生じた腸管腫瘍の解析を行うとともに、転移の有無を詳細に調べる。浸潤・転移が確認できれば、トランスポゾン挿入部位を同定を行う。

<研究課題> 3-3

- (主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出
(副題) がん転移におけるヘッジホッグシグナル経路の役割の解明

<研究者氏名>

佐久間圭一朗、米村重信¹⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

ヘッジホッグ (Hh) シグナルは発生に関わる重要な経路として知られている。Hhシグナル構成分子であるPTCH1やSMOの遺伝子変異によるシグナルの異常な活性化は基底細胞がんや髄芽腫の原因として知られており、変異によらないシグナルの活性化も肺がん、膵がん、大腸がん、前立腺がんなどで報告されている。さらに近年ではHhシグナルとがん幹細胞の関係も注目を集めている。しかしながら、がん転移におけるHhシグナルの役割についてはこれまでほとんど知られていなかった。

上皮間葉転換 (EMT) は転移の初期ステップでがん細胞に生じる形質変化である。EMTに伴いHhシグナルがどう変化するか調べるため大腸がん細胞株HT29にEMTを誘導したところ、Hh標的遺伝子であるGLI1とPTCH1の発現量が誘導前の数倍～数十倍に増加した。GLI1は転写因子であり、GLI応答性にルシフェラーゼ遺伝子を発現するレポーター細胞にEMTを誘導したところレポーター活性が上昇し、シクロパミン (SMO阻害剤) で活性が抑制された。以上の結果からHT29細胞ではEMTに伴いHhシグナルが活性化することが示唆された。

Hhシグナルの活性化には一次線毛が必要であるとされている。一般的にがん細胞は一次線毛を発現しないといわれているが、EMTを誘導したHT29細胞ではHhシグナルが活性化することから、一次線毛が発現する可能性を検証した。一次線毛マーカーのARL13Bとacetyl-tubulinでHT29細胞の免疫細胞染色をおこなったところ、通常の培養条件では陽性細胞を認めなかったが、EMT誘導下では両マーカー陽性の細胞が10%ほど出現した。しかしその染色パターンは一次線毛特異的ではなく、大半がスポット状の構造を示した。一方、肺がん細胞株のA549にEMTを誘導したところ、両マーカー陽性で線状の形態を示す典型的な一次線毛様構造物が出現した。現在、理化学研究所との共同研究で、それらの構造物の微細形態を電子顕微鏡レベルで詳細に解析中である。

<今後の方向>

電子顕微鏡の所見から、EMTに伴ってがん細胞に一次線

毛が発現するのか明らかになることが期待される。さらに、EMT誘導によりHh経路が活性化されることの意義についても解析したい。

¹⁾ 理研・ライフサイエンス技術基盤研究センター

腫瘍医化学部

<研究課題> 1-1

- (主題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケード
(副題) 抗がん治療の分子標的としてのChk1

<研究者氏名>

後藤英仁¹⁾、谷川順美、小堀恭子、稲垣昌樹¹⁾

<目的・概要・進捗状況>

細胞の遺伝情報であるDNAは、外来性 (電離放射線、紫外線、DNA障害性薬物など) および内因性 (フリーラジカル、細胞内代謝産物など) の要因によって、絶え間なく、損傷されている。DNA障害を受けた細胞は、細胞周期の進行を停止させること (細胞周期チェックポイント) で、DNA修復に必要な時間を生み出している。また、修復機能を上回るDNA損傷や欠損の場合は、細胞周期の進行を半永久的に停止したり (細胞老化)、細胞死を導いたり (アポトーシス) して、障害細胞を増殖細胞集団から排除する。

このようなDNA障害チェックポイントは、ATM-Chk2-p53経路とATR-Chk1-Cdc25A経路の大きく二つのシグナル伝達経路によって制御されている。ATM-Chk2-p53経路は、多くのがんにおいて (遺伝子変異や欠失などによって) 障害されていることが知られている。そのため、抗がん剤や放射線治療等でDNA障害を引き起こした後、Chk1阻害剤を併用することで細胞死をがん特異的に引き起こすことが期待され、多くの薬剤が臨床治験に入っている。

我々の研究グループは、これまでに、Chk1が、ATR以外のキナーゼからもリン酸化修飾を受けて機能変化していることが明らかにしてきた。そのなかで、Chk1がDNA障害チェックポイント応答だけでなく、外的なDNA損傷が引き起こされていない環境においても機能していることも明らかにしてきた。また、詳細は不明であるが、外的なDNA損傷がない状態においてもがん細胞のほうが正常細胞よりもChk1活性が高いことが数々のグループから報告されている。このことは、Chk1阻害剤が単剤でも抗がん治療に用いることを示唆しており、近年ではこの方向で薬剤開発がされつつある。

しかしながら、外的なDNA損傷がない状態におけるChk1の機能はほとんどわかっていないのが現状といえる。その一つの要因として、RNA干渉法などの手法では特定の細胞周期でのみChk1を阻害できないため、出てきた表現型がどの細胞周期におけるChk1阻害による影響かを検討できないことがあげられる。

プロテインキナーゼの触媒ドメインのATP結合ポケットには、Gatekeeperと呼ばれるアミノ酸が存在し、そのアミノ酸

に変異を加えると、ATPポケットが広がり、特定のATPアナログに感受性になることが知られている。Chk1の場合は、84番目のロイシンをグリシンに変換する(L84G)とアナログ感受性(AS)になる。このようなASキナーゼは、野生型と同様に、ATPを用いて触媒する能力が維持されている。そのため、細胞は、野生型キナーゼがASキナーゼに仮に置換されても、1-NM-PP1などのATPアナログ性阻害剤が存在しない場合にはキナーゼ阻害は認められないため、問題なく生存する。

これまで、培養細胞におけるgene targetingはほぼ不可能であったが、CRISPR/Cas9の技術が確立し、目的の遺伝子座のアミノ酸変異を入れることが比較的容易になりつつある。本研究では、gene targetingの確率を上げるため、2つの異なるシーケンスのguide RNAが必要な変異型CRISPR/Cas9(D10A)を用いて、gene targetingを行い、ATPアナログ感受性変異をホモ接合体で引き起こした細胞株を樹立する予定である。細胞株は、これまで(他の方法での)gene targetingの成功報告があるヒト網膜色素上皮(RPE1-hTERT)細胞ならびに大腸癌細胞株(DLD-1)などを用いる予定である。

これらの手法により、Chk1のキナーゼ活性を、瞬時に、かつ、特異的に阻害する実験系を確立し、DNA損傷や複製障害を外的に加えていない状況におけるChk1機能を個別に解析していく予定である。

<今後の方向>

既に、申請者らは、RPE1-hTERT細胞を用いて、ヘテロ接合体(CHEK1^{WT/AS})の樹立に成功した。現在、ホモ接合体(CHEK1^{AS/AS})の樹立を試みている。細胞樹立後、1NM-PP1で短時間(1-2時間程度)処理し機能解析することで、外的DNA損傷刺激がない状態におけるChk1の重要性を明らかにしていく予定である。

¹⁾ 名大院・医・細胞腫瘍(兼任)

<研究課題> 1-2

(主題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケード
(副題) Aurora-Aキナーゼの新規制御機構

<研究者氏名>

笠原広介¹⁾、後藤英仁²⁾、青木啓将³⁾、川上和孝⁴⁾、清野 透⁵⁾、米村重信⁶⁾、河村義史⁴⁾、川本恵理子、五島直樹⁴⁾、松崎文雄⁶⁾、稲垣昌樹²⁾

<目的・概要・進捗状>

細胞は、自身の染色体の複製・分配過程を緻密に制御することによって、その遺伝情報を正確に2つの娘細胞に伝達している。しかし、様々な要因により染色体の複製・分配過程に異常が生ずると、染色体の恒常性が維持できなくなる(染色体の不安定性)。このような染色体の不安定性は、がんや細胞老化に起因する種々の疾患の基盤になっていると考えられている。染色体の複製・分配過程の調節には、状況に反応して特異的に活性化されるタンパク質リン酸化酵素(キナーゼ)が中心的な役割を果たしている。

Aurora-Aは、大腸癌などの組織において遺伝子増幅が認められたり、多くのがん腫で発現が上昇したりすることが知られているキナーゼである。現在、Aurora-Aは、がん治療の分子標的としても注目され、多くの薬剤メーカーがAurora-A阻害剤を抗がん剤として開発している。これまでAurora-Aは、分裂期特異的に活性化するキナーゼとして位置づけられてきた。われわれは最近、Aurora-Aが分裂間期においても活性を有し、一次繊毛と呼ばれる細胞内小器官の形成を抑制することによって、細胞を増殖に向かわせていることを明らかにし、繊毛抑制におけるAurora-Aの活性化因子としてTrichopleinを同定した。

今回われわれは、細胞が増殖停止期(G0期)に入ると、Trichoplein-Aurora-A経路が不活性化されるために一次繊毛が形成されることを見出し、その分子機構として、Trichopleinのポリユビキチン化・プロテアソーム依存的な蛋白質分解が引き金となることを明らかにした。さらに、Trichopleinの分解を担う酵素(ユビキチンE3酵素)の網羅的スクリーニングを進めた結果、CRL3-KCTD17複合体を同定することに成功した。RNA干渉法によりKCTD17の発現を抑えた細胞は、G0期に入ってもTrichopleinが分解されないため、Aurora-A活性が失われず、一次繊毛の形成が阻害されることが分かった。

一次繊毛には、がんと密接に関与する多くのシグナル伝達分子(受容体型チロシンキナーゼPDGF-Rやヘッジホッグ因子群)が局在し、それらが厳密な制御を受けている。多くのがん細胞では一次繊毛を形成する能力を失っているために、これらのシグナル伝達に異常が生じていることが報告されている。そのため近年、一次繊毛の形成不全とがんの関連が取り沙汰されている。今後、Trichoplein-Aurora-A経路による一次繊毛の制御が、がんの発生・進展に与える影響を検証することは重要な意味を持つと考えられる。

<今後の方向>

これまでの解析により、繊毛制御におけるTrichoplein-Aurora-A経路の調節因子としてユビキチン化酵素CRL3-KCTD17を同定した。現在、Trichopleinを脱ユビキチン化する酵素としてUsp8(ubiquitin-specific protease 8)を見出している。今後、これらの因子群による繊毛制御を包括的に解析することで、ユビキチン・プロテアソーム系による繊毛制御の分子基盤を明らかにしていきたい。

¹⁾ 名市大院・薬・腫瘍制御(兼任)、

²⁾ 名大院・医・細胞腫瘍(兼任)、

³⁾ 研修生、⁴⁾ 産総研・創薬分子プロファイリング、

⁵⁾ 国がんセ・研・ウイルス、⁶⁾ 理研(CDB)

<研究課題> 2-1

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析
(副題) Ndel1による一次線毛制御～がんにおける一次線毛の消失の意義～

<研究者氏名>

稲葉弘哲¹⁾、後藤英仁²⁾、笠原広介³⁾、熊本香奈子⁴⁾、

米村重信⁵⁾、猪子誠人、何 東偉¹⁾、山野莊太郎⁶⁾、鰐淵英樹⁶⁾、谷川順美、五島直樹⁷⁾、清野 透⁸⁾、広常真治⁴⁾、稲垣昌樹²⁾

⁷⁾ 産総研・創薬分子プロファイリング研究セ、

⁸⁾ 国がん研・ウイルス

<目的・概要・進捗状況>

一次線毛は細胞増殖停止期（G0期）に形成される細胞表面から突出したアンテナ様の構造物で、化学的/物理的刺激を受容し細胞増殖を制御する。その骨格は母中心体から変化した基底小体から伸びた微小管からなる。一次線毛の形成、機能不全は、腎嚢胞などの織毛病を引き起こすことが知られている。一方で、多くのがん細胞においては一次線毛の形成能が欠失しており、一次線毛形成、退縮の分子機構を明らかにすることは、がん細胞が無秩序に増殖する仕組みの解明に繋がると考えられる。

昨年度、中心体タンパク質であるNdel1の欠損は一次線毛形成を引き起こし、その結果細胞増殖を阻害するという結果を得ていた。本年度はより詳細な解析を行った。まず、ヒト網膜色素上皮細胞（RPE1-hTERT）において血清飢餓によって一次線毛を形成する過程におけるNdel1の動態を調べた。結果、Ndel1のタンパク量と中心体局在の一過性の減少がみられた。また、Ndel1を過剰発現させると血清飢餓によって一次線毛を形成細胞する細胞が減少したことから、Ndel1は一次線毛形成に抑制的に機能することがわかった。そこで、同様に一次線毛形成抑制因子であるTrichopleinとの関係を調べたところ、Ndel1を過剰発現すると血清飢餓条件下においてTrichopleinの分解が抑制されていた。さらに、増殖条件下ではNdel1をノックダウンすると一次線毛を形成するが、この表現型がTrichopleinの過剰発現や、Trichopleinのユビキチン化酵素であるKCTD17をノックダウンするとレスキューされた。以上の結果よりNdel1は一次線毛形成においてTrichopleinの上流で機能し、増殖細胞においてはTrichopleinの母中心体における分解を防いでいる可能性が示唆された。

また、Ndel1は一次線毛形成後には中心体局在が回復することから線毛の維持にも何らかの機能を持つことが考えられた。生後0日齢においてNdel1のhypomorphic変異マウスの腎臓尿管では一次線毛が長くなっていったことから、Ndel1のノックダウンで一次線毛が長くなるか調べた。結果、マウス胎仔由来線維芽細胞（Swiss 3T3）でNdel1をノックダウンすると一次線毛長が長くなることがわかり、Ndel1は一次線毛長を限定すると示唆された。

<今後の方向>

今後は一次線毛形成におけるNdel1を分解する責任因子を明らかにするとともに、その一連のシグナルカスケードの解明を目指す。さらに、個体内における線毛病やがんとの関連を明らかにするため、Ndel1のhypomorphic変異マウスを他の一次線毛関連遺伝子のノックアウトマウスと掛け合わせを進める。また、昨年度同定したNdel1やTrichopleinと同様に一次線毛形成に抑制的に働くと考えられる3因子についても解析を進める。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 名大・医・細胞腫瘍（兼任）、

³⁾ 名市大院・薬・腫瘍制御（兼任）、

⁴⁾ 大阪市大院・医・細胞機能制御、⁵⁾ 理研（CLST）、

⁶⁾ 大阪市大院・医・分子病理、

<研究課題> 2-2

（主題） 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析

（副題） trichoplein, Albatrossをはじめとした中心小体動態を制御する蛋白質群によるがん研究

<研究者氏名>

猪子誠人、林 裕子、五島直樹¹⁾、清野 透²⁾、稲垣昌樹³⁾

<目的・概要・進捗状況>

中心体は1μmほどの小さな細胞内構造であるが、特徴的な動態変化として中心小体複製、紡錘体形成、一次線毛形成の3つを示す。これらに付随する細胞分裂・増殖・分化は細胞の重要現象であるだけでなく、がん化の標的でもある。特にがんでは中心体数の異常や一次線毛形成能の欠失がみられる。このように小さい作用点で大きい現象効果を生む中心小体構造には、治療標的としての期待も持てる。一方で、その小ささゆえに困難な解析は、最近の高倍率超解像顕微鏡やオミックス解析技術の総合進歩による克服を待つ必要があった。

これまでに私どもは、一次線毛形成制御が細胞周期制御と連動する発見をtrichoplein-オーロラA分裂期キナーゼ分子経路と共に示した。具体的には、①一次線毛を強制的に形成させた正常二倍体細胞は増殖培地中でも細胞増殖休止が誘導されることを発見し、②この線毛動態制御の内在性分子機構は中心小体内におけるtrichoplein蛋白質の微小局在の有無によるオーロラA分裂期キナーゼの活性切り替えであることを提示した。これにより、一次線毛が形成できない培養がん細胞はオーロラA阻害で特異的に分裂期障害を起こし死滅する可能性を同時に提示し得た。

現在は、このような中心体機能分子を新たに検索し、補填中にある。これまでに、中心小体で動態制御にあずかる新規標的分子群を局在と機能の両面から検索し、新たに補填した。具体的には産総研が保有する蛋白質局在情報データベース（HGPD）に基づき、中心体局在を示す遺伝子約680個およびtrichoplein類似配列蛋白質約100個を抽出した。これらを配列特性やRPE1-hTERT細胞（不死化正常二倍体）を用いた遺伝子ノックダウンスクリーニングで絞り込み、trichopleinと類縁の機能蛋白質を数十個見出した段階にある。

本年度は、trichoplein類縁蛋白質であるAlbatrossが主要な中心体機能の基盤となる新知見を得た。私どもが作成したAlbatross抗体は、生体組織において、気管多線毛の根元にある中心小体類似構造に加え、広く複製中の中心小体に局在を示した。そのため、正常二倍体培養細胞で以下の局在・機能相関実験を追加した。まず、詳細な局在観察では中心小体の遠位端と近位端の両方への局在を認めた。Albatrossノックダウンでは血清飢餓下での一次線毛形成が阻害されたが、これは先行研究で示された遠位端機能の障害による。一方で、血清存在下のAlbatrossノックダウンでは新たに中心小体複製の障害が明らかとなった。マーカーを用いた局在相関確認や・生化学的結合

実験からは、これが近位端に局在するSAS6の障害によることが示唆された。さらにAlbatrossノックダウンでは紡錘体形成の障害が新たに見られた。こちらは近位端に局在するPlk1の障害が強く示唆されている。以上の結果は、Albatrossが3つの特徴的な中心体動態の基盤となるこれまでにない重要分子であることを示唆するものであり、さらなる確証を細胞生物学・生化学的手法で求めている最中である。

<今後の方向>

Albatrossの中心体機能を先行研究との比較で詳細に提示し、論文報告としてまとめる。また、trichoplein、Albatrossをはじめとした一連の中心小体制御分子群について、細胞増殖だけでなく分化に及ぼす影響の可能性も分子レベルで検討するため、①相互作用分子の検索、②正常細胞分化・未分化アッセイ系の確立、③それらを用いた遺伝子欠失表現型の確認を行う。

¹⁾ 産総研・創薬分子プロファイリング、²⁾ 国立がんセ・研、

³⁾ 名大・医・細胞腫瘍 (兼任)

<研究課題> 3

(主題) がん細胞の細胞骨格・増殖にかかわる遺伝子の遺伝子改変マウスの作製

<研究者氏名>

田中宏樹¹⁾、後藤英仁²⁾、猪子誠人、牧原弘幸¹⁾、松山 誠¹⁾、林 裕子、谷川順美、小堀恭子、井澤一郎、稲垣昌樹²⁾

<目的・概要・進捗状況>

中間径フィラメントは、アクチンフィラメント、微小管ともに細胞骨格を形成する主要な構成成分である。中間径フィラメントの基本構造は、ヘッド、ロッド、テイルの3つのドメインから構成されており、フィラメントの重合・脱重合は、ヘッドドメインのリン酸化修飾によって時空間的に制御される。当研究室では世界に先駆けて部位特異的リン酸化状態を認識する抗リン酸化ペプチド抗体の開発し、細胞周期特異的なリン酸化部位の同定およびその酵素の同定をしてきた。また、リン酸化の生理的な意味を理解するために、リン酸化部位がリン酸化されない変異を導入した細胞では、細胞質分裂が終了したにもかかわらず娘細胞間が断裂されない架橋構造を認め、リン酸化が細胞質分裂の完了に必要であることを示した。しかしながら、マウスなどを用いた個体レベルにおいて、それらのリン酸化シグナルの生理的機能は、ほとんど解明されていない。そこで、我々は細胞分裂期特異的リン酸化部位の11カ所のリン酸化部位をセリンからアラニンに置換したマウスを作製・解析を行った。

現在までに、変異マウスでは目の水晶体の形態形成不全、白内障の発症、皮膚の損傷治癒遅延を観察した。皮膚組織では、3か月齢において変異マウスではコラーゲン層減少に加え、脂肪層の増多を認めた。その脂肪細胞の核は大きく細胞質分裂障害の結果であることが示唆された。14か月齢のマウスでは、変異マウスで脂肪層がほとんど認められないという早老化の表現型を認めた。さらに、詳細に損傷治癒過程を解析すると、変

異マウス特異的に2核細胞・ブリッジ構造の線維芽細胞の出現、Aneuploidyを示す核の出現、DNA損傷反応を示す細胞、細胞老化に陥る細胞が経時的に認められた。中間径フィラメントリン酸化不全による細胞質分裂障害は、染色体不安定性の亢進、さらには細胞老化に至ることを個体レベルで明らかにした。

染色体異数性はがんのhallmarkとして考えられている。我々のマウスは、染色体異数性を示すことから、高発がんモデルマウスとなりうると予期された。しかしながら、生後2年以上にわたりマウスを観察したが自然発がんの亢進を認めなかった。また、皮膚に3週間おきに損傷を与えて、腫瘍形成の亢進を検討したが野生型と同様、全く腫瘍形成を認めなかった。そこで、化学発がんによる腫瘍形成を検討したところ、野生型に比べ変異マウスにおいて腫瘍発生の遅延および腫瘍による個体死の遅延を認めた。この腫瘍を組織学的に検討したところ、すべての遺伝子型で線維肉腫を形成し、染色体異数性を呈した。この結果から、腫瘍形成初期における染色体異数性が誘導する細胞老化(AIS; Aneuploidy-induced senescence) はがん化へのセーフガードとしての役割をしている可能性を示唆している

<今後の方向>

ビメンチン点変異マウスでは染色体不安定性、細胞老化を認めましたが、老化の主要な因子であるp53-p21経路依存的にこれらの現象が起きている可能性が考えられます。p53遺伝子破壊マウスとの交配し、その子孫マウスを解析することにより、発がんにおけるビメンチンリン酸化の役割を個体レベルで明らかでき、発がんの分子機構の一端が明らかになる。さらに、老化関連因子であるp21, 16の遺伝子破壊マウスとの交配し、その子孫マウスの解析によりこれらの遺伝子に依存的か否かを検証する。

中間径フィラメントのリン酸化の in vivo における生理的意義の解明するために、デスミンのリン酸化部位に変異を導入したマウスを作製している。

白内障、損傷治癒遅延をきたすビメンチン変異マウスに加えて、筋組織、皮膚、肝臓、脳などの特異的組織でaneuploidyを生じて老化をきたす細胞質分裂障害型中間径フィラメント・ノックインマウスを作製する。その後、種々の組織およびその損傷治癒モデルにおいて時系列発現プロファイル解析を通じてaneuploidyからの老化誘導に必須の分子群の同定を試みる。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 名大院・医・細胞腫瘍 (兼任)

中央実験室

<研究課題> 1

(主題) 食道がん、頭頸部腫瘍の分子遺伝学的研究

(副題) ミトコンドリアDNAの多型と食道がん発がんリスク

<研究者氏名>

組本博司、松尾恵太郎¹⁾、田中英夫¹⁾、田島和雄²⁾

<目的・概要・進捗状況>

ミトコンドリアゲノムDNA (mtDNA) は核ゲノムDNA と比べ、一般に変異が生じやすいといわれている。また最近では老化やがん化に伴ってmtDNA に変異を生じることも報告されている。我々は、食道がんについて高頻度にmtDNA の変異が蓄積していることを以前明らかにした。もともと食道は、喫煙・飲酒の影響を直接受ける器官であり、これらの生活習慣によって発がんリスクも上昇することが示されている。mtDNA に多くの多型が存在することで、酸化的リン酸化の過程で電子が漏れ、活性酸素がより多く産生されることが考えられる。そこで、本研究では、mtDNA のD-loop 領域に存在する多型の数を数え、食道がんの発がんリスクとの関連を解析することを計画した。また、生活習慣に関わる発がんリスクとmtDNA の多型の数との関連も解析する。

本研究には、HERPACC (the Hospital based Epidemiologic Research Program at the Aichi Cancer Center) のデータベースより食道がん患者185例、食道がん患者に性、および年齢を一致させた非がん患者対照185例を用いた。喫煙、飲酒習慣を含む生活習慣に関する情報、さらに、血液からDNA 得た。

mtDNAのD-loop 領域は、複製、転写をコントロールする領域であり、多型、変異が多数見つかった領域でもある。現在、市販のリシーケンシングプライマーセットを用い、食道がん患者および、非がん患者由来のDNA の塩基配列を決定すると同時に、これらの解析した塩基配列と、mtDNAの基準配列であるrCRS と比較することによって、D-loop 領域の多型を網羅的に検出している。現在のところ、平均で、食道がん患者で6.7多型/人、非がん患者で6.7多型/人の多型が検出されている。

<今後の方向>

今後、これらの結果を用いて食道がんリスクを与える多型の探索や、多型の数と食道がんリスクとの関連、さらに飲酒・喫煙のリスクを修飾する多型の探索を行う。また、核だけでなくミトコンドリアでも働いていることが明らかとなっている修復遺伝子、hOGG-1 の多型 (Ser326Cys) をそれぞれのサンプルについて解析し、mtDNA の変異と喫煙・飲酒に関連があるかどうか解析する。さらに、これらの解析によって、mtDNA の変異と飲酒・喫煙習慣との関連を明らかにし、食道がんにおけるmtDNA の変異がどのような過程で生じるかを考察する。

¹⁾ 疫学・予防部、²⁾ 三重大学医学部

3. 病院及び研究所における共同研究（共同研究費）

<研究課題 1>

肺癌・中皮腫細胞の解析と診断、治療法への応用

Analysis of lung cancer and mesothelioma cells for clinical application

<研究者氏名>

所属部 呼吸器内科部

研究者氏名 樋田豊明

共同研究者 田中広祐、大矢由子、吉田達哉、清水淳市、堀尾芳嗣、谷田部恭、関戸好孝

<目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

肺がんではドライバーがん遺伝子の発見により、それぞれの遺伝子異常に対する治療薬が開発され、患者さん個々の遺伝子を調べることにより個別化治療が行われている。上皮成長因子受容体（EGFR: Epidermal growth factor receptor）遺伝子変異症例ではチロシンキナーゼ領域の常時活性化によりがんの増殖が起きるが、EGFRチロシンキナーゼ阻害薬を投与する事により増殖抑制効果が得られ腫瘍縮小する。今回、切除不能III期肺腺癌の化学放射線同時併用療法の効果に関するEGFR遺伝子変異の影響について検討した。

2006年から2013年までに治療した切除不能III期肺腺癌104例を解析した。そのうち29例がEGFR遺伝子変異陽性で、75例がEGFR遺伝子変異陰性、EGFR遺伝子変異陽性のうち20例が女性で、18例がnever-smokerであった。16人でexon 19の欠失、10人でL858R点突然変異、3例がminor mutationであった。奏効率は72%で、EGFR遺伝子変異陽性と陰性症例間で差は認められなかった。無増悪生存期間はEGFR遺伝子変異陽性群で、陰性群より短かった。2年無再発生存率もEGFR遺伝子変異陰性群の28.1%に対してEGFR遺伝子変異陽性群で7.7%と低かった。再発はEGFR遺伝子変異陽性群の24例（83%）、EGFR遺伝子変異陰性群の53例（71%）に認められ、最初の再発部位として遠隔転移はEGFR遺伝子変異陽性群で76%、EGFR遺伝子変異陰性群で40%とEGFR遺伝子変異陽性群に遠隔転移が多く認められた。一方、局所再発は、EGFR遺伝子変異陰性群で35%、EGFR遺伝子変異陽性群で14%とEGFR遺伝子変異陰性群で多く認められた。全生存期間に差は認められなかった。

切除不能III期肺腺癌の化学放射線同時併用療法の効果の検討では、EGFR遺伝子変異陽性群は無増悪生存期間がEGFR遺伝子変異陰性群に比較して短く、それは良好な局所コントロールにもかかわらず遠隔転移を起こし易い事に由来する事が示された。今回の検討で得られた結果は、今後の切除不能III期肺腺癌の治療戦略に重要な情報をもたらすものと考えられた。

<研究課題 2>

機能温存を目指す頭頸部癌の外科治療

Organ preservation surgery for head and neck cancer

<研究者氏名>

所属部 頭頸部外科部

研究者氏名 長谷川泰久

共同研究者 花井信弘、平川 仁、鈴木秀典、西川大輔

<目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

喉頭癌に対する機能温存および音声再建手術の検討

1. 喉頭機能温存手術

喉頭機能温存手術は外切開による喉頭機能温存術と経口的切除術に大別される。外切開による喉頭機能温存術は声帯切除術と部分切除術、さらに亜全摘術に分けられる。部分切除術は、切除方向によって垂直部分切除術と水平部分切除術に分類される。前者は声門癌、後者は声門上癌に対する機能温存手術である。1851年にBuckが喉頭截開術による声帯切除術を行い、本邦では岡田が1992年に報告した。その後部分切除術や亜全摘術の術式が開発され導入されたが、外切開による喉頭機能温存術は一般に放射線治療と喉頭全摘術の間を補う、または放射線治療再発例の救済術として行われることが多かった。喉頭亜全摘術の代表術式には最近、中山によって本邦へ導入されたSCL-CHEP（Supracricoid laryngectomy-cricohyoidepiglotomy）がある。これはMajerが1959年に報告したが、フランス語であったことから国際的な普及は遅れ、英文で報告されて以来、注目を集めるようになった。

一方、経口的切除術はこれも1920年にLynch RCが報告したが、その後のレーザーなどの機器の進歩により適応の拡大が図られている。特に近年では新しい機器を用いて2006年にELPS（Endoscopic Laryngopharyngosurgery）、2007年にはTOVS（Transoral videolaryngoscopic Surgery）などの術式が開発されてきている。さらにロボット手術（Transoral robotic surgery, TORS）の導入が始まり、2007年にはWeinsteinらにより声門上喉頭部分切除術が報告している。

2. 喉頭全摘術と音声再建術

喉頭全摘術はBillrothにより1873年に行われた。喉頭全摘術は原則として発声機能の喪失という結果になるわけであるが、Billrothが喉頭全摘術を行った頃には、すでに食道発声法は知られていたようである。喉頭全摘術が標準治療として確立されるとともにより良い発声を求めて音声再建術の工夫も始まった。

喉頭全摘術後の音声再建として最も広く用いられていたのがTEシャントで、その代表術式が天津法とBlom-Singer法である。

天津は1977年に気管食道瘻の作製に気管膜様部を用いる新しい術式を報告した。

1979年に報告されたBlom-Singer法は最も普及している音声再建法である。穿刺にて作製した気管食道瘻に逆流防止弁のついたシリコン製のvoice prosthesisを挿入して発声させる方法である。voice prosthesisは逆流防止弁構造、挿入法、留置法により各種の器具が考案されている。大きく初期のnon-indwellingとその後のindwelling prosthesisに分けられるが、現在はindwelling prosthesisが主流で長期使用が可能である。

第2章 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ（名誉総長・総長）

名誉総長

- 001 **Nimura Y**: Biliary Cancer: A lifetime surgical challenge. VII International HPB Course, VI Thomas E Starzl HPB Symposium, 2015, (Porto, Portugal), [Symposium]
- 002 **Nimura Y**: Surgical challenges to biliary cancers. University of Verona Medical School, 2015, (Verona, Italy), [Lecture]
- 003 **二村雄次**: 胆道癌治療の最前線: 名古屋から世界へ向けてのメッセージ. 第10回新潟横断的消化器疾患研究会, 2014, (新潟), [特別講演]
- 004 **二村雄次**: 胆道癌の外科治療. 高知大学医学部外科学講座, 2014, (高知), [医学部学生講義]
- 005 **二村雄次**: 日本胆道学会の思い出. 第50回日本胆道学会 創立50周年記念シンポジウム, 2014, (東京), [シンポジウム]
- 006 **二村雄次**: がん治療の最前線. NPO法人心技塾ネットワーク第143回例会, 2014, (名古屋), [講演]
- 007 **二村雄次**: 私が理想とする外科医. 第3回日本臨床外科学会, 2015, (東京), [教育講演]

総長

- 001 **木下 平**: がん治療の最前線. 第10回日本癌治療学会市民公開講座, 2014, (千葉), [講演]
- 002 **伊藤友一, 吉川貴己, 伊藤誠二, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平, 小寺泰弘**: 胃全摘術におけるR-Y再建とAboral pouch再建を比較する第III相試験 (CCOG1101). 第44回胃外科・術後障害研究会, 2014, (静岡), [ワークショップ]
- 003 **里井壯平, 山上裕機, 加藤健太郎, 平野 聡, 高橋進一郎, 廣野誠子, 竹田 伸, 江口英利, 庄 雅之, 和田慶太, 新地洋之, 權 雅憲, 木下 平, 中尾昭公, 永野浩昭, 中島祥介, 佐野圭二, 宮崎 勝, 高田忠敬**: 切除不能膵癌における集学的治療の一環としての外科切除の臨床的意義. 第26回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2014, (和歌山), [ワークショップ]
- 004 **三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 筒山将之, 木下 平**: 腹腔鏡下胃切除術におけるプロリン糸を用いた簡便な肝圧排法・Prolene™ hanging (PH) 法. 第87回日本胃癌学会総会, 2014, (広島), [ワークショップ]
- 005 **伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 川合亮佑, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平**: 高度リンパ節転移陽性胃がんに対するD2+大動脈周囲リンパ節郭清—継承を受ける立場から. 第87回日本胃癌学会総会, 2014, (広島), [ワークショップ]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ (病院)

消化器内科部

- 001 **Hijioka S** : Is the WHO 2010 classification sufficient to clearly characterize pancreatic neuroendocrine carcinoma?. 消化器病学会第4回国際フォーラム,2014,(東京),[口演]
- 002 **Niwa Y, Ishihara M, Tajika M, Tanaka T, Fujiyoshi T, Tsutsumi E, Yamao K** : Endoscopic Submucosal Resection for Remnant Early Gastric Cancer vs U region Early Gastric Cancer. DDW2014,2014,(シカゴ),[ポスター]
- 003 **Fujiyoshi T, Niwa Y, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Yamao K** : Comparison between the ESD resected specimen histology and Japan Esophageal Society Classification of Magnified Endoscopy for the Diagnosis of Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma (SCC). DDW2014,2014,(シカゴ),[ポスター]
- 004 **Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Ishii H, Azuma T, Iguchi H, Nakamori S, Mizuno N, Sata N, Sugimori K, Yamaguchi K, Mine T, Sano K, Maguchi H, Shimizu K, Furuse J, and Japan Clinical Oncology Group** : Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus gemcitabine plus cisplatin combination therapy in advanced biliary tract cancer : A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1113). ASCO 2014,2014,(シカゴ),[ポスター]
- 005 **Hara K** : EUS-BD for first-line biliary drainage procedure. T-CAP2014,2014,(東京),[講演]
- 006 **Hara K** : Interventional EUS for SMTs. EFJ 2014,2014,(小樽),[特別講演]
- 007 **Sato T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Yogi T, Tsutsumi H, Yamao K** : EUS-guided biliary drainage for patients with gastric outlet obstruction.. 19th EUS2014,2014,(インド),[ポスター]
- 008 **Tsutsumi H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Fujiyoshi T, Sato T, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K** : Clinical impact of preoperative endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic ductal adenocarcinoma. 19th EUS2014,2014,(インド),[ポスター]
- 009 **Hara K** : EUS-CDS for malignant biliary obstruction. 19th EUS2014,2014,(インド),[ポスター]
- 010 脇岡 範 : Diagnosis of Pancreatic ductal carcinoma. 第6回日本・モンゴル国際消化器癌シンポジウム,2014,(モンゴル),[講演]
- 011 **Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Hieda N, Okuno N, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K** : Does the WHO 2010 classification of pancreatic neuroendocrine neoplasms accurately characterize pancreatic neuroendocrine carcinomas?. 第6回日本・モンゴル国際消化器癌シンポジウム,2014,(モンゴル),[口演]
- 012 **Tajika M, Niwa Y, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yogi T, Tsutsumi T, Fujiyoshi T, Sato T, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Yatabe Y, Bhatia V, Yamao K** : MANAGEMENT AND LONG-TERM CLINICAL OUTCOME OF API2-MALT1 POSITIVE GASTRIC MALT LYMPHOMA. ESMO2014,2014,(Madrid),[ポスター]
- 013 **Hara K** : EUS-CDS in Aichi Cancer Center Experience. The 8th Meeting of SGI,2014,(ソウル),[講演]
- 014 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Yoshida T, Hieda N, Niwa Y, Yamao K** : The efficacy of the 6mm fully covered self-expandable metallic stent (FCSEMS) for EUS-guided transhepatic biliary drainage. The 8th Meeting of SGI,2014,(ソウル),[ポスター]
- 015 **Hara K** : Live Demonstration 3. The 8th Meeting of SGI,2014,(ソウル),[パネルディスカッション]
- 016 **Hara K** : Case Based Debate Session 1-Pancreatobiliary Intervention. The 8th Meeting of SGI,2014,(ソウル),[パネルディスカッション]
- 017 **Hara K** : EUS-BD. JDDW2014,2014,(神戸),[シンポジウム]
- 018 **Kasuga A, Ueno H, Ikeda M, Ueno M, Mizuno N, Ioka T, Omuro Y, Nakajima T, Furuse J** : Efficacy, safety and pharmacokinetics (PK) of weekly nab-paclitaxel (nab-P) plus Gemcitabine (G) in Japanese patients (pts) with metastatic pancreatic cancer (MPC) : phase I/ II trial. 2014 Jointo APA/JPS Anniversary Meeting,2014,(ハワイ),[口演]
- 019 **Hieda N, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K** : Clinical Course of Poorly Differentiated Pancreatic Adenocarcinoma After Surgical Resection. 2014 Jointo APA/JPS Anniversary Meeting,2014,(ハワイ),[ポスター]
- 020 **Hara K** : Trouble Shooting of Duodenal Perforation. APFF,2014,(東京),[口演]
- 021 脇岡 範 : The role of EUS-FNA for the diagnosis of pancreatic malignancy ~ focusing PDAC IPMN and PNET ~ . Chang Gung Memorial Hospital,2014,(台湾),[講演]

- 022 **Yogi T, Hijioka S, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Yoshida T, Hieda N, Okuno N, Hosoda K, Yatabe K, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K** : Characteristics of recurrence after curative resection IPMN : a Japanese single-center study. 2014 INTERNATIONAL CONFERENCE OF PANCREATIC MALIGNANCY,2014,(台湾),[ポスター]
- 023 **脇岡 範** : Does the WHO 2010 classification of pancreatic neuroendocrine neoplasms accurately characterize pancreatic neuroendocrine carcinomas?. Asian Pacific Digestive week 2014,2014,(パリ),[ポスター]
- 024 **Ishihara M, Tajika M, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yamao K, Niwa Y** : Characteristics of superficial esophageal cancer in patients with head and neck cancers. IASGO2014,2014,(オーストリア),[ポスター]
- 025 **Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Fujiyoshi T, Imaoka H, Hara K, Hijioka S, Mizuno N, Yamao K** : Depth Diagnosis of Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma (SCC); comparisons in various modalities. IASGO2014,2014,(オーストリア),[ポスター]
- 026 **Tanaka T, Tajika M, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Hashimoto M, Yatabe Y, Muro K, Yamao K, Niwa Y** : Is serum HER2-ECD testing significant for resectable gastric cancer?. ASCO-GI 2015,2015,(サンフランシスコ),[ポスター]
- 027 **Hara K** : EUS-guided Pseudocyst Drainage. AEG Workshop 2015 in Thailand,2015,(バンコク),[特別講演]
- 028 **Hara K** : EUS-FNA technique 1. AEG Workshop 2015 in Thailand,2015,(バンコク),[ワークショップ]
- 029 **Hara K** : EUS-FNA technique2. AEG Workshop 2015 in Thailand,2015,(バンコク),[ワークショップ]
- 030 **Hara K** : Current status of EUS guided biliary drainage in Japan. 1st Round table meeting on EUS guided intrahepatic biliary drainage (EUS-IBD),2015,(ソウル),[口演]
- 031 **Hara K** : ERCP vs. EUS-BD for distal malignant biliary obstruction. 1st Round table meeting on EUS guided intrahepatic biliary drainage (EUS-IBD),2015,(ソウル),[講演]
- 032 **Sato T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Maeda S, Nakajima A, Kubota K, Yamao K** : he role of gastroduodenal stent intervention in the treatment of pancreatic cancers.. the 100th General Meeting of the Japanese Society of Gastroenterology YIA at the 4th International Forum,2014,(東京),[口演]
- 033 **Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaok H, Yamao K** : Type 2 AIP and AIP-Not Otherwise Specified in Japanese patients.第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[口演]
- 034 **Ikeda M, Ueno H, Ueno M, Mizuno N, Ioka T, Omuro Y, Nakajima T, Furuse J** : A phase I/II trial of weekly nab-paclitaxel (nab-P) + Gemcitabine (GEM) in Japanese patients (pts) with metastatic pancreatic cancer (MPC). 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会,2014,(福岡),[口演]
- 035 **脇岡 範** : 胆膵診療にEUSを最大限に生かす. 鹿児島県愛胃会,2014,(鹿児島),[講演]
- 036 **原 和生** : 中下部悪性胆管狭窄に対する内視鏡的胆道ドレナージ. SEMS meeting in 島根,2014,(島根),[特別講演]
- 037 **山雄健次** : 膵がんの発見方法と内科的治療 (抗がん剤治療含む) . 中日文化センター 社会・自然科学講座,2014,(名古屋),[講演]
- 038 **脇岡 範** : EUS-FNAによるPNETの診断最前線. 三重EUS-FNAセミナー,2014,(三重),[講演]
- 039 **水野伸匡, 原 和生, 山雄健次** : ICDCにおける2型AIPおよびAIP-not otherwise specified (AIP-NOS)の実態. 第100回日本消化器病学会総会,2014,(東京),[パネルディスカッション]
- 040 **今岡 大, 清水泰博, 水野伸匡** : 当院での膵癌術後補助化学療法を振り返る S-1の投与量からみた検討. 第100回日本消化器病学会総会,2014,(東京),[口演]
- 041 **佐藤高光, 原 和生, 山雄健次** : EUS-FNAによる膵腫瘍診断の標準化を目指して～診断能向上への工夫～. 第100回日本消化器病学会総会,2014,(東京),[シンポジウム]
- 042 **與儀竜治, 脇岡 範, 山雄健次** : 当院におけるIPMN併存膵癌及び切除後再発例の臨床病理学的検討. 第100回日本消化器病学会総会,2014,(東京),[ワークショップ]
- 043 **堤 英治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次** : 当院における膵神経内分泌腫瘍に対するエベロリムスでの治療経験. 第100回日本消化器病学会総会,2014,(東京),[ポスター]
- 044 **原 和生** : EUS-BDの現在とこれから. 第87回日本超音波医学会総会,2014,(横浜),[シンポジウム]
- 045 **山雄健次** : 我が国におけるInterventional EUSの歴史と現況. 日本消化器内視鏡学会附置研究会 超音波内視鏡下治療研究会,2014,(横浜),[講演]
- 046 **脇岡 範, 原 和生, 丹羽康正, 山雄健次** : EUSにて詳細に観察し診断し得た後腹膜原発性腺外胚細胞腫瘍の1例. 第87回日本超音波医学会,2014,(横浜),[口演]
- 047 **田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩義邦, 関根匡成, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 山雄健次, 丹羽康正** : 尿管侵襲からみた直腸カルチノイド腫瘍に対する内視鏡治療とWHO分類の妥当性. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[口演]
- 048 **田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 與儀竜治, 堤 英治, 坂本康成, 山雄健次, 丹羽康正** : 家族性大腸腺腫症 (FAP) 患者における大腸切除術後

- 回腸嚢に再発する腺腫に対する内視鏡サーベイランス. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[プレナリーセッション]
- 049 脇岡 範: ランチョンセミナー5 内視鏡医が知っておくべきPNETのすべて～診断から治療まで～. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[講演]
- 050 堤 英治, 原 和生, 脇岡 範: 膵管癌に対する術前EUS-FNAの診断能と再発に及ぼす影響の検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[パネルディスカッション]
- 051 山雄健次: CアームX線システムを用いた胆膵内視鏡治療Update. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[司会]
- 052 脇岡 範: 分枝型IPMNに対するEUSを主軸にした長期経過観察法の成績～PDAC早期発見およびEUSでの壁肥厚径を中心に～. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[講演]
- 053 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 悪性胃十二指腸狭窄に対するNiti-Sステント留置術の検討～長期経過の視点から～. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[口演]
- 054 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 山雄健次: 膵粘液癌における超音波内視鏡画像を中心とした検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[ポスター]
- 055 原 和生: 直視コンベックスを用いたInterventional EUS. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[シンポジウム]
- 056 原 和生, 糸井隆夫: 胆膵内視鏡における質の高い技術習得を目指した指導法の工夫. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[座長]
- 057 原 和生: EUS-FNAの標準化に向けて: 検体処理. 第87回日本消化器内視鏡学会総会 附置研究会,2014,(福岡),[講演]
- 058 石原 誠, 田中 努, 脇岡 範, 山雄健次, 丹羽康正: PET-CT検査による大腸がん検診の可能性. 第53回日本消化器がん検診学会総会,2014,(福井),[口演]
- 059 山雄健次: 膵がんの治療に必要な最新の診断技術. 第26回日本肝胆膵外科学会,2014,(和歌山),[講演]
- 060 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵腫瘤に対するEUS-FNAの診断能向上に向けて. 日本消化器病学会東海支部第120回例会,2014,(名古屋),[シンポジウム]
- 061 原 和生: EUS-FNAトレーニング. EUS-FNAハンズオントレーニング,2014,(東京),[特別講演]
- 062 山雄健次: Interventional EUS: 過去,現在,将来. 第112回日本消化器内視鏡学会中国支部例会,2014,(岡山),[講演]
- 063 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 藤吉俊尚, 丹羽康正: 当施設におけるESD導入後の食道表在癌に対するEMRおよびESDの治療成績の比較検討. 第68回日本食道学会学術集会,2014,(東京),[口演]
- 064 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 丹羽康正, 山雄健次: 非切除膵癌の治療における胃十二指腸ステント留置術の現状. 第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[シンポジウム]
- 065 與儀竜治, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 丹羽康正, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: T1膵癌早期発見を目指して. 第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[口演]
- 066 今岡 大, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 大澤高陽, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 丹羽康正, 山雄健次: 膵癌に対する新たな治療戦略 切除可能膵癌 膵癌術後補助化学療法におけるCA19-9の推移と術後再発のリスクについての検討. 第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[口演]
- 067 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 堤 英治, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: 直視コンベックス型EUSがFNAに有用であった術後再建腸管の1例. 第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[ポスター]
- 068 脇岡 範: ランチョンセミナー4 上部消化管狭窄に対する治療戦略～十二指腸ステントが臨床を大きく変えた!～. 第69回日本消化器外科学会総会,2014,(福島),[講演]
- 069 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次: API2-MALT1陽性胃MALTリンパ腫に対する治療と予後に関する検討. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会,2014,(福岡),[口演]
- 070 山雄健次: IPMNの臨床～最近の話題～. 第7回鳥取島根消化器病懇談会,2014,(島根),[特別講演]
- 071 原 和生: 胆膵領域におけるInterventional EUS. 第14回日本消化器内視鏡学会東海支部ガイドライン研修会,2014,(名古屋),[講演]
- 072 山雄健次: 超音波内視鏡による消化器疾患の診断と治療 Up to date. 第16回三重県超音波研究会,2014,(三重),[特別講演]
- 073 脇岡 範: 膵癌の診断の最前線. JCHO 人吉医療センター院内講演会,2014,(熊本),[講演]
- 074 佐藤高光, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: EUS-FNAにて縦隔膿瘍をきたした肺小細胞癌の一例. 第13回 FNA Club Japan,2014,(東京),[口演]
- 075 原 和生: 症例提示,Case Study. 第13回 FNA Club Japan,2014,(東京),[パネルディスカッション]
- 076 田近正洋, 石原 誠, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 高張大亮, 室 圭, 山雄健次, 丹羽康正: SOX

- +Bev療法単独で3年間Clinical CRを維持している切除不能S状結腸癌の一例. 第52回日本癌治療学会学術集会,2014,(横浜),[ポスター]
- 077 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: modified Glasgow prognostic scoreは切除不能膵癌の予後予測に有用である. 第52回日本癌治療学会学術集会,2014,(横浜),[口演]
- 078 原 和生: 胆道癌診療: 内科的立場から. 臨床腫瘍学セミナー,2014,(名古屋),[講演]
- 079 與儀竜治, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 堤英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 十二指腸へ穿破したSPNの1例. 第61回日本消化器画像診断研究会,2014,(奈良),[シンポジウム]
- 080 原 和生: Interventional EUS. 第35回日本超音波医学会中部地方会,2014,(名古屋),[特別講演]
- 081 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 組織混在型早期胃癌6病変のNBI拡大内視鏡像に関する検討. 第11回拡大内視鏡研究会,2014,(大阪),[口演]
- 082 脇岡 範: 膵神経内分泌腫瘍の画像・FNA診断とWHO分類の問題点. 第7回Kyoto Pancreatobiliary Meeting,2014,(大阪),[講演]
- 083 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 清水泰博, 細田和喜, 谷田部 恭, 山雄健次: 膵神経内分泌腫瘍診断におけるピットフォールと超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)の位置づけ. 第2回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2014,(東京),[ワークショップ]
- 084 脇岡 範, 藤吉俊尚, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 千田嘉毅, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 印刷業に従事し塩素系有機溶剤に曝露の既往がある労災認定された胆管癌の1例. 第50回日本胆道学会学術集会,2014,(東京),[口演]
- 085 古瀬純司, 水野伸匡: 肝門部胆管癌に対する薬物療法の役割と治療成績. 第50回日本胆道学会学術集会,2014,(東京),[シンポジウム]
- 086 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院での経験からみた,膵腫瘍におけるEUS-FNAの診断意義と診断能向上のための取り組み. 第53回日本臨床細胞学会秋季大会,2014,(下関),[シンポジウム]
- 087 山雄健次: 膵癌の治療～最近の話題～. 第62回佐賀胆膵研究会,2014,(佐賀),[特別講演]
- 088 脇岡 範: 集学的アプローチにおけるKey Point ～エキスパートからのmassage～画像診断の観点から. pNET Expert Meeting ,2014,(東京),[講演]
- 089 山雄健次: 膵癌の診療-最近の話題-. 第27回東北膵・胆道癌研究会,2014,(山形),[講演]
- 090 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 山雄健次: 新規腸管洗浄剤モビブレップTM配合内用剤の有用性および安全性の検討. JDDW2014,2014,(神戸),[ポスター]
- 091 藤吉俊尚, 田中 努, 石原 誠, 田近正洋, 佐藤高光, 堤英治, 與儀竜治, 関根匡成, 永塩美邦, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次, 丹羽康正: 食道癌における化学放射線療法後の遺残・再発病変に対する内視鏡治療について. JDDW2014,2014,(神戸),[ポスター]
- 092 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 当院におけるIPMN症例の長期予後の検討. JDDW2014,2014,(神戸),[ポスター]
- 093 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 画像強調内視鏡を用いた咽頭表在癌の深達度診断. JDDW2014,2014,(神戸),[ポスター]
- 094 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における膵癌の予後の推移. JDDW2014,2014,(神戸),[ポスター]
- 095 堤 英治, 脇岡 範, 水野伸匡: 膵神経内分泌腫瘍の遠隔移転に関連する印紙の臨床病理学的検討. JDDW2014,2014,(神戸),[ワークショップ]
- 096 佐藤高光, 原 和生, 脇岡 範: 胃十二指腸狭窄を伴う患者に対する内視鏡的胆管ドレナージの検討: 経乳頭的ドレナージ vs EUSガイド下ドレナージ. the 22th Japan Digestive Disease Week 2014,2014,(神戸),[パネルディスカッション]
- 097 山雄健次: EUS-FNA最前線. JDDW2014,2014,(神戸),[司会]
- 098 原 和生: 中下部悪性胆管狭窄に対する内視鏡治療. 広島SEMSセミナー,2014,(広島),[特別講演]
- 099 山雄健次: 膵癌の診療-最近の話題-. 第9回臨床消化器病懇話会,2014,(高知),[特別講演]
- 100 原 和生: 胆膵領域におけるInterventional Endoscopy. 三河GIワークショップ,2014,(知立),[特別講演]
- 101 山雄健次: EUS-FNA正診率100%を目指して!～プロフェッショナルへの道～. 第12回甲信越胆・膵内視鏡フォーラム,2014,(新潟),[特別講演]
- 102 田中 努, 石原 誠, 脇岡 範, 山雄健次, 丹羽康正: 原発巣診断にFDG-PET/CTが有用であった径7mmの早期大腸癌の1例. 第44回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会,2014,(名古屋),[口演]
- 103 脇岡 範: Discussion: 膵・消化管神経内分泌腫瘍診療ガイドラインの問題点とその解決策. NET Expert Seminar 2014,2014,(東京),[講演]
- 104 脇岡 範: 膵神経内分泌腫瘍に対する画像とFNA診断. 第

- 8回MH関西胆膵画像診断勉強会,2014,(大阪),[講演]
- 105 藤吉俊尚, 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 丸川高弘, 山雄健次, 丹羽康正: 生検による悪性診断が困難であった食道扁平上皮癌の1例. 日本消化器病学会東海支部第121回例会,2014,(名古屋),[口演]
- 106 原 和生: 神経内分泌腫瘍. 日本消化器病学会東海支部第121回例会,2014,(名古屋),[座長]
- 107 脇岡 範, 原 和生, 清水泰博: 膵嚢胞に対するアプローチ. JDDW2014,2015,(神戸),[講演]
- 108 脇岡 範: 胆膵診療にEUSをどう生かすか?. 熊本胆膵研究会,2015,(熊本),[講演]
- 109 脇岡 範: 愛知県がんセンター中央病院での膵癌早期発見を目指した取り組み. 平成26年度第2回家族性膵癌に関する小班会議,2015,(東京),[講演]
- 110 脇岡 範: NETの画像及びFNA診断. 第177回 鹿児島消化器内視鏡研究会 第302回鹿児島県消化器がん検診推進機構,2015,(鹿児島),[講演]
- 111 原 和生: 胆膵領域における Interventional Endoscopy. 第8回富山ERCPセミナー,2015,(富山),[特別講演]
- 112 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 後藤秀実, 山雄健次, 丹羽康正: 組織混在型早期胃癌におけるNBI拡大内視鏡像の検討. 第11回日本消化管学会総会,2015,(東京),[口演]
- 113 脇岡 範: 膵・消化管神経内分泌腫瘍 (NET) のすべて～診断から薬物治療までの最前線～. 第342回福島消化器病研究会,2015,(福島県),[講演]
- 114 原 和生: 10年後の消化器病学に向けて. FIGHT研究会,2015,(東京),[ワークショップ]
- 115 脇岡 範: pNETにおける画像診断のポイント. pNET(膵神経内分泌腫瘍)Webシンポジウム,2015,(東京),[講演]
- 116 脇岡 範: EUS-FNAによるPNET診断の留意点. 第10回 NET Work Japan,2015,(東京),[講演]
- 117 堤 英治, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 佐藤高光, 清水泰博, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次: Intracystic papillary neoplasmより発生したと考えられた胆嚢癌の一例. 第62回日本消化器画像診断研究会,2015,(東京),[口演]
- 118 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 山雄健次, 丹羽康正: 切除可能胃癌に対する血清HER2蛋白測定は有用か. 第87回日本胃癌学会総会,2015,(広島),[ポスター]
- 119 脇岡 範: NETの病態と治療. ノーベルファーマ株式会社社内研修,2015,(名古屋),[講演]

内視鏡部

- 001 Niwa Y, Ishihara M, Tajika M, Tanaka T, Fujiyoshi T, Tsutsumi E, Yamao K: Endoscopic Submucosal Resection for Remnant Early Gastric Cancer vs U region Early Gastric Cancer. DDW2014,2014,(シカゴ), [ポスター]
- 002 Fujiyoshi T, Niwa Y, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Yamao K: Comparison between the ESD resected specimen histology and Japan Esophageal Society Classification of Magnified Endoscopy for the Diagnosis of Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma (SCC). DDW2014,2014,(シカゴ),[ポスター]
- 003 Tsutsumi H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Fujiyoshi T, Sato T, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K: Clinical impact of preoperative endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic ductal adenocarcinoma. 19th EUS2014,2014,(インド),[ポスター]
- 004 Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Hieda N, Okuno N, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K: Does the WHO 2010 classification of pancreatic neuroendocrine neoplasms accurately characterize pancreatic neuroendocrine carcinomas?. 第6回日本・モンゴル国際消化器癌シンポジウム,2014,(モンゴル),[口演]
- 005 Tajika M, Niwa Y, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yogi T, Tsutsumi T, Fujiyoshi T, Sato T, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Yatabe Y, Bhatia V, Yamao K: MANAGEMENT AND LONG-TERM CLINICAL OUTCOME OF API2-MALT1 POSITIVE GASTRIC MALT LYMPHOMA. ESMO2014,2014,(Madrid),[ポスター]
- 006 Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Yoshida T, Hieda N, Niwa Y, Yamao K: The efficacy of the 6mm fully covered self-expandable metallic stent (FCSEMS) for EUS-guided transhepatic biliary drainage. The 8th Meeting of SGI,2014,(ソウル),[ポスター]
- 007 Hieda N, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K: Clinical Course of Poorly Differentiated Pancreatic Adenocarcinoma After Surgical Resection. 2014 Jointo APA/JPS Anniversary Meeting,2014,(ハワイ),[ポスター]
- 008 Yogi T, Hijioka S, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Yoshida T, Hieda N, Okuno N, Hosoda K, Yatabe K, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao

- K** : Characteristics of recurrence after curative resection IPMN : a Japanese single-center study. 2014 INTERNATIONAL CONFERENCE OF PANCREATIC MALIGNANCY,2014,(台湾),[ポスター]
- 009 **Ishihara M, Tajika M, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yamao K, Niwa Y** : Characteristics of superficial esophageal cancer in patients with head and neck cancers. IASGO2014,2014,(オーストリア),[ポスター]
- 010 **Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Fujiyoshi T, Imaoka H, Hara K, Hijioka S, Mizuno N, Yamao K** : Depth Diagnosis of Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma (SCC); comparisons in various modalities. IASGO2014,2014,(オーストリア),[ポスター]
- 011 **Tanaka T, Tajika M, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Hashimoto M, Yatabe Y, Muro K, Yamao K, Niwa Y** : Is serum HER2-ECD testing significant for resectable gastric cancer?. ASCO-GI 2015,2015,(サンフランシスコ),[ポスター]
- 012 **堤 英治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次** : 当院における膵神経内分泌腫瘍に対するエペロリムスでの治療経験. 第100回日本消化器病学会総会,2014,(東京),[ポスター]
- 013 **脇岡 範, 原 和生, 丹羽康正, 山雄健次** : EUSにて詳細に観察し診断し得た後腹膜原発性腺外胚細胞腫瘍の1例. 第87回日本超音波医学会,2014,(横浜),[口演]
- 014 **田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩義邦, 関根匡成, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 山雄健次, 丹羽康正** : 尿管侵襲からみた直腸カルチノイド腫瘍に対する内視鏡治療とWHO分類の妥当性. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[口演]
- 015 **田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 與儀竜治, 堤 英治, 坂本康成, 山雄健次, 丹羽康正** : 家族性大腸腺腫症 (FAP) 患者における大腸切除術後回腸嚢に再発する腺腫に対する内視鏡サーベイランス. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[プレナリーセッション]
- 016 **佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次** : 悪性胃十二指腸狭窄に対するNiti-Sステント留置術の検討～長期経過の視点から～. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[口演]
- 017 **藤吉俊尚, 田中 努, 丹羽康正** : 十二指腸濾胞性リンパ腫の長期経過と治療成績の検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[ワークショップ]
- 018 **與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 山雄健次** : 膵粘液癌における超音波内視鏡画像を中心とした検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[ポスター]
- 019 **石原 誠, 田中 努, 脇岡 範, 山雄健次, 丹羽康正** : PET-CT検査による大腸がん検診の可能性. 第53回日本消化器がん検診学会総会,2014,(福岡),[口演]
- 020 **丹羽康正** : 一般演題4 胃4 (症例). 第53回日本消化器がん検診学会総会,2014,(福岡),[司会]
- 021 **佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次** : 膵腫瘍に対するEUS-FNAの診断能向上に向けて. 日本消化器病学会東海支部第120回例会,2014,(名古屋),[シンポジウム]
- 022 **田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 藤吉俊尚, 丹羽康正** : 当施設におけるESD導入後の食道表在癌に対するEMRおよびESDの治療成績の比較検討. 第68回日本食道学会学術集会,2014,(東京),[口演]
- 023 **藤吉俊尚, 田中 努, 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正** : 画像診断法からみた食道表在癌の深達度診断の検討. 第68回日本食道学会学術集会,2014,(東京),[パネルディスカッション]
- 024 **佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 丹羽康正, 山雄健次** : 非切除膵癌の治療における胃十二指腸ステント留置術の現状. 第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[シンポジウム]
- 025 **與儀竜治, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 丹羽康正, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次** : T1膵癌早期発見を目指して. 第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[口演]
- 026 **今岡 大, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 大澤高陽, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 丹羽康正, 山雄健次** : 膵癌に対する新たな治療戦略 切除可能膵癌 膵癌術後補助化学療法におけるCA19-9の推移と術後再発のリスクについての検討. 第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[口演]
- 027 **原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 堤 英治, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次** : 直視コンベックス型EUSがFNAに有用であった術後再建腸管の1例. 第45回日本膵臓学会,2014,(北九州),[ポスター]
- 028 **田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次** : API2-MALT1陽性胃MALTリンパ腫に対する治療と予後に関する検討. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会,2014,(福岡),[口演]
- 029 **佐藤高光, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 田近正洋, 田中努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次** : EUS-FNAにて縦隔膿瘍をきたした肺小細胞癌の一例. 第13回 FNA Club Japan,2014,(東京),[口演]
- 030 **田近正洋, 石原 誠, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 山雄健次** : 膵粘液癌における超音波内視鏡画像を中心とした検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014,(福岡),[ポスター]

- 岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 高張大亮, 室 圭, 山雄健次, 丹羽康正: SOX + Bev療法単独で3年間Clinical CRを維持している切除不能S状結腸癌の一例. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 031 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: modified Glasgow prognostic scoreは切除不能膵癌の予後予測に有用である. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 032 與儀竜治, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 十二指腸へ穿破したSPNの1例. 第61回日本消化器画像診断研究会, 2014, (奈良), [シンポジウム]
- 033 藤吉俊尚, 田近正洋, 丹羽康正: 食道表在癌に対するNBI拡大内視鏡診断. 第57回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2014, (名古屋), [シンポジウム]
- 034 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 組織混在型早期胃癌6病変のNBI拡大内視鏡像に関する検討. 第11回拡大内視鏡研究会, 2014, (大阪), [口演]
- 035 脇岡 範, 藤吉俊尚, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 千田嘉毅, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 印刷業に従事し塩素系有機溶剤に曝露の既往がある労災認定された胆管癌の1例. 第50回日本胆道学会学術集会, 2014, (東京), [口演]
- 036 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院での経験からみた膵腫瘍におけるEUS-FNAの診断意義と診断能向上のための取り組み. 第53回日本臨床細胞学会秋季大会, 2014, (下関), [シンポジウム]
- 037 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 山雄健次: 新規腸管洗浄剤モビプレップTM配合内用剤の有用性および安全性の検討. JDDW2014, 2014, (神戸), [ポスター]
- 038 藤吉俊尚, 田中 努, 石原 誠, 田近正洋, 佐藤高光, 堤 英治, 與儀竜治, 関根匡成, 永塩美邦, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次, 丹羽康正: 食道癌における化学放射線療法後の遺残・再発病変に対する内視鏡治療について. JDDW2014, 2014, (神戸), [ポスター]
- 039 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 当院におけるIPMN症例の長期予後の検討. JDDW2014, 2014, (神戸), [ポスター]
- 040 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 画像強調内視鏡を用いた咽頭表在癌の深達度診断. JDDW2014, 2014, (神戸), [ポスター]
- 041 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における膵癌の予後の推移. JDDW2014, 2014, (神戸), [ポスター]
- 042 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正: GERD今何が問題とされているか(その争点) 当院におけるバレット食道癌の推移と臨床的特徴の検討. JDDW2014, 2014, (神戸), [パネルディスカッション]
- 043 田中 努, 石原 誠, 脇岡 範, 山雄健次, 丹羽康正: 原発巣診断にFDG-PET/CTが有用であった径7mmの早期大腸癌の1例. 第44回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会, 2014, (名古屋), [口演]
- 044 丹羽康正: 早く見つけてしっかり治そう. 第44回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会, 2014, (名古屋), [司会]
- 045 藤吉俊尚, 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 丸川高弘, 山雄健次, 丹羽康正: 生検による悪性診断が困難であった食道扁平上皮癌の1例. 日本消化器病学会東海支部第121回例会, 2014, (名古屋), [口演]
- 046 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 後藤秀実, 山雄健次, 丹羽康正: 組織混在型早期胃癌におけるNBI拡大内視鏡像の検討. 第11回日本消化管学会総会, 2015, (東京), [口演]
- 047 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 山雄健次, 丹羽康正: 切除可能胃癌に対する血清HER2蛋白測定は有用か. 第87回日本胃癌学会総会, 2015, (広島), [ポスター]
- 048 田近正洋: 大腸③. 日本消化器学会東海支部 第120回例会, 2014, (岐阜), [座長]
- 049 田近正洋: 胃・十二指腸・その他. 第57回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2014, (名古屋), [座長]
- 050 田近正洋: 愛知県がんセンター開設50周年特別セミナー「胃がんは内視鏡検査で早期発見・早期治療」. 主催: 日本生命保険相互会社名古屋東支店, 2014, (名古屋), [講演]
- 051 田近正洋: 愛知県がんセンター開設50周年特別セミナー「ここまで進んだ大腸がんの内視鏡診断と治療」. 主催: 日本生命保険相互会社名古屋東支店, 2015, (名古屋), [講演]
- 052 田近正洋: モーニングセミナー2: 次世代腸管洗浄剤の安全性の検討～高齢者への安全性を問う～. 第11回日本消化管学会総会学術集会, 2015, (東京), [講演]
- 053 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 山雄健次, 丹羽康正: 下行結腸癌肺・肝転移後に発生した高齢者早期胃癌ESD後局所および遠隔再発の一例. 第87回日本胃癌学会総会, 2015, (広島), [ポスター]

- 001 *Kato T, Seto T, Nishio M, Goto K, Atagi S, Hosomi Y, Yamamoto N, Hida T, Maemondo M, Nakagawa K, Nagase S, Okamoto I, Yamanaka R, Fukuoka M, Yamamoto N* : Erlotinib plus bevacizumab(EB) versus erlotinib alone (E) as first-line treatment for advanced EGFR mutation-positive nonsquamous non-small cell lung cancer(NSCLC):An open-label randomized trial. 50th ASCO, 2014, (Chicago) , [Oral]
- 002 *Goto K, Ohe Y, Seto T, Takahashi T, Nakagawa K, Yamamoto N, Yokoyama A, Takeda K, Nishio M, Mori K, Satouchi M, Hida T, Kudoh S, Nogami N, Imamura F, Kiura K, Okamoto H, Sawa T, Shibata T, Tamura T* : A randomized phase III study of cisplatin(CDDP), etoposide(ETOP) and irinotecan versus topotecan as second-line chemotherapy in patients with sensitive relapsed small-cell lung cancer(SCLC) : Japan Clinical Oncology Group study JCOG0605. 50th ASCO, 2014,(Chicago),[Oral]
- 003 *Tanaka K, Oguri T, Yoshida T, Park J, Shimizu J, Horio Y, Kodaira T, Hida T* : The impact of EGFR mutation on definitive concurrent chemoradiation therapy for inoperable stage III lung adenocarcinoma. 50th ASCO, 2014,(Chicago),[Poster]
- 004 *Nakagawa K, Hida T, Seto T, Satouchi M, Nishio M, Hotta K, Murakami H, Ohe Y, Takeda K, Tatsuno M, Yoshikawa N, Tanaka T, Tamura T* : Antitumor activity of Alectinib (CH5424802/RO5424802) for ALK-rearranged NSCLC with or without prior crizotinib treatment in bioequivalence study. 50th ASCO,2014,(Chicago),[Poster]
- 005 *Hirashima T, Azuma K, Yamamoto N, Takahashi T, Nishio M, Hirata T, Kubota K, Kasahara K, Hida T, Yoshioka H, Suzuki K, Akinaga S, Nishio K, Mitsudomi T, Nakagawa K* : Phase II study of erlotinib plus tivantinib in patients with EGFR-mutation-positive NSCLC who failed in immediately previous EGFR-TKI therapy.50th ASCO,2014,(Chicago), [Poster]
- 006 *Tanaka K, Oya Y, Oguri T, Yoshida T, Shimizu J, Horio Y, Hida T, Sakao Y, Yatabe Y* : Genomic Profiling of Lung Adenocarcinoma According to Primary Lung Lesions. APLCC, 2014,(Kuala Lumpur),[Poster]
- 007 *Seto T, Hida T, Nakagawa K, Satouchi M, Nishi M, Hotta K, Murakami H, Ohe Y, Takeda K, Tatsuno M, Shimada T, Tanaka T, Tamura T* : Anti-tumor activity of alectinib in crizotinib pre-treated ALK-rearranged NSCLC in JP28927 study. 39th ESMO, 2014,(Madrid),[Oral]
- 008 *Park J, Yamaura H, Yatabe Y, Oya Y, Tanaka K, Oguri T, Yoshida T, Shimizu J, Horio Y, Hida T* : Imaging characteristics associated with driver mutations in patients with non-small-cell lung cancer. 39th ESMO, 2014,(Madrid),[Poster]
- 009 *Tamura T, Seto T, Nakagawa K, Maemondo M, Inoue A, Hida T, Yoshioka H, Harada M, Ohe Y, Nogami N, Murakami H, Takeuchi K, Asakawa T, Kukuchi K, Tanaka T, Nishio M* : Updated date of a phase I/II study (AF-001JP) of alectinib, a CNS-penetrant, highly selective ALK inhibitor in ALK-rearranged advanced NSCLC. Chicago multidisciplinary symposium in thoracic oncology, 2014, (Chicago),[Oral]
- 010 *Itoh T, Nakashima T, Akamatsu T, Izu N, Shin W, Park J, Hida T, Setoguchi Y* : Exhaled breath air monitoring system for lung cancer-related VOCs. Digital Olfaction Society World Congress, 2014,(Tokyo),[Poster]
- 011 *Tanaka K, Oguri T, Park J, Shimizu J, Horio Y, Hida T, Kodaira T* : The impact of EGFR mutation on definitive concurrent chemoradiation therapy for inoperable stage III adenocarcinoma. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014,(福岡),[口演]
- 012 *Satouchi M, Hida T, Nakagawa K, Seto T, Nishio M, Hotta K, Murakami H, Ohe Y, Takeda K, Tamura T* : Anti-tumor activity of alectinib for ALK-rearranged NSCLC patients in bioequivalence study(JP28927). 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014,(福岡),[口演]
- 013 *Oguri T, Tanaka K, Boku M, Shimizu J, Horio Y, Hida T* : Analysis of long-term administration of Afatinib in our hospital. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014,(福岡),[ポスター]
- 014 稲田順也, 平井文彦, 岩本康男, 山中竹春, 田口健一, 武田晃司, 駄賀晴子, 清水淳市, 田中 薫, 小暮啓人, 木村達郎, 小野 哲, 佐々木秀文, 福岡順也, 西山憲一, 瀬戸貴司, 一瀬幸人, 中川和彦, 中西洋一 : 進行胸腺癌に対するCarboplatin+Paclitaxel併用療法の臨床第II相試験WJOG 4207L. 第54回日本呼吸器学会学術集会, 2014, (大阪),[ミニシンポジウム]
- 015 田中広祐, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭 : 術後6年で胸膜・腹膜播種を来した胸腺非定型カルチノイドの一例. 第29回 肺癌学会ワークショップ, 2014, (名古屋), [口演]
- 016 遠藤克彦, 前田浩義, 富田勇樹, 原田亜希子, 島 由子, 荒木勇一朗, 田中宏紀 : 当院で経験した特発性血気胸手術例の検討. 第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 017 清水淳市, 大矢由子, 田中広祐, 小栗知世, 吉田達哉, 朴将哲, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂倉範昭, 坂尾幸則, 谷田部 恭 : 内視鏡で診断し外科切除を行った単純性肺アスペルギローマの1例. 第47回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会, 2014, (名古屋), [口演]
- 018 樋田豊明, 伊藤敏雄, 申 ウソク, 作村諭一, 佐藤一雄, 堀尾芳嗣, 朴 将哲 : 肺がん患者の呼気volatile organic compoundsの分析. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [口演]

- 019 原田眞雄, 西尾誠人, 木浦勝行, 瀬戸貴司, 中川和彦, 前門戸 任, 井上 彰, 樋田豊明, 吉岡弘鎮, 大江裕一郎, 野上尚之, 村上晴泰, 竹内賢吾, 島田 忠, 田中智宏, 田村友秀: アレクチニブのALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌患者に対する第I/II相臨床試験(AF-001JP)の長期追跡データ. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 020 近藤千晶, 堀尾芳嗣, 坂尾幸則, 樋田豊明, 谷田部 恭: 愛知県がんセンター肺がん遺伝子解析プログラムについて. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 021 金田裕靖, 清水俊雄, 樋田豊明, 村上晴泰, 軒原 浩, *Jowell Go, Sarah Jaw-Tsai, Lindsey Rolfe*, 中川和彦: Phase I study of CO-1686, an irreversible mutant-selective inhibitor of EGFR mutations, in Japanese patients with T790M-positive NSCLC. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 022 金田裕靖, 東 公一, 平島智徳, 山本信之, 高橋利明, 西尾誠人, 平田泰三, 久保田馨, 笠原寿郎, 樋田豊明, 吉岡弘鎮, 鈴木康平, 秋永士朗, 西尾和人, 光富徹哉, 中川和彦: EGFR-TKI耐性のEGFR変異陽性NSCLCを対象としたtivantinib(ARQ197)とエルロチニブ併用の第2相試験. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 023 吉田達哉, 大矢由子, 朴 将哲, 清水淳市, 田中広祐, 小栗知世, 堀尾芳嗣, 坂尾幸則, 樋田豊明, 谷田部 恭: ALK融合遺伝子陽性肺癌におけるvariant別のcrizotinib治療効果の検討. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 024 堀池 篤, 樋田豊明, 中川和彦, 瀬戸貴司, 里内美弥子, 西尾誠人, 堀田勝幸, 村上晴泰, 大江裕一郎, 武田晃司, 島田 忠, 田中智宏, 田村友秀: 脳転移を有するALK陽性非小細胞肺癌患者に対するアレクチニブの治療効果: JP28927試験における部分集団成績. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 025 神田慎太郎, 樋田豊明, 中川和彦, 瀬戸貴司, 里内美弥子, 西尾誠人, 堀田勝幸, 村上晴泰, 大江裕一郎, 武田晃司, 島田 忠, 田中智宏, 田村友秀: JP28927試験におけるアレクチニブのクリゾチニブ既治療ALK融合遺伝子陽性肺癌に対する有効性・安全性の解析. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 026 田中広祐, 大矢由子, 小栗知世, 吉田達哉, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭: 肺腺癌の遺伝子プロファイルに関する原発部位別解析. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 027 清水淳市, 大矢由子, 田中広祐, 小栗知世, 吉田達哉, 朴 将哲, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部 恭: 組織亜型不明の進行非小細胞肺癌に対するペメトレキセド併用療法の効果. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [ポスター]
- 028 朴 将哲, 大矢由子, 田中広祐, 小栗知世, 吉田達哉, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 山浦秀和, 谷田部 恭, 樋田豊明: EGFR変異陽性肺癌, KRAS変異陽性肺癌, ALK融合遺伝子陽性肺癌の臨床像と画像所見についての検討. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [ポスター]
- 029 小栗知世, 大矢由子, 田中広祐, 吉田達哉, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 谷田部 恭, 樋田豊明: EGFR exon 18欠失変異陽性肺腺癌の一例. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [ポスター]
- 030 小栗知世, 大矢由子, 田中広祐, 吉田達哉, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 富沢健二, 坂尾幸則, 谷田部 恭, 樋田豊明: HER2変異陽性肺癌の治療効果についての検討. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [ポスター]
- 031 島 由子, 吉田達哉, 田中広祐, 小栗知世, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭: ALK融合遺伝子を有する非小細胞肺癌におけるクリゾチニブ投与による肝障害についての検討. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [ポスター]
- 032 田島三紗子, 仁保誠治, 吉田達哉, 森田智子, 杉山栄里, 梅村茂樹, 松本慎吾, 葉 清隆, 大松広伸, 後藤功一, 齋藤真一郎, 大江裕一郎: 骨転移を有するEGFR遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌患者に対する, EGFR-TKIと骨病変治療薬の併用効果. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 033 村井一輝, 福嶋敬子, 山口真澄, 佐藤 好, 戸崎加奈江, 清水淳市, 佐藤洋造, 岩田広治: 電子バスにおける看護記録の検討〜中心静脈ポート留置バスより〜. 第15回日本クリニカルバス学会学術集会, 2014, (福井), [ポスター]
- 034 堀尾芳嗣, 吉田達哉, 門脇重憲, 安藤正志, 橋本直弥, 前田美恵子, 小原真紀子, 長谷川泰久: 甲状腺癌診療連携プログラムによりソラフェニブ治療を行い, 奏効を得た甲状腺癌術後再発の2例. 第225回日本内科学会東海地方会, 2015, (三重), [口演]

血液・細胞療法部

- 001 *Chihara D, Asano N, Ohmachi K, Yamaguchi M, Nishikori M, Okamoto M, Sawa M, Sakai R, Okoshi Y, Tsukamoto N, Yakushijin Y, Nakamura S, Kinoshita T, Ogura M, Suzuki R*: Ki-67 Is a Strong Predictor for Central Nervous System Relapse in Patients with Mantle Cell Lymphoma (MCL). 56th ASH Annual Meeting and Exposition, 2014.12, (サンフランシスコ), [口頭・ポスター]
- 002 *Murakami S, Kato H, Yamamoto K, Taji H, Higuchi Y, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T*: Combination of High Serum Lactate Dehydrogenase Levels at the Time of First Diagnosis and Progression Predicts Early Lymphoma Related Death in Patients with Follicular Lymphoma Receiving R-CHOP Regimen. 56th ASH Annual Meeting and Exposition, 2014.12, (サンフランシスコ), [口頭・ポスター]
- 003 *Kaji D, Ota Y, Sato Y, Nagafuji K, Okamoto M, Terasaki Y, Tsuyama N, Kinoshita T, Taniguchi S, Ohshima K, Izutsu K*: HHV8-Negative Body Cavity-Based Lymphoma Is Mature Large B-Cell Lymphoma

- That Affects Elderly and Displays Favorable Prognosis : A Multi-Center Retrospective Study of 50 Patients in Japan. 56th ASH Annual Meeting and Exposition , 2014.12,(サンフランシスコ) , [口頭・ポスター]
- 004 *Yamamoto K, Miyamura K, Miyamoto T, Tanimoto M, Taniwaki M, Kimura S, Ohyashiki K, Kawaguchi T, Matsumura I, Hata T, Tsurumi H, Saito S, Hino M, Tadokoro S, Meguro K, Hyodo H, Yamamoto M, Kubo K, Tsukada J, Kondo M, Amagasaki T, Kawahara E, Yanada M* : SENSOR Interim Data with Mutation Analysis : Switching to Nilotinib After Molecular Suboptimal Response to Imatinib in Patients With Chronic Myeloid Leukemia in Chronic Phase (Poster Session #P882). The 19th Congress of the European Hematology Association, 2014.6,(Milan, Italy)
- 005 *Tanimoto M, Miyamura K, Miyamoto T, Yamamoto K, Taniwaki M, Kimura S, Ohyashiki K, Kawaguchi T, Matsumura I, Hata T, Tsurumi H, Saito S, Hino M, Tadokoro S, Meguro K, Hyodo H, Yamamoto M, Kubo K, Tsukada J, Kondo M, Aoki M, Okada H, Yanada M* : Final Results From SENSOR : Switch to Nilotinib After Molecular Suboptimal Response (SoR) to Frontline Imatinib in Patients With Chronic Myeloid Leukemia in Chronic Phase (CML-CP) (Poster Session #1815). 56th Annual Meeting of the American Society of Hematology, 2014.12,(San Francisco, CA, U.S.A.)
- 006 *Kyo T, Tojo A, Yamamoto K, Takahashi N, Nakamae H, Kobayashi Y, Tauchi T, Okamoto S, Miyamura K, Iwasaki H, Hatake K, Matsumura I, Usui N, Yanase K, Hu S, Naoe T, Ohyashiki K* : Ponatinib Safety and Efficacy in Japanese Patients with Philadelphia Positive Leukemia : Update of a Phase 1/2 Study [ONLINE PUBLICATION ONLY]. 56th Annual Meeting of the American Society of Hematology, 2014.12,(San Francisco, CA, U.S.A.)
- 007 *Suzuki R, Ohnishi K, Kawaguchi T, Kizaki M, Takahashi N, Matsumura I, Yamamoto K, Naoe T* : Prospective observational studies of CML in Japan : Interim analysis of the New TARGET studies.第76回日本血液学会学術集会, 2014.10,(大阪市), [口頭]
- 008 *Tojo A, Kyo T, Yamamoto K, Takahashi N, Nakamae H, Kobayashi Y, Tauchi T, Okamoto S, Miyamura K, Iwasaki H, Hatake K, Matsumura I, Usui N, Yanase K, Hu S, Turner C, Naoe T, Ohyashiki K* : Update of a phase 1/2 study of ponatinib in Japanese patients with Philadelphia positive leukemias. 第76回日本血液学会学術集会, 2014.10,(大阪), [口頭]
- 009 *Ishizawa K, Takahashi N, Nakaseko C, Kobayashi Y, Ohashi K, Nakagawa Y, Yamamoto K, Miyamura K, Taniwaki M, Okada M, Kawaguchi T, Shibata A, Fujii Y, Ono C, Ohnishi K* : A phase 1/2 Study of bosutinib in Japanese patients with Philadelphia chromosome positive leukemia. 第76回日本血液学会学術集会, 2014.10,(大阪市), [口頭]
- 010 平野大希, 加藤春美, 山本一仁, 田地浩史, 村上五月, 谷田部恭, 中村栄男, 木下朝博 : P16-6 限局したLymphoblastic Lymphoma 再発に対しL-Asp 単剤と放射線療法で寛解を得た一例.第54回日本リンパ網内系学会, 2014.06 ,(山形), [ポスター]
- 011 加藤春美, 山本一仁, 鏡味良豊, 村上五月, 平野大希, 田地浩史, 森島康雄, 木下朝博 : Feasibility study of a gemcitabine combined regimen in heavily pre-treated patients with non-Hodgkin lymphomas.第12回 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014.07, (福岡), [口頭]
- 012 村上五月, 加藤春美, 山本一仁, 田地浩史, 谷田部恭, 中村栄男, 木下朝博 : Serum LDH levels predict deaths from follicular lymphoma in early progression after R-CHOP therapy R-CHOP療法後早期再発をきたした濾胞性リンパ腫における血清LDH値による予後予測.第73回日本癌学会学術総会, 2014.09, (横浜), [ポスター]
- 013 村上五月, 加藤春美, 山本一仁, 樋口悠介, 平野大希, 田地浩史, 木下朝博 : Clinical features of patients with follicular lymphoma in early recurrence.第76回日本血液学会学術集会,2014.10, (大阪), [口頭]
- 014 加藤春美, 山本一仁, 田地浩史, 鏡味良豊, 村上五月, 平野大希, 樋口悠介, 小椋美知則, 森島康雄, 木下朝博 : LEED therapy followed by autologous transplantation for relapsed or refractory malignant lymphomas.第76回日本血液学会学術集会,2014.10, (大阪), [口頭]
- 015 高田尚良, 山口素子, 吉野正, 石塚直樹, 小口正彦, 小林幸夫, 磯部泰司, 石澤賢一, 久保田靖子, 伊藤國明, 薄井紀子, 宮崎香奈, 内海貴彦, 正木康史, 野坂生郷, 福島伯泰, 大間知謙, 島田和之, 森本浩章, 塚本憲史, 井上佳子, 薬師神芳洋, 植田いずみ, 中村栄男, 松野吉宏, 押味和夫, 木下朝博, 塚崎邦弘, 飛内賢正 : Prognostic biomarkers in patients with localized NK/T-cell lymphoma treated with RT-DeVIC. 第76回日本血液学会学術集会,2014.10, (大阪), [口頭]
- 016 青木智広, 島田和之, 鈴木律郎, 伊豆津宏二, 富田章裕, 中世古知昭, 佐々木純, 有馬浩史, 瀧澤淳, 三谷絹子, 五十嵐忠彦, 前田嘉信, 福原規子, 石田文宏, 新津望, 大間知謙, 高崎啓孝, 中村直哉, 木下朝博, 中村栄男, 小椋美知則 : Prognostic significance of pleural/pericardial effusion, and the optimal treatment in PMBL : 第76回日本血液学会学術集会,2014.10, (大阪), [口頭]
- 017 山本一仁 : びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の治療 : 第76回日本血液学会学術集会 教育講演. 第76回日本血液学会学術集会, 2014.10.31, (大阪), [口頭]

- 001 **Sakai D, Taniguchi H, Tamura T, Sugimoto N, Esaki T, Okuda H, Matsumoto T, Yamazaki K, Denda T, Yamaguchi K, Tsuda T, Hosokawa A, Makiyama A, Tobimatsu K, Goda F, Otsu S, Kishimoto J, Boku N, Nakamura S, Hyodo I, West Japan Oncology Group** : Randomized phase II study of panitumumab (Pmab) plus irinotecan (CPT-11) versus cetuximab (Cmab) plus CPT-11 in patients with KRAS wild-type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC) following treatment with fluoropyrimidine, CPT-11, and oxaliplatin (L-OHP) chemotherapy : WJOG6510G. ASCO, 2014, (Chicago), [poster]
- 002 **Al-Batran SE, Cutsem EV, Oh SC, Bodoky G, Shimada Y, Hironaka S, Sugimoto N, Lipatov O, Kim TY, Cunningham D, Rougier P, Muro K, Liepa A, Ballal S, Emig15 M, Ohtsu A, Wilke H:RAINBOW** : Global, phase 3, randomized, double-blind study of ramucirumab plus paclitaxel vs placebo plus paclitaxel patients with previously treated gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma – patient-reported outcomes and performance status. ESMO-GI, 2014, (Spain), [oral session]
- 003 **Muro K, Bang Y, Shankaran V, Geva R, Catenacci DV, Gupta S, Eder J, Berger R, Gonzalez EJ, Pulini J, Ray A. B, Dolled-Filhart M, Pathiraja K, Shu X, Koshiji MR, Cheng JD, Chung H** : A Phase 1b Study of Pembrolizumab (Pembro; MK-3475) in Patients (Pts) With Advanced Gastric Cancer. ESMO, 2014, (Madrid), [Proffered Paper session]
- 004 **Nomura M, Abe T, Kodaira T, Oze I, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Takahari D, Ura T, Andoh M, Kawai R, Uemura N, Tomita T, Tachibana H, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Muro K** : Comparison of surgery with definitive chemoradiotherapy for potentially resectable esophageal cancer : a propensity-score analysis. ESMO, 2014, (Madrid), [Poster]
- 005 **Shinozaki E, Fuse N, Kuboki Y, Kuwata T, Nishina T, Kadowaki S, Machida N, Yuki S, Ooki A, Kajiura S, Kimura T, Yamanaka T, Sasaki T, Shitara K, Nagatsuma A, Yoshino T, Ochiai A, Ohtsu A** : Prognostic impact of HER2, EGFR, and C-MET status on overall survival of advanced gastric cancer patients treated with standard chemotherapy without trastuzumab in a first-line treatment : A japanese multicenter collaborative retrospective study. ESMO, 2014, (Madrid), [Poster]
- 006 **Yamaguchi K, Akagi K, Muro K, Taniguchi H, Nishina T, Kajiura T, Denda T, Hironaka S, Kudo T, Satoh T, Okamoto W, Yoshino T** : Clinical validation of a novel multiplex kit for all RAS mutations in colorectal cancer : Results of RASKET(RAS KEY Testing) prospective multicenter study. ESMO, 2014, (Madrid), [Poster]
- 007 **Muro K** : Chemotherapy for Gastric Cancer in Japan –Overview–. Hungarian Society of Clinical Oncology, 2014, (Hungary), [Educational Lecture Overseas Invited Speaker]
- 008 **Muro K, Bang Y, Shankaran V, Geva R, Catenacci DV, Gupta S, Eder J, Berger R, Gonzalez EJ, Ray AB, Dolled-Filhart M, Emancipator K, Pathiraja K, Lunceford J. K, Cheng JD, Koshiji MR, Chung H** : Relationship between PD-L1 expression and clinical outcomes in patients(Pts) with advanced gastric cancer treated with the anti-PD-1 monoclonal antibody pembrolizumab(Pembro:MK-3475) in KEYNOTE-012. ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 009 **Muro K, Bodoky G, Cesas A, Chao Y, Clingan P, Hironaka S, Komatsu S, Kurteva SP, Lipatov ON, Nishina T, Oh SC, Ohtsu A, Shimada Y, Sugimoto N, Cutsem EV, Carlesi R, Chandrawansa K, Wilke H** : RAINBOW:A global, phase3, double-blind study of ramucirumab(RAM) plus paclitaxel(PTX) vesus placebo(PL) plus PTX in the treatment of advanced gastric and gastroesophageal junction(GEL) adenocarcinoma following disease progression on first-line platinum-and fluoropyrimidine-containing combination therapy-An age-grope analysis. ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 010 **Nomura M, Kato K, Mizusawa J, Kataoka K, Ando N, Muro K, Ohtsu A, Igaki H, Shinoda M, Takeuchi H, Shimizu H, Hayashi K, Daiko H, Goto M, Komatsu Y, Konishi K, Miyata Y, Kitagawa Y** : Compariso between neoadjuvant chemotherapy followed by surgery(NAC-S) and definitive chemoradiotherapy(CRT) in overall survival for patients with clinical stage II-III esophageal squamous cell carcinoma(ESCC)(JCOG1406-A) . ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 011 **Ura T, Hironaka S, Tsubosa Y, Mizusawa J, Kataoka K, Kato K, Kitagawa Y, Kii T, Tomori A, Kiyota N, Taniki T, Chin K, Kojima T, Doki Y; Department of Clinical Oncology, Aichi Cancer Center Hospital, Aichi, Japan; Clinical Trial Promotion Department, Chiba Cancer Center, Chiba, Japan; Division of Esophageal Surgery, Shizuoka Cancer Center Hospital, Shizuoka, Japan; JCOG Data Center, National Cancer Center, Tokyo, Japan;** : Early tumor shrinkage(ETS) and deepness of response(DpR) in patients with metastatic esophageal cancer receiving a first-line

- treatment with DCF: Exploratory analysis of the JCOG0807. ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 012 **Masuishi T, Kawase T, Nishikawa K, Kunisaki C, Matsusaka S, Segawa Y, Nakamura M, Sasaki K, Nagao N, Tsuji A, Yuasa Y, Asami S, Takeuchi M, Furukawa H, Fujii M, Nakajima T** : Multicenter phase II study of trastuzumab with S-1 alone in elderly patients with HER-2 positive advanced gastric cancer (JACCRO GC-06) . ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 013 **Doi T, Kang YK, Muro K, Jiang Y, Jain RK, Lizambri R** : A phase 3, multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled study of rilotumumab in combination with cisplatin and capecitabine (CX) as first-line therapy for Asian patients (pts) with advanced MET-positive gastric or gastroesophageal junction (G/GEJ) adenocarcinoma : The RILOMET-2 trial. ASCO-G, 2015, (San Francisco), [Trials in Progress Poster Session]
- 014 **Tanaka T, Tajika M, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Hashimoto M, Yatabe Y, Muro K, Yamao K, Niwa Y** : Is serum HER2-ECD testing significant for resectable gastric cancer? ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 015 **Hashida H, Muro K, Itabashi M, Ohashi Y, Sugihara K** : Observational study of first-line therapy, including cetuximab in cases of nonresectable colorectal cancer : CORAL (interim report). ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 016 **Yamazaki K, Yoshino T, Tsuchihara K, Shinozaki E, Muro K, Nishina T, Yamaguchi K, Akagi K, Yuki S, Yamanaka T, Nomura S, Fujii S, Esumi H, Abe Y, Ohtsu A** : Clinical impact of expanded BRAF mutational status on the outcome for metastatic colorectal cancer patients with anti-EGFR antibody : An analysis of the BREAC trial (Biomarker Research for Anti-EGFR Monoclonal Antibodies by Comprehensive Cancer Genomics). ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 017 **Nagase M, Yamazaki K, Tamagawa H, Ueda S, Tamura T, Murata K, Tsuda T, Baba E, Tsuda M, Moriwaki T, Esaki T, Tsuji Y, Muro K, Taira K, Denda T, Ando M, Morita S, Boku N, Hyodo I, WJOG** : The impact of early tumor shrinkage on survival in WJOG4407G trial, a randomized phase III trial of mFOLFOX6 plus bevacizumab versus FOLFIRI plus bevacizumab in first-line treatment for metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 018 **Tabernero J, Ohtsu A, Muro K, Cutsem EV, Oh SC, Bodoky G, Shimada Y, Hironaka S, Ajani JA, Tomasek J, Safran H, Chandrawansa K, Hsu Y, Heathman M, Khan AZ, Ni L, Melemed AS, Gao L, Ferry D, Fuchs CS** : Exposure-response (E-R) relationship of ramucirumab (RAM) from two global, randomized, double-blind, phase 3 studies of patients (Pts) with advanced second-line gastric cancer. ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 019 **Ohba A, Hashimoto J, Kato K, Ito Y, Hokamura N, Katada C, Ishiyama H, Yamamoto S, Ura T, Kodaira T, Kudo S, Nakamura T** : Phase II study of chemoradiotherapy with docetaxel for elderly patients with stage II/III esophageal carcinoma : An updated report. ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session,]
- 020 **Shitara K, Fujii S, Denda T, Kajiwara T, Yuki S, Nakajima TE, Takashima A, Kawasaki K, Tamura T, Esaki T, Naruge D, Ebi H, Kudo T, Taniguchi H, Akagi K, Yamanaka T, Ochiai A, Doi T, Ohtsu A, Yoshino T (GI-SCREEN)** : Simultaneous identification of KRAS, NRAS, BRAF, and PIK3CA mutation in advanced colorectal cancer (aCRC) (GI-SCREEN 2013-01). ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 021 **Tsuji A, Nakamura M, Masuishi T, Kotaka M, Shimada K, Kochi M, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Nakajima T** : A phase I study of cetuximab (cet) in combination with S-1 and irinotecan (iri) (SIRC) in first-line treatment for metastatic colorectal cancer (mCRC) (JACCRO CC-10). ASCO-GI, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 022 **Ichikawa W, Sunakawa Y, Tsuji A, Takahashi T, Denda T, Shimada K, Kochi M, Nakamura M, Kotaka M, Segawa Y, Tanioka H, Negoro Y, Takagane A, Tani S, Yamaguchi T, Masuishi T, Takeuchi M, Lenz H-J, Fujii M, Nakajima T** : Association of EGFR CA simple sequence repeat 1 (CA-SSR1) variant with cetuximab (cet)-induced skin toxicity (ST) in Japanese metastatic colorectal cancer (mCRC) patients (pts) with overexpressed EGFR and KRAS exon 2 wild-type (KRAS wt) (JACCRO CC-05/06 AR). ASCO-G, 2015, (San Francisco), [General Poster Session]
- 023 **室 圭 (司会)** : CRT・化学療法が著効するStage II, III 食道がんの特徴. 日本食道学会学術集会, 2014, (東京), [ワークショップ]
- 024 **野村基雄 (演者), 安部哲也, 古平 毅, 宇良 敬, 植村則久, 川合亮佑, 丹羽康正, 篠田雅幸, 室 圭** : 切除可能食道癌における手術療法と化学放射線療法の比較. 日本食道学会学術集会, 2014, (東京), [口演]
- 025 **野村基雄 (演者), 尾瀬 功, 宇良 敬, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 丹羽康正, 篠田雅幸, 室 圭** : 切除可能食道癌 cStage III または cT3 に対する術前化学療法の検討. 日本食道

- 学会学術集会, 2014, (東京), [口演]
- 026 宇良 敬 (演者), 本間義崇, 原 浩樹, 對馬隆浩: 食道癌術前化学療法終了後からの再発までの期間と再発誤化学療法の有効性との関連. 日本食道学会学術集会, 2014, (東京), [ポスター]
- 027 室 圭 (司会): 腫瘍崩壊症候群. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (東京), [ランチョンセミナー]
- 028 室 圭 (司会): 大腸がん患者におけるRAS 遺伝子 (KRAS/NRAS 遺伝子) の測定に関するガイドランスの解説. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (東京), [ケースカンファレンスとガイドライン/ガイドランスの紹介]
- 029 室 圭 (司会): Future perspective of therapeutic strategy for metastatic gastric cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [International Session]
- 030 室 圭 (演者): 大腸癌化学療法の最前線 ~ ASCO 2014, ESMO-GI 2014を受けて~. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [ランチョンセミナー]
- 031 谷口浩也 (演者): 大腸がん患者におけるRAS 遺伝子 (KRAS/NRAS 遺伝子) の測定に関するガイドランスの解説. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [ケースカンファレンスとガイドライン/ガイドランスの紹介]
- 032 谷口浩也 (演者), 赤木 究, 仁科智裕, 傳田忠道, 工藤敏啓, 室 圭, 吉野孝之: Clinical validation of novel multiplex kit for all RAS mutations: Results of prospective multicenter RASKET study. 日本臨床腫瘍学会学術集会, (福岡), 2014. 7月 [International Session]
- 033 門脇重憲 (演者), 成田有希哉, 小森 梓, 野村基雄, 谷口浩也, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 丹羽康正, 室圭: HER2陽性進行胃癌におけるトラスツズマブ併用化学療法の予後因子としてのHER2免疫染色性の意義. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 034 小森 梓 (演者), 谷口浩也, 成田有希哉, 野村基雄, 門脇重憲, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 室圭: Washout period of prior bevacizumab influences outcome of anti-EGFR therapy for chemotherapy-refractory mCRC patients. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 035 成田有希哉 (演者), 門脇重憲, 谷口浩也, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 丹羽康正, 原 浩樹, 山口研成, 室 圭: HER2陽性切除不能進行再発胃癌においてtrastuzumab beyond progressionは有用か?. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 036 上垣史緒理 (演者), 宇良 敬, 谷口浩也, 門脇重憲, 高張大亮, 安藤正志, 加藤弥菜, 田近正洋, 室 圭: 当院におけるレゴラフェニブの使用経験. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 037 野村基雄 (演者), 安部哲也, 谷口浩也, 門脇重憲, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 丹羽康正, 室 圭: Implications for the AJCC staging systems on esophageal squamous cell cancer patients receiving multimodality therapy. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 038 舛石俊樹 (演者), 島田光生, 仁科智裕, 森脇俊和, 大関瑞治, 根来裕二, 因藤春秋, 傳田忠道, 前場隆志, 兵頭一之介: 高齢者切除不能再発大腸癌に対するUFT/LV+bevacizumabの第II相臨床試験 (J-BLUE): 最終結果. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 039 山口和久 (演者): Phase II trial of S-1 oral leucovorin and bevacizumab in heavily pretreated patients with metastatic colorectal cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 040 佐藤太郎, 山崎直也, 滝川 一, 伊藤英進, 伊藤雄一郎, 坂口敏晃, 山田 敬, 室 圭, 杉原健一: A Japanese post-marketing surveillance of regorafenib in colorectal cancer patients: interim report. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [シンポジウム]
- 041 町田 望, 土井俊彦, 坂東英明, 室 圭, 仁科智裕, 山口研成, 高橋俊二, 設楽紘平, 佐藤暁洋, 大津 敦: Multicenter Phase II Study of TAS-102 Monotherapy in Patients with Pretreated Advanced Gastric Cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 042 田原 信, 清田尚臣, 室 圭, 安藤雄一, *Lori Wirth, Bruce Robinson, Steven Sherman*, 鈴木拓也, 藤野克樹, *Martin Schlumberger*: 放射性ヨード難治性の甲状腺分化癌を対象としたレンバチニブの第3相試験 (SELECT試験). 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 043 前田章光, 安藤 仁, 宇良 敬, 齋藤 憲, 水谷旭良, 藤村昭夫: 癌患者における新規急性腎障害バイオマーカー vanin-1の有用性の検討. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [ポスター]
- 044 室 圭 (演者): 大腸癌化学療法におけるチーム医療の現状と今後の展望-腫瘍内科医の立場から-. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [教育セミナー]
- 045 室 圭 (演者): 大腸癌化学療法の最前線 ~ ASCO2014を踏まえた治療戦略 ~. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [ランチョンセミナー]
- 046 室 圭 (演者): 大腸癌化学療法の新たな選択肢へスチパーガをどう使うか? ~. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [ランチョンセミナー]
- 047 室 圭 (演者), 江見泰徳, 山中竹春, 片寄 友, 植竹宏之, 井村穰二, 坂元亨宇, 相島慎一, 石田和之, 杉原健一, 掛地吉弘, 海野倫明, 兵藤一之介, 富田尚裕, 前原喜彦: 大腸癌肝転移に対するmFOLFOX6+BmabとmFOLFOX6+Cmabの第II相臨床試験 (ATOM trial) . 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 048 宇良 敬 (演者): 消化器がん化学療法と緩和医療. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [ランチョンセミナー]
- 049 宇良 敬 (演者), 安部哲也, 室 圭, 植村則久, 高張大亮, 川合亮佑, 門脇重憲, 安藤正志, 谷口浩也: 術前DCF療法は術後感染性合併症を軽減させる. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 050 宇良 敬 (演者), 室 圭, 高張大亮, 門脇重憲, 安藤正志, 谷口浩也, 野村基雄, 成田有季哉, 小森 梓: 切除不能進行・再発結腸・直腸癌患者に対するFOLFOXIRI+Bev療

- 法の第I相臨床試験. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 051 宇良 敬 (演者), 室 圭, 高張大亮, 門脇重憲, 安藤正志, 谷口浩也, 野村基雄, 成田有季哉, 小森 梓: 大腸癌化学療法例における腫瘍マーカー増加の診断能分析. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 052 門脇重憲 (演者), 成田有季哉, 小森 梓, 野村基雄, 谷口浩也, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 丹羽康正, 室 圭: 進行HER2陽性胃癌の臨床病理学的特徴に関する検討. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 053 谷口浩也 (演者): 大腸癌術後補助化学療法～ It's time for the next step ～. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [ランチョンセミナー]
- 054 谷口浩也 (演者), 小森 梓, 成田有季哉, 野村基雄, 門脇重憲, 高張大亮, 安藤正志, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 宇良 敬, 丹羽康正, 室 圭: BRAF変異型大腸がんに対する治療戦略. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 055 成田有季哉 (演者), 高張大亮, 小森 梓, 野村基雄, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 室 圭: 切除不能進行再発大腸がんに対するSOX+BV療法とCapeOX+BV療法の後方視的検討. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 056 小森 梓 (演者), 門脇重憲, 近藤千紘, 野村基雄, 成田有季哉, 上垣史緒理, 新田壮平, 山口和久, 谷口浩也, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 室 圭: 既治療の進行胃癌に対するオキサリプラチン (Ox) 療法の有用性の検討. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 057 舩石俊樹 (演者), 酒井義法, 松井 徹, 中村倫太郎, 安齋 翔, 鈴木雄一郎, 小堀郁博, 深見裕一, 鈴木康平, 江頭徹哉, 草野史彦, 鈴木恵子: 大腸癌1次治療cetuximab+irinotecan+S-1第II相試験: 原発部位/ETS/DpR/RAS遺伝子解析. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 058 近藤 建, 片岡政人, 中山裕史, 竹田 伸, 室 圭, 板橋道郎, 大橋靖雄, 杉原健一: 切除不能大腸癌症例におけるセツキシマブを含む初回治療の観察研究: CORAL (中間報告). 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 059 立松三千子, 伊藤誠二, 小原真紀子, 秋山理恵, 佐藤由美, 栗木玲子, 秦 毅司, 佐藤洋造, 室 圭: 医看薬連携による外来がん患者サポートのアウトカム. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 060 傳田忠道, 廣中秀一, 室 圭, 谷口浩也, 山口研成, 赤木 究, 仁科智裕, 梶原猛史, 工藤敏啓, 佐藤太郎, 岡本 涉, 吉野孝之: 新規RAS 変異検出キットの多施設臨床性能試験 (RASKET 試験). 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 061 渡邊清永, 宇良 敬: 食道癌術前化学療法症例の有害事象出現予測に関する栄養スクリーニング法の有用性. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 062 山田知里, 宇良 敬, 西尾充代, 戸崎加奈江, 小原真紀子, 宮谷美智子, 高畑知帆子: 抗EGFR抗体製剤による嘔瘧
- 皮疹悪化の危険. 日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 063 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 高張大亮, 室 圭, 山雄健次, 丹羽康正: SOX+Bev療法単独で3年間Clinical CRを維持している切除不能S状結腸癌の1例. 日本癌治療学会学術集会, (横浜), 2014. 8月[ポスター]
- 064 室 圭, 谷田部 恭: 消化器腫瘍内科医と病理医の密接な関係性構築の重要性. 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [特別企画]
- 065 室 圭 (司会): 進行再発胃癌に対する化学療法の戦略とマネージメント. 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [ランチョンセミナー]
- 066 室 圭 (演者): 胃癌薬物療法2015 Update～大きく変貌する予感～. 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [ランチョンセミナー]
- 067 室 圭 (司会): 胃癌化学療法の類似薬をどう使う?～nab-paclitaxel, Oxaliplatinの従来薬との差別化～. 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [ワークショップ]
- 068 門脇重憲 (演者), 成田有季哉, 舩石俊樹, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 丹羽康正, 谷田部 恭, 江藤徹哉, 室 圭: HER2陽性進行胃癌に対するTrastuzumab併用化学療法においてHER2免疫染色強度は効果予測因子である. 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [ポスター]
- 069 成田有季哉 (演者), 門脇重憲, 舩石俊樹, 丹羽康正, 谷田部 恭, 江藤徹哉, 原 浩樹, 山口研成, 室 圭: HER2陽性胃がんにおけるtrastuzumab(Tmab) beyond progression(TBR). 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [パネルディスカッション]
- 070 小森 梓 (演者), 門脇重憲, 野村基雄, 近藤真由美, 成田有季哉, 舩石俊樹, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 室 圭: 既治療の進行胃癌に対するオキサリプラチン併用療法の有用性の検討. 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [ワークショップ]
- 071 近藤真由美 (演者), 門脇重憲, 小森 梓, 成田有季哉, 舩石俊樹, 野村基雄, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 室 圭: 切除不能進行胃癌に対する1st line FOLFOX療法. 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [ワークショップ]
- 072 町田 望, 布施 望, 桑田 健, 仁科智裕, 門脇重憲, 篠崎英司, 結城敏志, 大木 暁, 山中竹春, 吉野孝之: 切除不能進行・再発胃癌におけるHER2, EGFR, c-METと予後の関連に関する他施設共同レトロスペクティブ研究. 第87回胃癌学会総会, 2015, (広島), [ポスター]
- 073 塩田亜由美, 宇良 敬, 向井未年子, 戸崎加奈江: 緩和ケア病棟をもたないがん専門病院一般病棟における終末期医療は病院経営的見地では許容されるか?: 日本がん看護学会学術集会, 2015, (横浜), [ポスター]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 **Yatabe Y** : Debate:Screening for ALK:FISH.6th International Workshop on Molecular Targeted Therapy in Lung Cancer,2014,(Bangkok,Thailand), [講演]
- 002 **Yatabe Y** : How do we use IHC in diagnostic pathology. IASLC PathologyPanel,2015,(USA,Boston), [講演]
- 003 谷田部 恭 : 肺腺癌を規定するベクトル細胞像, 組織像と遺伝子変化,第55回日本臨床細胞学会(春期大会),2014,(横浜), [講演]
- 004 谷田部 恭 : 臨床医のための分子病理診断の基礎.第55回日本肺癌学会学術集会,2014,(京都),[シンポジウム]
- 005 谷田部 恭 : 肺がんにおける遺伝子検査.第32回日本染色遺伝子検査学会総会・学術集会,2014,(名古屋), [講演]
- 006 谷田部 恭 : 腫瘍バンクにおける課題.第18回抗悪性腫瘍薬開発フォーラム,2015,(東京), [講演]
- 007 細田和貴 : EUS-FNAによる膵癌診断の精度向上に向けて.第103回日本病理学会総会,2014,(広島), [コンパニオンミーティング]
- 008 細田和貴 : Mucinous phenotypeを有する膵癌はGNAS変異を高頻度に有する.第100回日本消化器病学会総会,2014,(東京),[講演]
- 009 近藤千晶, 堀尾芳嗣, 坂尾幸則, 樋田豊明, 谷田部 恭 : 愛知県がんセンター肺がん遺伝子解析プログラムについて.第55回日本肺癌学会学術集会,2014,(京都), [口演]
- 010 柴田典子 : 病理・細胞診検体を用いた遺伝子検査. 3回神戸免疫組織診断セミナー, 2014,(兵庫県), [講演]
- 011 柴田典子 : 病理・細胞診検体を用いた遺伝子検査. 静岡臨床検査技師会H26年度第1回染色体・遺伝子検査部門研修会, 2014,(静岡県), [講演]
- 012 庄司基嗣, 尾関順子, 柴田典子, 植田菜々絵, 細田和貴, 村上善子, 佐々木英一, 橋本光義, 越川 卓, 谷田部 恭 : 膵腺扁平上皮癌における細胞像の検討. 第34回日本臨床細胞学会東海連合会学術集会, 2015,(愛知県), [口演]
- 013 村上裕美 : 当院におけるカンジダ血症の検討とICTの取り組み. 臨床検査メディカル・カンファレンス, 2014,(愛知県), [口演]
- 014 濱崎光生 : HBs 抗体の判定基準について. 臨床検査メディカル・カンファレンス, 2014,(愛知県), [口演]
- 015 尾関順子 : EUS-FNA迅速細胞診での確認すべきポイント. 臨床検査メディカル・カンファレンス, 2014,(愛知県), [口演]

頭頸部外科部

- 001 **Hirakawa H** : Sentinel navigation surgery for oral cancer. 18th WCBIP/ WCBE World Congress, 2014,(京都),[シンポジウム]
- 002 **Suzuki H, Kato K, Fujimoto Y, Itoh Y, Hiramatsu M, Naganawa S, Hasegawa Y, Nakashima T** : Prognostic value of 18F-fluorodeoxyglucose uptake

before treatment for pharyngeal cancer. 18th WCBIP/ WCBE World Congress, 2014,(京都),[ポスター]

- 003 **Hasegawa Y** : SNNS and PET/CT in the head and neck cancers. IAEA/RCA Regional Training Basic Course on Improving Cancer Management with Hybrid Nuclear Medicine Imaging, 2014,(千葉),[講演]
- 004 **Kawakita D, Ijichi K, Hanai N, Murakami S, Hasegawa Y** : Time to relapse is an important prognostic factor in relapsed head and neck squamous cell carcinoma patients. 5th World Congress of IFHNOS and Annual Meeting of the AHNS, 2014,(ニューヨーク), [口演]
- 005 **Hanai N, Kimura T, Ozawa T, Hirakawa H, Suzuki H, Fukuda Y, Hasegawa Y** : Significance of the modified glasgow prognostic score in head and neck cancer. 5th World Congress of IFHNOS and Annual Meeting of the AHNS, 2014,(ニューヨーク),[ポスター]
- 006 **Fukuda Y, Hanai N, Ozawa T, MD, Hirakawa H, Suzuki H, Yamashita H, Hasegawa Y** : Prevention of postoperative delirium after reconstructive surgery in head and neck cancer. 5th World Congress of IFHNOS and Annual Meeting of the AHNS, 2014,(ニューヨーク), [ポスター]
- 007 **Ozawa T** : Supracricoid partial laryngectomy (SCPL) with cricothyroidopiglotto-pexy (CHEP) or cricothyroidopexy(CHP) for salvage surgery. 5th World Congress of IFHNOS and Annual Meeting of the AHNS, 2014,(ニューヨーク),[ポスター]
- 008 **Hanai N** : Laryngeal Function Preserving Strategy for Head and Neck Cancer. 5th World Congress of IFHNOS and Annual Meeting of the AHNS, 2014,(ニューヨーク),[パネルディスカッション]
- 009 **Suzuki H** : Lymph node density is a prognostic factor in Japanese patients with oral squamous cell carcinoma. 4th World Congress on Cancer Science & Therapy, 2014,(シカゴ),[ポスター]
- 010 **Suzuki H** : Lymph node density is a prognostic factor in patients with major salivary gland carcinoma. 2014 World Cancer Congress, 2014,(メルボルン),[ポスター]
- 011 長谷川泰久 : 頭頸部癌薬物療法の最新知見. 第32回北陸頭頸部腫瘍研究会,2014,(金沢),[特別講演]
- 012 中多祐介, 花井信広, 越川 卓, 鈴木秀典, 平川 仁, 小澤泰次郎, 長谷川泰久 : 当科における頸部リンパ節超音波ガイド下穿刺細胞診の検討. 日本超音波医学会第87回学術集会, 2014,(横浜),[口演]
- 013 上村裕和, 平川 仁, 三浦弘規, 吉本世一, 塩谷彰浩, 菅澤 正, 小須田茂, 本間明宏, 横山純吉, 吉崎智一, 塚原清彰, 長谷川泰久 : 口腔癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション頸部郭清術の研究. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2014,(福岡),[口演]
- 014 古川まどか, 古川政樹, 久保田彰, 木谷洋輔, 佐藤 要, 藤本保志, 門田伸也, 松浦一登, 花井信広, 佐藤雄一郎,

- 下出佑造：頭頸部扁平上皮癌頸部リンパ節転移超音波診断基準に関する第一次多施設研究. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2014, (福岡), [口演]
- 015 花井信広, 木村隆浩, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 長谷川泰久：当科におけるセツキシマップの使用経験. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2014, (福岡), [口演]
- 016 富岡利文, 林 隆一, 別府 武, 藤井 隆, 小澤泰次郎, 朝蔭孝宏, 鬼塚哲郎, 藤本保志, 松浦一登, 川端一嘉：下咽頭癌梨状陥凹癌における気管周囲の適切な取り扱いについて(多施設後ろ向き共同研究). 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2014, (福岡), [口演]
- 017 木村隆浩, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 長谷川泰久：頭頸部癌患者においてもmGPSが予後規定因子となりうる. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2014, (福岡), [口演]
- 018 五十嵐健人, 宮内 昭, 杉谷 巖, 杉野公則, 野口志郎, 小野田尚佳, 杉野圭三, 折田頼尚, 藤盛啓成, 和田修幸, 菊森豊根, 長谷川泰久, 佐藤雄一郎, 吉本世一, 宮崎眞和：甲状腺未分化癌の発生由来と予後に関する検討. 第26回日本内分泌外科学会, 2014, (名古屋), [ワークショップ]
- 019 花井信広：頭頸部手術基本手技. 日本頭頸部がん学会主催第5回教育セミナー, 2014, (東京), [口演]
- 020 小澤泰次郎, 長谷川泰久, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 向山宣昭, 都築秀典, 澤部 倫：喉頭亜全摘術の長期成績の検討. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 021 平川 仁, 花井信広, 小澤泰次郎, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 長谷川泰久：鼻副鼻腔がんに対する術前化学療法の組織学的効果とその意義. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 022 澤部 倫, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 中多祐介, 都築秀典, 向山宣昭, 長谷川泰久：中・下咽頭癌における放射線単独療法と化学放射線療法の比較. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 023 福田裕次郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 中多祐介, 西川大輔, 木村隆浩, 別府慎太郎, 向山宣昭, 都築秀典, 澤部 倫, 山下裕司, 長谷川泰久：頭頸部再建手術における術後せん妄予防の検討. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 024 中多祐介, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 別府慎太郎, 木村隆浩, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 福田裕次郎, 長谷川泰久：頸部食道癌の治療成績. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 025 米澤宏一郎, 林 隆一, 鬼塚哲郎, 長谷川泰久, 大上研二, 本間明宏, 岩江信法, 加藤孝邦, 丹生健一, 加藤健吾, 藤井正人：下咽頭癌化学放射線療法後再発症例における救済治療と予後の検討 多施設による観察研究. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 026 西川大輔, 小澤泰次郎, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 木村隆浩, 中多祐介, 別府慎太郎, 澤部 倫, 都築秀典, 向山 宣, 長谷川泰久：内視鏡的咽喉頭手術 (ELPS) 症例の検討. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 027 脇坂尚宏, 長谷川泰久, 吉本世一, 三浦弘規, 塩谷彰浩, 菅澤 正, 遠藤一平, 喜多万紀子, 吉崎智一：口腔癌におけるVEGF-Dの発現とリンパ節転移に関する検討. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 028 欄真一郎, 伊地知圭, 中西速夫, 加藤幸成, 小川徹也, 村上信吾, 長谷川泰久：抗podoplanin抗体 (NZ-1) による頭頸部扁平上皮癌の腫瘍増殖抑制効果の検討. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [ポスター]
- 029 長谷川泰久：頭頸部癌治療合併症と口腔管理. 第27回日本口腔・咽頭科学会, 2014, (札幌), [ランチョンセミナー]
- 030 鈴木秀典, 花井信広, 小澤泰次郎, 長谷川泰久：頭頸部癌における18F-FDG集積とシスプラチン抗がん剤感受性試験の関連. 第27回日本口腔・咽頭科学会, 2014, (札幌), [口演]
- 031 本間明宏, 林 隆一, 松浦一登, 加藤健吾, 川端一嘉, 門田伸也, 長谷川泰久, 鬼塚哲郎, 藤本保志, 加藤孝邦, 丹生健一, 西野 宏, 朝蔭孝宏, 池淵嘉一郎, 藤井正人：上顎洞原発扁平上皮癌T4症例の頸部転移について 多施設後ろ向き観察研究. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (札幌), [口演]
- 032 鈴木秀典：オーダーメイド頭頸部癌治療について. 第24回鶴舞耳鼻科会, 2014, (名古屋), [口演]
- 033 脇坂尚宏, 長谷川泰久, 吉本世一, 三浦弘規, 塩谷彰浩, 横山純吉, 菅澤 正, 遠藤一平, 喜多万紀子, 吉崎智一：口腔癌のセンチネルリンパ節におけるリンパ管新生とリンパ節転移に関する検討. 第16回S N N S研究会学術集会, 2014, (鹿児島), [口演]
- 034 頭頸部癌センチネルリンパ節生検術共同研究班 長谷川泰久, 吉本世一, 松塚 崇, 甲能直幸, 本間明宏, 塩谷彰浩, 横山純吉, 望月 眞, 小須田茂, 近松一朗, 小柏靖直, 吉崎智一, 上村裕和, 三浦弘規, 菅澤 正, 鈴木幹男, 宮崎眞和, 平野 滋, 尾瀬 功, 谷田部 恭, 川北大介, 鈴木基之, 塚原清彰, 村上善子：頭頸部癌センチネルリンパ節生検術臨床試験. 第16回S N N S研究会学術集会, 2014, (鹿児島), [口演]
- 035 花井信広, 木村隆浩, 向山宣昭, 長谷川泰久：甲状腺未分化癌との鑑別を要した非典型的な慢性甲状腺炎の一例. 第47回日本甲状腺外科学会学術集会, 2014, (福岡), [ポスター]
- 036 向山宣昭, 花井信広, 長谷川泰久：縦隔操作を行った甲状腺腫瘍の検討. 第47回日本甲状腺外科学会学術集会, 2014, (福岡), [口演]
- 037 寺田星乃, 平川 仁, 小澤泰次郎, 鈴木秀典, 花井信広, 中多祐介, 澤部 倫, 都築秀典, 的場拓磨, 向山宣昭, 長谷川泰久：喉頭癌T3/T4症例の放射線化学療法と手術療法の比較. 第66回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2014, (高知), [口演]
- 038 花井信広：Management of patients with locally

- advanced SCCHN. エキスパートミーティング, 2014,(東京),[口演]
- 039 花井信広: Erbituxを用いた頭頸部癌化学療法 エビデンス, 実際の症例をもとに. 山口県頭頸部癌治療セミナー, 2014,(山口),[口演]
- 040 花井信広: アービタックスの長期投与におけるマネジメントの実際. 2014頭頸部癌Expert Webセミナー, 2014,(東京),[口演]
- 041 的場拓磨, 花井信広, 鈴木秀典, 平川 仁, 西川大輔, 中多祐介, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 寺田星乃, 長谷川泰久: ボイスプロテアーゼ交換頻度の検討. 第159回東海地方部会連合講演会, 2014,(名古屋),[口演]
- 042 長谷川泰久, 尾瀬 功: がん治療の最前線から⑧ 咽頭がんの疫学と診断. 栄中日文化センター「咽頭がんの診断と治療」講座, 2015,(名古屋),[講演]
- 043 花井信広: がん治療の最前線から⑧ 咽頭がんの外科治療. 栄中日文化センター「咽頭がんの診断と治療」講座, 2015,(名古屋),[講演]
- 044 花井信広: CRT 後の頸部郭清術—術後合併症の予防と工夫. 第25回日本頭頸部外科学会, 2015,(大阪),[手術手技セミナー口演]
- 045 鈴木秀典, 別府慎太郎, 花井信広, 平川 仁, 西川大輔, 中多祐介, 向山宣昭, 都築秀典, 澤部 倫: 口腔扁平上皮癌におけるlymph node density. 第25回日本頭頸部外科学会, 2015,(大阪),[口演]
- 046 都築秀典, 鈴木秀典, 花井信広, 平川 仁, 西川大輔, 中多祐介, 向山宣昭, 澤部 倫, 的場拓磨, 寺田星乃, 長谷川泰久: 中下咽頭癌における同時重複癌の検討. 第25回日本頭頸部外科学会, 2015,(大阪),[口演]
- 047 向山宣昭, 鈴木秀典, 都築秀典, 澤部 倫, 的場拓磨, 寺田星乃, 中多祐介, 西川大輔, 平川 仁, 花井信広, 長谷川泰久: 口腔癌cN+ 症例の臨床病理学的検討. 第25回日本頭頸部外科学会, 2015,(大阪),[口演]
- 048 澤部 倫, 花井信広, 西川大輔, 鈴木秀典, 平川 仁, 的場拓磨, 寺田星乃, 向山宣昭, 都築秀典, 中多祐介, 長谷川泰久: 中咽頭前壁癌に対する導入化学療法による振り分け治療. 第32回東海頭頸部腫瘍研究会, 2015,(名古屋),[口演]
- 049 花井信広: 低侵襲と個別化を目指す頸部郭清術. 第5回 Conference on Head and Neck Cancer, 2015,(京都),[講演]

形成外科部

- 001 *Hyodo I, Okumura S, Nakamura R, Kamei Y*: Comparison of Stapled and Hand-sewn Anastomoses after Free Jejunum Transfer. European Congress on Head & Neck Oncology, 2014,(Liverpool,UK),[ポスター]
- 002 *Nakamura R, Okumura S, Hyodo I, Kamei Y*: The Effect of The Use of the STA as a Recipient Vessel on Thyroid Dysfunction in Patients Undergoing TPLE with Hemithyroidectomy. European Congress on Head

- & Neck Oncology, 2014, (Liverpool,UK),[ポスター]
- 003 奥村誠子, 中村亮太, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 乳房再建希望者に対する形成外科初診前説明DVDを作成した効果の検証. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 2014,(長崎),[一般演題]
- 004 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 上甲状腺動脈切離後の甲状腺機能に関する検討. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 2014,(長崎),[一般演題]
- 005 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 譲既頸部郭清例における遊離組織移植術の検討. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014,(東京),[一般演題]
- 006 奥村誠子, 中村亮太, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 当院の乳房再建の動向～インプラント保険適応になって～. 第49回中部形成外科学会, 2014,(石川),[一般演題]
- 007 中村亮太, 桑田知幸, 澤本尚哉, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: シリコンインプラントによる乳房 1 次 1 期再建に関する検討. 第11回日本乳癌学会中部地方会, 2014,(岐阜),[一般演題]
- 008 奥村誠子, 中村亮太, 桑田知幸, 澤本尚哉, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 乳頭乳輪温存乳房切除術 + 遊離腹直筋皮弁による 1 次乳房再建の皮膚切開の違いによる検討. 第2回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会, 2014,(東京),[一般演題]
- 009 中村亮太, 桑田知幸, 澤本尚哉, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: シリコンインプラントによる乳房 1 次 1 期再建に関する検討. 第2回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会, 2014,(東京),[一般演題]
- 010 桑田知幸, 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 中村亮太, 澤本尚哉, 亀井 譲, 武石明精: 同時両側乳房癌に対して片側乳房部分切除術: 片側乳房全摘術 + 広背筋皮弁による 1 次 1 期乳房再建を施行した 2 症例. 第2回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会, 2014,(東京),[一般演題]
- 011 澤本尚哉, 奥村誠子, 中村亮太, 桑田知幸, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 譲乳房再建における組織拡張器挿入時のドレーン留置位置についての検討 —皮下と大胸筋下—. 第2回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会, 2014,(東京),[一般演題]
- 012 奥村誠子, 中村亮太, 桑田知幸, 澤本尚哉, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 当院の free MS2 TRAM Flap による乳房再建の合併症と整容性の検討. 第41回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2014,(京都),[一般演題]
- 013 中村亮太, 澤本尚哉, 桑田知幸, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 下腹壁動脈の解剖分類における Proximal Medial Branch(仮称)の重要性についての検討. 第41回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2014,(京都),[一般演題]
- 014 桑田知幸, 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 中村亮太, 澤本尚哉, 亀井 譲: 遊離複合組織移植を用いた頭頸部癌切除再建における周術期合併症の検討—POSSUM は周術期合併症の予測システムとなるか—. 第41回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2014,(京都),[一般演題]
- 015 澤本尚哉, 奥村誠子, 中村亮太, 桑田知幸, 兵藤伊久夫,

武石明精, 亀井 謙 : free MS-2 TRAM Flap の皮弁内血管吻合付加位置についての検討 — 深下腹壁動脈恥骨枝の有用性. 第41回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2014,(京都), [一般演題]

- 016 桑田知幸, 澤本尚哉, 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 長谷川泰久, 亀井 謙 : 化学部リコンストラクションプレート露出に対してプレート抜去した症例の検討. 第32回東海頭頸部腫瘍研究会, 2015,(名古屋), [一般演題]
- 017 兵藤伊久夫 : パネルディスクッション ; 下肢リンパ浮腫に対する治療. 第83回東海マイクロサージャリー研究会, 2015,(名古屋) ,[司会]

呼吸器外科部

- 001 *Mizuno T, Okumura M, Asamura H, Yoshida K, Niwa H, Kondo K, Horio H, Matsumura A and Yokoi K* : Surgical management of recurrent thymic epithelial tumors : A retrospective analysis based on the Japanese nationwide database. for the Japanese Association for Research on the Thymus, 5th International Thymic Malignancy Interest Group Annual Meeting, 2014,(Antwerpen, Belgium), [Oral Abstract Session]
- 002 坂倉範昭, 森 俊輔, 千葉真人, 小林祥久, 水野鉄也, 黒田浩章, 谷田部 恭, 坂尾幸則 : 肺腺癌の新病理学的浸潤径を胸部HRCTで評価できるか? — 病理学的浸潤径はHRCT縦隔条件腫瘍径に相関する. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014, (東京), [ポスター]
- 003 坂倉範昭, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則 : 隣接臓器浸潤T3肺癌における術前導入化学放射線+手術療法と初回手術療法の比較. 第55回日本肺癌学会総会, 2014, (京都), [ポスター]
- 004 黒田浩章, 坂尾幸則, 森 俊輔, 千葉真人, 小林祥久, 水野鉄也, 坂倉範昭 : ICG併用赤外線蛍光胸腔鏡システムを用いた解剖学的区域切除時の区域面形成の連続症例での検討. 第31回呼吸器外科学会総会, 2014,(東京), [ビデオシンポジウム]
- 005 黒田浩章, 千葉真人, 森 俊輔, 小林祥久, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 完全胸腔鏡下左S*切除にMargin確保のために2亜区域切除(S6b, S8a)を合併切除した1症例. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014,(東京), [ビデオ]
- 006 黒田浩章, 坂尾幸則, 瀬戸克年, 飯塚修平, 千葉真人, 水野鉄也, 坂倉範昭 : 中葉原発肺癌における縦隔リンパ節廓清の治療指数法を用いたデータに基づく意義の検討. 第55回日本肺癌学会, 2014,(京都), [一般口演]
- 007 黒田浩章, 飯塚修平, 瀬戸克年, 千葉真人, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 当院における完全胸腔鏡下肺葉切除・区域切除術における縦隔リンパ節廓清の対面式・見上げ式での検討. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 2014,(岩手), [一般口演]
- 008 水野鉄也, 森 俊輔, 千葉真人, 小林祥久, 黒田浩章, 坂

倉範昭, 坂尾幸則 : Single station cN2症例における外科治療の課題. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014,(東京), [一般口演]

- 009 水野鉄也, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 千葉真人, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : cN2/pN2非小細胞肺癌に対する集学的治療; 導入療法と術後補助療法の比較. 第67回日本胸部外科学会総会, 2014, (福岡), [一般口演]
- 010 水野鉄也, 瀬戸克年, 直海 晃, 飯塚修平, 千葉真人, 谷田部 恭, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : EGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺癌切除例における遺伝子変異型による再発形式の相異. 第55回日本肺癌学会, 2014, (京都), [ポスター]
- 011 飯塚修平, 黒田浩章, 瀬戸克年, 直海 晃, 千葉真人, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : インドシアニングリーン蛍光観察を用いた完全胸腔鏡下肺区域面形成の検討. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 2014, (盛岡), [ワークショップ]
- 012 飯塚修平, 黒田浩章, 瀬戸克年, 直海 晃, 千葉真人, 水野鉄也, 坂倉範昭, 谷田部 恭, 坂尾幸則 : 病理学的10mm以下の小型肺癌の臨床病理学的検討. 第55回日本肺癌学会学術集会, 2014,(京都), [ポスター]
- 013 瀬戸克年 : 抗血栓療法患者の肺癌患者-当科の方針と周術期管理. 第31回呼吸器外科学会総会, 2014, (東京), [ポスター]
- 014 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 千葉真人, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 稲葉吉隆, 坂尾幸則 : 術前CTにおける肺野条件結節影と病理学的浸潤径の関係-読影医間のばらつきの大い症例から病理学的浸潤径の予測方法を検討する. 第55回日本肺癌学会, 2014, (京都), [ポスター]
- 015 出嶋 仁, 岡村 亮, 金岡里恵, 河合瑛香, 中山敬史, 高橋祐介, 松谷哲行, 川村雅文 : 胸腔ドレーン抜去部位の創感染に関する検討. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014, (東京), [ポスター]
- 016 出嶋 仁, 金岡里恵, 河合瑛香, 中山敬史, 森田茂樹, 高橋祐介, 松谷哲行, 川村雅文 : 気胸で発症し, 胸腔鏡下生検により診断し得たPulmonary Langerhans cell histiocytosisの1例. 第18回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会, 2014, (福岡), [一般口演]
- 017 出嶋 仁, 金岡里恵, 河合瑛香, 中山敬史, 高橋祐介, 松谷哲行, 川村雅文 : 重症筋無力症合併の診断に単線維筋電図検査が役立つ無症状胸腺腫の2切除例. 第55回日本肺癌学会総会, 2014, (京都), [ポスター]

乳腺科部

- 001 *Tamura K, Hashimoto J, Tsuda H, Yoshida M, Yamauchi H, Aogi K, Shimizu S, Iwata H, Masuda N, Yamamoto N, Inoue K, Ohno S, Kuroi K, Sukigara T, Fujiwara Y, Ando M* : Randomized phase II study of weekly paclitaxel with or without carboplatin followed by cyclophosphamide/epirubicin/5-

- fluorouracil as neoadjuvant chemotherapy for stage II/IIIA HER2-negative breast cancer. ASCO, 2014, (Chicago), [poster]
- 002 **Yoshimura A, Iwata H, Hayashi T, Kobayashi N, Saito K, Tsuneizumi M, Sawaki M, Hattori M, Nakada T, Yokota I, Toyama T** : A randomized phase II study evaluating the use of pyridoxine to prevent hand-foot syndrome associated with capecitabine therapy for advanced or metastatic breast cancer. ASCO, 2014, (Chicago), [poster]
- 003 **Kondo N, Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Ichikawa M, Ishiguro J, Adachi Y, Kotani H, Hisada T, Iwata H** : Preoperative axillary imaging with ultrasonography : Among the breast cancer patients with lymph node metastases, can we identify the patients who may omit axillary dissection?. 37th San Antonio breast cancer symposium, 2014, (San Antonio), [poster]
- 004 **Sakai T, Iwata H, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Ohtani S, Kashiwaba M, Taira N, Toyama T, Yamamoto Y, Fujisawa T, Masuda N, Yamaguchi T, Mukai H, Ohashi Y** : First report of clinicopathological analysis in neoadjuvant treatment phase in NEOS : A randomized study of adjuvant endocrine therapy with or without chemotherapy for postmenopausal breast cancer patients who responded to neoadjuvant letrozole. 37th San Antonio breast cancer symposium, 2014, (San Antonio), [poster]
- 005 **Naito Y, Ohashi Y, Yokota I, Watanabe T, Iwata H, Ohsumi S, Ohno S, Hozumi Y, Yamamoto S, Takahashi M, Aihara T, Mukai H** : Low body mass index (BMI) is associated with poor survival in Japanese patients with early breast cancer; an exploratory analysis of prospective randomized phase III trials N-SAS BC02 and 03. 37th San Antonio breast cancer symposium, 2014, (San Antonio), [poster]
- 006 **Hayashi N, Niikura N, Masuda N, Takashima S, Nakamura R, Watanabe K, Kanbayashi C, Ishida M, Hozumi Y, Tsuneizumi M, Kondo N, Naito, Y** : Prognostic factor of HER2-positive breast cancer patients developed brain metastasis : A multicenter retrospective analysis. 37th San Antonio breast cancer symposium, 2014, (San Antonio), [poster]
- 007 **Y, Honda Y, Matsui A, Fujisawa T, Oshitanai R, Yasojima H, Yamauchi H, Saji S, Iwata H** : Prognostic factor of HER2-positive breast cancer patients developed brain metastasis : A multicenter retrospective analysis. 37th San Antonio breast cancer symposium, 2014, (San Antonio), [poster]
- 008 **Shien T, Iwata H, Nakamura K, Kinoshita T, Hara F, Fujisawa T, Masuda N, Inoue K, Shibata T, Fukuda H** : A randomized controlled trial comparing primary tumour resection plus systemic therapy with systemic therapy alone in metastatic breast cancer (JCOG1017 study; PRIM-BC). 37th San Antonio breast cancer symposium, 2014, (San Antonio), [poster]
- 009 **Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Kondo N, Horio A, Gondo N, Ichikawa M, Idota A, Kotani H, Hisada T, Adachi Y, Ishiguro J, Iwata H** : Changes in Ki67 expression in breast cancer during the menstrual cycle and menopause. 37th San Antonio breast cancer symposium, 2014, (San Antonio), [poster]
- 010 **Fujita T** : The Positioning of Mammotome in breast diagnosis, Japan. 9th Seoul Breast Cancer Symposium, 2014, (Seoul), [oral]
- 011 **Fujita T, Sawaki M, Hattori M, Kondo N, Horio A, Gondo N, Ichikawa M, Idota A, Kotani H, Hisada T, Adachi Y, Ishiguro J, Iwata H** : Risk of locoregional recurrence after mastectomy by hormone receptor status and HER2 status in breast cancer patients with 1-3 positive nodes. 39th ESMO, 2014, (Madrid), [poster]
- 012 **Iwata H, Yamamoto N, Masuda N, Bando H, Kuroi K, Ohno S, Kasai H, Morita S, Sakurai T, Toi M** : Dual HER2 blockage with lapatinib and trastuzumab for Japanese patients with HER2+ breast cancer. 14th St. Gallen Breast Cancer Conference 2015, 2015, (Vienna), [poster]
- 013 **Hattori M, Fujita T, Sawaki M, Kondo N, Yoshimura A, Ichikawa M, Ishiguro J, Iwata H** : Patterns of recurrence and survival in HER2+ patients relapsing after receiving adjuvant trastuzumab. 14th St. Gallen Breast Cancer Conference 2015, 2015, (Vienna), [poster]
- 014 **Ishiguro J** : Comparison of complication, cosmetic outcome with or without irradiation after breast reconstruction. 14th St. Gallen Breast Cancer Conference 2015, 2015, (Vienna), [poster]
- 015 **Kotani H, Kondo N, Ishiguro J, Hisada T, Adachi Y, Ichikawa M, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Iwata H** : Investigation by questionnaire of the employment of Japanese breast cancer patients. 14th St. Gallen Breast Cancer Conference 2015, 2015, (Vienna), [poster]
- 016 **Hisada T, Nakada J, Okumura S, Kondo N, Sawaki M, Yoshimura A, Adachi Y, Ishiguro J, Kotani H, Iwata H** : Analgesia with thoracic wall nerve block for breast reconstruction with expander or implant. 14th St. Gallen Breast Cancer Conference 2015, 2015, (Vienna), [poster]
- 017 **Adachi Y, Yoshimura A, Ichikawa M, Ishiguro J, Kotani H, Hisada T, Hattori M, Kondo N, Sawaki M, Iwata H** : Prognostic value of troponin I for chemotherapy-induced cardiac dysfunction in

- breast cancer patients. 14th St. Gallen Breast Cancer Conference 2015, 2015, (Vienna), [poster]
- 018 **Yoshimura A** : Trends in breast cancer survival in Japan 1993-2006 (J-CANSIS) In the viewpoint of the clinician. 第25回日本疫学会学術総会, 2015, (名古屋), [口演]
- 019 **山本 豊, 向井博文, 岩田広治, 渡辺 亨** : 術後薬物療法. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [シンポジウム]
- 020 **戸井雅和, 岩田広治, 増田慎三, 高野利実, 徳田 裕** : 抗HER2療法 (進行再発乳癌). 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [シンポジウム]
- 021 **岩田広治** : 乳癌におけるBone Health. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [ランチョンセミナー]
- 022 **土井 俊, 清水俊雄, 西尾和人, 古野孝之, 岩田広治, 佐治重衛** : JBCS/JSMO Joint Symposium. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [シンポジウム]
- 023 **澤木正孝** : APBI - 今後の展開- 2. 術中照射. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [シンポジウム]
- 024 **藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 権藤なおみ, 市川茉莉, 井戸田愛, 小谷はるる, 久田知可, 足立弥生, 石黒淳子, 岩田広治** : 吸引式組織生検標本と手術標本のKi67値の不一致は月経周期との関連はあるか?. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [ポスターディスカッション]
- 025 **服部正也, 市川茉莉, 藤田崇史, 澤木正孝, 近藤直人, 堀尾章代, 谷田部 恭, 岩田広治** : 理学的完全寛解(pCR)の定義毎にみた術前画像でのpCR予測精度. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [ポスター]
- 026 **吉村章代** : 遺伝性乳がん卵巣がん症候群を疑う患者に対する遺伝カウンセリングと予防的両側卵巣卵管切除の有用性の検討. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [ポスターディスカッション]
- 027 **石黒淳子** : 当院における術後薬物療法の基準と今回の改訂のについての検討. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [ポスター]
- 028 **小谷はるる, 近藤直人, 安立弥生, 石黒淳子, 久田知可, 市川茉莉, 吉村章代, 服部正也, 藤田崇史, 澤木正孝, 岩田広治** : 乳癌におけるアンドロゲンレセプターの発現についての検討. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [ポスターディスカッション]
- 029 **久田知可, 澤木正孝, 安立弥生, 石黒淳子, 小谷はるる, 市川茉莉, 井戸田愛, 権藤なおみ, 堀尾章代, 近藤直人, 服部正也, 藤田崇史, 岩田広治** : 乳房部分切除術における術中標本撮影 (Specimen Mammography) の有用性の検討. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [ポスター]
- 030 **藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 権藤なおみ, 市川茉莉, 井戸田愛, 岩田広治** : 術前化学療法後乳房切除症例に対する胸壁・鎖骨上照射の有用性の検討. 第114回日本外科学会総会, 2014, (京都), [口演]
- 031 **岩田広治** : The present and perspective in Breast Cancer Study Groups of JCOG -JCOG乳がんグループの現況と将来展望. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [シンポジウム]
- 032 **服部正也** : 乳癌術前薬物療法によるさらなる縮小手術の可能性. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [ワークショップ]
- 033 **小谷はるる, 近藤直人, 安立弥生, 石黒淳子, 久田知可, 市川茉莉, 吉村章代, 服部正也, 藤田崇史, 澤木正孝, 岩田広治** : 乳癌脊髄内転移の6例. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [ポスター]
- 034 **服部正也** : 臨床試験の試験デザインからみたエリブリン治療への期待値. 第11回日本乳癌学会中部地方会, 2014, (岐阜), [ランチョンセミナー]
- 035 **石黒淳子** : 乳癌癌性腹水患者にBevacizumabを投与し腹水中VEGF値の低下した1例. 第11回日本乳癌学会中部地方会, 2014, (岐阜), [口演]
- 036 **小谷はるる, 近藤直人, 安立弥生, 石黒淳子, 久田知可, 市川茉莉, 吉村章代, 服部正也, 藤田崇史, 澤木正孝, 岩田広治** : 乳癌術後に同側胸筋間に再発を認めた3例. 第11回日本乳癌学会中部地方会, 2014, (岐阜), [口演]
- 037 **久田知可, 仲田純也, 奥村誠子, 近藤直人, 藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 小泉 圭, 権藤なおみ, 市川茉莉, 安立弥生, 石黒淳子, 小谷はるる, 岩田広治** : 当院における人工物を用いた乳房再建術に対する胸壁神経ブロックの使用経験. 第11回日本乳癌学会中部地方会, 2014, (岐阜), [口演]
- 038 **服部正也** : (ランチョンセミナー) HER2陽性進行再発乳癌の治療戦略 - セカンドライン以降での治療選択について -. 第11回日本乳癌学会九州地方会, 2015, (福岡), [口演]
- 039 **小谷はるる, 近藤直人, 安立弥生, 石黒淳子, 久田知可, 市川茉莉, 吉村章代, 服部正也, 藤田崇史, 澤木正孝, 岩田広治** : 当院における乳癌患者の就労調査. 第62回日本職業・災害医学会学術大会, 2014, (神戸), [口演]
- 040 **岩田広治** : HER2陽性乳癌に対する新たな治療戦略. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [シンポジウム]
- 041 **服部正也** : HER2陽性進行再発乳癌におけるT-DM1治療後の抗HER2療法の効果. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 042 **久田知可** : 当院における乳腺葉状腫瘍の長期成績の検討. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [示説]

消化器外科部

- 001 **Shigeyoshi I, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natume S, Kawai R, Asano T, Kawakami J, Tsutsuyama T, Iwata Y, Kurahashi S, Shimizu Y** : A case of metachronous left ovarian metastasis 8 years after surgery for cecum cancer and right ovarian metastasis. 第14回Japan-China-Korea Colorectal Cancer Symposium in Osaka 2014, 2014, (Osaka), [口演]
- 002 **Abe T, Uemura N, Kawai R, Shinoda M** : Relapse after curative esophagectomy for esophageal squamous

- cell carcinoma : predictors of survival and optimal interval of follow-up. 第14回World congress of the international society for diseases of the esophagus,2014, (Vancouver, Canada), [示説]
- 003 **Uemura N, Abe T, Kawai R, Kawakami J, Shinoda M** : Neoadjuvant therapy for clinical stageT2-3 N0 esophageal cancer patients. 第14回World congress of the international society for diseases of the esophagus,2014, (Vancouver, Canada), [示説]
- 004 **Hieda N, Imaoka H, Okuno N, Yoshida T, Sato T, Tsutsumi H, Hujiyoshi T, Yogi T, Ishihara M, Tanaka T, Hijioka S, Hara K, Tajika M, Mizuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K** : Clinical Course of Poorly Differentiated Pancreatic Adenocarcinoma after Surgical Resection. 第45回米国膵臓学会／日本膵臓学会合同会議,2014,(ハワイ), [口演]
- 005 **Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Yamao K, Hirono S, Osanai M, Hijioka S, Kanemitsu Y, Sano T, senda Y, Bhatia V, Yanagisawa A** : Validation of a Nomogram for Predicting the Probability of Carcinoma in Patients with Intraductal Papillary-Mucinous Neoplasm in 180 Pancreatic Resection Patients at High Volume Centers. 第45回米国膵臓学会／日本膵臓学会合同会議,2014,(ハワイ), [口演]
- 006 **Jin-Young Jang, Sun-Whe Kim, Ho-Seong Han, Yoo-Seok Yoon, Song Chul Kim, Ki-Byung Song, Dong Wook Choi, Seong Ho Choi, Jin Seok Heo, Hee Chul Yu, Woo Jung Lee, Chang Moo Kang, Jun Chul Chung, Sang Geol Kim, Satoi S, Sho M, Motoi F, Nagakawa Y, Hatori T, Fujii T, Matsumoto I, Shimizu Y, Honda G, Nagano H, Hirano S, Hirano S, Yamaue H** : Korea-Japan collaboration study to characterize the individual risk of malignancy in branch duct IPMN and proposal of nomogram to predict malignancy risk. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2014, (和歌山), [口演]
- 007 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下 平 : IPNBの診断と治療～当科切除例の検討～. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [示説]
- 008 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 川合亮佑, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平, 林 雄一郎, 小田雅博, 森 健策 : 画像処理技術を用いた手術支援画像の作成と, 総合的手術支援システムの開発・臨床応用. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [口演]
- 009 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下 平, 細田和貴, 山雄健次 : 膵神経内分泌腫瘍 (pNET) の治療成績—WHO (2010) 病理組織分類の臨床的意義. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [口演]
- 010 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 川合亮佑, 大澤高陽, 舎人 誠, 川上次郎, 浅野智成, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博 : 直腸癌局所再発巣の病理組織学的所見は予後予測因子になりえるか?. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [ワークショップ]
- 011 木村賢哉, 木下敬史, 小森康司, 川合亮佑, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博 : 肝転移単独を除くStage IV大腸癌の当科における治療成績. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [パネルディスカッション]
- 012 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 川合亮佑, 清水泰博 : 当院における腹腔鏡下直腸切除. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [示説]
- 013 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 川合亮佑, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平 : 高度進行胃癌に対する審査腹腔鏡の意義. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [示説]
- 014 伊藤誠二, 中西速男, 伊藤友一, 三澤一成, 川合亮佑, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平, 小寺泰弘 : S-1補助化学療法施行例におけるCEA mRNAによる胃癌腹膜微小転移検出の意義. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [口演]
- 015 浅野智成, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下 平, 今岡 大, 山雄健次 : 膵腺扁平上皮癌切除例の治療成績. 第114回日本外科学会定期学術集会,2014, (京都), [示説]
- 016 細田和貴, 佐々木英一, 村上善子, 脇岡 範, 山雄健次, 清水泰博, 谷田部 恭 : Mucinous phenotype を有する膵癌はGNAS 変異を高頻度に有する. 第100回日本消化器病学会総会,2014, (東京), [口演]
- 017 関根匡成, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 清水泰博, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次 : 肝腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引組織診 (EUS-FNA) の有用性の検討. 第100回日本消化器病学会総会,2014, (東京), [口演]
- 018 今岡 大, 清水泰博, 水野伸匡 : 当院での膵癌術後補助化学療法を振り返る—S-1 の投与量からみた検討—. 第100回日本消化器病学会総会,2014, (東京), [口演]
- 019 堤 英治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 坂本康成, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 当院における膵神経内分泌腫瘍に対するエベロリムスでの治療経験. 第100回日本消化器病学会総会,2014, (東京), [示説]
- 020 倉橋真太郎, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 岩田至紀,

- 浅野智成, 川上次郎, 川合亮佑, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博: 術前に小腸悪性リンパ腫と診断し, 腹腔鏡補助下に切除した1例. 第287回東海外科学会総会,2014, (名古屋), [口演]
- 021 浅野智成, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 大澤高陽, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博: 食道癌salvage lymphadenectomyの1例. 第287回東海外科学会総会,2014, (名古屋), [口演]
- 022 岩田至紀, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 大澤高陽, 川上次郎, 浅野智成, 倉橋真太郎, 篠田雅幸, 木下 平: S状結腸癌術後に肝・膵・肺転移を切除した1例. 第287回東海外科学会総会,2014, (名古屋), [口演]
- 023 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 山雄健次: 膵粘液癌における超音波内視鏡画像を中心とした検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014, (福岡), [示説]
- 024 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 藤吉俊尚, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 悪性胃十二指腸狭窄に対するNiti-Sステント留置術の検討長期経過の視点から. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014, (福岡), [口演]
- 025 脇岡 範, 原 和生, 清水泰博: 分枝型IPMNに対するEUSを主軸にした長期経過観察法の成績—PDAC早期発見およびEUSでの壁肥厚径を中心に—. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014, (福岡), [シンポジウム]
- 026 関根匡成, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次: 特異的な所見を呈した膵内分泌腫瘍の1例. 第87回日本消化器内視鏡学会総会,2014, (福岡), [示説]
- 027 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 山雄健次, 廣野誠子, 佐野 力, 千田嘉毅, 柳澤昭夫: 膵管内乳頭腫瘍(IPMN)癌予測ノモグラム—“worrisome features”症例での診断能一. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2014, (和歌山), [ワークショップ]
- 028 大澤高陽, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博: 残膵再発した膵管内進展を伴う膵腺房細胞癌の1切除例. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2014, (和歌山), [示説]
- 029 岩田至紀, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 川合亮佑, 大澤高陽, 木下 平: 転移性膵癌切除例の検討. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2014, (和歌山), [示説]
- 030 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 小森康司, 川合亮佑, 大澤高陽, 川上次郎, 浅野智成, 岩田至紀, 木下 平: 陥入法による膵頭十二指腸切除術後の主膵管開存性と術後脂肪肝発生についての検討. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2014, (和歌山), [示説]
- 031 川上次郎, 千田嘉毅, 佐野 力, 小森康司, 川合亮佑, 大澤高陽, 浅野智成, 清水泰博, 木下 平: 腹腔鏡下肝嚢胞開窓術が有効であった有症状多発性肝嚢胞の1例. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2014, (和歌山), [示説]
- 032 清水泰博: IPMN4. 第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会,2014, (和歌山), [座長]
- 033 岩田至紀, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 倉橋真太郎, 重吉到, 筒山将之, 篠田雅幸, 木下 平, 山雄健次: 主膵管内進展を伴った膵内分泌腫瘍の1切除例. 第120回日本消化器病学会 東海支部例会,2014, (岐阜), [口演]
- 034 重吉 到, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 浅野智成, 川上次郎, 筒山将之, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博: 胃癌, 肝転移手術後3ヵ月で出現した限局性脂肪肝の一例. 第120回日本消化器病学会 東海支部例会,2014, (岐阜), [口演]
- 035 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 浅野智成, 川上次郎, 重吉 到, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博: 当院で経験した内視鏡的止血術困難な上部消化管潰瘍性出血を伴った直腸癌穿通によるFournier壊疽の1例. 第120回日本消化器病学会 東海支部例会,2014, (岐阜), [口演]
- 036 佐藤高光, 原 和夫, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵腫瘍に対するEUS-FNAの診断能向上に向けて. 第120回日本消化器病学会 東海支部例会,2014, (岐阜), [シンポジウム]
- 037 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 川上次郎, 篠田雅幸: cT2-3N0M0胸部食道癌に対する術前補助療法の有効性. 第68回日本食道学会学術集会,2014, (東京), [示説]
- 038 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 田近正洋, 丹羽康正, 宇良 敬, 室 圭, 古平 毅, 篠田雅幸: 胸部食道扁平上皮癌根治切除後再発例における早期再発に関する因子. 第68回日本食道学会学術集会,2014, (東京), [口演]
- 039 與儀竜治, 原 和夫, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 佐藤高光, 丹羽康正, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: T1膵癌早期発見を目指して. 第45回日本膵臓学会大会,2014, (福岡), [パネルディスカッション]
- 040 千田 嘉毅, 清水 泰博, 佐野 力, 水野伸匡, 原 和夫, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次: 膵頭十二指腸切除術における膵空腸吻合法の工夫～soft pancreas症例に対する陥入法～. 第45回日本膵臓学会大会,2014, (福岡), [シンポジウム]
- 041 今岡 大, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 大澤高陽, 脇岡 範, 原 和夫, 水野伸匡, 永塩美邦, 関根匡成, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 丹羽康正, 山雄健次: 膵癌術

- 後補助化学療法におけるCA19-9の推移と術後再発のリスクについての検討. 第45回日本膵臓学会大会,2014, (福岡), [シンポジウム]
- 042 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 水野伸匡, 原 和夫, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 木下 平: 膵神経内分泌腫瘍(pNET)-WHO分類による術後成績と診療ガイドラインの治療方針. 第45回日本膵臓学会大会,2014, (福岡), [パネルディスカッション]
- 043 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: ISRの適応と実際一特に会陰操作における工夫— 当科におけるISRの手術手技. 第31回東海大腸外科治療研究会,2014, (名古屋), [ビデオワーク]
- 044 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 清水泰博: 当科における肝葉切除の手術手技. 第55回名古屋腫瘍外科研究会,2014, (名古屋), [口演]
- 045 浅野智成, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉: 術前化学療法の適応別にみた大腸癌肝転移の検討. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 046 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野 力, 清水泰博: 胃切除術におけるSSI発生の術前予測因子としての栄養学的予後指数の意義. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 047 岩田至紀, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野 力, 清水 泰博, 木下 平: 噴門側胃切除後の残胃の癌の検討. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 048 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 清水泰博, 篠田雅幸: 胸管内腫瘍塞栓を認めた食道癌4切除例の臨床病理学的検討. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 049 木村賢哉, 小森康司, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博: 腹腔鏡下横行結腸切除術における中結腸動脈根部へのアプローチ方法の工夫. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 050 倉橋真太郎, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 安部哲也, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平: 当科における一時的回腸双孔式人工肛門造設の工夫. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 051 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 当院における側方リンパ節郭清一特に263Dについて一. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 052 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下 平, 二村雄次: 広範囲胆管癌に対する解剖学的肝右3区域・尾状葉切除・膵頭十二指腸切除術. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [一般ビデオセッション]
- 053 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下 平: WHO(2010)病理組織分類に基づく膵神経内分泌腫瘍(pNET)の術後成績と治療方針. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 054 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史: 膵頭十二指腸切除術における膵空腸吻合法の工夫～陥入法の導入の経験～. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 055 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平: 通常ポート腹腔鏡下胃切除術と同様の手技で行うReduced Port Gastrectomy. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [一般ビデオセッション]
- 056 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 当院における腹腔鏡下直腸切除の要点. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [一般ビデオセッション]
- 057 齋藤卓也, 中西 速, 舎人 誠, 伊藤誠二, 室 圭, 山道啓吾, 近藤英作: 日本人由来HER2陽性胃がん細胞株の樹立とその分子標的薬感受性について. 第69回日本消化器外科学会総会,2014, (福島), [口演]
- 058 川上次郎, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 岩田至紀, 浅野智成, 倉橋真太郎, 重吉到, 筒山将之, 清水泰博, 木下 平: 肺小細胞癌膵転移に対し腹腔鏡下膵尾側切除を施行した1例. 第42回愛知臨床床外科学会,2014, (名古屋), [口演]
- 059 倉橋真太郎, 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 木村賢哉, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: C-kit陽性食道原発悪性黒色腫の1例. 第42回愛知臨床床外科学会,2014, (名古屋), [口演]
- 060 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 清水泰博, 篠田雅幸, 木下 平: 骨盤内臓全摘術中に重複尿管を認めた1例. 第42回愛知臨床床外科学会,2014, (名古屋), [口演]
- 061 小森康司: 消化管ストーマ造設法と合併症と直腸癌手術の実際. 第25回東海ストーマリハビリテーション講習会,2014, (名古屋), [講演]
- 062 夏目誠治, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 原 和夫, 山雄健次: 大腸癌再発に対し膵頭十二指腸切除, 再々発に対し肝右葉・尾状葉切除, 胆道再建を施行した1例. 第59回東海肝臓外科懇談会,2014, (名古屋), [口演]
- 063 千田嘉毅: タコシール挿入と貼付の工夫. 第59回東海肝臓外科懇談会,2014, (名古屋), [教育講演]
- 064 浅野智成, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 夏目誠治, 原和夫, 今岡 大, 脇岡 範, 山雄健次: 膵頭十二指腸切除後の胆管結石に対する内視鏡的治療. 第41回日本膵切研究会,2014, (東京), [示説]
- 065 岩田至紀, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰博, 脇岡 範, 水

- 野伸匡, 原 和夫, 今岡 大, 山雄健次, 細田和貴: 特異的な所見を呈した膵内分泌腫瘍の1例. 第49回肝胆膵治療研究会,2014, (名古屋), [口演]
- 066 浅野智成, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 今岡 大, 肘岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次: 通常型膵癌の3年以上無再発生存例に関する臨床病理学的検討. 第49回肝胆膵治療研究会,2014, (名古屋), [口演]
- 067 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博, 稲葉吉隆, 清水泰博: 肝細胞癌の骨転移病変に対する臨床的特徴. 第52回日本癌治療学会学術集会,2014, (横浜), [口演]
- 068 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和夫, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: modified Glasgow prognostic score は切除不能膵癌において予後予測に有用である. 第52回日本癌治療学会学術集会,2014, (横浜), [口演]
- 069 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下 平: 大腸癌肝転移に対する化学療法後肝切除の現状. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [シンポジウム]
- 070 與儀竜治, 原 和夫, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 堤英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 十二指腸へ穿破したSPNの1例. 第61回日本消化器画像診断研究会,2014, (奈良), [口演]
- 071 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和夫, 今岡 大, 清水泰博, 細田和喜, 谷田部 恭, 山雄健次: 膵NET 診断におけるピットフォールと超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) の位置づけ. 第2回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2014, (東京), [ワークショップ]
- 072 中西速夫, 寺澤佳世子, 益田泰輔, 山本修平, 岩田広治, 近藤直人, 伊藤誠二, 新井史人, 本多裕之, 遊佐亜希子: 新規CTC分離デバイスを用いた担がんマウスモデルにおけるCTCの動態解析(Analysis of CTC dynamics in mice bearing human and murine metastatic tumors using a new size-based filtration device). 第73回日本癌学会学術総会,2014, (横浜), [口演]
- 073 齊藤卓也, 中西速夫, 谷田部 恭, 伊藤誠二, 山道啓吾, 近藤英作: 肝および腹膜転移性胃がんの原発巣ならびに転移巣におけるHER2/EGFR発現の検討(Preferential expression of HER2 in liver metastasis and EGFR in peritoneal metastasis in gastric cancers). 第73回日本癌学会学術集会,2014, (横浜), [口演]
- 074 川上次郎, 大澤高陽, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 原 和夫, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次: 胆管原発神経内分泌腫瘍を切除した一例. 第50回日本胆道学会学術集会,2014, (東京), [示説]
- 075 脇岡 範, 藤吉俊尚, 水野伸匡, 原 和夫, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 千田嘉毅, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 印刷業に従事し塩素系有機溶剤に曝露の既往がある労災認定された胆管癌の1例. 第50回日本胆道学会学術集会,2014, (東京), [示説]
- 076 稲田 シュンコ アルバーノ 澁 真悟, 森 健策, 長谷川純一, 中西速夫, 三澤一成: 鏡視下で原発胃癌の位置を正確に特定できる蛍光ガラスクリップを用いた新しい腹腔鏡システム(New laparoscopic system for identify exact location of the primary tumor in the stomach using a glass fluorescent clip). 第73回 日本癌学会総会,2014, (横浜), [口演]
- 077 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 篠田雅幸: 両側アプローチが必要な胸腔鏡下食道切除術における気胸併用の問題点. 第67回日本胸部外科学会定期学術集会,2014, (福岡), [口演]
- 078 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金城和寿, 川合亮佑, 植村則久, 夏目誠治, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 幽門周囲リンパ節転移状況から見た幽門保存胃切除術の適応と完全鏡視下再建の手法. 第27回日本内視鏡外科学会総会,2014, (盛岡), [ワークショップ]
- 079 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 川合亮佑, 植村則久, 夏目誠治, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 腹腔鏡下胃切除術におけるプロリン曲針を使った簡便な肝外側区域圧排法の工夫. 第27回日本内視鏡外科学会総会,2014, (盛岡), [口演]
- 080 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 川合亮佑, 植村則久, 夏目誠治, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 右側から行う右側結腸癌に対する腹腔鏡下結腸切除術のリンパ節郭清手法. 第27回日本内視鏡外科学会総会,2014, (盛岡), [口演]
- 081 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 清水泰博: 腹腔鏡下S 状結腸切除時の遺残結紮クリップが原因と考えられた無菌性膿瘍の1例. 第27回日本内視鏡外科学会総会,2014, (盛岡), [口演]
- 082 倉橋真太郎, 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 川合亮佑, 夏目誠治, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 腹腔鏡下結腸全摘, 直腸超低位前方切除術を施行したLi-Fraumeni 症候群の1例. 第27回日本内視鏡外科学会総会,2014, (盛岡), [口演]
- 083 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 清水泰博, 篠田雅幸: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における当科の現状 一上縦隔郭清精度向上をめざして一. 第27回日本内視鏡外科学会総会,2014, (盛岡), [口演]
- 084 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博, 篠田雅幸: 当科における胸部食道癌に対する腹腔鏡補助下胃管作成の工夫. 第27回日本内視鏡外科学会総会,2014, (盛岡), [口演]
- 085 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 倉橋真太郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博, 篠田雅幸: 腹臥

- 位胸腔鏡下食道癌手術における食道牽上の工夫. 第27回日本内視鏡外科学会総会,2014, (盛岡), [口演].
- 086 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 山雄健次, 脇岡 範, 木下 平: 術前化学放射線治療により腹腔動脈周囲神経叢浸潤が消退した膵尾部癌の1切除例. 第9回膵癌術前治療研究会,2014, (鹿児島), [示説]
- 087 岩田至紀, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 川上次郎, 浅野智成, 倉橋真太郎, 重吉到, 筒山将之, 清水泰博, 篠田雅幸, 木下 平: 横隔膜上憩室内食道癌を胸腔鏡下に切除した1例. 第288回東海外科学会総会,2014, (名古屋), [口演]
- 088 川上次郎, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 岩田至紀, 浅野智成, 倉橋真太郎, 重吉到, 筒山将之, 清水泰博: 膵頭部癌切除後に残膵再発を切除した1例. 第288回東海外科学会総会,2014, (名古屋), [口演]
- 089 重吉到, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 浅野智成, 川上次郎, 筒山将之, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博: 鼠径部ヘルニア術後プラグ周囲に孤立性腹膜再発を来した盲腸癌の一例. 第288回東海外科学会総会,2014, (名古屋), [口演]
- 090 脇岡 範, 原 和夫, 清水泰博: 膵嚢胞性疾患に対するEUSを主軸とした集学的アプローチ. 第56回日本消化器病学会大会,2014, (神戸), [口演]
- 091 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和夫, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 当院におけるIPMN症例の長期予後の検討 (Preventable death). 第56回日本消化器病学会大会,2014, (神戸), [示説]
- 092 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: ISR術後局所再発の検討一特に病理組織学的所見から一. 第22回日本消化器関連学会週間,2014, (神戸), [パネルディスカッション]
- 093 浅野智成, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 原 和夫, 今岡 大, 脇岡 範, 山雄健次: 膵頭十二指腸切除後の胆管炎に対する治療成績. 第12回JDDW 日本消化器関連学会,2014, (神戸), [示説]
- 094 清水泰博, 千田嘉毅, 佐野 力: 膵癌手術における術中迅速病理診断-現状と臨床的意義-. 第12回JDDW 日本消化器関連学会,2014, (神戸), [ワークショップ]
- 095 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下 平: 大腸癌肝転移における化療後肝切除の安全性~化学療法および休業によるICGの変化. 第12回JDDW 日本消化器関連学会,2014, (神戸), [示説]
- 096 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: 開腹直腸癌手術におけるD3 (prxD3 + bil・lat) 郭清. 第69回日本大腸肛門病学会学術集会,2014, (横浜), [ビデオシンポジウム]
- 097 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉: 横行結腸癌に対する腹腔鏡下結腸切除術のリンパ節郭清手技. 第69回日本大腸肛門病学会学術集会,2014, (横浜), [口演]
- 098 中村嘉彦, 北坂孝幸, 古川和宏, 後藤秀実, 藤原道隆, 三澤一成, 森 健策: 局所濃淡構造解析を用いた3次元腹部X線CT像からの胃がん症例における胃周辺の小径腫大リンパ節自動検出手法の検討. 第23回日本コンピュータ外科学会大会,2014, (吹田), [口演]
- 099 二村幸孝, 林 雄一郎, 北坂孝幸, 古川和宏, 三澤一成, 森 健策: 腹部CT像からの自動リンパ節検出のためのカスケード型識別器を使用したリンパ節存在位置の制限に関する予備的検討. 第23回日本コンピュータ外科学会大会,2014, (吹田), [口演]
- 100 森田千尋, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡下胃切除術の術中ナビゲーションシステムにおける複数臓器情報を用いた局所レジストレーション手法の検討. 第23回日本コンピュータ外科学会大会,2014, (吹田), [口演]
- 101 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡下胃切除術の手術ナビゲーションにおける血管の位置情報を用いた術中の位置合わせ手法の検討. 第23回日本コンピュータ外科学会大会,2014, (吹田), [口演]
- 102 加賀城 充, 中村嘉彦, 小田昌宏, 林 雄一郎, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: 臓器重心位置を利用した腹部動脈に対する解剖学的名称の自動対応付け精度の向上. 第23回日本コンピュータ外科学会大会,2014, (吹田), [口演]
- 103 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 清水泰博: 家族性大腸腺腫症 (当院手術症例) の治療の変遷. 第76回 日本臨床外科学会総会,2014, (福島), [シンポジウム]
- 104 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平, 林雄一郎, 小田昌宏, 森 健策: 3Dナビゲーションを用いた外科手術 腹部外科領域における3次元位置センサを用いた術中ナビゲーションシステムの開発と臨床応用. 第76回日本臨床外科学会総会,2014, (福島), [シンポジウム].
- 105 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 倉橋真太郎, 夏目誠治, 木下敬史, 木村賢哉, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 篠田雅幸, 清水泰博: 食道癌根治化学放射線療法後のサルベージ手術の適応と限界. 第76回 日本臨床外科学会総会,2014, (福島), [パネルディスカッション]
- 106 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下 平: 胆道癌における切除断端陽性時の対応 肝側胆管断端が浸潤癌陽性であった13例の検討. 第76回 日本臨床外科学会総会,2014, (福島), [パネル

ディスカッション]

- 107 岩田至紀, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 清水泰博: 大腸癌肝転移に対する再肝切除例の治療成績. 第76回日本臨床外科学会総会,2014,(福島),[ワークショップ]
- 108 倉橋真太郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 木村賢哉, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 篠田雅幸, 清水泰博: 胸部食道癌切除後胸骨後胃管再建における吻合部トラブルを減らすための工夫. 第76回日本臨床外科学会総会,2014,(福島),[口演]
- 109 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 倉橋真太郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博, 篠田雅幸: 腹臥位胸腔鏡下食道癌手術の左反回神経周囲郭清における食道拳上の工夫. 第76回日本臨床外科学会総会,2014,(福島),[示説]
- 110 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 清水泰博: SMA・SMV浸潤横行結腸癌に対して化学療法後,根治切除術を施行した1例. 第76回日本臨床外科学会総会,2014,(福島),[口演]
- 111 浅野智成, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下平, 山雄健次: 当院における膵頭十二指腸切除術後胆管炎の検討. 第76回日本臨床外科学会総会,2014,(福島),[口演]
- 112 小林大介, 三澤一成, 田中千恵, 岩田直樹, 神田光郎, 山田豪, 中山吾郎, 藤井努, 杉本博行, 小池聖彦, 野本周嗣, 藤原道隆, 小寺泰弘: 胃癌腹膜播種に対する治療戦略 腹膜播種の初期段階における治癒を目指した集学的治療の試み. 第76回日本臨床外科学会,2014,(福島),[口演]
- 113 植村則久, 小川倫世, 村井一輝, 安部哲也, 川合亮佑, 篠田雅幸: 食道がん術後電子パスの導入. 第15回日本クリニカルパス学会学術集会,2014,(福井),[示説]
- 114 倉橋真太郎, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 木村賢哉, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下平, 脇岡 範, 山雄健次: 術前診断し得た微小十二指腸ガストリノーマの1切除例. 第121回日本消化器病学会 東海支部例会,2014,(名古屋),[口演]
- 115 岩田至紀, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 川上次郎, 浅野智成, 倉橋真太郎, 重吉 到, 筒山将之, 清水泰博: Castleman病を合併した胸部食道癌の1例. 第121回日本消化器病学会 東海支部例会,2014,(名古屋),[口演]
- 116 浅野智成, 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: 虫垂粘液癌を合併した肛門周囲Paget病に対して,腹腔鏡下に一期的切除を施行した1例. 第121回日本消化器病学会 東海支部例会,2014,(名古屋),[口演]
- 117 筒山将之, 伊藤誠二, 三澤一成, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 重吉 到, 浅野智成, 川上次郎, 川合亮佑, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: Conversion surgeryを施行し,傍大動脈リンパ節のみに癌の遺残を認めた進行胃癌の1例. 第121回日本消化器病学会東海支部例会,2014,(名古屋),[口演]
- 118 小島 瞳, 紙川理恵, 佐々木照美, 榊原由美子, 木下敬史, 木村賢哉, 小森康司: 一時的イレオストミー肛門側排泄孔の高さが関連した皮膚障害で難渋した一例. 第32回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会,2015,(千葉),[口演]
- 119 矢澤あや子, 佐々木照美, 小島 瞳, 榊原由美子, 木下敬史, 木村賢哉, 小森康司: 永久ストーマを造設した全盲患者のセルフケア自立に対する援助. 第32回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会,2015,(千葉),[口演]
- 120 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 山雄健次, 丹羽康正: 下行結腸癌・肝転移術後に発生した高齢者早期胃癌ESD後局所および遠隔再発の一例.第87回日本胃癌学会総会,2015,(広島),[口演]
- 121 筒山将之, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 木下平: 当院におけるconversion surgeryの治療成績. 第87回日本胃癌学会総会,2015,(広島),[口演]
- 122 齊藤卓也, 中西速夫, 望月能成, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 山道啓吾: 胃癌の原発巣ならびに転移巣(肝転移および腹膜転移)におけるHER2とEGFRの差別的発現について. 第87回日本胃癌学会総会,2015,(広島),[口演]
- 123 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 筒山将之, 木下平: 腹腔鏡下胃全摘術におけるエンドステッチを用いた簡便な食道空腸吻合法 エンドステッチ法. 第87回日本胃癌学会総会,2015,(広島),[口演]
- 124 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 筒山将之, 木下平: 腹腔鏡下胃切除術におけるプロリン糸を用いた簡便な肝圧排法 Prolene hanging(PH)法. 第87回日本胃癌学会総会,2015,(広島),[口演]
- 125 小林大介, 三澤一成, 田中千恵, 岩田直樹, 神田光郎, 山田豪, 中山吾郎, 藤井努, 杉本博行, 小池聖彦, 野本周嗣, 藤原道隆, 小寺泰弘: 胃癌腹膜播種症例に対する新たな治療戦略 内科,外科の立場から胃癌腹膜播種の初期段階に対する集学的治療の開発. 第87回日本胃癌学会総会,2015,(広島),[口演]
- 126 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 川合亮佑, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下平: 次世代に継承するNAC後大動脈周囲リンパ節郭清術 高度リンパ節転移陽性胃がんに対するD2+大動脈周囲リンパ節郭清 継承を受ける立場から. 第87回日本胃癌学会総会,2015,(広島),[口演]
- 127 中西速夫, 齊藤卓也, 伊藤友一, 山道啓吾, 伊藤誠二: HER2陽性胃癌の原発巣ならびに転移巣におけるHER2発現不均一性の検討. 第87回日本胃癌学会総会,2015,(広

- 島), [口演]
- 128 陳 勁松, 布施 望, 伊藤誠二: 胃癌化学療法の類似薬をどう使う? nab-paclitaxel, Oxaliplatinの従来薬との差別化 pStage II/III胃癌治療切除後のXELOX補助化学療法第II相試験. 第87回日本胃癌学会総会, 2015, (広島), [口演].
- 129 中西香企, 小林大介, 望月能成, 石樽 清, 伊藤誠二, 小島 宏, 石山聡治, 藤竹信一, 小寺泰弘: 2nd line化学療法をどうするか 諸臨床試験の結果をふまえて S-1既治療 2nd line PTX単剤療法またはS-1+PTX併用療法の多施設共同ランダム化比較臨床第II相試験(CCOG0701). 第87回日本胃癌学会総会, 2015, (広島), [口演]
- 130 伊藤誠二, 佐野 武, 高張大亮, 円谷 彰, 片山 宏, 笹子三津留: NAC後大動脈周囲リンパ節郭清術の位置づけ JCOG0405の結果をふまえて 高度リンパ節転移陽性胃癌の術前化療(NAC)後大動脈周囲リンパ節郭清術(PAND)の意義. 第87回日本胃癌学会総会, 2015, (広島), [口演]
- 131 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: 直腸低位前方切除後, 難治性縫合不全に対し, 再縫合術を施行した2例. 第51回日本腹部救急医学会, 2015, (京都), [口演]

整形外科部

- 001 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 非浸潤型及び浸潤型血管脂肪腫の臨床的特徴と手術法についての検討. 第122回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2014, (岡山), [口演]
- 002 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃: 尺骨合併切除を要した前腕発生軟部肉腫の2例. 第122回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2014, (岡山), [口演]
- 003 濱田俊介, 杉浦英志, 松島 秀, 山田健志, 石黒直樹, 西田佳弘: 骨・軟部腫瘍におけるECRと細胞密度の評価. 第87回日本整形外科学会学術集会, 2014, (神戸), [口演]
- 004 浦川 浩, 筑紫 聡, 細野幸三, 杉浦英志, 山田健志, 山田芳久, 小澤英史, 新井英介, 二村尚久, 石黒直樹, 西田佳弘: 上腕骨発生孤立性骨嚢腫の治療成績に影響する因子の検討. 第87回日本整形外科学会学術集会, 2014, (神戸), [ポスター]
- 005 小澤英史, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 杉浦英志, 山田健志, 山田芳久, 二村尚久, 石黒直樹: 軟部肉腫初回治療後に肺転移を生じた症例の検討: 45歳以降発症例. 第87回日本整形外科学会学術集会, 2014, (神戸), [ポスター]
- 006 二村尚久, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 杉浦英志, 石黒直樹: 骨外Ewing肉腫の切除縁設定に関する考察—化学療法後のMR画像と組織所見の関連— 第87回日本整形外科学会学術集会, 2014, (神戸), [ポスター]
- 007 杉浦英志, 吉田雅博, 長谷川弘晃: 上腕骨病的骨折患者の生命予後とQOLについての検討. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2014, (名古屋), [ポスター]
- 008 長谷川弘晃: 大腿部皮下に発生した粘液線維肉腫の1例. 第6回自由ヶ丘整形医会, 2014, (名古屋), [口演]
- 009 吉田雅博: 手指発生血管腫の1例. 第6回自由ヶ丘整形医会, 2014, (名古屋), [口演]
- 010 杉浦英志: 肩甲部皮下に発生した脂肪肉腫の1例. 第6回自由ヶ丘整形医会, 2014, (名古屋), [口演]
- 011 長谷川弘晃, 吉田雅博, 杉浦英志: 尺骨近位部に発生した類骨骨腫の1例. 第236回整形外科集談会東海地方会, 2014, (名古屋), [口演]
- 012 吉田雅博: 骨軟部腫瘍に対するCTガイド下生検の適応と方法. 名大合同カンファレンス, 2014, (名古屋), [口演]
- 013 杉浦英志: 骨腫瘍診断のポイント. 名大合同カンファレンス, 2014, (名古屋), [口演]
- 014 吉田雅博: 頭頸部癌の大腿骨転移の1例. 第4回名古屋結合組織腫瘍研究フォーラム, 2014, (名古屋), [口演]
- 015 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 左大腿骨骨腫瘍の1例. 第31回骨軟部腫瘍治療検討会, 2014, (名古屋), [口演]
- 016 山田健志, 杉浦英志, 西田佳弘, 山田芳久, 大田剛広, 細野幸三: AYA世代進行期悪性骨・軟部腫瘍患者の治療経験. 第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 2014, (大阪), [シンポジウム]
- 017 筑紫 聡, 西田佳弘, 杉浦英志, 山田芳久, 山田健志, 高橋 満, 紫藤洋二, 浦川 浩, 小澤英史, 二村尚久, 石黒直樹: 上腕骨近位骨腫瘍切除後のclavícula pro humero法. 第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 2014, (大阪), [口演]
- 018 杉浦英志, 吉田雅博, 長谷川弘晃, 西田佳弘, 筑紫 聡, 山田健志, 山田芳久: 軟部肉腫における分子標的治療薬の意義—パゾパニブの有効性について— 第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 2014, (大阪), [ポスター]
- 019 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃, 山田健志: 後腹膜発生軟部肉腫の手術治療成績. 第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 2014, (大阪), [ポスター]
- 020 杉浦英志, 高橋俊二, 荒木信人, 上田孝文, 高橋 満, 森岡秀夫, 米本 司, 平賀博明, 比留間徹, 国定俊之: 染色体転座が報告されている組織型の悪性軟部腫瘍患者を対象にトラベクテジンとベストサポートケアを比較した第II相臨床試験. 第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 2014, (大阪), [シンポジウム]
- 021 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 粘液線維肉腫の切除縁と局所再発についての検討. 第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 2014, (大阪), [ポスター]
- 022 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博, 稲葉吉隆, 清水康博: 肝細胞癌の骨転移病変に対する臨床的特徴. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 023 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃, 佐々木英一, 谷田部 恭: 右大腿軟部腫瘍の1例. 第80回東海骨軟部腫瘍研究会, 2014, (名古屋), [口演]
- 024 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 踵骨に発生したBrodie

腫瘍の1例. 第237回整形外科集談会東海地方会, 2014, (名古屋), [口演]

- 025 小澤英史, 西田佳弘, 筑紫 聡, 杉浦英志, 山田芳久, 石黒直樹: 血管肉腫9例についての検討. 第123回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2014, (名古屋), [口演]
- 026 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 右大腿部に発生したグロムス腫瘍の1例. 第123回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2014, (名古屋), [口演]
- 027 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: A 39-Year-Old Female, Osteosarcoma of the Right Ischial Bone. 第27回骨軟部肉腫外科研究会, 2015, (東京), [口演]

泌尿器科部

- 001 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 愛知県がんセンター中央病院における2014年入院手術統計. 第55回三重泌尿器科医会, 2015, (津), [口演]
- 002 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: Indocyanine green (ICG)を使用した, 近赤外蛍光法補助下腎部分切除術の検討. 第55回三重泌尿器科医会, 2015, (津), [口演]
- 003 曾我倫久人: ミニマム創下腎部分切除術における, Indocyanine green (ICG) を使用した近赤外蛍光法の有益性. Tokai minimal incision surgery expert seminar, 2015, (名古屋), [口演]
- 004 曾我倫久人, 谷田部 恭, 小倉友二, 林 宣男: 前立腺標準6カ所生検に内側生検を加えることによるがん検出率への影響. 第3回日本泌尿器病理研究会, 2014, (東京), [示説]
- 005 曾我倫久人, 谷田部 恭, 小倉友二, 林 宣男: 前立腺生検組織における異型小腺房増殖 (atypical small acinar proliferation: ASAP) 同定後の再生検としての, 経会陰的多数箇所生検の役割. 第3回日本泌尿器病理研究会, 2014, (東京), [示説]
- 006 曾我倫久人, 石井健一朗, 西川晃平, 小倉友二, 林 宣男, 成田正明, 杉村芳樹: 前立腺がんにおける新規神経内分泌物質manserinの作用. 第102回日本泌尿器科学会総会, 2014, (神戸), [示説]
- 007 小倉友二, 曾我倫久人, 林 宣男: 愛知県がんセンターにおけるI-125密封小線源永久挿入単独療法 of the 検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 2014, (神戸), [示説]
- 008 曾我倫久人, 谷田部 恭, 小倉友二, 林 宣男: 標準6カ所生検に内側生検追加するsystemic 前立腺生検での陰性例における, template saturation biopsyによる残存腫瘍部位の検証. 第56回三重泌尿器科医会, 2014, (津), [口演]
- 009 曾我倫久人, 谷田部 恭, 小倉友二, 林 宣男: 前立腺生検組織における異型小腺房増殖 (atypical small acinar proliferation: ASAP) 同定後の再生検方法に関する検討. 第56回三重泌尿器科医会, 2014, (津), [口演]
- 010 小倉友二, 曾我倫久人, 林 宣男: 前立腺癌に対するI-125密封小線源永久挿入療法の治療成績. 第52回日本癌治療学会, 2014, (横浜), [示説]
- 011 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 前立腺癌でのLH-

RH agonistによる抗アンドロゲン治療中再発に対するantagonistの効果. 第52回日本癌治療学会, 2014, (横浜), [示説]

- 012 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: ICGによる近赤外蛍光補助下腎部分切除術時の腫瘍組織と正常組織の定量化蛍光度比較. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 2014, (福岡), [示説]
- 013 曾我倫久人, 小倉 友二, 林 宣男: ICG近赤外蛍光補助下のミニマム創内視鏡下腎部分切除術における, 腫瘍組織と正常組織の蛍光定量化比較. 第7回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会, 2014, (東京), [示説]

婦人科部

- 001 笹本香織, 中西 透, 谷田部 恭: 子宮頸部・内膜細胞診異常を認めるも診断に苦慮した卵巣癌症例の検討. 第55回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 002 谷口智子, 竹島信宏, 瀧澤 憲, 藤原寛行, 鈴木光明, 木村英三, 中西 透, 山田恭輔, 高野浩邦, 佐々木寛, 香山浩二, 落合和徳: 卵巣がんにおけるHE4およびROMA値の有用性についての検討. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2014, (宇都宮), [ワークショップ]
- 003 櫻田尚子, 徳永英樹, 中西 透, 岩田 卓, 青木大輔, 齋藤俊章, 永瀬 智, 新倉 仁, 八重樫伸生, 渡部 洋: 同時科学放射線治療後再発頸癌に対する化学療法の有効性規定因子に関する多施設共同後方視的検討. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2014, (宇都宮), [口演]
- 004 笹本香織, 河合要介, 近藤伸司, 中西 透: 子宮頸癌の手術断端陽性についての検討. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2014, (宇都宮), [口演]
- 005 近藤伸司, 河合要介, 笹本香織, 堀尾章代, 岩田広治, 中西 透: 遺伝性乳癌・卵巣癌症候群を疑う症例に対する後方視的検討. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2014, (宇都宮), [口演]
- 006 曾我部万紀, 野崎浩文, 久保田智巳, 梶 裕之, 久野 敦, 梶谷内 晶, 中西速夫, 中西 透, 三上幹男, 鈴木 直, 木口一成, 池原 譲, 成松 久: 上皮性卵巣がん (特に明細胞線がん) に対する新規な糖鎖バイオマーカーの探索. 第34回日本分子腫瘍マーカー研究会, 2014, (横浜), [口演]
- 007 中西 透: 産婦人科手術を考える: 後腹膜の解剖を意識した手術手技. 第37回日本産婦人科手術学会, 2014, (札幌), [座長]
- 008 笹本香織, 中西 透, 谷田部 恭: 子宮内膜組織診陰性の子宮体癌症例の検討. 第53回日本臨床細胞診学会秋期大会, 2014, (下関), [ポスター]
- 009 笹本香織, 清水裕介, 近藤伸司, 中西 透: 子宮内膜細胞診疑陽性症例についての検討. 第135回東海産科婦人科学会, 2015, (名古屋), [口演]
- 010 清水裕介, 中西 透, 近藤伸司, 笹本香織: プラチナ抵抗性再発卵巣癌の症候性癌性腹水に対してBevacizumabを使用した4例. 第135回東海産科婦人科学会, 2015, (名古屋),

[口演]

- 011 中西 透：卵巣癌に対するBevacizumabの有効性. 第135回東海産科婦人科学会, 2015, (名古屋), [ランチョンセミナー]

放射線診断・I V R部

- 001 *Sato Y, Matsushima S, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Ishiguchi T* : Preoperative evaluation of Gd-EOB-DTPA-enhanced MR imaging in patients undergoing percutaneous transhepatic portal embolization. WCIO 2014, 2014, (New York), [Oral Presentation]
- 002 *Kondo H, Tanahashi Y, Kanematsu M, Goshima S, Sakurai K, Noda Y, Kawada H* : Selective pelvic arterial embolization in the management of postpartum hemorrhage. CIRSE 2014, 2014, (Glasgow), [Oral Presentation]
- 003 *Sato Y, Kawada H, Yamaura H, Kato M, Murata S, Inaba Y* : Ttransarterial embolization using microspheres for thumb tip metastasis from hepatocellular carcinoma: a case report. SGI 2014, 2014, (Seoul), [Poster]
- 004 *Murata S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Kawada H, Hasegawa T, Inaba Y* : Hepatic encephalopathy caused by portosystemic venous shunt: successful treatment with vascular plug. SGI 2014, 2014, (Seoul), [Poster]
- 005 *Hasegawa T, Sato Y, Murata S, Kawada H, Kato M, Yamaura H, Inaba Y* : Embolization for bleeding from internal carotid artery using AVP-I: a case report. GEST Asia 2014, 2014, (Tokyo), [Poster]
- 006 *Kawado H, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Hasegawa T, Inaba Y* : Ttransarterial embolization using microspheres for thumb tip metastasis from hepatocellular carcinoma: a case report. GEST Asia 2014, 2014, (Tokyo), [Poster]
- 007 *Murata S, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Kawada H, Hasegawa T, Aramaki T* : Hepatic encephalopathy caused by portosystemic venous shunt: successful treatment with vascular plug. GEST Asia 2014, 2014, (Tokyo), [Poster]
- 008 稲葉吉隆：肝悪性腫瘍の動注治療. 第73回日本医学放射線学会総会, 2014, (横浜), [教育講演]
- 009 稲葉吉隆：血管塞栓材ディーシービーズについて. 第50回日本肝臓学会, 2014, (東京), [講演]
- 010 佐藤洋造, 稲葉吉隆：全身化学療法の基本知識とI V Rの役割. 第43回日本I V R学会総会, 2014, (奈良), [講演]
- 011 村田慎一, 佐藤洋造, 山浦秀和, 鹿島正隆, 加藤弥菜, 川田紘資, 稲葉吉隆：胆道再建後のつり上げ空腸盲端部からのI V R手技の検討. 第43回日本I V R学会総会, 2014, (奈良), [口演]

- 012 佐藤洋造, 松島 秀, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 鹿島正隆, 川田紘資, 村田慎一, 佐野 力：Gd-EOB-DTPA MRIを用いたPTPE前後における術前残肝機能評価(第2報). 第43回日本I V R学会総会, 2014, (奈良), [口演]
- 013 川田紘資, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 鹿島正隆, 村田慎一：CV port設置後に介入を必要とした症例に関する検討. 第43回日本I V R学会総会, 2014, (奈良), [口演]
- 014 稲葉吉隆：消化管ステント. 第43回日本I V R学会総会, 2014, (奈良), [教育講演]
- 015 佐藤洋造：ソラフェニブと肝動脈化学塞栓療法(TACE)の併用療法の第II相試験(STAB study)の進捗状況. 第19回肝動脈塞栓療法研究会, 2014, (奈良), [口演]
- 016 佐藤洋造：インターベンショナルラジオロジー 腫瘍系の塞栓術, デバイスなど最新の話. 第23回造影剤と放射線シンポジウム, 2014, (東京), [講演]
- 017 村田慎一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 佐藤洋造, 鹿島正隆, 川田紘資, 稲葉吉隆：球状塞栓物質の初期使用経験. 第56回中部I V R研究会, 2014, (福井), [口演]
- 018 村田慎一, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 鹿島正隆, 川田紘資, 稲葉吉隆：門脈-下大静脈シャント塞栓術にAVPが有用であった1例. 第56回中部I V R研究会, 2014, (福井), [口演]
- 019 川田紘資：胆道・消化管. 第56回中部I V R研究会, 2014, (福井), [座長]
- 020 加藤弥菜, 山浦秀和, 佐藤洋造, 鹿島正隆, 川田紘資, 村田慎一, 稲葉吉隆, 吉田達哉, 樋田豊明：クリゾチニブ投与ともなう腎嚢胞についての報告. 日本医学放射線学会第156回中部地方会, 2014, (福井), [口演]
- 021 加藤弥菜：肝細胞癌の薬物療法. 中日文化センター教育講座, 2014, (名古屋), [講演]
- 022 稲葉吉隆：肝細胞癌に対するI V R. 中日文化センター教育講座, 2014, (名古屋), [講演]
- 023 稲葉吉隆：がん診療におけるI V R. 神戸市医師会学術講演会, 2014, (神戸), [講演]
- 024 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博, 稲葉吉隆, 清水泰博：肝細胞癌の骨転移病変に対する臨床的特徴. 第52回日本癌治療学会, 2014, (横浜), [口演]
- 025 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 松島 秀, 川田紘資, 村田慎一：Preoperative evaluation of Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI in patients undergoing percutaneous transhepatic portal embolization. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [ポスター]
- 026 加藤弥菜, 山浦秀和, 佐藤洋造, 鹿島正隆, 川田紘資, 村田慎一, 小森康司, 稲葉吉隆：大腸癌根治切除後症例における定期CTフォローの有用性に関する検討. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2014, (福岡), [ポスター]
- 027 稲葉吉隆：骨転移のI V R療法. 第12回日本臨床腫瘍学会, 2014, (福岡), [講演]
- 028 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 村田慎一, 長谷川貴章, 川田紘資, 佐藤洋造, 山浦秀和：ALK阻害剤関連腎嚢胞. 第76回東海総合画像医学研究会, 2014, (名古屋), [口演]

- 029 村田慎一, 佐藤洋造, 川田紘資, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 稲葉吉隆: 当院におけるAMPLATZERバスキューラープラグの使用経験. 第76回東海総合画像医学研究会, 2014, (名古屋), [口演]
- 030 稲葉吉隆: 腹部 I V R における血管塞栓物質のupdate. 第76回東海総合画像医学研究会, 2014, (名古屋), [座長]
- 031 村田慎一, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 川田紘資, 長谷川貴章, 稲葉吉隆: 肝動注リザーバー留置における血流改変術での A V P 使用の検討. 第39回リザーバー研究会, 2014, (奈良), [口演]
- 032 川田紘資, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 稲葉吉隆: 当院で施行した C V システムチェック症例に関する検討 (第2報). 第39回リザーバー研究会, 2014, (奈良), [口演]
- 033 稲葉吉隆: ハイドロコイルのベネフィット症例別使用経験から見えてきたこと. 第50回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2014, (神戸), [座長]
- 034 佐藤洋造: 造影剤を用いたがん治療効果判定. 第28回 J C R ミッドウィンターセミナー, 2015, (福岡), [講演]
- 035 長谷川貴章, 佐藤洋造, 村田慎一, 川田紘資, 加藤弥菜, 山浦秀和, 稲葉吉隆: 当院における肺 R F A の治療成績. 第57回中部 I V R 研究会, 2015, (名古屋), [口演]
- 036 川田紘資, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 稲葉吉隆: 術後尿管合併症に対する内瘻術における Rendezvous technique に関する検討. 第57回中部 I V R 研究会, 2015, (名古屋), [口演]
- 037 山門亨一郎, 宮山士朗, 廣田省三, 水沼仁孝, 中村建治, 稲葉吉隆: TACE の予後予測因子の検討-T A E 研究会の解析. 第50回日本肝癌研究会, 2014, (京都), [シンポジウム]
- 038 稲葉吉隆, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 山浦秀和, 荒井保明: cTACE と ビーズ TACE のエビデンス. 第50回日本肝癌研究会, 2014, (京都), [ワークショップ]

放射線治療部

- 001 *Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Shimizu A, Takehana K, Fuwa N*: Clinical Efficacy Of Helical Tomotherapy For Nasopharyngeal Cancer Treated With Definite Concurrent Chemoradiotherapy. 56th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation And Oncology 2014, 2014, (San Francisco), [ポスター]
- 002 *Shimizu A, Takehana K, Makita C, Tomita N, Tachibana H, Kodaira T*: Late hypothyroidism and the correlation of dose-volume histogram of thyroid after intensity-modulated radiotherapy for head and neck cancer. 56th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2014, 2014, (San Francisco), [ポスター]
- 003 *Takehana K, Shimizu A, Makita C, Tomita N, Tachibana H, Kodaira T*: Retrospective Analysis of Clinical Efficacy of IMRT Using Helical Tomotherapy among Patients Treated with Definitive Chemoradiotherapy for Hypopharyngeal Cancer. 56th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2014, 2014, (San Francisco), [ポスター]
- 004 *Zenda S, Yamanaka T, Tahara M, Kiyota N, Akimoto T, Yokota T, Kodaira T, Okami K, Okano S, Fujii M*: Eclips: The phase II study of docetaxel, cisplatin and cetuximab (TPE) followed by cetuximab with concurrent radiotherapy in patients with local advanced squamous cell carcinoma of the head and neck (LA-SCCHN). 2014 ASCO annual meeting Chicago, 2014, (Chicago), [ポスター]
- 005 *Tanaka K, Oguri T, Yoshida T, Park J, Shimizu J, Horio Y, Hida T, Kodaira T, Yatabe Y, Takeshita J, Hata A, Kaji R, Fujita S, Katakami N, Takayama K, Kokubo M*: The impact of EGFR mutation on definitive concurrent chemoradiation therapy for inoperable stage III lung adenocarcinoma. 2014 ASCO annual meeting Chicago, 2014, (Chicago), [ポスター]
- 006 *Comparison of acute toxicity of both group Kodaira T, Shikama N, Kagami Y, Ishikura S, Hiraoka M, Nakamura K, Mizusawa J, Saito Y, Matsumoto Y, Nishiyama K, Itami J, Ito Y, Akimoto T, Nakata K, Oguchi M, Nishimura Y, Nakagawa K, Nagata Y, Nishimura T, Uno T, Kataoka M, Yorozu A*: Accelerated versus Conventional Fractionated Radiotherapy for Glottic Cancer of T1-2N0M0 (JCOG0701). 5th World Congress of IFHNOS and Annual Meeting of the AHNS, 2014, (New York), [口演]
- 007 *Kodaira T, Yoshida M, Kimura K, Shimizu A, Takehana K, Makita C, Tomita N, Tachibana H*: Aichi Cancer Experience of Chemo-IMRT using Helical tomotherapy for nasopharyngeal carcinoma. The 2nd annual meeting Taiwan-Japan Conference on the high precision radiation therapy, 2014, (Taipei), [口演]
- 008 *Makita C, Tachibana H, Tomita N, Shimizu A, Takehana K, Yoshida M, Kimura K, Shimizu H, Kodaira T*: Volumetric and dosimetric changes of parotid glands in 2 step IMRT for nasopharyngeal carcinoma. The 2nd annual meeting Taiwan-Japan Conference on the high precision Radiation therapy, 2014, (Taipei), [口演]
- 009 *Kodaira T*: Presentation session 1 Head & Neck cancer and brain tumor Tumor contouring session- Nasopharyngeal cancer Presentation. The 2nd annual meeting Taiwan-Japan Conference on the high precision Radiation therapy, 2014, (Taipei), [座長]
- 010 *Makita C*: Tumor Contouring- Hypopharyngeal

- Cancer. The 2nd annual meeting Taiwan-Japan Conference on the high precision Radiation therapy, 2014, (Taipei), [座長]
- 011 竹花恵一, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 当院における下咽頭癌に対するIMRTの初期経験. 第73回日本医学放射線学会総会, 2014, (横浜), [座長]
- 012 古平 毅: 合同シンポジウム(日本頭頸部癌学会)喉頭・下咽頭癌. 機能温存への挑戦. 第27回日本放射線腫瘍学会, 2014, (横浜), [座長]
- 013 古平 毅: 若手医師による放射線治療ABC. 第27回日本放射線腫瘍学会, 2014, (横浜), [座長]
- 014 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 清水亜里紗, 竹花恵一, 木村香菜, 吉田舞子: IMRTを用いた上咽頭癌の化学放射線療法の治療成績. 第27回日本放射線腫瘍学会, 2014, (横浜), [口演]
- 015 富田夏夫, 古平 毅, 立花弘之, 牧田智誉子, 清水亜里紗, 竹花恵一, 木村香菜, 吉田舞子, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 当院における前立腺癌に対する放射線治療の中期成績. 第27回日本放射線腫瘍学会, 2014, (横浜), [口演]
- 016 牧田智誉子, 立花弘之, 富田夏夫, 清水亜里紗, 竹花恵一, 木村香菜, 吉田舞子, 古平 毅, 不破信和: Stage I/II舌扁平上皮癌に対する小線源治療の検討. 第27回日本放射線腫瘍学会, 2014, (横浜), [口演]
- 017 清水亜里紗, 吉田舞子, 木村香菜, 竹花恵一, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 頭頸部癌IMRT症例における甲状腺機能低下症発生に関するDVH解析. 第27回日本放射線腫瘍学会, 2014, (横浜), [口演]
- 018 竹花恵一, 吉田舞子, 木村香菜, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 当院における下咽頭癌に対する化学放射線療法の治療成績. 第27回日本放射線腫瘍学会, 2014, (横浜), [口演]
- 019 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 清水亜里紗, 竹花恵一, 木村香菜, 吉田舞子, 古平 毅: 頭頸部癌治療野における放射線口腔粘膜炎症重篤化予防に対する特性アミノ酸配合物の有効性. 日本医学放射線学会第156回中部地方会, 2014, (福井), [口演]
- 020 牧田智誉子, 立花弘之, 富田夏夫, 清水亜里紗, 竹花恵一, 木村香菜, 吉田舞子, 清水秀年, 古平 毅: 上咽頭癌に対する2-step法でのIMRT施行症例におけるPTVおよび耳下腺体積と線量変化の検討. 日本医学放射線学会第156回中部地方会, 2014, (福井), [口演]
- 021 清水亜里紗, 吉田舞子, 木村香菜, 竹花恵一, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 頭頸部癌IMRT実施症例における晩期の甲状腺機能評価第2報 MIM-Maestroを用いた後方的な解析. 日本医学放射線学会第156回中部地方会, 2014, (福井), [口演]
- 022 竹花恵一, 吉田舞子, 木村香菜, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 前立腺癌IMRTにおけるHelical TomotherapyとVMATの治療計画の検討. 日本医学放射線学会第156回中部地方会, 2014, (福井), [口演]
- 023 古平 毅, 吉田舞子, 木村香菜, 竹花恵一, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之: IMRTを用いた上咽頭癌の化学放射線療法の治療成績. 日本医学放射線学会第157回中部地方会, 2015, (名古屋), [口演]
- 024 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 清水亜里紗, 竹花恵一, 木村香菜, 吉田舞子, 古平 毅: 化学放射線治療を受ける頭頸部癌患者を対象とした口腔ケア・プログラム運用に関する第II相臨床試験. 日本医学放射線学会第157回中部地方会, 2015, (名古屋), [口演]
- 025 富田夏夫, 牧田智誉子, 立花弘之, 清水亜里紗, 竹花恵一, 木村香菜, 吉田舞子, 古平 毅: 当院における前立腺癌放射線治療後PSA再発例の予後に関する検討. 日本医学放射線学会第157回中部地方会, 2015, (名古屋), [口演]
- 026 牧田智誉子, 吉田舞子, 木村香菜, 竹花恵一, 清水亜里紗, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: Stage I/II舌扁平上皮癌に対する小線源治療の検討. 日本医学放射線学会第157回中部地方会, 2015, (名古屋), [口演]
- 027 清水亜里紗, 吉田舞子, 木村香菜, 竹花恵一, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 子宮頸癌に対してIMRTを用いたboost照射を行った症例の検討. 日本医学放射線学会第157回中部地方会, 2015, (名古屋), [口演]
- 028 竹花恵一, 吉田舞子, 木村香菜, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 当院における下咽頭癌に対する化学放射線療法の治療成績. 日本医学放射線学会第157回中部地方会, 2015, (名古屋), [口演]
- 029 木村香菜, 吉田舞子, 竹花恵一, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 中咽頭癌に対するIMRTによる治療成績に関する後方的研究. 日本医学放射線学会第157回中部地方会, 2015, (名古屋), [口演]
- 030 齊藤吉弘, 古平 毅, 鹿間直人, 石倉 聡, 平岡真寛, 中村健一, 水澤純基, 松本康男, 小西浩司, 伊藤芳紀, 秋元哲夫, 中田健生, 利安隆史, 西村恭昌, 加賀美芳和: T1-2N0M0声門癌の加速照射と標準分割照射の第III相試験(JCOG0701): 早期安全性データ. 第52回癌治療学会, 2014, (横浜), [口演]
- 031 古平 毅, 立花弘之, 牧田智誉子, 鈴木秀典, 平川仁, 小澤泰次郎, 花井信広, 長谷川泰久: IMRTを用いた上咽頭癌の化学放射線療法の治療成績. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [口演]
- 032 古平 毅: セッションBRT1. 第38回日本頭頸部癌学会, 2014, (東京), [座長]
- 033 古平 毅: SessionI 指定演題. 第33回頭頸部腫瘍研究会, 2015, (名古屋), [座長]
- 034 木村香菜, 吉田舞子, 竹花恵一, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 中咽頭癌に対するIMRTによる治療成績に関する後方的研究. 第33回頭頸部腫瘍研究会, 2015, (名古屋), [口演]
- 035 野村基雄, 安部哲也, 古平 毅, 宇良 敬, 植村則久, 川合亮佑, 丹羽康正, 篠田雅幸, 室 圭: 切除可能食道癌に対する手術療法と化学放射線療法の比較. 第67回日本食道学会, 2014, (東京), [口演]
- 036 古平 毅: ケースカンファレンス どう治療する? 下咽頭癌/喉頭癌. 第66回日本気管食道科学会, 2014, (高知), [パネリスト]

- 037 古平 毅：Cetuximab併用放射線治療の実際と臨床上の留意点.広島頭頸部がん治療セミナー,2014,(広島),[口演]
- 038 古平 毅：Cetuximab 併用放射線療法の適応と臨床上の留意点. Leaders Meeting 2014 H&N in Tokai-Hokuriku, 2014,(名古屋),[基調講演]
- 039 古平 毅：Cetuximabと併用放射線療法の実実際と臨床上の留意点.京都頭頸部がん放射線治療セミナー,2014,(京都),[口演]
- 040 古平 毅：Cetuximab併用放射線療法の実践と留意点.北陸頭頸部癌化学療法副作用セミナー,2014,(金沢),[口演]
- 041 古平 毅：VMATを用いたIMRTの治療経験 トモセラピーとの対比-.大阪オンコロジー meeting,2014,(大阪),[口演]
- 042 古平 毅：基調講演.アービタックス H&N Summit 2014,2014,(東京),[座長]
- 043 古平 毅：頭頸部癌の放射線治療-IMRを中心とした現状と今後の展望-.第26回千葉頭頸部腫瘍研究会,2014,(千葉),[口演]
- 044 古平 毅：頭頸部癌治療における強度変調放射線治療の役割.頭頸部外科学教育セミナー,2014,(大阪),[口演]
- 045 古平 毅：頭頸部癌放射線治療CRTとIMRTの実際/トモセラピーによる高精度放射線治療.札幌医大 放射線治療セミナー,2014,(札幌),[口演]
- 046 古平 毅：ここまできた最先端放射線治療 頭頸部癌に対する放射線治療 多様化する治療と治療の個別化への展望.名古屋大学がんプロフェッショナル特別講義,2014,(名古屋),[特別講義]
- 047 古平 毅：アドバンスドコース講演4頭頸部癌の新たな治療戦略IMRT.耳鼻咽喉科専門医講習会,2014,(横浜),[講演]
- 048 古平 毅：高精度放射線治療の現状.第2回中部地区がん医療連携学術講演会,2015,(名古屋),[講演]
- 049 古平 毅：咽頭癌の予防と治療/咽頭癌の放射線治療.中日文化センター提携講座,2015,(名古屋),[講師]
- 050 立花弘之：Intraarterial Chemoradiation Therapy for Head and Neck Cancer.日本IVR学会総会ワークショップ,2014,(奈良),[口演]
- 051 立花弘之：放射線治療の副作用対策～皮膚炎・粘膜炎を中心に～.第11回医看薬連携研究会,2014,(名古屋),[口演]
- 052 立花弘之, 中島貴子, 加藤千晴, 田端恭兵：頭頸部がん化学放射線療法における経管栄養法の検討～胃瘻と経鼻胃管による経管栄養法を比較して～.日本放射線腫瘍学会総会,2014,(横浜),[口演]
- 053 横田知哉, 小西哲仁, 全田貞幹, 百合草健圭志, 濱内 諭, 坂井謙介, 西川雅也, 長縄弥生, 久保 知, 妻木浩美, 鈴木美帆, 岡野朋果, 佐藤真帆, 田栗正隆, 森田智視, 江口徹, 久保田馨：化学放射線療法を受ける頭頸部癌患者を対象とした口腔ケア・プログラム運用に関する第2相試験～多職種チームによるケア・プログラムの試み～.東海頭頸部腫瘍研究会,2015,(名古屋),[口演]
- 054 岡野朋果, 横田知哉, 小西哲仁, 立花弘之, 百合草健圭志, 坂井謙介, 西川雅也, 長縄弥生, 久保 知, 妻木浩美, 鈴木美帆, 森田智視, 田栗正隆, 佐藤真帆, 江口 徹, 全田

貞幹, 久保田馨, 齊藤真一郎：化学放射線療法を受ける頭頸部癌患者を対象とした口腔ケア・プログラム運用に関する第2相試験.日本臨床腫瘍薬学会学術大会,2015,(京都),[口演]

- 055 立花弘之：泌尿器科がん治療（主に前立腺がんに対する治療戦略）について.第6回愛知県がんセンター公開講座,2015,(名古屋),[講演]

緩和ケア部

- 001 渡辺俊之, 小森康永, 宋 敏稿：読むことと書くことの心理的治療実践.第31回日本家族研究・家族療法学会ワークショップ,2014.7.19,(神戸),[ワークショップ]
- 002 下山理史：多職種アプローチによる難治性疼痛対策.第7回日本緩和医療薬学会年会,2014,(松山),[シンポジウム]
- 003 下山理史：周術期管理をスムーズに行うための疼痛管理法に関する考察.2014,(郡山),[要望演題]
- 004 下山理史：緩和ケア外来の果たす役割はどこまでだろうか?.第19回日本緩和医療学会学術大会,2014,(神戸),[ポスター]
- 005 下山理史：「頑張らなくていいですよ」という言葉について考えさせられた一例.第38回日本死の臨床研究会年次大会,2014,(別府),[ポスター]

看護部

[学会発表]

- 001 佐野雄三, 下和田香, 深水ひとみ, 長岡祥子, 依田佳恵, 加藤さやか, 千種智之, 奥田孝光, 中山衣代, 宇佐美秀子, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次：食道ESDに伴い左頬部に皮膚障害を生じた症例の検討.第72回日本消化器内視鏡技師学会,2014,(東京),[口演]
- 002 青山寿昭：ガラガラ含嗽の実態調査.日本摂食・嚥下障害看護研究,2014,(福岡),[口演]
- 003 福嶋敬子, 中山衣代, 長岡祥子, 佐野雄三, 深水ひとみ, 依田佳恵, 奥田孝光, 松尾育未, 服部寿史, 岩政裕昭, 佐藤洋造, 稲葉吉隆：PACSからのIVR看護記録連携.第43回日本IVR学会総会,2014,(奈良),[口演]
- 004 岩田知子, 宮武美智代, 村上五月：終末期の血液疾患患者の在宅移行への看護支援～患者とその家族の思いを支えた一事例を「痛みの軌跡理論」を用いて振り返る～.第19回日本緩和医療学会学術集会,2014,(神戸),[口演]
- 005 青山寿昭：ガラガラ含嗽の可能性.日本嚥下障害臨床研究会,2014,(京都),[口演]
- 006 小川明伸, 福岡 勉, 榎木理恵, 丹羽孝治：災害発生時効率的な業務遂行を目指してフローチャートの作成.第16回災害看護学会,2014,(東京),[ポスター]
- 007 山田知里, 宇良 敬, 西尾充代, 戸崎加奈江, 小原真紀子, 宮谷美智子, 高畑知帆子：抗EGFR抗体製剤による蕁麻疹様皮膚悪化の危険因子.第52回日本癌治療学会学術集会,

- 2014, (横浜), [口演]
- 008 小川倫世, 水野暁人, 南谷志野, 佐々木照美: がん専門病院 ICUにおける褥瘡発生率低下に向けた対策の効果. 第45回日本看護学会一急性期看護一学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 009 小川倫世: がん専門病院 ICUにおけるクリニカルパスに関連したインシデント発生事例の検討と今後の課題. 第15回日本クリニカルパス学会, 2014, (福井), [ポスター]
- 010 中村直幹, 南谷志野: 電子カルテの効率的なシステム活用による情報収集時間の短縮と負担感の軽減. 第18回日本看護管理学会学術集会, 2014, (愛媛), [口演]
- 011 渡邊清永, 宇良 敬: 食道癌術前化学療法症例における化学療法の有害事象出現予測に関する栄養スクリーニング法の有用性. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [口演]
- 012 依田住恵, 宇佐美秀子, 下和田香, 長岡祥子, 深水ひとみ, 奥田孝光, 加藤さやか, 千種智之, 佐野雄三, 中山衣代, 丹羽康正, 田近正洋, 他: 上部消化管内視鏡の咽頭麻酔におけるキシロカインビスカスとスプレーの有用性と患者の認用性の比較. 第73回消化器内視鏡技師学会, 2014, (大阪), [口演]
- 013 村井一樹, 福嶋敬子, 山口真澄, 佐藤 好, 戸崎加奈江, 清水淳市, 佐藤洋造, 岩田広治: 電子パスにおける看護記録の検討～中心静脈ポート留置術パスより～. 第15回日本クリニカルパス学会学術集会, 2014, (福井), [ポスター]
- 014 中島貴子, 加藤千晴, 田端恭平, 立花弘之: 頭頸部がん化学放射線療法における経管栄養法の検討～胃瘻と経鼻胃管による経管栄養法を比較して～. 日本放射線腫瘍学会第27回学術大会, 2014, (神奈川), [口演]
- 015 吉川 恵, 新貝夫弥子, 大川明子, 浅場 香: ホルモン療法中の閉経前乳がん患者の更年期様症状と精神症状. 第28回日本がん看護学会学術集会, 2014, (新潟), [口演]
- 016 岩井美世子: がん看護専門看護師によるがん看護外来の効果ースピリチュアルペインを持つ在宅療養中の終末期がん患者と家族への介入を通して. 第19回日本緩和医療学会学術集会, 2014, (神戸), [ポスター]
- 017 久保 知, 西脇可織: 骨盤領域に放射線療法を受けた女性患者のセクシュアリティに関わる体験と対処行動. 第29回日本がん看護学会学術大会, 2015, (横浜), [口演]
- 018 林真由美, 吉川 恵, 川瀬 静, 小澤洋子: がん専門病院内の看護師が行っている終末期患者の退院支援に関する課題. がん看護学会, 2015, (横浜), [口演]
- 019 高木礼子, 新貝夫弥子, 瀬古志桜: 乳がん患者の術式選択における影響要因と術後の満足度. 第22回日本乳癌学会総会, 2014, (大阪), [示説]
- 020 塩田亜由美, 宇良 敬, 戸崎加奈江, 向井未年子: 緩和ケア病棟をもたないがん専門病院一般病棟における終末期医療は病院経営的見地では許容されるか?. 第29回日本がん看護学会学術集会, 2015, (横浜), [ポスター]
- 021 小島 瞳, 紙川理恵, 佐々木照美, 榊原由美子, 木下敬史, 木村賢哉, 小森康司: 一時的イレオストミー肛門側排泄孔の高さが関連した皮膚障害で難渋した一例. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2015, (千葉), [ポスター]
- 022 矢澤あや子, 佐々木照美, 小島 瞳, 榊原由美子, 木下敬史, 木村賢哉, 小森康司: 永久ストーマを増設した全盲患者のセルフケア自立に対する援助. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2015, (千葉), [口演]
- 023 新貝扶弥子: 乳房温存術および乳房全摘術を行なった乳がん患者の満足度と影響要因. 第29回日本がん看護学会学術集会, 2015, (横浜), [口演]
- [講演講師, 学会座長, シンポジストなど]
- 001 高木仁美: 看護管理「病院における認定看護師の役割」. 愛知県立大学認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分野・「がん性疼痛看護」分野, 2014, (愛知), [講師]
- 002 高木仁美: 看護管理学「リーダーシップ論」. 山田女学園大学看護学部, 2014, (愛知), [講師]
- 003 高木仁美: 夜勤交代制勤務の負担軽減. 神奈川県看護協会, 2014, (神奈川), [講師]
- 004 高木仁美: 看護師の教育 I. 第29回日本がん看護学会学術集会, 2015, (神奈川), [座長]
- 005 翠 邦治: 看護管理. 愛知県看護教員講習会, 2014, (愛知), [講師]
- 006 黒河瑞江: 看護管理. 愛知県立総合看護専門学校, 2014, (愛知), [講師]
- 007 濱口由美子: 看護管理・医療安全. 愛知県立総合看護専門学校, 2014, (愛知), [講師]
- 008 戸崎加奈江: 皮膚障害に対するセルフケア指導の実際. 大腸癌分子標的治療勉強会, 2014, (愛知), [講演]
- 009 戸崎加奈江: がん看護 Iー化学療法と放射線療法の看護一. 愛知県看護協会, 2014, (愛知), [講師]
- 010 戸崎加奈江: 診断・治療に伴う看護 7. 第29回日本がん看護学会学術集会, 2015, (神奈川), [座長]
- 011 戸崎加奈江: ジオトリフの副作用マネージメント～当院での取り組み～. 三重県ジオトリフ発売記念講演会, 2014, (三重), [講演]
- 012 戸崎加奈江: ジオトリフの副作用マネージメント～当院での取り組み～. GIOTRIF適正使用セミナー in京都, 2014, (京都), [講演]
- 013 戸崎加奈江: がん化学療法を安全に行うための副作用マネージメントを目的とした職種横断型チーム医療によるマニュアル作成. 第34回日本看護科学学会学術集会 シンポジウム II 「看護ケアプログラムのイノベーションに向けた方略」, 2014, (愛知), [シンポジスト]
- 014 小原真紀子: 活動報告と認定更新審査について. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師フォローアップセミナー, 2015, (愛知), [講師]
- 015 小原真紀子: がん化学療法における副作用マネージメント. 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院がん化学療法勉強会, 2014, (愛知), [講師]
- 016 小原真紀子: 皮膚症状に対するセルフケア指導の実際. 三重中勢大腸がんセミナー, 2014, (三重), [講師]
- 017 小原真紀子: EGFR製剤投与での皮膚症状に対する取り組

- み。岡崎がん化学療法セミナー，2014，（愛知），【講師】
- 018 小原真紀子：化学療法における皮膚障害対策。がん診療従事者のためのがん化学療法勉強会，2014，（静岡），【講師】
- 019 小原真紀子：スキンケアの実際。医看薬薬連携研修会，2014，（愛知），【座長】
- 020 小原真紀子：大腸癌化学療法副作用マネジメント。大腸癌化学療法副作用マネジメント勉強会，2014，（愛知），【座長】
- 021 山崎祥子：がん看護概論。愛知県立大学看護実践センター，2014，（愛知），【講師】
- 022 山崎祥子：がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案。愛知県立大学看護実践センター，2014，（愛知），【講師】
- 023 西尾充代：大腸がん化学療法の皮膚症状対策 一看護のポイント。第52回日本癌治療学会学術集会 ブースセミナー，2014，（横浜），【講師】
- 024 青山寿昭：「口から食べる」をサポートする実態と課題。日本摂食嚥下リハビリテーション学会，2014，（東京），【シンポジスト】
- 025 青山寿昭：集まれご当地プロジェクト5。日本摂食嚥下リハビリテーション学会，2014，（東京），【座長】
- 026 青山寿昭：覚醒の悪い患者への対応。症例から学ぶ摂食嚥下障害の知識，2014，（大阪・東京），【講師】
- 027 青山寿昭：気管切開をされている患者の対応。症例から学ぶ摂食嚥下障害の知識，2014，（大阪・東京），【講師】
- 028 青山寿昭：頭頸部癌嚥下障害への関わり。名古屋市立大学学習会，2014，（愛知），【講師】
- 029 青山寿昭：食べる楽しみを支える看護。看護科学学会，2014，（愛知），【講師】
- 030 青山寿昭：がん患者の在宅栄養を考える。キャンサーネットワーク愛知，2015，（愛知），【講師】
- 031 青山寿昭：嚥下と摂食。名古屋市介護施設看護職員研修会，2015，（愛知），【講師】
- 032 青山寿昭：摂食嚥下における看護の専門性。愛知県立大学臨床講義，2014，（愛知），【講師】
- 033 青山寿昭：がん患者の栄養を考える。名古屋市相談情報サロン・ピアネット市民公開講座，2015，（愛知），【講師】
- 034 笹川良子：Discover Tomorrow GVポート看護の新たな取り組み。第39回リザーバー研究会，2014，（奈良），【シンポジスト】
- 035 土屋大樹，千種智之：病院内の感染防止策の基本。平成26年度新人看護職員合同研修，2014，（愛知），【講師】
- 036 深堀慎一郎：一般演題（示説）第3群「その他1」。第10回日本クリティカルケア看護学会学術集会，2014，（愛知），【座長】
- 037 瀬古志桜：薬物療法を受ける術前・術後の乳がん患者の看護。東海プレストケアセミナー，2014，（愛知），【講師】
- 038 山田健司：内視鏡手術看護セミナー。日本手術看護学会東海地区，2014，（三重・岐阜），【講師】
- 039 山田健司：手術室新人交流会。日本手術看護学会東海地区，2014，（愛知），【ファシリテーター】
- 040 山田健司：手術室新人看護師フォローアップ研修。日本手術看護学会東海地区，2014，（愛知），【ファシリテーター】
- 041 山田健司：がん基礎研修「手術療法における看護について」。小牧市民病院，2014，（愛知），【講師】
- 042 大島祐美：小児看護学方法論Ⅱ。県立愛知看護専門学校，2014，（愛知），【講師】
- 043 中島貴子：がん放射線療法看護。第11回医看薬薬連携研究会，2014，（愛知），【講師】
- 044 永田智子：症状マネジメント。ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム，2014，（愛知），【講師】
- 045 吉川 恵：臨床看護学講座 卒業論文発表会。名古屋大学医学部保健学科看護学専攻，2014，（愛知），【座長】
- 046 福嶋敬子：次世代へ繋がる I N E 教育。第4回インターベンションエキスパートナース会，2014，（大阪），【座長】
- 047 久保 知：化学療法と放射線療法の看護。愛知県看護協会がん看護Ⅰ，2014，（愛知），【講師】
- 048 久保 知：放射線治療に伴う副作用マネジメント。宮城看護ケアセミナー，2014，（宮城），【講師】
- 049 久保 知：セツキシマブ併用放射線療法の実践と留意点。北陸アービタックス臨床実地セミナー，2014，（石川），【講師】
- 050 久保 知：放射線療法看護の実際。沖縄県看護協会がん看護研修Ⅱ，2014，（沖縄），【講師】
- 051 久保 知：放射線療法における有害事象とその看護。小牧市民病院がん基礎研修，2014，（愛知），【講師】
- 052 久保 知：がん性疼痛に対する治療と看護。愛知県立大学認定看護師教育課程「がん性疼痛看護」分野，2014，（愛知），【講師】
- 053 久保 知：前立腺癌で I M R T を受ける患者の看護。豊橋 Nurse Skill Up Seminar，2014，（愛知），【講師】
- 054 久保 知：放射線治療室における看護。日本放射線技術学会中部部会 愛知県放射線治療研究会，2014，（愛知），【講師】
- 055 高畑知帆子：外来化学療法における電話相談について当院2013年度の分析より。第16回東海外来フォーラム，2014，（愛知），【講師】
- 056 井上さよ子：看護専門相談 がん予防。愛知県看護協会看護ふれあいフォーラム，2014，（愛知），【講師】
- 057 井上さよ子：訪問看護方法論（悪性腫瘍患者の看護）。愛知県看護協会26年度訪問看護職員養成講習会，2014，（愛知），【講師】
- 058 井上さよ子：在宅医療病態論。愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程，2014，（愛知），【講師】
- 059 井上さよ子：看護倫理研修。愛知県心身障害者コロニー26年度看護職員研修，2014，（愛知），【講演】
- 060 岩井美世子：指導。愛知県立大学認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分野・「がん性疼痛看護」分野，2014，（愛知），【講師】
- 061 岩井美世子：がん看護（専門看護師）の役割と活動。愛知医科大学看護学部，2014，（愛知），【講師】
- 062 岩井美世子：がんになっても働きたい～仕事と治療の両立について考える～。市民公開講座，2014，（愛知），【パネリスト】
- 063 高木礼子：乳がん手術を受ける患者のケア。東海プレスト

- ケアナースセミナー, 2014, (愛知), [講師]
- 064 高木礼子: 再発進行乳がんの症状コントロール (腹水・胸水・呼吸困難). eセミナー, 2014, (愛知), [講師]
- 065 笹川良子: 当院におけるCVポートの使用方法に関する院内研修について. 第39回リザーバー研究会, 2015, (奈良), [シンポジスト]
- 066 笹川良子: IVRの最近の話題. 第4回インターベンションエキスパートナース会, 2015, (大阪), [座長]
- 067 新田都子: 看護師と認定看護師の果たす役割. 相山女学園大学看護学部看護学科早期体験実習, 2014, (愛知), [講師]
- 068 新田都子: 緩和ケア・疼痛看護外来. 相山女学園大学看護学部看護学科入学前スクリーニング, 2015, (愛知), [講師]
- 069 深谷恭子: がんの親を持つ子どものサポートプログラム (CLIMBプログラム). 愛知県がんセンター公開講座第1回「がん患者及びその家族への支援」, 2014, (愛知), [講師]
- 070 深谷恭子: 患者さんとともにご家族の力を引き出すがん患者サロン. 愛知県がんセンター公開講座第2回「がん患者及びその家族への支援～緩和ケアと患者サロンについて」, 2014, (愛知), [講師]
- 071 中島貴子: がん放射線療法看護. 第11回医看薬連携研究会, 2014, (愛知), [講師]
- 072 藤下 礼: 疼痛専攻. 名古屋医専看護保健学科. 2014, (愛知), [講師]
- 073 向井未年子: 「コンサルテーション論」. 日赤豊田看護大学大学院, 2014, (愛知), [講義]
- 074 向井未年子: 「コンサルテーション論」. 愛知県立大学大学院, 2015, (愛知), [講義]
- 075 向井未年子: ターミナルケアにおける倫理上のジレンマとどう向き合うか. 日本看護倫理学会第7回年次大会教育講演, 2014, (愛知), [講師]
- 076 向井未年子: 新たな肺がん 看護・医療モデル～マクミラン財団・マギーズセンターの事例から～. 肺がんチーム医療推進フォーラムin名古屋, 2014, (愛知), [座長]
- 077 向井未年子: 心と身体の痛みを和らげる緩和ケアについて. 「がんなどの病気になっても心豊かに過ごせる社会を目指して」講演会, 2014, (愛知), [講師]
- 078 向井未年子: CNSと考える事例検討. 第8回三重がん看護フォーラム, 2014, (三重), [座長]
- 079 向井未年子: がん患者指導管理におけるシステム構築と看護師の役割. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育課程フォローアップセミナー, 2014, (愛知), [講師]
- 080 向井未年子: いろんな生活の心配はどうすればいいの?. 日本緩和医療学会イベント まちかど「がん相談室」 in 大阪, 2015, (大阪), [講師]
- 081 向井未年子: 緩和ケアセンタージェネラルマネージャーの役割. 平成26年度がん診療連携拠点病院緩和ケアチーム指導者研修, 2015, (東京), [講師]
- 082 向井未年子: 緩和ケアについて～がんと診断された時から始まる緩和ケア～. 名古屋市千種生涯学習センター愛知県がんセンター共催講座, 2015, (愛知), [講師]
- 083 宮谷美智子: スキンケアの実際～塗り方, 巻き方, 洗い方～. 医看薬連携研究会, 2014, (愛知), [講演]

- 084 宮谷美智子: 化学療法を受ける高齢がん患者さんへのピアサポートを考える～在宅療養における留意点～. 高齢がん患者さんのためのピアサポート講習会, 2014, (愛知), [講演]
- 085 宮谷美智子: がん化学療法看護. 愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程, 2014, (愛知), [講義]
- 086 宮武美智代: がん化学療法を受ける患者への口腔ケア-看護の視点から. 近畿大学医学部附属病院第10回薬物療法研修, 2015, (大阪), [講師]
- 087 八重樫裕: 摂食嚥下の基礎. 七宝病院, 2014, (愛知), [講師]
- 088 八重樫裕: 摂食嚥下リハビリテーションを考える. 七宝病院, 2014, (愛知), [講師]
- 089 八重樫裕: 食事介助とリスク管理. 七宝病院, 2014, (愛知), [講師]
- 090 新貝扶弥子: 看護理論. 名古屋大学大学院がんCNSコース, 2014, (愛知), [講師]
- 091 新貝扶弥子: 「化学療法看護」「周術期の看護」. 沖縄県立大学大学院がんCNSコース, 2014, (沖縄), [講師]
- 092 新貝扶弥子: CNSの役割と課題. 熊本県がんCNSコース, 2015, (熊本), [講師]

薬剤部

- 001 前田章光, 宇良 敬, 近藤英作, 齋藤 憲, 水谷旭良: シスプラチン投与患者における各腎尿管バイオマーカーの有用性の検討. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2015, 2015, (京都), [口演]
- 002 前田章光, 安藤 仁, 宇良 敬, 齋藤 憲, 水谷旭良, 藤村昭夫: 癌患者における新規急性腎障害バイオマーカー vanin-1の有用性の検討. 第12回臨床腫瘍学会, 2014, (福岡), [ポスター]
- 003 前田章光, 高畑知帆子, 小原真紀子, 高橋新次, 松崎雅英, 梶田正樹, 水谷旭良: シクロホスファミド調製時におけるシリンジの押し子を介した曝露の可能性. 第23回日本医療薬学会, 2014, (名古屋), [口演]
- 004 高橋新次, 前田章光, 松崎雅英, 水谷旭良: 当院における膵癌患者に対するFOLFIRINOX療法の有害反応の発現状況. 第24回日本医療薬学会年会, 2014, (名古屋), [ポスター]
- 005 松崎雅英, 佐内俊志, 長谷川彩子, 前田美恵子, 橋本直弥, 水谷旭良, 高畑知帆子, 小原真紀子, 室 圭: 外来がん化学療法におけるチーム医療の効果. 第24回日本医療薬学会年会, 2014, (名古屋), [ポスター]
- 006 立松三千子, 美濃屋亜矢子, 尾崎千鶴, 栗木玲子, 秦 毅司, 松崎雅英, 平島佳代, 橋本直弥, 前田美恵子, 長谷川彩子, 新田都子, 下山理史: フェンタニル口腔粘膜吸収製剤における導入シートの有用性の検討. 第24回日本医療薬学会年会, 2014, (名古屋), [ポスター]
- 007 立松三千子: 医看薬連携～病院薬剤師の立場から～. 第47回日本薬剤師会学術大会, 2014, (山形), [シンポジウム]
- 008 立松三千子, 伊藤誠二, 小原真紀子, 秋山理恵, 佐藤由美,

- 栗木玲子, 秦 毅司, 佐藤洋造, 室 圭 : 医看薬連携による外来がん患者サポートのアウトカム. 第52回日本癌治療学会学術集会,2014,(横浜),[口演]
- 009 立松三千子, 佐藤哲観, 高橋美賀子 : 患者さんと家族のためのがんの痛み治療ガイドへの期待～薬剤師の立場から～. 第19回日本緩和医療学会学術大会,2014 ,(神戸),[シンポジウム]
- 010 平島佳代, 井口幸子, 橋本直弥, 立松三千子, 松崎雅英, 水谷旭良, 新田都子, 向井未年子, 下山理史, 小森康永 : 神経障害性疼痛に対しメサドンにより良好な疼痛コントロールを得た2症例. 第8回日本緩和医療薬学会年会,2014,(松山),[ポスター]
- 011 橋本直弥, 平島佳代, 立松三千子, 水谷旭良 : メサドン鎮痛用量における鎮痛換算比に関する調査. 第8回日本緩和医療薬学会年会,2014,(松山),[口演]
- 012 長谷川郁恵, 山田知里, 宇良 敬, 吉田達哉, 下村一景, 浅野知沙, 前田章光, 水谷旭良 : シスプラチンを含む高度催吐性化学療法による悪心・嘔吐に対する危険因子の検討. 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2014,2014,(静岡),[口頭発表]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

疫学・予防部

- 001 **Ito H, Oze I, Hosono S, Watanabe M, Tanaka H, Matsuo K** : Cumulative risks of gastric cancer by PSCA polymorphism, Helicobacter Pylori infection and smoking history in Japan. American Association for Cancer Research ANNUAL MEETING 2014, 2014, (SAN DIEGO), [ポスター]
- 002 **Ito H, Tanaka H** : Descriptive epidemiology of cancer in the Japanese "oldest-old" population. International Association of Cancer Registries in Ottawa, Canada, 2014, (Ottawa), [ポスター]
- 003 **Nakagawa H, Tamura T, Mitsuda Y, Goto Y, Kamiya Y, Kondo T, Tanaka H, Wakai K, Hamajima N** : The association between serum ferritin levels and atrophic gastritis among Japanese adults. International Association of Cancer Registries in Ottawa, Canada, 2014, (Ottawa), [ポスター]
- 004 **Hosono S** : Polymorphisms in DNA repair genes are associated with endometrial cancer risk among Japanese women. 第19回日韓がんワークショップ, 2014, (韓国), [口演]
- 005 **Watanabe M** : Trends in prevalence of Helicobacter pylori infection by serology by birth year in a Japanese population. 第25回日本疫学会学術総会, 2015, (名古屋), [口演]
- 006 **Ito H** : Trends in pancreatic cancer survival in Japan 1993-2006 (J-CANSIS). 第25回日本疫学会学術総会, 2015, (名古屋), [口演]
- 007 **Oze I** : Trends in lung cancer survival in Japan 1993-2006 (J-CANSIS): small cell histologic subtype specific survival. 第25回日本疫学会学術総会, 2015, (名古屋), [口演]
- 008 **Yoshimura A Trends in breast cancer survival in Japan 1993-2006 (J-CANSIS)** : From the viewpoint of the clinician. 第25回日本疫学会学術総会, 2015, (名古屋), [口演]
- 009 **Hosono S** : Trends in ovarian cancer survival in Japan 1993-2006 (J-CANSIS): The impact of development of chemotherapy. 第25回日本疫学会学術総会, 2015, (名古屋), [口演]
- 010 **Nakagawa H** : Trends in colorectal cancer incidence rate between 1993 and 2010 in Japan. 第25回日本疫学会学術総会, 2015, (名古屋), [口演]
- 011 **Oze I** : Coffee and green tea consumption is associated with upper aerodigestive tract cancer in Japan. 第7回NAGOYAグローバルリトリート, 2015, (名古屋), [ポスター]
- 012 **Nakagawa H** : Trends in colorectal cancer incidence rate between 1993 and 2010 in Japan. 第7回NAGOYAグ

ローバルリトリート, 2015, (名古屋), [ポスター]

- 013 **田中英夫** : 肝炎ウイルスする肝がんの予防介入戦略. がん予防学術大会2014東京, 2014, (東京), [シンポジウム]
- 014 **伊藤秀美** : ゲノム情報を用いたリスク予測. がん予防学術大会2014東京, 2014, (東京), [シンポジウム]
- 015 **細野覚代, 伊藤秀美, 井岡亜希子, 西野儀一, 服部昌和, 早田みどり, 松田智大, 伊藤ゆり** : 地域がん登録データを用いた婦人科がんの生存解析 : period法の適応. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2014, (栃木), [ポスター]
- 016 **田中英夫** : "消化器がんの個別化予防を目指したゲノムコホート研究." 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014, (横浜), [シンポジウム]
- 017 **細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬功, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫** : 愛知県がんセンター大規模病院疫学研究における非がん女性参加者の初経年齢推移に関する研究. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 018 **伊藤秀美, 尾瀬功, 細野覚代, 渡邊美貴, 田中英夫, 松尾恵太郎** : 飲酒, 喫煙, ALDH2, ADH1B遺伝子多型による食道がんリスク予測. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [口演]
- 019 **田中英夫** : 日本多施設共同コホート (J-MICC)研究の進捗. バイオサイエンス名古屋2015, 2015, (名古屋), [口演]
- 020 **田中英夫** : 個別化がん予防をめざした日本多施設共同コホート研究. 平成26年度文部科学省新学術領域研究 がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動市民公開講演会, 2015, (東京), [口演]
- 021 **森島泰雄** : 白血病HLA適合血縁者間移植においてGVHDの発症は移植後白血病再発に影響を与えるか. 第37回日本造血細胞移植学会総会, 2015, (神戸), [口演]

腫瘍病理学部

- 001 **齊藤卓也, 山道啓吾, 近藤英作, 中西速夫** : 高度な遺伝子増幅を伴わない日本人由来HER2陽性胃がん細胞株の樹立とそのTrastuzumab感受性. 第103回日本病理学会総会, 2014, (広島), [口演]
- 002 **近藤英作, 齋藤 憲** : 腫瘍吸収性ペプチドを応用した生体内腫瘍検知技術の基盤的研究. 第103回日本病理学会総会, 2014, (広島), [口演]
- 003 **山下大祐, 黒瀬 顕, 齋藤 憲, 近藤英作** : 各種ヒトがん細胞と病理組織におけるpodocalyxin陽性細胞発現の解析. 第103回日本病理学会総会, 2014, (広島), [口演]
- 004 **飯岡英和, 齋藤 憲, 山下大祐, 森井英一, 近藤英作** : 細胞極性制御因子Crb3aの腫瘍形成における機能の解析. 第103回日本病理学会総会, 2014, (広島), [ポスター (示説)]
- 005 **中西速夫, 遊佐亜希子, 舎人 誠, 伊藤誠二, 近藤英作** : 新しい血液中循環がん細胞 (CTC) 分離デバイスの開発

とその応用. 第103回日本病理学会総会, 2014, (広島), [口演]

- 006 斎藤 憲, 近藤英作: 胆道がんイメージツールとしての細胞透過性ペプチドの探索. 第103回日本病理学会総会, 2014, (広島), [口演]
- 007 近藤英作: p14ARF機能性ペプチドによる悪性腫瘍細胞の増殖抑制. 第18回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2014, (仙台), [ワークショップ]

分子腫瘍学部

- 001 *Hakiri S, Osada H, Ishiguro F, Murakami Y, Yokoi K, Sekido Y*: Inactivating mutations of BAP1 gene in Japanese malignant mesothelioma patients. BAP1 have an effect on DNA repair partly through stabilizing BRCA1 proteins. 第7回NAGOYAグローバルリトリート, 2015, (大府), [ポスター]
- 002 関戸好孝: 悪性中皮腫の遺伝子異常: 分子標的治療法のターゲットは何か? 第19回癌と遺伝子・大分外科フォーラム, 2014, (大分), [招聘講演]
- 003 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるHippoシグナル伝達系異常. 第18回日本がん分子標的治療学会, 2014, (仙台), [ポスター]
- 004 関戸好孝: 中皮腫の分子生物学的な特徴. 兵庫医科大学主催 医療セミナー「がん幹細胞と悪性中皮腫: 最新のアプローチ」, 2014, (西宮), [口演]
- 005 松原大祐, 伊東 剛, 田中一大, 森川鉄平, 中島 淳, 仁木利郎, 関戸好孝, 村上善則: 肺腺癌におけるYAP1の発現パターンと病理組織学的形態, 予後との関連性について/Expression of YAP1, a Hippo signaling target, in lung adenocarcinoma: correlation with pathologic features and prognosis. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 006 佐藤光夫, 山下 良, 各務智彦, 長谷哲成, 丸山英一, 関戸好孝, 近藤征史, 長谷川好規: 非小細胞肺癌治療薬としてのmiR-221とmiR-222の可能性/Potential of miR-221 and miR-222 as therapeutics for non-small cell lung cancer. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 007 関戸好孝: 悪性中皮腫の分子病態 / Molecular pathogenesis of malignant mesothelioma. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [モーニングレクチャー]
- 008 長田啓隆, 柳澤 聖, 立松義朗, 関戸好孝, 高橋 隆: CRISPR-Cas9による遺伝子ノックアウトを用いた転移関連遺伝子CLCP1機能解析/CRISPR-Cas9-derived Knockout of CLCP1 gene revealed its functional role in lung cancer progression. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [口演]
- 009 垣内辰雄, 高原大志, 吉田稚明, 在田幸太郎, 春日井由美子, 片山 幸, 中西速夫, 長田啓隆, 関戸好孝, 都築 忍, 瀬戸加太: Hippo経路の不活性化による中皮細胞の形質転換

への寄与/Inactivation of Hippo-pathway contributes to the transformation of mesothelial cells. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [ポスター]

- 010 関戸好孝: 悪性中皮腫の遺伝子異常とシグナル伝達. 第21回石綿・中皮腫研究会, 2014, (名古屋), [特別講演]
- 011 長田啓隆, 柳澤 聖, 立松義朗, 谷田部恭, 小野健一郎, 関戸好孝, 高橋 隆: Genome editingを用いた転移関連遺伝子CLCP1の機能解析. 第37回日本分子生物学会年会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 012 村上(渡並)優子, 関戸好孝, 門松健治: SGO1はMYCNがん遺伝子増幅細胞においてDNA損傷応答を制御する. 第37回日本分子生物学会年会, 2014, (横浜), [ポスター]

遺伝子医療研究部

- 001 *Yoshida N, Karube K, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Imaizumi Y, Taira N, Uike N, Nakamura S, Umino A, Suguro M, Tsuzuki S, Ohshima K, Seto M*: Molecular Characterization of Chronic-Type Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma: Discovery of Molecular Biomarkers for Acute Transformation. American Society of Hematology Meeting on Lymphoma Biology, 2014, (コロラドスプリングス), [ポスター]
- 002 *Suguro M, Takahara T, Arita K, Yoshida N, Kakiuchi T, Kasugai Y, Hocking TD, Takeuchi I, Tsuzuki S, and Seto M*: Common Progenitor Cells Give Rise to Diffuse Large B-Cell Lymphoma at Diagnosis and Relapse. American Society of Hematology Meeting on Lymphoma Biology, 2014, (コロラドスプリングス), [ポスター]
- 003 *Arita K, Tsuzuki S, Ohshima K, Sugiyama T, Seto M*: Synergy of Myc, cell cycle regulators and the Akt pathway in a mouse model of B-cell lymphoma. American Society of Hematology Meeting on Lymphoma Biology, 2014, (コロラドスプリングス), [ポスター]
- 004 *Suguro M, Takahara T, Arita K, Yoshida N, Kakiuchi T, Kasugai Y, Tsuzuki S, Seto M*: Common Progenitor Cells Give Rise to Diffuse Large B-cell Lymphoma at Diagnosis and Relapse. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [口演(英語)]
- 005 *Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Katayama M, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Ohshima K, Seto M*: Identification of STX11 as a tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜), [口演(英語)]
- 006 吉田稚明, 都築 忍, 加留部謙之輔, 高原大志, 錦織桃子, 下山正徳, 大島孝一, 塚崎邦弘, 瀬戸加太: STX11はT細胞性腫瘍特異的ながん抑制遺伝子である. 第54回日本リンパ網内系学会総会, 2014, (山形), [口演]
- 007 吉田稚明, 都築 忍, 加留部謙之輔, 高原大志, 錦織桃子,

- 下山正徳, 大島孝一, 塚崎邦弘, 瀬戸加大: STX11はT細胞性腫瘍特異的ながん抑制遺伝子である. 第54回日本リンパ網内系学会総会, 2014, (山形), [ポスター]
- 008 在田幸太郎, 都築 忍, 大島孝一, 杉山敏郎, 瀬戸加大: レトロウイルスによる正常B細胞への遺伝子導入を用いた成熟B細胞腫瘍マウスモデル. 第24回日本サイトメトリー学会. 学術総会, 2014, (枚方), [招聘講演]
- 009 高原大志, 吉田稚明, 在田幸太郎, 垣内辰雄, 片山 幸, 春日井由美子, 都築 忍, 瀬戸加大: マントル細胞リンパ腫における, 染色体1番短腕に存在する腫瘍抑制遺伝子CDC14Aの同定. 第73回日本癌学会学術総, 2014, (横浜), [ポスター]
- 010 都築 忍, 在田幸太郎, 大島孝一, 杉山敏郎, 瀬戸加大: Myc, 細胞周期関連遺伝子, Aktパスウェイの協調によるマウスリンパ腫モデル. 第73回日本癌学会学術総, 2014, (横浜), [ポスター]
- 011 垣内辰雄, 都築 忍, 高原大志, 春日井由美子, 吉田稚明, 在田幸太郎, 加留部謙之輔, 片山 幸, 中西速夫, 清野透, 長田啓隆, 関戸好孝, 瀬戸加大: Hippo経路の不活化による中皮細胞の形質転換への寄与. 第73回日本癌学会学術総会, 2014, (横浜) [口演]
- 012 在田幸太郎, 都築 忍, 大島孝一, 杉山敏郎, 瀬戸加大: マウスB細胞リンパ腫モデルにおけるMyc, 細胞周期関連因子, Aktパスウェイの協調. 第76回日本血液学会総会, 2014, (大阪), [口演]
- 013 都築 忍: 悪性リンパ腫の遺伝子異常. 第32回日本染色体遺伝子検査学会, 2014, (名古屋), [特別講演]

腫瘍免疫学部

- 001 **Kuwahara K**: The role of mammalian TREX2 complex in sporadic breast cancers. The 3rd Bandung International Biomolecular Medicine Conference (BIBMC), 2014, (バンドン インドネシア), [シンポジウム]
- 002 **Nicholas C, Fujiwara H, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Yasukawa M**: Targeting aurora kinase A with an enriched TCR gene-transfer vector. 第18回日本がん免疫学会総会, 2014, (松山), [口演]
- 003 **Ueda N, Uemura Y, Zhang R, Liu T, Tatsumi M, Yasui Y, Kuzushima K, Kaneko S**: BCR-ABL reactive CD4 T lymphocytes by reprogramming and redifferentiation. 第43回日本免疫学会, 2014, (京都), [ポスター]
- 004 桑原一彦, 阪口薫雄: BRCA2安定化因子DSS1の発現上昇は非遺伝性散発性乳癌における予後不良因子である. 第18回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2014, (仙台), [口演]
- 005 赤塚美樹, 赤堀 泰, 稲熊容子, 西村泰治, 岡村文子, 葛島清隆, 恵美宣彦: 異なった親和性を持つHLA-A2拘束性マイナー抗原HA-1を認識するCAR-T細胞の機能解析. 第

- 18回日本がん免疫学会総会, 2014, (松山), [口演]
- 006 朝井洋晶, 藤原 弘, 越智俊元, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: HLA class I拘束性WT1特異的Th1及びTh17 CD4+T細胞作製の試み. 第18回日本がん免疫学会総会, 2014, (松山), [口演]
- 007 上田格弘, 植村靖史, 張 エイ, 劉 天懿, 巽美奈子, 安井 裕, 葛島清隆, 清井 仁, 金子 新: BCR-ABL特異的ヘルパーT細胞のリプログラミングとCML治療への応用. 第18回日本がん免疫学会総会, 2014, (松山), [口演]
- 008 岡村文子, 葛島清隆: 人工抗原提示細胞を用いたCTLの誘導とがん特異的エピトープ生成過程について. 第18回日本がん免疫学会総会, 2014, (松山), [シンポジウム]
- 009 赤塚美樹, 赤堀 泰, 稲熊容子, 葛島清隆, 恵美宣彦: 親和性の異なるHLA-A2拘束性HA-1H特異的CAR-T細胞の機能解析. 第6回血液疾患免疫療法研究会学術集会, 2014, (京都), [口演]
- 010 朝井洋晶, 藤原 弘, 越智史博, 越智俊元, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: TCR遺伝子改変HLAクラスI拘束性CD4陽性T細胞サブタイプ作製の試み. 第73回日本癌学会総会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 011 上田格弘, 植村靖史, 張 エイ, 劉 天懿, 巽美奈子, 安井 裕, 葛島清隆, 清井 仁, 金子 新: BCR-ABL特異的ヘルパーT細胞のリプログラミングとCML治療への応用. 第73回日本癌学会総会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 012 桑原一彦, 岩瀬弘敬, 葛島清隆, 阪口薫雄: 散発性乳がんにおけるDSS1高発現はBRCA2の発現変化とは無関係に患者予後因子となる. 第73回日本癌学会総会, 2014, (横浜), [ポスター]
- 013 岡本晃直, 赤塚美樹, 小島博嗣, 稲熊容子, 徳田信将, 柳田正光, 森島聡子, 蟹江匡治, 山本幸也, 安部明弘, 水田秀一, 岡本昌隆, 恵美宣彦: 慢性骨髄性白血病患者の治療中に生じた最重症再生不良性貧血. 第76回日本血液学会学術集会, 2014, (大阪), [ポスター]
- 014 上田格弘, 植村靖史, 張 エイ, 劉 天懿, 巽美奈子, 安井 裕, 葛島清隆, 清井 仁, 金子 新: BCR-ABL-specific T helper cells facilitate propagation of antigen-specific CTLs via DC maturation. 第76回日本血液学会学術集会, 2014, (大阪), [口演]

感染腫瘍学部

- 001 **Kanda T**: Regulation of cellular gene expression by EBV-encoded miRNAs in epithelial cells. 39th Annual International Herpesvirus Workshop, 2014, (Kobe, Japan), [ポスター]
- 002 **Narita Y, Murata T, Kanda T, Kimura H, Tsurumi T**: A conserved motif in the Pre-N-terminal domain of Epstein-Barr virus DNA polymerase catalytic subunit is required for the de novo EBV genome synthesis. 39th Annual International Herpesvirus Workshop, 2014, (Kobe, Japan), [ポスター]

- 003 神田 輝：EBウイルスマイクロRNA群による上皮細胞特異的転移抑制因子の発現制御，第73回日本癌学会学術総会，2014，(横浜)，[口演]
- 004 神田 輝：組換えウイルス作製によるEBウイルスがん遺伝子LMP1のウイルス株間における機能的差異の解析，第62回日本ウイルス学会学術集会，2014，(横浜)，[口演]
- 005 成田洋平，村田貴之，神田 輝，五島 典，木村 宏，鶴見達也：EBウイルスDNAポリメラーゼのPre-NH2ドメインの機能解析，第62回日本ウイルス学会学術集会，2014，(横浜)，[口演]

分子病態学部

- 001 *Shimma S, Fujishita T, Aoki M, Soga T* : In vivo metabolite visualization using standardized imaging mass spectrometry. *Metabolomics* 2014, 2014, (鶴岡), [ポスター]
- 002 青木正博，武藤 誠，藤下晃章：浸潤性大腸がん自然発症マウスモデルに対するmTOR阻害薬の効果．第18回日本がん分子標的治療学会学術集会，2014，(仙台)，[ポスター]
- 003 青木正博，梶野リエ，武藤 誠，藤下晃章：MEK阻害薬トラメチニブによる Apc 変異マウスの腸管ポリープ形成抑制効果．第73回日本癌学会学術総会，2014，(横浜)，[口演]
- 004 藤下晃章，武藤 誠，青木正博：EGF受容体の活性化は大腸がんモデルマウスの大腸がん mTORキナーゼ阻害薬に対する耐性をもたらす．第73回日本癌学会学術総会，2014，(横浜)，[ポスター]
- 005 佐久間圭一朗，青木正博：shRNA ライブラリーを用いた大腸がん転移抑制遺伝子のゲノムワイドスクリーニング．第73回日本癌学会学術総会，2014，(横浜)，[口演]
- 006 梶野リエ，藤下晃章，小島 康，武藤 誠，青木正博：腸管腫瘍形成における JNK-mTORC1 経路活性化機序の解析．第73回日本癌学会学術総会，2014，(横浜)，[ポスター]
- 007 梶野リエ，藤下晃章，小島 康，武藤 誠，青木正博：Apc Δ 716マウスの腸管腫瘍におけるJNK-mTORC1経路活性化機序の解析．第37回日本分子生物学会年会，2014，(横浜)，[ポスター]
- 008 青木正博，武藤 誠，藤下晃章：Simultaneous inhibition of mTOR and EGFR suppresses local invasion in intestinal adenocarcinoma in cis-Apc Δ 716/Smad4 mice. 第37回日本分子生物学会年会，2014，(横浜)，[ポスター]

腫瘍医化学部

- 001 *Mohan R, Lei, L, Thompson A, Shaw C, Kasahara K, Inagaki M, Bargagna-Mohan P* : Vimentin Phosphorylation Patterns Differentiate Corneal Fibroblasts from Myofibroblasts In Vitro and During Fibrosis. *Association in Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) meeting*

2015,2015,(Colorado),[ポスター]

- 002 *Inaba H* : Ndel1-mediated inhibition of primary cilia assembly : the importance in kidney morphogenesis. 第7回NAGOYAグローバルリトリート，2015，(大府)，[招待講演]
- 003 *Inagaki M* : Cancer research on the two noteworthy issues : tetraploidy and primary cilia. *Aichi Cancer Center 50th anniversary International Symposium*,2015,(名古屋),[招待講演]
- 004 田中宏樹，後藤英仁，猪子誠人，井澤一郎，稲垣昌樹：Defect of Vimentin Phosphorylation Cause Aging via Aneuploidy and Cellular Senescence. 第73回日本癌学会総会，2014，(横浜)，[ワークショップ]
- 005 笠原広介，川上和孝，清野 透，米村重信，河村義史，青木啓将，五島直樹，稲垣昌樹：Ubiquitin-proteasome machinery controls primary ciliogenesis at the initial step of axoneme extension. 第73回日本癌学会学術総会，2014，(横浜)，[ポスター]
- 006 稲葉弘哲，後藤英仁，猪子誠人，何 東偉，五島直樹，山野壮太郎，鰐淵英樹，熊本香奈子，広常真治，清野 透，稲垣昌樹：Ndel1の欠損は一次線毛形成を引き起こし，細胞増殖を阻害する．第66回日本細胞生物学会大会，2014，(奈良)，[ポスター]
- 007 掛布真愛，渡辺 崇，松沢建司，松井利憲，秋田弘樹，杉山育子，石館文善，中野 敦，高島成二，後藤英仁，稲垣昌樹，貝淵弘三：Plk1はCLIP-170リン酸化によりCLIPの微小管結合を制御し，分裂期の染色体整列に寄与する．第66回日本細胞生物学会大会，2014，(奈良)，[ポスター]
- 008 後藤英仁，渡辺信元，猪子誠人，稲垣昌樹：がんの分子標的としてのAurora Aキナーゼ．第87回日本薬理学会年会，2014，(仙台)，[ワークショップ]
- 009 猪子誠人，林 裕子，稲垣昌樹：Albatross蛋白質は中心小体の複製に寄与する．第87回日本生化学会大会，2014，(京都)，[ワークショップ/ポスター]
- 010 猪子誠人，林 裕子，稲垣昌樹：Albatross蛋白質は中心小体の複製に寄与する．第37回日本分子生物学会年会，2014，(横浜)，[ワークショップ/ポスター]
- 011 牧原弘幸，田中宏樹，後藤英仁，猪子誠人，榎本 篤，後藤満雄，栗田賢一，井澤一郎，稲垣昌樹：ビメンチンリン酸化不全変異マウスにおける染色体不安定性と老化．第67回日本細胞生物学会大会，2015，(東京)，[ワークショップ/ポスター]
- 012 太田 緑，秦 裕子，後藤英仁，稲垣昌樹，尾山大明，木村暁，北川大樹：中心体の複製を1コピーに保障する分子機構．第67回日本細胞生物学会大会，2015，(東京)，[ワークショップ/ポスター]
- 013 稲葉弘哲，後藤英仁，笠原広介，猪子誠人，熊本香奈子，米村重信，何 東偉，五島直樹，山野壮太郎，鰐淵英樹，清野 透，広常真治，稲垣昌樹：Ndel1による一次線毛形成抑制は腎臓の形態形成に重要である．第67回日本細胞生物学会大会，2015，(東京)，[ポスター]
- 014 稲垣昌樹：1) 増殖シグナルと細胞周期のクロストー

ク 2) 細胞増殖制御と一次線毛 3) Polyploidy/
Aneuploidy細胞の運命. 三重大学医学部 第4回テニユア
トラックセミナー,2015,(津), [招待講演]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（名誉総長・総長）

名誉総長

- 001 *Nimura Y*: Right trisectionectomy for hilar cholangiocarcinoma. In: American College of Surgeons Multimedia Atlas of Surgery: Liver Surgery Volume. Eds. Horacio Asbun and David Geller, Chicago, USA, 333-346, 2014.
- 002 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－いよいよ日本の登場－, 消化器外科, 37: 505-517, 2014.
- 003 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－Aggressive Surgeryの到来とともに日本が世界の仲間入りをした－, 消化器外科, 37: 1053-1065, 2014.
- 004 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－1980年代に入って東西逆転の兆し－, 消化器外科, 37: 1197-1211, 2014.
- 005 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－1980年代から1990年代に入って広がる東西格差－, 消化器外科, 37: 1333-1348, 2014.
- 006 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－相次ぐ日本発のイノベーション－, 消化器外科, 37: 1457-1471, 2014.
- 007 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－日本発のグローバルイズム－, 消化器外科, 37: 1591-1607, 2014.
- 008 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－門脈合併切除を伴う肝切除術－, 消化器外科, 37: 1723-1733, 2014.
- 009 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－胆嚢癌治療の東西較差－, 消化器外科, 37: 1843-1855, 2014.
- 010 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－欧米に伝わる胆嚢癌の日本式拡大手術－, 消化器外科, 37: 2001-2012, 2014.
- 011 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－胆嚢癌の根治手術；今世紀の動き－, 消化器外科, 38: 93-110, 2015.
- 012 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－日本がリードする血管合併切除を伴う肝切除－, 消化器外科, 38: 219-235, 2015.
- 013 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療；胆道癌への外科の挑戦－今世紀に入ってからの日本のリーダーシップ－, 消化器外科, 38: 362-378, 2015.

総長

- 001 *Aizawa M, Nagatsuma A.K, Kitada K, Kuwata T, Fujii S, Kinoshita T, Ochiai A*: Evaluation of HER2-based biology in 1,006 case of gastric cancer in a Japanese population. *Gastric Cancer*, 17:34-42, 2014.
- 002 *Hosokawa Y, Konishi M, Sahara Y, Kinoshita T, Takahashi S, Gotohda N, Kato Y, Kinoshita T*: Limited subtotal gastrectomy for early remnant gastric cancer. *Gastric Cancer*, 17:332-336, 2014.
- 003 *Hosokawa Y, Kinoshita T, Konishi M, Takahashi S, Gotohda N, Honda M, Kaito A, Daiko H, Kinoshita T*: Recurrence Patterns of Esophagogastric Junction Adenocarcinoma According to Siewert's Classification After Rasical Resection. *Anticancer Research*, 34:4391-4398, 2014.
- 004 *Kinoshita T, Kinoshita T, Saiura A, Esaki M, Sakamoto H, Yamanaka T*: Multicentre analysis of long-term outcome after surgical resection for gastric cancer liver metastases. *British Journal of Surgery*, 102:102-107, 2014.
- 005 *Hasegawa T, Yamao K, Hijioka S, Bhatia V, Mizuno M, Hara K, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Kinoshita T, Kohsaki T, Nishimori I, Iwasaki S, Saibara S, Hosoda W, Yatabe Y*: Evaluation of Ki-67 index in EUS-FNA specimens for the assessment of malignancy risk in pancreatic neuroendocrine tumors. *Endoscopy*, 46:32-38, 2014.
- 006 金城和寿, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 二宮 豪, 安部哲也, 小森康司, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 木下平: 幽門周囲リンパ節転移から見た幽門保存胃切除術の適応. *日本臨床外科学会雑誌*, 75:2671-2678, 2014.
- 007 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下平: 癌の補助療法アップデート 胃癌の術前化学療法 現在の適応と今後の展望. *臨床外科*, 69:668-672, 2014.
- 008 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 水野伸匡, 山雄健次, 木下平: 最新の消化器癌術前術後化学療法 膵癌 術後補助化学療法の最近の動向. *消化器外科*, 37:471-477, 2014.

5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病 院 長

- 001 *Uemura N, Abe T, Kawai R, Ito S, Komori K, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Shimizu Y, Shinoda M* : Curative resection of esophageal cancer with a double aortic arch. *General Thoracic and Cardiovascular Surgery* (1863-6705),63巻2号: 116-119,2014.
- 002 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 浅野智成, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 清水泰博, 篠田雅幸: リピオドールリンパ管造影および選択的胸膜癒着術が有効であった食道癌サルベージ術後難治性乳糜胸の1例(原著論文/症例報告). *日本消化器外科学会雑誌* (0386-9768), 47巻11号: 659-667,2014.

消化器内科部

[原著]

- 001 *Hijioka S, Shimizu Y, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Mekky MA, Bhatia V, Nagashio Y, Hasegawa T, Shinagawa A, Sekine M, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Niwa Y, Yamao K* : Can long-term follow-up strategies be determined using a nomogram-based prediction model of malignancy among intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas?. *Pancreas*,43(3):367-72,2014.
- 002 *Imaoka H, Shimizu Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Ogura T, Obayashi T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Yamaura H, Kato M, Niwa Y, Yamao K* Ring-enhancement pattern on contrast-enhanced CT predicts adenocarcinoma of the pancreas : A matched case-control study. *Pancreatology*,14(3):221-226,2014.
- 003 *Kobayashi G, Fujita N, Maguchi H, Tanno S, Mizuno N, Hanada K, Hatori T, Sadakari Y, Yamaguchi T, Tobita K, Doi R, Yanagisawa A, Tanaka M*: Natural history of branch duct intraductal papillary mucinous neoplasm with mural nodules : a Japan pancreas society multicenter study. *Pancreas*,43(4):532-538,2014.
- 004 *Bhatia V, Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Yamao K* : Endoscopic ultrasound description of liver segmentation and anatomy. *Digestive Endoscopy*,26(3):482-90,2014.
- 005 *Tajika M, Matsuo K, Ito H, Chihara D, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Matsumoto K, Nakamura T, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : Risk of second malignancies in patients with gastric marginal zone lymphomas of mucosa associate lymphoid tissue (MALT). *J Gastroenterol*,49(5):843-52,2014.

ol,49(5):843-52,2014.

- 006 *Tanaka T, Niwa Y, Tajika M, Ishihara M, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Hirooka Y, Goto H, Yamao K* : Prospective Evaluation of a Transnasal Endoscopy Utilizing Flexible Spectral Imaging Color Enhancement (FICE) with the Valsalva Maneuver for Detecting Pharyngeal and Esophageal Cancer. *Hepato-Gastroenterology*,64(134):1627-34,2014.
- 007 *Nagashio Y, Hijioka S, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Bhatia V, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Yamao K* : Combination of cyst fluid CEA and CA 125 is an accurate diagnostic tool for differentiating mucinous cystic neoplasms from intraductal papillary mucinous neoplasms. *Pancreatology*,14(6):503-509,2014.
- 008 *Matsuyama M, Ishii H, Furuse J, Ohkawa S, Maguchi H, Mizuno N, Yamaguchi T, Ioka T, Ajiki T, Ikeda M, Hakamada K, Yamamoto M, Yamaue H, Eguchi K, Ichikawa W, Miyazaki M, Ohashi Y, Sasaki Y* : Phase II trial of combination therapy of gemcitabine plus anti-angiogenic vaccination of elpamotide in patients with advanced or recurrent biliary tract cancer. *Invest New Drugs*,Epub,2014.
- 009 *Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Niwa Y, Yamao K* : What is the best method for endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration? Needle types and aspiration techniques. *Gastrointestinal Intervention*,3 (2):104-109,2014.
- 010 *Sekine M, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Ito S, Misawa K, Ito Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Ohnishi H, Yamao K* : Clinical course of gastrointestinal stromal tumor diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration. *Dig Endoscopy*,27(1):44-52,2015.
- 011 *Sato T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Bhatia V, Kobayashi N, Endo I, Maeda S, Nakajima A, Kubota K, Yamao K* : Long-term benefits and additional stent intervention. *Dig Endoscopy*,27(1):121-129,2015.

[総説, その他]

- 001 *Hara K, Yamao K* : Is endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage really that wonderful?. *Digestive Endoscopy*,26(3):333-334,2014.
- 002 佐藤高光, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次: 【膵炎大全〜もう膵炎なんて怖

- くない～】膵炎各論 高カルシウム血症に伴う膵炎(解説/特集). 胆と膵,35(特大号):1175-1179,2014.
- 003 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 佐藤高光, 山雄健次:【患者にやさしい大腸内視鏡検査の工夫】クエン酸モサブリド併用による腸管洗浄液減量の試み. 消化器内科,58(4):462-469,2014.
- 004 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 水野伸匡, 山雄健次, 木下 平:【最新の消化器癌術前術後化学療法】膵癌 術後補助化学療法の最近の動向. 消化器外科,37(4):471-477,2014.
- 005 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次:胃MALTリンパ腫の診断と治療. 胃と腸,49(5):603-615,2014.
- 006 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: Vater乳頭部腫瘍に対する内視鏡治療の試み. Modern Physician,34(5):549-553,2014.
- 007 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 坂本康成, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次:【胆膵癌の化学療法の最前線】当院における切除不能進行膵癌に対するゲムシタピン+erlotinib併用化学療法の使用経験. 消化器内科,58(6):798-803,2014.
- 008 堤 英治, 水野伸匡, 山雄健次:【内科疾患 最新の治療 明日への指針】(第2章)消化器 膵がん. 内科,113(6):1114-1116,2014.
- 009 脇岡 範, 堤 英治, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次:膵NETに対するEUSとEUS-FNAの診断の実際:生検診断の有用性と問題点. 胆と膵,35(7):627 - 634,2014.
- 010 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: EUS下胆管十二指腸吻合(EUS-CDS:EUS-guided choledochoduodenostomy)の実際と手技のコツ. 胆と膵,35(8):747-751,2014.
- 011 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次, 鈴木隆史, 丹羽康正: 早期胃癌研究会症例 頸部食道異所性胃粘膜から発生した早期食道腺癌の1例. 胃と腸,49(11):1629-1635,2014.
- 012 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 山雄健次:【膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の診療の現況】IPMNの診療方針. 臨床消化器内科,29(13):1695-1702,2014.
- 013 永塩美邦, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博, 久野晃聖, 古川正幸, 山雄健次:【肝胆膵診療のNew Horizon】膵疾患 嚢胞性膵腫瘍 膵嚢胞性病変のEUS-FNA適応と日本の現状. 肝・胆・膵,69(6):1207-1213,2014.
- 014 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次:【自己免疫性膵炎のup-to-date】EUS-FNAによる診断能. 膵臓,30(1):78-84,2015.
- 015 山雄健次, 原 和生, 脇岡 範:【べからず集2015】「胆膵」EUS-べからずEUS-FNA. 消化器内視鏡,27(2):325-326,2015.
- 016 脇岡 範, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次:膵・消化管神経内分泌腫瘍 (NET) 診療ガイドライン. 消化器内視鏡,27(3):495 - 502,2015.
- 017 脇岡 範:胆膵疾患に対するEUS-FNAの現状と新たな展開. Frontiers in Gastroenterology,20(1):53-57,2015.
- [分担執筆]
- 001 Mizuno N, Yamao K: A Role of PET/CT in the Diagnosis of Autoimmune Pancreatitis. Autoimmune Pancreatitis:89-94,2015.
- 002 水野伸匡, 山雄健次:【IV章 膵がん・胆道がんの緩和治療】閉塞性黄疸への対応と薬物療法中の注意点. 膵がん・胆道がん 薬物療法ハンドブック,0:160-166,2014.
- 003 原 和生: CアームX線システムを用いた胆膵内視鏡治療 Update Interventional EUS. Rad Fan,12(9):8-11,2014.
- 004 脇岡 範:エベロリムス. 消化器がん化学療法レジメンブック第2版:198-200,2014.
- 005 原 和生:膵癌レジメン:S1+放射線. 消化器がん化学療法レジメンブック, 2:171-173,2014.
- 006 原 和生:胆道癌レジメン:GEM+CDDP. 消化器がん化学療法レジメンブック, 2:180-182,2014.
- 007 脇岡 範:17 退形成膵管癌. 画像で見ぬく消化器疾患胆道・膵臓vol 4:204-206, 2014.
- 008 水野伸匡, 山雄健次:【III 支持療法・緩和治療の実際】1. 支持療法の進め方. オンコロジストはこう治療している 膵がん・胆道がん診療と化学療法:116-121,2015.
- [座談会]
- 001 山雄健次, 伊佐山浩通, 岡部義信, 瀧沼朗生:胆道癌診療における内視鏡の役割. 膵・胆道癌Frontier,4(2):60-68,2014.
- 内視鏡部
- [原著]
- 001 Hijioka S, Shimizu Y, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Mekky MA, Bhatia V, Nagashio Y, Hasegawa T, Shinagawa A, Sekine M, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Niwa Y, Yamao K: Can long-term follow-up strategies be determined using a nomogram-based prediction model of malignancy among intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas?. Pancreas,43(3):367-72,2014.
- 002 Imaoka H, Shimizu Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Ogura T, Obayashi T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Yamaura H, Kato M, Niwa Y, Yamao K: Ring-enhancement pattern

- on contrast-enhanced CT predicts adenocarcinoma of the pancreas : A matched case-control study. *Pancreatol*,14(3):221-226,2014.
- 003 **Tajika M, Matsuo K, Ito H, Chihara D, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Matsumoto K, Nakamura T, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y** : Risk of second malignancies in patients with gastric marginal zone lymphomas of mucosa associate lymphoid tissue (MALT). *J Gastroenterol*,49(5):843-52,2014.
- 004 **Tanaka T, Niwa Y, Tajika M, Ishihara M, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Hirooka Y, Goto H, Yamao K** : Prospective Evaluation of a Transnasal Endoscopy Utilizing Flexible Spectral Imaging Color Enhancement (FICE) with the Valsalva Maneuver for Detecting Pharyngeal and Esophageal Cancer. *Hepato-Gastroenterology*,64(134):1627-34,2014.
- 005 **Ishihara M, Ohmiya N, Nakamura M, Funasaka K, Miyahara R, Ohno E, Kawashima H, Itoh A, Hirooka Y, Watanabe O, Ando T, Goto H** : Risk factors of symptomatic NSAID-induced small intestinal injury and Diaphragm disease. *Aliment Pharmacol Ther*,40(5):538-47,2014.
- 006 **Ishikawa H, Mutoh M, Suzuki S, Tokudome S, Saida Y, Abe T, Okamura S, Tajika M, Joh T, Tanaka S, Kudo SE, Matsuda T, Iimuro M, Yukawa T, Takayama T, Sato Y, Lee K, Kitamura S, Mizuno M, Sano Y, Gondo N, Sugimoto K, Kusunoki M, Goto C, Matsuura N, Sakai T, Wakabayashi K** : The preventive effects of low-dose enteric-coated aspirin tablets on the development of colorectal tumours in Asian patients: a randomised trial. *Gut* ,63(11):1755-1759,2014.
- 007 **Nagashio Y, Hijioka S, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Bhatia V, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Yamao K** : Combination of cyst fluid CEA and CA 125 is an accurate diagnostic tool for differentiating mucinous cystic neoplasms from intraductal papillary mucinous neoplasms. *Pancreatol*,14(6):503-509,2014.
- 008 **Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Niwa Y, Yamao K** : What is the best method for endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration? Needle types and aspiration techniques. *Gastrointestinal Intervention*,3 (2):104-109,2014.
- 009 **Sekine M, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Ito S, Misawa K, Ito Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Ohnishi H, Yamao K** : Clinical course of gastrointestinal stromal tumor diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration. *Dig Endoscopy*,27(1):44-52,2015.
- 010 **Sato T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Bhatia V, Kobayashi N, Endo I, Maeda S, Nakajima A, Kubota K, Yamao K** : Long-term benefits and additional stent intervention. *Dig Endoscopy*,27(1):121-129,2015.
- [総説, その他]
- 001 佐藤高光, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次:【膵炎大全〜もう膵炎なんて怖くない〜】膵炎各論 高カルシウム血症に伴う膵炎(解説/特集). 胆と膵,35(特大号):1175-1179,2014.
- 002 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 関根匡成, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 佐藤高光, 山雄健次:【患者にやさしい大腸内視鏡検査の工夫】クエン酸モサプリド併用による腸管洗浄液減量の試み. 消化器内科,58(4):462-469,2014.
- 003 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次:胃MALTリンパ腫の診断と治療.胃と腸,49(5):603-615,2014.
- 004 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: Vater乳頭部腫瘍に対する内視鏡治療の試み. *Modern Physician*, 34(5):549-553,2014.
- 005 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 坂本康成, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次:【胆膵癌の化学療法の前線】当院における切除不能進行膵癌に対するゲムシタビン+erlotinib併用化学療法の使用経験. 消化器内科,58(6):798-803,2014.
- 006 脇岡 範, 堤 英治, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次:膵NETに対するEUSとEUS-FNAの診断の実際:生検診断の有用性と問題点. 胆と膵,35(7):627 - 634,2014.
- 007 原 和生, 山雄健次, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正:EUS下胆管十二指腸吻合(EUS-CDS:EUS-guided choledochoduodenostomy)の実際と手技のコツ.胆と膵,35(8):747-751,2014.
- 008 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次, 鈴木隆史, 丹羽康正:早期胃癌研究会症例 頸部食道異所性胃粘膜から発生した早期食道腺癌の1例. 胃と腸,49(11):1629-1635,2014.
- 009 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 山雄健次:【膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の診療の現況】IPMNの診療方針. 臨床消化器内科,29(13):1695-1702,2014.
- 010 永塩美邦, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 夏目誠治, 千田嘉毅,

清水泰博, 久野晃聖, 古川正幸, 山雄健次:【肝胆膵診療の New Horizon】膵疾患 嚢胞性膵腫瘍 膵嚢胞性病変のEUS-FNA適応と日本の現状.肝・胆・膵,69(6):1207-1213,2014.

- 011 脇岡 範, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次:膵・消化管神経内分泌腫瘍(N E T)診療ガイドライン.消化器内視鏡,27(3):495 - 502,2015.

呼吸器内科部

[原著]

- 001 *Ebi H, Oze I, Nakagawa T, Itoh H, Hosono S, Matsuda F, Takahashi M, Takeuchi S, Sakao Y, Hida T, Faber AC, Tanaka H, Yatabe Y, Mitsudomi T, Yano S, Matsuo K*: Lack of association between the BIM germline polymorphism and the risk of lung cancer with and without EGFR mutations. J Thorac Oncol, Epub ahead of print, 2014.
- 002 *Seto T, Kato T, Nishio M, Goto K, Atagi S, Hosomi Y, Yamamoto N, Hida T, Maemondo M, Nakagawa K, Nagase S, Okamoto I, Yamanaka T, Tajima K, Harada R, Fukuoka M, Yamamoto N*: Erlotinib alone or with bevacizumab in patients with advanced non-squamous non-small-cell lung cancer harbouring epidermal growth factor receptor mutations (JO25567): a randomised phase II study. Lancet Oncol, 15(11):1236-44, 2014.
- 003 *Hida T*: Advances in lung cancer therapy: Steady progress in personalized therapy. Clin Oncol Res, 2(2):1013, 2014.
- 004 *Park JY, Tanaka K, Oguri T, Park JC, Shimizu J, Horio Y, Sekido Y, Hida T*: Antitumor activity of a novel 9-aminoanthracycline, amrubicin, alone and in combination with celecoxib against human malignant mesotheliomas in vitro. Clin Oncol Res, 2(4):1029, 2014.
- 005 *Park J, Yamaura H, Yatabe Y, Hosoda W, Kondo C, Shimizu J, Horio Y, Yoshida K, Tanaka K, Oguri T, Kobayashi Y, Hida T*: Anaplastic lymphoma kinase gene rearrangements in patients with advanced-stage non-small cell lung cancer: CT characteristics and response to chemotherapy. Cancer Med, 3(1):118-123, 2014.
- 006 *Satouchi M, Kotani Y, Shibata T, Ando M, Nakagawa K, Yamamoto N, Ichinose Y, Ohe Y, Nishio M, Hida T, Takeda K, Kimura T, Minato K, Yokoyama A, Atagi S, Fukuda H, Tamura T, Saijo N*: A phase III study comparing amrubicin and cisplatin with irinotecan and cisplatin for the treatment of extensive-disease small cell lung cancer (ED-SCLC): JCOG0509. J Clin Oncol, 32(12):1262-1268, 2014.
- 007 *Kubota K, Hida T, Ishikura S, Mizusawa J, Nishio*

M, Kawahara M, Yokoyama A, Imamura F, Takeda K, Negoro S, Harada M, Okamoto H, Yamamoto N, Shinkai T, Sakai H, Matsui K, Nakagawa K, Shibata T, Saijo N, Tamura T: Etoposide and cisplatin versus irinotecan and cisplatin in patients with limited-stage small-cell lung cancer treated with etoposide and cisplatin plus concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy (JCOG0202): a randomised phase 3 study. Lancet Oncol, 15(1):106-113, 2014.

- 008 *Park J, Kondo C, Shimizu J, Horio Y, Yoshida K, Hida T*: EGFR exon 19 insertions show good response to gefitinib, but short time to progression in Japanese patients. J Thorac Oncol, 9(2):e10-11, 2014.
- 009 *Yoshida T, Niho S, Toda M, Goto K, Yoh K, Umemura S, Matsumoto S, Ohmatsu H, Ohe Y*: Protective effect of magnesium preloading on cisplatin-induced nephrotoxicity: a retrospective study. Jpn J Clin Oncol, 44(4):346-54, 2014.
- 010 *Sato Y, Kondo M, Inagaki A, Komatsu H, Okada C, Naruse K, Sahashi T, Kuroda J, Ogura H, Uegaki S, Yoshida T, Mori Y, Sawada H, Watanabe S, Sugiura H, Endo Y, Yoshimoto N, Toyama T, Iida S, Yamada K, Kimura K, Wakita A*: Highly frequent and enhanced injection site reaction induced by peripheral venous injection of fosaprepitant in anthracycline-treated patients. J Cancer, 24(5(5)):390-7, 2014.
- 011 *Yoshida T, Ishii G, Goto K, Neri S, Hashimoto H, Yoh K, Niho S, Umemura S, Matsumoto S, Ohmatsu H, Iida S, Niimi A, Nagai K, Ohe Y, Ochiai A*: Podoplanin-positive cancer-associated fibroblasts in the tumor microenvironment induce primary resistance to EGFR-TKIs in lung adenocarcinoma with EGFR mutation. Clin Cancer Res, 21(3):642-51, 2015.
- 012 吉岡弘鎮, 西尾誠人, 木浦勝行, 瀬戸貴司, 中川和彦, 前門戸 任, 井上 彰, 樋田豊明, 田中智宏, 田村友秀:アレクチニブ(CH5424802/RO5424802)のALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌患者に対する第I/II相臨床試験の追跡データ(AF-001JP). 肺癌, 54(7):892-897, 2014.

[総説, その他]

- 001 大江裕一郎, 吉田達哉: 肺がんに対する分子標的治療の現状と展望. 日本口腔外科学会雑誌, 60(6):328-334, 2014.
- 002 吉田達哉:【視野を広げる特集?から看護がわかる 骨転移丸とQ&A 病態と症状のQ&A.】高カルシウム血症が起こるのはなぜ? プロフェッショナルがんナーシング, 4(1):55-56, 2014.
- 003 吉田達哉, 樋田豊明:【今後の研究開発のための臨床現場での診断薬開発へのニーズの現状】肺癌診断・治療に求める診断薬ニーズ. 最先端バイオマーカーを用いた診断薬/診断装置開発と薬事対応, 411-415, 2015.
- 004 吉田達哉:【視野を広げる特集?から看護がわかる 骨転

移丸とQ&A 病態と症状のQ&A.】日本臨床腫瘍学会作成中の「骨転移に対する治療ガイドライン」での指針. プロフェッショナルがんナーシング, 4(1): 57, 2014.

- 005 吉田達哉:【視野を広げる特集?から看護がわかる 骨転移丸とQ&A 病態と症状のQ&A.】骨転移にはどんな治療がある? プロフェッショナルがんナーシング, 4(1): 58-59, 2014.
- 006 吉田達哉:【視野を広げる特集?から看護がわかる 骨転移丸とQ&A 病態と症状のQ&A.】薬物療法はどんな治療? プロフェッショナルがんナーシング, 4(1): 71-72, 2014.
- 007 吉田達哉:【視野を広げる特集?から看護がわかる 骨転移丸とQ&A 病態と症状のQ&A.】「ビスホスホネート製剤と「デノスマブ」の使い分けのポイント. プロフェッショナルがんナーシング, 4(1): 75-76, 2014.
- 008 吉田達哉:【特集 肺がん治療戦略の変貌】進展型小細胞肺がんに対する胸部放射線治療の意義. 腫瘍内科, 15(2): 198-203, 2015.

[症例報告]

- 001 吉田達哉:【化学放射線治療】81歳, PS0, 病期ⅢA期の局所進行非小細胞肺癌に対し, 低用量連日カルボプラチンと放射線治療を併用した1自験例. 症例から学ぶ 肺癌最新治療ストラテジー, 78-82, 2014.
- 002 吉田達哉, 加藤宗博, 武田典久, 太田千晴, 横山多佳子, 宇佐美郁治: 気管支動脈塞栓術にて消退した原発性気管支動脈蔓状血管腫の1例. 気管支学, 36(3): 256-259, 2014.

血液・細胞療法部

- 001 Satou A, Asano N, Nakazawa A, Osumi T, Tsurusawa M, Ishiguro A, Elsayed AA, Nakamura N, Ohshima K, Kinoshita T, Nakamura S: Epstein-Barr virus (EBV)-positive sporadic burkitt lymphoma: an age-related lymphoproliferative disorder? The American journal of surgical pathology,39(2):227-35, 2015.
- 002 Kato S, Asano N, Miyata-Takata T, Takata K, Elsayed AA, Satou A, Takahashi E, Kinoshita T, Nakamura S: T-cell receptor (TCR) phenotype of nodal Epstein-Barr virus (EBV)-positive cytotoxic T-cell lymphoma (CTL): a clinicopathologic study of 39 cases. The American journal of surgical pathology,39(4):462-71, 2015.
- 003 Hirano D, Kato H, Kodaira T, Yatabe Y, Ueda N, Murakami S, Higuchi Y, Taji H, Nakamura S, Yamamoto K, Kinoshita T: Salvage therapy with single agent L-asparaginase followed by local irradiation in an elderly patient with CD56-positive primary isolated extramedullary T-cell lymphoblastic lymphoma of the sinus. Annals of hematology,94(1):173-5, 2015.
- 004 Chihara D, Asano N, Ohmachi K, Nishikori M, Okamoto M, Sawa M, Sakai R, Okoshi Y, Tsukamoto

N, Yakushijin Y, Nakamura S, Kinoshita T, Ogura M, Suzuki R: Ki-67 is a strong predictor of central nervous system relapse in patients with mantle cell lymphoma (MCL). Annals of oncology : official journal of the European Society for Medical Oncology / ESMO,26(5):966-73, 2015.

- 005 Chihara D, Asano N, Ohmachi K, Kinoshita T, Okamoto M, Maeda Y, Mizuno I, Matsue K, Uchida T, Nagai H, Nishikori M, Nakamura S, Ogura M, Suzuki R: Prognostic model for mantle cell lymphoma in the rituximab era : a nationwide study in Japan. British journal of haematology, 2015.
- 006 Yoshida N, Karube K, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Imaizumi Y, Taira N, Uike N, Umino A, Arita K, Suguro M, Tsuzuki S, Kinoshita T, Ohshima K, Seto M: Molecular Characterization of Chronic-type Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. Cancer research, 74(21):6129-38, 2014.
- 007 Tokunaga T, Tomita A, Sugimoto K, Shimada K, Iriyama C, Hirose T, Shirahata-Adachi M, Suzuki Y, Mizuno H, Kiyoi H, Asano N, Nakamura S, Kinoshita T, Naoe T: De novo diffuse large B-cell lymphoma with a CD20 immunohistochemistry-positive and flow cytometry-negative phenotype: molecular mechanisms and correlation with rituximab sensitivity. Cancer science,105(1):35-43, 2014.
- 008 Suguro M, Yoshida N, Umino A, Kato H, Tagawa H, Nakagawa M, Fukuhara N, Karnan S, Takeuchi I, Hocking TD, Arita K, Karube K, Tsuzuki S, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M: Clonal heterogeneity of lymphoid malignancies correlates with poor prognosis. Cancer science,105(7):897-904, 2014.
- 009 Satou A, Asano N, Nakazawa A, Osumi T, Tsurusawa M, Ishiguro A, Elsayed AA, Nakamura N, Ohshima K, Kinoshita T, Nakamura S: Epstein-Barr Virus (EBV)-positive Sporadic Burkitt Lymphoma: An Age-related Lymphoproliferative Disorder? The American journal of surgical pathology, 2014.
- 010 Morishima S, Nakamura S, Yamamoto K, Miyauchi H, Kagami Y, Kinoshita T, Onoda H, Yatabe Y, Ito M, Miyamura K, Nagai H, Moritani S, Sugiura I, Tsushita K, Mihara H, Ohbayashi K, Iba S, Emi N, Okamoto M, Iwata S, Kimura H, Kuzushima K, Morishima Y: Increased T-cell responses to EBV with high viral load in patients with EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma. Leukemia & lymphoma,56(4): 1072-1078, 2015.
- 011 Kato H, Karube K, Yamamoto K, Takizawa J, Tsuzuki S, Yatabe Y, Kanda T, Katayama M, Ozawa Y, Ishitsuka K, Okamoto M, Kinoshita T, Ohshima K, Nakamura S, Morishima Y, Seto M: Gene expression profiling of Epstein-Barr virus-positive diffuse large

- B-cell lymphoma of the elderly reveals alterations of characteristic oncogenetic pathways. *Cancer science*,105(5):537-44, 2014.
- 012 **Elsayed AA, Asano N, Ohshima K, Izutsu K, Kinoshita T, Nakamura S** : Prognostic significance of CD20 expression and Epstein-Barr virus (EBV) association in classical Hodgkin lymphoma in Japan : A clinicopathologic study. *Pathology international*,64(7):336-45, 2014.
- 013 **Chihara D, Kagami Y, Kato H, Yoshida N, Kiyono T, Okada Y, Kinoshita T, Seto M** : IL2/IL-4, OX40L and FDC-like cell line support the in vitro tumor cell growth of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Leukemia research*, 38(5):608-12, 2014.
- 014 **Aoki T, Izutsu K, Suzuki R, Nakaseko C, Arima H, Shimada K, Tomita A, Sasaki M, Takizawa J, Mitani K, Igarashi T, Maeda Y, Fukuhara N, Ishida F, Niitsu N, Ohmachi K, Takasaki H, Nakamura N, Kinoshita T, Nakamura S, Ogura M** : Prognostic significance of pleural or pericardial effusion, and the implication of optimal treatment in primary mediastinal large B-cell lymphoma: a multicenter retrospective study in Japan. *Haematologica*, 2014.
- 015 **Kodera Y, Yamamoto K, Harada M, Morishima Y, Dohy H, Asano S, Ikeda Y, Nakahata T, Imamura M, Kawa K, Kato S, Tanimoto M, Kanda Y, Tanosaki R, Shiobara S, Kim SW, Nagafuji K, Hino M, Miyamura K, Suzuki R, Hamajima N, Fukushima M, Tamakoshi A; for the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation, Halter J, Schmitz N, Niederwieser D, Gratwohl A** : PBSC collection from family donors in Japan : a prospective survey. *Bone Marrow Transplant*,49(2):195-200, 2014,PMID: 24076552.
- 016 **Ogura M, Ishida T, Hatake K, Taniwaki M, Ando K, Tobinai K, Fujimoto K, Yamamoto K, Miyamoto T, Uike N, Tanimoto M, Tsukasaki K, Ishizawa K, Suzumiya J, Inagaki H, Tamura K, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R** : Multicenter phase II study of mogamulizumab (KW-0761), a defucosylated anti-CCR4 antibody, in patients with relapsed peripheral T-cell lymphoma and cutaneous T-cell lymphoma. *J Clin Oncol* ,32(11):1157-1163, 2014,PMID: 24616310.
- 017 **Ogura M, Ando K, Suzuki T, Ishizawa K, Oh SY, Itoh K, Yamamoto K, Au WY, Tien HF, Matsuno Y, Terauchi T, Yamamoto K, Mori M, Tanaka Y, Shimamoto T, Tobinai K, Kim WS** : A multicentre phase II study of vorinostat in patients with relapsed or refractory indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma and mantle cell lymphoma. *Br J Haematol*, 165(6):768-776, 2014,PMID: 24617454.
- 018 **Kato H, Kawase T, Kako S, Mizuta S, Kurokawa M, Mori T, Ohashi K, Iwato K, Miyamura K, Hidaka M, Sakamaki H, Suzuki R, Morishima Y, Tanaka J, Adult Acute Lymphoblastic Leukemia Working Group of Japan Society for Hematopoietic Cell T** : Analysis of outcomes following autologous stem cell transplantation in adult patients with Philadelphia chromosome-negative acute lymphoblastic leukemia during first complete remission. *Haematologica*,99(11):e228-30, 2014.
- 019 **Nakaseko C, Takahashi N, Ishizawa K, Kobayashi Y, Ohashi K, Nakagawa Y, Yamamoto K, Miyamura K, Taniwaki M, Okada M, Kawaguchi T, Shibata A, Fujii Y, Ono C, Ohnishi K** : A phase 1/2 study of bosutinib in Japanese adults with Philadelphia chromosome-positive chronic myeloid leukemia. *Int J Hematol*,101(2):154-164, 2015,PMID: 25540064.
- 020 加藤春美, 木下朝博 : 非ホジキンリンパ腫. *日本臨床* Vol.72, No.6, 1104-1112, 2014-6.
- 021 木下朝博 : インドレントB細胞リンパ腫のベンダムスチンによる初回治療. *血液内科*, 68(3), 411-416, 2014.
- 022 加藤春美, 木下朝博 : 疾患からみた分子標的薬 非ホジキンリンパ腫. *日本臨床*, 第72巻第6号p.1104-1112, 2014-6.
- 023 木下朝博 : リツキシマブがもたらしたB細胞リンパ腫治療の進歩と展望. *BIO Clinica*, 29(9), 2014(837), 19-23.
- 024 木下朝博 : 診療ガイドラインの解説. *臨床放射線* 59巻11号 (臨時増刊号) 悪性リンパ腫の診断と治療, 1551-1563, 2014-11.
- 025 木下朝博 : Rituximab eraにおけるB細胞リンパ腫に対する治療. *最新医学*, 第68巻10号, 90-95, 2014-10.
- 026 加藤春美, 木下朝博 : ニボルマブ ホジキンリンパ腫 血液領域の分子標的治療薬. *最新医学別冊 診断と治療のABC102*, 最新医学, 131-138, 2015-2.
- 027 加藤春美, 木下朝博 : 愛知県がんセンター中央病院 血液・細胞療法部EBM血液疾患の治療 2015-2016 悪性リンパ腫に対する新規治療薬剤. *中外医学社*, 2014.
- 028 加藤春美 : 愛知県がんセンター中央病院 血液・細胞療法部 マントル細胞リンパ腫患者に対する移植の役割. *血液フロンティア* , 2014-9 (Vol.24 No.9).

薬物療法部

- 001 **Kang YK, Muro K, Ryu MH, Yasui H, Nishina T, Ryoo BY, Kamiya Y, Akinaga S, Boku N** : A phase II trial of a selective c-Met inhibitor tivantinib (ARQ 197) monotherapy as a second- or third-line therapy in the patients with metastatic gastric cancer. *Invest New Drugs*, 32(2):355-61, 2014.
- 002 **Boku N, Muro K, Machida N, Hashigaki S, Kimura N, Suzuki M, Lechuga M, Miyata Y** : Phase I study of sunitinib plus S-1 and cisplatin in Japanese patients with advanced or metastatic gastric cancer. *Invest New*

- Drugs ,32(2):261-70, 2014.
- 003 **Sasaki Y, Hamaguchi T, Arai T, Goto A, Ura T, Muro K, Yamada Y, Shirao K, Shimada Y** : Phase I Study of Combination Therapy with Irinotecan, Leucovorin, and Bolus and Continuous-infusion 5-Fluorouracil (FOLFIRI) for Advanced Colorectal Cancer in Japanese Patients. *Anticancer Res* ,34(4):2029-34, 2014.
- 004 **Shitara K, Matsuo K, Muro K, Doi T, Ohtsu A** : Correlation between overall survival and other endpoints in clinical trials of second-line chemotherapy for patients with advanced gastric cancer. *Gastric Cancer* ,17(2):362-70,2014.
- 005 **Takahari D, Hamaguchi T, Yoshimura K, Katai H, Ito S, Fuse N, Konishi M, Yasui H, Terashima M, Goto M, Tanigawa N, Shirao K, Sano T, Sasako M** : Survival analysis of adjuvant chemotherapy with S-1 plus cisplatin for stage III gastric cancer. *Gastric Cancer*, 17(2):383-6,2014.
- 006 **Takahari D, Boku N, Mizusawa J, Takashima A, Yamada Y, Yoshino T, Yamazaki K, Koizumi W, Fukase K, Yamaguchi K, Goto M, Nishina T, Tamura T, Tsuji A, Ohtsu A** : Determination of Prognostic Factors in Japanese Patients With Advanced Gastric Cancer Using the Data From a Randomized Controlled Trial, Japan Clinical Oncology Group 9912. *Oncologist*, 19(4):358-66, 2014.
- 007 **Kodera Y, Fujitani K, Fukushima N, Ito S, Muro K, Ohashi N, Yoshikawa T, Kobayashi D, Tanaka C, Fujiwara M**:Surgical resection of hepatic metastasis from gastric cancer:a review and new recommendation in the Japanese gastric cancer treatment guidelines. *Gastric Cancer*, 17(2):206-12,2014.
- 008 **Taniyama TK, Hashimoto K, Katsumata N, Hirakawa A, Yonemori K, Yunokawa M, Shimizu C, Tamura K, Ando M, Fujiwara Y** : Can oncologists predict survival for patients with progressive disease after standard chemotherapies? *Curr Oncol* ,21(2):84-90, 2014.
- 009 **Kadowaki S, Yatabe Y, Nitta S, Ito Y, Muro K** : Durable response of human epidermal growth factor receptor-2-positive gastric adenosquamous carcinoma to trastuzumab-based chemotherapy. *Case Rep Oncol* 19:7(1):210-6, 2014.
- 010 **Ando M, Yamauchi H, Aogi K, Shimizu S, Iwata H, Masuda N, Yamamoto N, Inoue K, Ohono S, Kuroi K, Hamano T, Sukigara T, Fujiwara Y** : Randomized phase II study of weekly paclitaxel with and without carboplatin followed by cyclophosphamide/epirubicin/5-fluorouracil as neoadjuvant chemotherapy for stage II/ IIIA breast cancer without HER2 overexpression. *Breast Cancer Res Treat*, 145(2):401-9, 2014.
- 011 **Sasaki Y, Nishina T, Yasui H, Goto M, Muro K, Tsuji A, Koizumi W, Toh Y, Takuo H, Miyata Y** : Phase II trial of nanoparticle albumin-bound paclitaxel as second-line chemotherapy for unresectable or recurrent gastric cancer. *Cancer Sci*, 105(7):812-7,2014.
- 012 **Kadowaki S, Komori A, Narita Y, Nitta S, Yamaguchi K, Kondo C, Taniguchi H, Takahari D, Ura T, Ando M, Muro K** : Long-term outcomes and prognostic factors of patients with advanced gastric cancer treated with S-1 plus cisplatin combination chemotherapy as a first-line treatment. *Int J Clin Oncol* 19(4), 656-61,2014.
- 013 **Hironaka S, Tsubosa Y, Mizusawa J, Kii T, Kato K, Tsushima T, Chin K, Tomori A, Okuno T, Taniki T, Ura T, Matsushita H, Kojima T, Doki Y, Kusaba H, Fujitani K, Taira K, Seki S, Nakamura T, Kitagawa Y; Japan Esophageal Oncology Group/Japan Clinical Oncology Group** : Phase I/II trial of 2-weekly docetaxel combined with cisplatin plus fluorouracil in metastatic esophageal cancer (JCOG0807). *Cancer Sci*, 105(9):1189-95, 2014.
- 014 **Wilke H, Muro K, Van Cutsem E, Oh SC, Bodoky G, Shimada Y, Hironaka S, Sugimoto N, Lipatov O, Kim TY, Cunningham D, Rougier P, Komatsu Y, Ajani J, Emig M, Carlesi R, Ferry D, Chandrawansa K, Schwartz JD, Ohtsu A; RAINBOW Study Group** : Ramucirumab plus paclitaxel versus placebo plus paclitaxel in patients with previously treated advanced gastric or gastro-oesophageal junction adenocarcinoma (RAINBOW): a double-blind, randomised phase 3 trial. *Lancet Oncol*, 15(11):1224-35, 2014.
- 015 **Aihara T, Yokota I, Hozumi Y, Aogi K, Iwata H, Tamura M, Fukuuchi A, Makino H, Kim R, Andoh M, Tsugawa K, Ohno S, Yamaguchi T, Ohashi Y, Watanabe T, Takatsuka Y, Mukai H** : Anastrozole versus tamoxifen as adjuvant therapy for Japanese postmenopausal patients with hormone-responsive breast cancer : efficacy results of long-term follow-up data from the N-SAS BC 03 trial. *Breast Cancer Res Treat*, 148(2):337-43, 2014.
- 016 **Hamamoto Y, Yamaguchi T, Nishina T, Yamazaki K, Ura T, Nakajima T, Goto A, Shimada K, Nakayama N, Sakamoto J, Morita S, Yamada Y** : A phase I/ II study of XELIRI plus bevacizumab as second-line chemotherapy for Japanese patients with metastatic colorectal cancer (BIX study). *Oncologist*, 19(11):1131-2, 2014.
- 017 **Kadowaki S, Kakuta M, Takahashi S, Takahashi A, Arai Y, Nishimura Y, Yatsuoka T, Ooki A, Yamaguchi K, Matsuo K, Muro K, Akagi K** : Prognostic value of KRAS and BRAF mutations in curatively resected colorectal cancer. *World J Gastroenterol*, 21(4):1275-83, 2015.
- 018 **Yasui H, Muro K, Shimada Y, Tsuji A, Sameshima S, Baba H, Satoh T, Denda T, Ina K, Nishina T,**

- Yamaguchi K, Esaki T, Tokunaga S, Kuwano H, Boku N, Komatsu Y, Watanabe M, Hyodo I, Morita S, Sugihara K* : A phase 3 non-inferiority study of 5-FU/ l-leucovorin/irinotecan (FOLFIRI) versus irinotecan/S-1 (IRIS) as second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer: updated results of the FIRIS study. *J Cancer Res Clin Oncol* ,141(1):153-60, 2015.
- 019 *Yamamoto H, Ando M, Aogi K, Iwata H, Tamura K, Yonemori K, Shimizu C, Hara F, Takabatake D, Hattori M, Asakawa T, Fujiwara Y* : Phase I and pharmacokinetic study of trastuzumab emtansine in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer. *Jpn J Clin Oncol* ,45(1):12-8, 2015.
- 020 *Yoshino T, Muro K, Yamaguchi K, Nishina T, Denda T, Kudo T, Okamoto W, Taniguchi H, Akagi K, Kajiwara T, Hironaka S, Satoh T* : Clinical Validation of a Multiplex Kit for RAS Mutations in Colorectal Cancer: Results of the RASKET (RAS KEY Testing) Prospective, Multicenter Study. *EBioMedicine* ,2(4):317-23, 2015.
- 021 *Taniguchi H, Yamazaki K, Yoshino T, Muro K, Yatabe Y, Watanabe T, Ebi H, Ochiai A, Baba E, Tsuchihara K* : Japanese Society of Medical Oncology Clinical Guidelines : RAS (KRAS/NRAS) mutation testing in colorectal cancer patients. *Cancer Sc* ,106(3):324-27, 2015.
- 022 *Uetake H, Yasuno M, Ishiguro M, Kameoka S, Shimada Y, Takahashi K, Watanabe T, Muro K, Baba H, Yamamoto J, Mizunuma N, Tamagawa H, Mochizuki I, Kinugasa Y, Kikuchi T, Sugihara K* : A Multicenter Phase II Trial of mFOLFOX6 Plus Bevacizumab to Treat Liver-Only Metastases of Colorectal Cancer that are Unsuitable for Upfront Resection (TRICC0808). *Ann Surg Oncol* ,22(3):908-15, 2015.
- 023 *Suenaga M, Nishina T, Mizunuma N, Yasui H, Ura T, Denda T, Ikeda J, Esaki T, Nishisaki H, Takano Y, Sugiyama Y, Muro K* : Multicenter phase II study of FOLFIRI plus bevacizumab after discontinuation of oxaliplatin-based regimen for advanced or recurrent colorectal cancer (CR0802). *BMC Cancer* ,15:176, 2015.
- 024 門脇重憲 : 2) 転移性再発頭頸部がんに対する治療法. ⑨ Nedaplatin療法. 頭頸部がん化学療法ハンドブック.編集 : 藤井正人,中外医学社,2014.
- 025 谷口浩也 : 大腸がんにおけるRAS,BRAF遺伝子変異測定の意義.腫瘍内科, 13(2):289-298,2014.
- 026 谷口浩也, 室 圭 : III胃がん治療のpractice②抗EGFR抗体の使いどころ, 効果予測.ガイドラインには載っていない消化管がんPractical Treatment, メジカルビュー社, 64-7, 2014.
- 027 成田有季哉, 高張大亮 : IV胃がん治療のpractice ⑩術前・術後化学療法の考え方.ガイドラインには載っていない消化管がんPractical Treatment, メジカルビュー社, 64-7, 2014.
- 028 舩石俊樹, 室 圭 : 第3章がん患者の栄養障害とその対策-癌治療による消化管への影響- II 化学療法時 ①食思不振, 悪心, 嘔吐. がん患者の輸液・栄養療法, 南山堂, 63-73, 2014.
- 029 野村基雄, 室 圭 : 【レジメン別 プロのコツ】 1.食道がん. 消化器がん化学療法副作用マネジメント プロのコツ, メジカルビュー社, 21-33, 2014.
- 030 成田有季哉, 室 圭 : 胃癌化学療法. 癌と化学療法, 41(9):1091-7, 2014.
- 031 室 圭編 : 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版, 日本医事新報社, 2014.
- 032 野村基雄 : レジメン+症例 食道がん 5 CDDP+5FU+放射線照射, 6 ネダプラチン+5FU+放射線照射. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 19-22, 2014.
- 033 室 圭 : レジメン+症例 胃がん 19 SOX/CapeOX. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 63-6, 2014.
- 034 室 圭 : レジメン+症例 大腸がん 29 SOX+ベバシズマブ. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 101-4, 2014.
- 035 宇良 敬 : レジメン+症例 大腸がん 30FOLFIRI, 31 FOLFIRI +ベバシズマブ. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 105-10, 2014.
- 036 宇良 敬 : レジメン+症例 大腸がん 34FOLFOXIRI, 35FOLFOXIRI+ベバシズマブ. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 120-25, 2014.
- 037 木下史緒理, 谷口浩也 : レジメン+症例 大腸がん 45レゴラフェニブ. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 157-60, 2014.
- 038 室 圭 : レジメン+症例 大腸がん 46トリフルリジン・チピラシル塩酸塩. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 161-4, 2014.
- 039 室 圭 : レジメン+症例 膵がん 50FOLFIRINOX. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 174-9, 2014.
- 040 木下史緒理, 谷口浩也 : レジメン+症例 GIST 55レゴラフェニブ. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 194-6, 2014.
- 041 門脇重憲 : 有害事象4 悪心・嘔吐. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 210-9, 2014.
- 042 野村基雄 : Q&A 支持療法Question13. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 297-300, 2014.
- 043 谷口浩也 : Q&A 大腸がん Question15-16. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 305-310, 2014.
- 044 門脇重憲 : Q&A 胃がん Question29. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 339-341, 2014.
- 045 木下史緒理, 谷口浩也 : Q&A NET Question34. 消化器がん化学療法レジメンブック 第2版,日本医事新報社, 355-7, 2014.
- 046 室 圭 : わが国における大規模無作為化比較試験6 FIRIS,

- SOFT. オンコロジークリニカルガイド消化器癌化学療法, 南山堂, 129-138, 2014.
- 047 谷口浩也: 消化器癌に対する分子標的薬と大規模臨床試験 2 セツキシマブ. オンコロジークリニカルガイド消化器癌化学療法, 南山堂, 174-9, 2014.
- 048 野村基雄, 室 圭: IV治療-3) がんの薬物療法・緩和医療. 消化器病診療, 医学書院, 429-32, 2014.
- 049 舩石俊樹, 谷口浩也: ゲノム解析による個別化治療の現状と今後の方向性 3)大腸がん. 腫瘍内科 vol.14 No.4, 化学評論社, 361-7, 2014.
- 050 野村基雄: <よりよい診療を行うために>放射線療法(照射, IVR). 内科 第114巻 第4号, 南江堂, 623-26, 2014.
- 051 谷口浩也. Beyond KRAS時代の 大腸がん治療と遺伝子検査(会議録). 日本染色体遺伝子検査学会雑誌, 32巻2号 Page21, 2014.
- 052 谷口浩也: Molecular biomarkers to predict outcome in colorectal cancer- current evidence and future perspectives. 癌と化学療法, 41(11):1367-71, 2014.
- 053 小森 梓, 室 圭: 特集2 消化器がんの化学療法 up-to-date 大腸がん. 最新消化器看護, 19(5):48-53, 2014.
- 054 舩石俊樹, 室 圭: Management for adverse events associated with FOLFIRI plus cetuximab or panitumumab. 日本臨牀, 73(2),587-91, 2015.
- 055 成田有季哉: 3.2一次治療として推奨されるレジメン. オンコロジストはこう治療している~大腸癌診療と化学療法~ 全面改訂第2版, ヴェンメディカル:78-96, 2014.
- 臨床検査部・遺伝子病理診断部
- 001 *Tajika M, Matsuo K, Ito H, Chihara D, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Matsumoto K, Nakamura T, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y*: Risk of second malignancies in patients with gastric marginal zone lymphomas of mucosa associate lymphoid tissue (MALT). *J Gastroenterol*, May;49(5):843-52, 2014.
- 002 *Fernandez-Cuesta L, Plenker D, Osada H, Sun R, Menon R, Leenders F, Ortiz-Cuaran S, Peifer M, Bos M, Daßler J, Malchers F, Schöttle J, Vogel W, Dahmen I, Koker M, Ullrich RT, Wright GM, Russell PA, Wainer Z, Solomon B, Brambilla E, Nagy-Mignotte H, Moro-Sibilot D, Brambilla CG, Lantuejoul S, Altmüller J, Becker C, Nürnberg P, Heuckmann JM, Stoelben E, Petersen I, Clement JH, Sängler J, Muscarella LA, la Torre A, Fazio VM, Lahortiga I, Perera T, Ogata S, Parade M, Brehmer D, Vingron M, Heukamp LC, Buettner R, Zander T, Wolf J, Perner S, Ansén S, Haas SA, Yatabe Y, Thomas RK*: CD74-NRG1 fusions in lung adenocarcinoma. *Cancer Discov*, Apr;4(4):415-22, 2014.
- 003 *Kato H, Karube K, Yamamoto K, Takizawa J, Tsuzuki S, Yatabe Y, Kanda T, Katayama M, Ozawa Y, Ishitsuka K, Okamoto M, Kinoshita T, Ohshima K, Nakamura S, Morishima Y, Seto M*: Gene expression profiling of Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma of the elderly reveals alterations of characteristic oncogenetic pathways. *Cancer Sci*, May;105(5):537-44, 2014.
- 004 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Mekky MA, Nagashio Y, Sekine M, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K*: A novel technique for endoscopic transpapillary "mapping biopsy specimens" of superficial intraductal spread of bile duct carcinoma (with videos). *Gastrointest Endosc*, Jun;79(6):1020-5, 2014.
- 005 *Wynes MW, Sholl LM, Dietel M, Schuurin E, Tsao MS, Yatabe Y, Tubbs RR, Hirsch FR.*: An international interpretation study using the ALK IHC antibody D5F3 and a sensitive detection kit demonstrates high concordance between ALK IHC and ALK FISH and between evaluators. *J Thorac Oncol*, May; 9(5):631-8, 2014.
- 006 *Arima C, Kajino T, Tamada Y, Imoto S, Shimada Y, Nakatochi M, Suzuki M, Isomura H, Yatabe Y, Yamaguchi T, Yanagisawa K, Miyano S, Takahashi T*: Lung adenocarcinoma subtypes definable by lung development-related miRNA expression profiles in association with clinicopathologic features. *Carcinogenesis*, Oct;35(10):2224-31, 2014.
- 007 *Suda K, Mizuuchi H, Murakami I, Uramoto H, Tanaka F, Sato K, Takemoto T, Iwasaki T, Sekido Y, Yatabe Y, Mitsudomi T*: CRKL amplification is rare as a mechanism for acquired resistance to kinase inhibitors in lung cancers with epidermal growth factor receptor mutation. *Lung Cancer*, Aug85(2):147-51, 2014.
- 008 *Hirano D, Kato H, Kodaira T, Yatabe Y, Ueda N, Murakami S, Higuchi Y, Taji H, Nakamura S, Yamamoto K, Kinoshita T*: Salvage therapy with single agent L-asparaginase followed by local irradiation in an elderly patient with CD56-positive primary isolated extramedullary T-cell lymphoblastic lymphoma of the sinus. *Ann Hematol*, Jan 94(1):173-5, 2015.
- 009 *Hedditch EL, Gao B, Russell AJ, Lu Y, Emmanuel C, Beesley J, Johnatty SE, Chen X, Harnett P, George J; Australian Ovarian Cancer Study Group, Williams RT, Flemming C, Lambrechts D, Despierre E, Lambrechts S, Vergote I, Karlan B, Lester J, Orsulic S, Walsh C, Fasching P, Beckmann MW, Ekici AB, Hein A, Matsuo K, Hosono S, Nakanishi T, Yatabe Y, Pejovic T, Bean Y, Heitz F, Harter P, du Bois A, Schwaab I, Hogdall E, Kjaer SK,*

- Jensen A, Hogdall C, Lundvall L, Engelholm SA, Brown B, Flanagan J, Metcalf MD, Siddiqui N, Sellers T, Fridley B, Cunningham J, Schildkraut J, Iversen E, Weber RP, Berchuck A, Goode E, Boutell DD, Chenevix-Trench G, deFazio A, Norris MD, MacGregor S, Haber M, Henderson MJ* : ABCA transporter gene expression and poor outcome in epithelial ovarian cancer. *J Natl Cancer Inst*, Jun 23;106(7), 2014.
- 010 *Nakata S, Tanaka H, Ito Y, Hara M, Fujita M, Kondo E, Kanemitsu Y, Yatabe Y, Nakanishi H* : Deficient HER3 expression in poorly-differentiated colorectal cancer cells enhances gefitinib sensitivity. *Int J Oncol*, Oct;45(4):1583-93, 2014.
- 011 *Wang Z, Zhu B, Zhang M, Parikh H, Jia J, Chung CC, Sampson JN, Hoskins JW, Hutchinson A, Burdette L, Ibrahim A, Hautman C, Raj PS, Abnet CC, Adjei AA, Ahlbom A, Albanes D, Allen NE, Ambrosone CB, Aldrich M, Amiano P, Amos C, Andersson U, Andriole G Jr, Andrulis IL, Arici C, Arslan AA, Austin MA, Baris D, Barkauskas DA, Bassig BA, Beane Freeman LE, Berg CD, Berndt SI, Bertazzi PA, Biritwum RB, Black A, Blot W, Boeing H, Boffetta P, Bolton K, Boutron-Ruault MC, Bracci PM, Brennan P, Brinton LA, Brotzman M, Bueno-de-Mesquita HB, Buring JE, Butler MA, Cai Q, Cancel-Tassin G, Canzian F, Cao G, Caporaso NE, Carrato A, Carreon T, Carta A, Chang GC, Chang IS, Chang-Claude J, Che X, Chen CJ, Chen CY, Chen CH, Chen C, Chen KY, Chen YM, Chokkalingam AP, Chu LW, Clavel-Chapelon F, Colditz GA, Colt JS, Conti D, Cook MB, Cortessis VK, Crawford ED, Cussenot O, Davis FG, De Vivo I, Deng X, Ding T, Dinney CP, Di Stefano AL, Diver WR, Duell EJ, Elena JW, Fan JH, Feigelson HS, Feychting M, Figueroa JD, Flanagan AM, Fraumeni JF Jr, Freedman ND, Fridley BL, Fuchs CS, Gago-Dominguez M, Gallinger S, Gao YT, Gapstur SM, Garcia-Closas M, Garcia-Closas R, Gastier-Foster JM, Gaziano JM, Gerhard DS, Giffen CA, Giles GG, Gillanders EM, Giovannucci EL, Goggins M, Gokgoz N, Goldstein AM, Gonzalez C, Gorlick R, Greene MH, Gross M, Grossman HB, Grubb R 3rd, Gu J, Guan P, Haiman CA, Hallmans G, Hankinson SE, Harris CC, Hartge P, Hattinger C, Hayes RB, He Q, Helman L, Henderson BE, Henriksson R, Hoffman-Bolton J, Hohensee C, Holly EA, Hong YC, Hoover RN, Hosgood HD 3rd, Hsiao CF, Hsing AW, Hsiung CA, Hu N, Hu W, Hu Z, Huang MS, Hunter DJ, Inskip PD, Ito H, Jacobs EJ, Jacobs KB, Jenab M, Ji BT, Johansen C, Johansson M, Johnson A, Kaaks R, Kamat AM, Kamineni A, Karagas M, Khanna C, Khaw KT, Kim C, Kim IS, Kim JH, Ki YH, Kim YC, Kim YT, Kang CH, Jung YJ, Kitahara CM, Klein AP, Klein R, Kogevinas M, Koh WP, Kohno T, Kolonel LN, Kooperberg C, Kratz CP, Krogh V, Kunitoh H, Kurtz RC, Kurucu N, Lan Q, Lathrop M, Lau CC, Lecanda F, Lee KM, Lee MP, Le Marchand L, Lerner SP, Li D, Liao LM, Lim WY, Lin D, Lin J, Lindstrom S, Linet MS, Lissowska J, Liu J, Ljungberg B, Lloreta J, Lu D, Ma J, Malats N, Mannisto S, Marina N, Mastrangelo G, Matsuo K, McGlynn KA, McKean-Cowdin R, McNeill LH, McWilliams RR, Melin BS, Meltzer PS, Mensah JE, Miao X, Michaud DS, Mondul AM, Moore LE, Muir K, Niwa S, Olson SH, Orr N, Panico S, Park JY, Patel AV, Patino-Garcia A, Pavanello S, Peeters PH, Peplonska B, Peters U, Petersen GM, Picci P, Pike MC, Porru S, Prescott J, Pu X, Purdue MP, Qiao YL, Rajaraman P, Riboli E, Risch HA, Rodabough RJ, Rothman N, Ruder AM, Ryu JS, Sanson M, Schned A, Schumacher FR, Schwartz AG, Schwartz KL, Schwenn M, Scotlandi K, Seow A, Serra C, Serra M, Sesso HD, Severi G, Shen H, Shen M, Shete S, Shiraishi K, Shu XO, Siddiq A, Sierrasesumaga L, Sierrri S, Loon Sihoe AD, Silverman DT, Simon M, Southey MC, Spector L, Spitz M, Stampfer M, Stattin P, Stern MC, Stevens VL, Stolzenberg-Solomon RZ, Stram DO, Strom SS, Su WC, Sund M, Sung SW, Swerdlow A, Tan W, Tanaka H, Tang W, Tang ZZ, Tardon A, Tay E, Taylor PR, Tettey Y, Thomas DM, Tirabosco R, Tjonneland A, Tobias GS, Toro JR, Travis RC, Trichopoulos D, Troisi R, Truelove A, Tsai YH, Tucker MA, Tumino R, Van Den Berg D, Van Den Eeden SK, Vermeulen R, Vineis P, Visvanathan K, Vogel U, Wang C, Wang C, Wang J, Wang SS, Weiderpass E, Weinstein SJ, Wentzensen N, Wheeler W, White E, Wiencke JK, Wolk A, Wolpin BM, Wong MP, Wrensch M, Wu C, Wu T, Wu X, Wu YL, Wunder JS, Xiang YB, Xu J, Yang HP, Yang PC, Yatabe Y, Ye Y, Yeboah ED, Yin Z, Ying C, Yu CJ, Yu K, Yuan JM, Zanetti KA, Zeleniuch-Jacquotte A, Zheng W, Zhou B, Mirabello L, Savage SA, Kraft P, Chanock SJ, Yeager M, Landi MT, Shi J, Chatterjee N, Amundadottir LT* : Imputation and subset-based association analysis across different cancer types identifies multiple independent risk loci in the TERT-CLPTM1L region on chromosome 5p15.33. *Hum Mol Genet*, Dec 15;23(24):6616-33, 2014.
- 012 *Cutz JC, Craddock KJ, Torlakovic E, Brandao G, Carter RF, Bigras G, Deschenes J, Izevbaye I, Xu Z, Greer W, Yatabe Y, Ionescu D, Karsan A, Jung S, Fraser RS, Blumenkrantz M, Lavoie J, Fortin F, Bojarski A, Côté GB, van den Berghe JA, Rashid*

- Kolvear F, Trotter M, Sekhon HS, Albadine R, Tran-Thanh D, Gorska I, Knoll JH, Xu J, Blencowe B, Iafrate AJ, Hwang DM, Pintilie M, Gaspo R, Couture C, Tsao MS* : Canadian anaplastic lymphoma kinase study: a model for multicenter standardization and optimization of ALK testing in lung cancer. *J Thorac Oncol*, Sep;9(9):1255-63, 2014.
- 013 *Thunnissen E, Noguchi M, Aisner S, Beasley MB, Brambilla E, Chirieac LR, Chung JH, Dacic S, Geisinger KR, Hirsch FR, Ishikawa Y, Kerr KM, Lantejoul S, Matsuno Y, Minami Y, Moreira AL, Pelosi G, Petersen I, Roggli V, Travis WD, Wistuba I, Yatabe Y, Dziadziuszko R, Witte B, Tsao MS, Nicholson AG* : Reproducibility of histopathological diagnosis in poorly differentiated NSCLC: an international multiobserver study. *J Thorac Oncol*, Sep;9(9):1354-62, 2014.
- 014 *Hata A, Masago K, Katakami N, Imai Y, Yatabe Y* : Spatiotemporal T790M heterogeneity in a patient with EGFR-mutant non-small-cell lung cancer. *J Thorac Oncol*, Aug;9(8):e64-5, 2014.
- 015 *Sawaki M, Idota A, Ichikawa M, Gondo N, Horio A, Kondo N, Hattori M, Fujita T, Yatabe Y, Iwata H* : Impact of intrinsic subtype on predicting axillary lymph node metastasis in breast cancer. *Oncol Lett*, Oct;8(4):1707-1712, 2014.
- 016 *Ghoussaini M, Edwards SL, Michailidou K, Nord S, Cowper-Sal Lari R, Desai K, Kar S, Hillman KM, Kaufmann S, Glubb DM, Beesley J, Dennis J, Bolla MK, Wang Q, Dicks E, Guo Q, Schmidt MK, Shah M, Luben R, Brown J, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Klevebring D, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Lambrechts D, Thienpont B, Neven P, Wildiers H, Broeks A, Van't Veer LJ, Th Rutgers EJ, Couch FJ, Olson JE, Hallberg E, Vachon C, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Gibson L, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomäki K, Blomqvist C, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Kang D, Choi JY, Park SK, Noh DY, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Yatabe Y, Guénel P, Truong T, Menegaux F, Sanchez M, Burwinkel B, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Benitez J, Zamora MP, Perez JI, Menéndez P, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai Q, Cox A, Cross SS, Reed MW, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Lindblom A, Margolin S, Teo SH, Yip CH, Lee DS, Wong TY, Hooning MJ, Martens JW, Collée JM, van Deurzen CH, Hopper JL, Southey MC, Tsimiklis H, Kapuscinski MK, Shen CY, Wu PE, Yu JC, Chen ST, Alnæs GG, Borresen-Dale AL, Giles GG, Milne RL, McLean C, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsarn P, Hartman M, Miao H, Buhari SA, Teo YY, Fasching PA, Haeberle L, Ekici AB, Beckmann MW, Brenner H, Dieffenbach AK, Arndt V, Stegmaier C, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Schoemaker MJ, García-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Simard J, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M, Winqvist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Brauch H, Brüning T, Koto YD, Radice P, Peterlongo P, Bonanni B, Volorio S, Dörk T, Bogdanova NV, Helbig S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve C, Van Asperen CJ, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Slager S, Toland AE, Ambrosone CB, Yannoukakos D, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Hamann U, Torres D, Zheng W, Long J, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Maranian M, Healey CS, González-Neira A, Pita G, Alonso MR, Alvarez N, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, de Santiago I, Carroll J, Caldas C, Brown MA, Lupien M, Kristensen VN, Pharoah PD, Chenevix-Trench G, French JD, Easton DF, Dunning AM; Australian Ovarian Cancer Management Group; Australian Ovarian Cancer Management Group* : Evidence that breast cancer risk at the 2q35 locus is mediated through IGFBP5 regulation. *Nat Commun*, Sep 23;4:4999, 2014.
- 017 *Kobayashi Y, Mitsudomi T, Sakao Y, Yatabe Y* : Genetic features of pulmonary adenocarcinoma presenting with ground-glass nodules : the differences between nodules with and without growth. *Ann Oncol*, Jan;26(1):156-61, 2015.
- 018 *Yatabe Y, Thomas RK* : Era of comprehensive cancer genome analyses. *J Clin Oncol*, Dec 20;32(36):4029-30, 2014.
- 019 *Nagashio Y, Hijioka S, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Bhatia V, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Yamao K* : Combination of cyst fluid CEA and CA 125 is an accurate diagnostic tool for differentiating mucinous cystic neoplasms from intraductal papillary mucinous neoplasms. *Pancreatol*, Nov-Dec;14(6):503-9, 2014.
- 020 *Boyle TA, Masago K, Ellison KE, Yatabe Y, Hirsch FR* : ROS1 immunohistochemistry among major genotypes of non-small-cell lung cancer. *Clin Lung Cancer*, Mar;16(2):106-11, 2015.
- 021 *Moritani S, Ichihara S, Yatabe Y, Hasegawa M, Iwakoshi A, Hosoda W, Narita M, Nagai Y, Asai M,*

- Ujihira N, Yuba Y, Jijiwa M* : Immunohistochemical expression of myoepithelial markers in adenomyoepithelioma of the breast: a unique paradoxical staining pattern of high-molecular weight cytokeratins. *Virchows Arch*, Feb;466(2):191-8, 2015.
- 022 *Sano Y, Hashimoto E, Nakatani N, Abe M, Satoh Y, Sakata K, Fujii T, Fujimoto-Ouchi K, Sugimoto M, Nagahashi S, Aoki M, Motegi H, Sasaki E, Yatabe Y* : Combining onartuzumab with erlotinib inhibits growth of non-small cell lung cancer with activating EGFR mutations and HGF overexpression. *Mol Cancer Ther*, Feb;14(2):533-41, 2015.
- 023 谷田部恭 : 【免疫組織化学 診断と治療選択の指針】(第2部)腫瘍の鑑別に用いられる抗体(各臓器別)肺. 病理と臨床(0287-3745)32巻臨増 Page139-147, 2014.
- 024 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正 : 【消化管悪性リンパ腫2014】 消化管原発low-grade lymphoma MALTリンパ腫 胃MALTリンパ腫の診断と治療 診断. 胃と腸(0536-2180)49巻5号 Page603-615, 2014.
- 025 藤田崇史, 林 裕倫, 安藤由明, 角田伸行, 吉本信保, 木村万里子, 堀尾章代, 波戸ゆかり, 宮崎千絵子, 岩田広治, 谷田部恭 : 腫瘍非触知乳頭分泌症に対する乳管造影併用マンモトーム生検の有用性. 乳癌の臨床(0911-2251)29巻2号 Page137-142, 2014.
- 026 森本 守, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 谷田部恭, 山雄健次 : 原発巣術後に卵巣転移を切除した胆嚢癌の1例. 胆道(0914-0077)28巻2号 Page234-241, 2014.
- 027 近藤千晶, 谷田部恭 : 【肺癌:診断と治療の進歩】 診断と検査 病理診断, 遺伝子検査, 바이오マーカー. 日本内科学会雑誌(0021-5384)103巻6号 Page1281-1286, 2014.
- 028 越川 卓, 尾関順子, 柴田典子, 植田菜々絵, 佐々木英一, 村上善子, 細田和貴, 谷田部恭, 長谷川泰久 : 【甲状腺の細胞診の新しい報告様式と技術】 甲状腺癌取扱い規約からベセスダ方式への移行. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌(2186-9545)31巻2号 Page108-114, 2014.
- 029 脇岡 範, 堤 英治, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次 : 【膵NET:ガイドラインの解釈と診療の実際】 膵NENに対するEUSとEUS-FNAの診断の実際 生検診断の有用性と問題点. 胆と膵(0388-9408)35巻7号 Page627-634, 2014.
- 030 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博, 谷田部恭 : 直腸癌腔転移の1例. 臨床外科(0386-9857)69巻10号 Page1268-1272, 2014.
- 031 松井 聡, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 細田和希, 谷田部恭, 山雄健次 : 膵頭十二指腸切除術後3年6 ヶ月で左肝管断端に再発した胆管癌の1例. 胆と膵(0388-9408)35巻9号 Page859-866, 2014.
- 032 谷田部恭 : 【肺癌:最新の分子標的療法】 遺伝子型と組織分類. *Pharma Medica*(0289-5803)32巻11号 Page9-14, 2014.
- 033 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次, 鈴木隆史, 丹羽康正 : 早期胃癌研究会症例 頸部食道異所性胃粘膜から発生した早期食道腺癌の1例. 胃と腸(0536-2180)49巻11号 Page1629-1635, 2014.
- 034 新田壮平, 伊藤潤平, 長谷川俊之, 村上善子, 佐々木英一, 細田和貴, 谷田部恭 : 肺末梢に発生した粘液産生の著明な孤在性乳頭腫の1例. 診断病理(1345-6431)31巻4号 Page380-383, 2014.
- 035 谷田部恭 : 論文査読のしくみ. 病理と臨床(0287-3745)32巻12号 Page1394-1395, 2014.
- 036 森 祐紀, 越川 卓, 尾関順子, 柴田典子, 植田菜々絵, 佐々木英一, 村上善子, 細田和貴, 谷田部恭, 長谷川泰久 : 甲状腺細胞診陰性症例におけるTSH測定の有用性. 日本臨床細胞学会雑誌(0387-1193)53巻5号 Page356-361, 2014.
- 037 谷田部恭 : 【がん分子診断のパラダイムシフト】 肺がんの融合遺伝子診断 新たな課題. 最新医学(0370-8241)69巻12号 Page2542-2547, 2014.

頭頸部外科

- 001 *Tahara M, Onozawa Y, Fujii H, Monden N, Yana I, Otani S, Hasegawa Y* : Feasibility of cisplatin/5-fluorouracil and panitumumab in japanese patients with squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn J Clin Oncol*, 44(7):661-9, 2014.
- 002 *Yoshimoto S, Nakashima T, Fujii T, Matsuura K, Otsuki N, Asakage T, Fujimoto Y, Hanai N, Homma A, Monden N, Okami K, Sugawara M, Hasegawa Y, Nibu K, Kamata SE, Kishimoto S, Kohno N, Fukuda S, Hisa Y* : Japanese Board Certification System for head and neck surgeons. *Auris Nasus Larynx*, 41:327-330, 2014.
- 003 *Sakashita T, Homma A, Hayashi R, Kawabata K, Yoshino K, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K, Matsuura K, Monden N, Fujii M* : The role of initial neck dissection for patients with node-positive oropharyngeal squamous cell carcinomas. *Oral Oncol*, 50(7):657-61, 2014.
- 004 *Kano S, Hayashi R, Homma A, Matsuura K, Kato K, Kawabata K, Monden N, Hasegawa Y, Onitsuka T, Fujimoto Y, Iwae S, Okami K, Matsuzuka T, Yoshino K, Fujii M* : Effect of local extension sites on survival in locally advanced maxillary sinus cancer. *Head Neck*, 36(11):1567-72, 2014.
- 005 *Ijichi K, Adachi M, Ogawa T, Hasegawa Y, Murakami S* : Cell-cycle distribution and thymidilate synthetase (TS) expression correlate with 5-FU

- resistance in head and neck carcinoma cells. *Anticancer Res*, 34(6):2907-11, 2014.
- 006 **Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Suzuki H, Fukuda Y, Hasegawa Y** : The nodal response to chemoselection predicts the risk of recurrence following definitive chemoradiotherapy for pharyngeal cancer. *Acta Otolaryngol*, 134(8):865-71, 2014.
- 007 **Suzuki H, Kato K, Fujimoto Y, Itoh Y, Hiramatsu M, Naganawa S, Hasegawa Y, Nakashima T** : Prognostic value of (18)F-fluorodeoxyglucose uptake before treatment for pharyngeal cancer. *Ann Nucl Med*, 28(4):356-62, 2014.
- 008 **Ijichi K, Hanai N, Kawakita D, Ozawa T, Suzuki H, Hirakawa H, Kodaira T, Murakami S, Hasegawa Y** : Selection of therapeutic treatment with alternating chemoradiotherapy for larynx preservation in laryngeal carcinoma patients. *Jpn J Clin Oncol*, 44(11):1063-9, 2014.
- 009 **Nishikawa D, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Suzuki H, Nakashima T, Hasegawa Y** : Role of induction chemotherapy for N3 head and neck squamous cell carcinoma. *Auris Nasus Larynx*, 42(2):150-5, 2015.
- 010 **Suzuki H, Nishio M, Hanai N, Hirakawa H, Tamaki T, Hasegawa Y** : Correlation between 18F-FDG-uptake and in vitro chemosensitivity of cisplatin in head and neck cancer. *Anticancer Res*, 35(2):1009-16, 2015.
- 011 **Tsukahara K, Kubota A, Hasegawa Y, Takemura H, Terada T, Taguchi T, Nagahara K, Nakatani H, Yoshino K, Higaki Y, Iwae S, Beppu T, Hanamura Y, Tomita K, Kohno N, Kawabata K, Fukushima M, Teramukai S, Fujii M; ACTS-HNC group** : Randomized Phase III Trial of Adjuvant Chemotherapy with S-1 after Curative Treatment in Patients with Squamous-Cell Carcinoma of the Head and Neck (ACTS-HNC). *PLoS One*, 10(2):e0116965, 2015.
- 012 **Sakashita T, Hayashi R, Homma A, Matsuura K, Kato K, Kawabata K, Monden N, Hasegawa Y, Onitsuka T, Fujimoto Y, Iwae S, Okami K, Matsuzuka T, Yoshino K, Fujii M** : Multi-institutional retrospective study for the evaluation of ocular function-preservation rates in maxillary sinus squamous cell carcinomas with orbital invasion. *Head Neck*, 37(4):537-42, 2015.
- 013 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 小出悠介, 別府慎太郎, 西川大輔, 中多祐介, 木村隆浩, 長谷川泰久 : 化学放射線療法後の頸部郭清術. 頭頸部癌, 40(1):23-27, 2014.
- 014 花井信広 : 再発・遠隔転移に対する化学療法. *JOHNS*, 30(8):981-984, 2014.
- 015 花井信広, 長谷川泰久 : 【こんなときどうする】頭頸部外科学領域 進行中咽頭癌の手術で下顎正中離断が必要かどうか迷ってしまう!. *JOHNS*, 30(9):1365-1367, 2014.
- 016 平川 仁, 長谷川泰久 : Head and Neck Cancer 頭頸部癌 II. 頭頸部癌領域のセンチネルナビゲーション手術. 癌と化学療法, 41(7):837-841, 2014.
- 形成外科部
- 001 **Mizukami T, Hyodo I, Fukamizu H** : Free jejunal flap transfer for pharyngoesophageal reconstruction in patients with intestinal malrotation: two case reports. *Microsurgery*, 2014 Oct;34(7):582-5.
- 002 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 水上高秀 : 肋骨再建後の長期経過. 日本口腔腫瘍学会誌, 26巻3号p89-94, 2014.9.
- 003 中村亮太, 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 澤本尚哉, 桑田知幸, 亀井 譲 : 既頸部郭清例における遊離組織移植の検討. 頭頸部癌, 40巻4号 Page502-506, 2014.12.
- 呼吸器外科部
- 001 **Sakao Y, Kuroda H, Mun M, Uehara H, Motoi N, Ishikawa Y, Nakagawa K, Okumura S** : Prognostic significance of tumor size of small lung adenocarcinomas evaluated with mediastinal window settings on computed tomography. *PLoS One*, 9(11), 2014 .
- 002 **Kuroda H, Hashidume T, Shimanouchi M, Sakao Y** : Resection of a ruptured mature cystic teratoma diagnosed two years after the onset of perforation. *World J Surg Onco*, 12(1):321, 2014.
- 003 **Kobayashi Y, Mitsudomi T, Sakao Y, Yatabe Y** : Genetic features of pulmonary adenocarcinoma presenting with ground-glass nodules : the differences between nodules with and without growth. *Ann Oncol*, 26(1) : 156-61, 2015.
- 004 **Ozeki N, Fukui T, Taniguchi T, Usami N, Kawaguchi K, Ito S, Sakao Y, Mitsudomi T, Hirakawa A, Yokoi K** : Significance of the serum carcinoembryonic antigen level during the follow-up of patients with completely resected non-small-cell lung cancer. *Eur J Cardiothorac Surg*, 45(4):687-92, 2014.
- 005 **Ebi H, Oze I, Nakagawa T, Ito H, Hosono S, Matsuda F, Takahashi M, Takeuchi S, Sakao Y, Hida T, Faber AC, Tanaka H, Yatabe Y, Mitsudomi T, Yano S, Matsuo K** : Lack of association between the BIM deletion polymorphism and the risk of lung cancer with and without EGFR mutations. *J Thorac Oncol*, 10(1):59-66, 2015.
- 006 **Tomizawa K, Usami N, Fukumoto K, Sakakura N, Fukui T, Ito S, Hatooka S, Kuwano H, Mitsudomi T, Sakao Y** : Risk assessment of perioperative mortality after pulmonary resection in patients with primary lung cancer: the 30- or 90-day mortality. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 62(5):308-13, 2014.

007 *Tomizawa K, Suda K, Takemoto T, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Iwasaki T, Sakaguchi M, Kuwano H, Mitsudomi T, Sakao Y* : Prognosis and segment-specific nodal spread of primary lung cancer in the right lower lobe: Segment specific nodal spread. *Thoracic Cancer*, DOI:10.1111/1759-7714.12235 · 0.65 Impact Factor, 2015.

008 *Gorai A, Sakao Y, Kuroda H, Uehara H, Mun M, Ishikawa Y, Nakagawa K, Masuda M, Okumura S* : The clinicopathological features associated with skip N2 metastases in patients with clinical stage IA non-small-cell lung cancer. *European journal of cardio-thoracic surgery. official journal of the European Association for Cardio-thoracic Surgery* 06/2014; 47(4). DOI:10.1093/ejcts/ezu244 · 2.81 Impact Factor, 2014.

009 *Yano M, Yoshida J, Koike T, Kameyama K, Shimamoto A, Nishio W, Yoshimoto K, Utsumi T, Shiina T, Watanabe A, Yamato Y, Watanabe T, Takahashi Y, Sonobe M, Kuroda H, Oda M, Inoue M, Tanahashi M, Adachi H, Saito M, Hayashi M, Otsuka H, Mizobuchi T, Moriya Y, Takahashi M, Nishikawa S, Matsumura Y, Moriyama S, Nishiyama T, Fujii Y* : Survival of 1737 lobectomy-tolerable patients who underwent limited resection for cStage I A non-small cell lung cancer. *European Journal of Cardio-Thoracic Surgery*, 47(1):135-42, 2015.

010 *Nakada T, Okumura S, Kuroda H, Uehara H, Mun M, Takeuchi K, Nakagawa K* : Imaging Characteristics in ALK Fusion-Positive Lung Adenocarcinomas by using HRCT. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*, 21(2):102-8, 2015.

011 *Dejima H, Morita S, Takahashi Y, Matsutani N, Iinuma H, Kondo F, Kawamura M* : A case of invasive Langerhans cell histiocytosis localizing only in the lung and diagnosed as pneumothorax in an adolescent female. *Int J Clin Exp Pathol*, 8(3):3354-7, 2015.

012 浅井芳人, 眞鍋維志, 梅沢洗太郎, 川田博, 赤坂喜清, 黒田浩章: 大量胸水を契機に診断された関節リウマチ合併ホジキンリンパ腫の1例. *日本胸部臨床* 73(9): 1123-1128, 2014.

013 直海 晃, 親松裕典, 成田久仁夫: 胸腺全摘術が有効と思われた胸腺腫合併難治性口腔内扁平苔癬の1例. *肺癌* 54(7), 947-950, 2014.

014 直海 晃, 親松裕典, 成田久仁夫: Bochdalek孔ヘルニアと鑑別を要した横隔膜脂肪腫の1例. *胸部外科* 67, :942-945, 2014.

015 直海 晃, 親松裕典, 成田久仁夫: 散弾銃による胸腹部ならびに四肢損傷. *胸部外科* 68, 98-101, 2015.

016 出嶋 仁, 川村雅文: CTの3D再構築で声門下腔の狭窄を認めた成人クループの1症例. *日本気管食道科学会会報* 66, :20-24, 2015.

乳腺科部

001 *Yamshiro H, Iwata H, Masuda N, Yamamoto N, Nishimura R, Ohtani S, Sato N, Takahashi M, Kamio T, Yamazaki K, Saito T, Kato M, Lee T, Ohno S, Kuroi K, Takano T, Takada M, Yasuno S, Morita S, Toi M* : Outcomes of trastuzumab therapy in HER2-positive early breast cancer patients. *International Journal of Clinical Oncology*, [Epub ahead of print], 2015.

002 *Ito Y, Masuda N, Iwata H, Mukai H, Horiguchi J, Tokuda Y, Kuroi K, Mori A, Ohno N, Noguchi S* : Everolimus plus exemestane in postmenopausal patients with estrogen-receptor-positive advanced breast cancer - Japanese subgroup analysis of BOLERO-2. *癌と化学療法* 2015 Jan; 42(1), 67-75, 2015.

003 *Glubb DM, Maranian MJ, Michailidou K, Pooley KA, Meyer KB, Kar S, Carlebur S, O'Reilly M, Betts JA, Hillman KM, Kaufmann S, Beesley J, Canisius S, Hopper JL, Southey MC, Tsimiklis H, Apicella C, Schmidt MK, Broeks A, Hogervorst FB, van der Schoot CE, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsarn P, Fasching PA, Ruebner M, Ekici AB, Beckmann MW, Peto J, dos-Santos-Silva I, Fletcher O, Johnson N, Pharoah PD, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Yang R, Surowy H, Guénel P, Truong T, Menegaux F, Sanchez M, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, González-Neira A, Benitez J, Zamora MP, Arias Perez JI, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Brenner H, Dieffenbach AK, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Schmutzler RK, Brauch H, Ko YD, Brüning T; GENICA Network, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomäki K, Blomqvist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tanaka H, Dörk T, Bogdanova NV, Helbig S, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM; kConFab Investigators, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Lambrechts D, Zhao H, Weltens C, van Limbergen E, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Rudolph A, Seibold P, Radice P, Peterlongo P, Barile M, Capra F, Couch FJ, Olson JE, Hallberg E, Vachon C, Giles GG, Milne RL, McLean C, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M, Teo SH, Yip CH, See MH, Cornes B, Cheng CY, Ikram MK, Kristensen V; Norwegian Breast Cancer Study, Zheng W, Halverson SL, Shrubsole*

- M, Long J, Winqvist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve C, Van Asperen CJ, García-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Czene K, Klevebring D, Darabi H, Eriksson M, Hooning MJ, Hollestelle A, Martens JW, Collée JM, Hall P, Li J, Humphreys K, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Cox A, Cross SS, Reed MW, Blot W, Signorello LB, Cai Q, Shah M, Ghousaini M, Kang D, Choi JY, Park SK, Noh DY, Hartman M, Miao H, Lim WY, Tang A, Hamann U, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Durda K, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Olswold C, Slager S, Toland AE, Yannoukakos D, Shen CY, Wu PE, Yu JC, Hou MF, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Jones M, Pita G, Alonso MR, Álvarez N, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Healey CS, Brown MA, Ponder BA, Chenevix-Trench G, Thompson DJ, Edwards SL, Easton DF, Dunning AM, French JD* : Fine-scale mapping of the 5q11.2 breast cancer locus reveals at least three independent risk variants regulating MAP3K1. *Am J Hum Genet.* 2015 Jan 8;96(1):5-20. doi: 10.1016/j.ajhg.2014.11.009. Epub 2014 Dec 18, 2014.
- 004 *Hayashi N, Niikura N, Masuda N, Takashima S, Nakamura R, Watanabe K, Kanbayashi C, Ishida M, Hozumi Y, Tsuneizumi M, Kondo N, Naito Y, Honda Y, Matsui A, Fujisawa T, Oshitanai R, Yasojima H, Yamauchi H, Saji S, Iwata H* : Prognostic factors of HER2-positive breast cancer patients who develop brain metastasis: a multicenter retrospective analysis. *Breast Cancer Research and Treatment.* 2015 Jan;149(1):277-84. doi: 10.1007/s10549-014-3237-7. Epub 2014 Dec 21, 2015.
- 005 *Yamamoto H, Ando M, Aogi K, Iwata H, Tamura K, Yonemori K, Shimizu C, Hara F, Takabatake D, Hattori M, Asakawa T, Fujiwara Y* : Phase I and pharmacokinetic study of trastuzumab emtansine in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer. *Jpn J Clin Oncol.* 2015 Jan;45(1):12-8. doi: 10.1093/jjco/hyu160. Epub 2014 Oct 20, 2015.
- 006 *Niikura N, Hayashi N, Masuda N, Takashima S, Nakamura R, Watanabe K, Kanbayashi C, Ishida M, Hozumi Y, Tsuneizumi M, Kondo N, Naito Y, Honda Y, Matsui A, Fujisawa T, Oshitanai R, Yasojima H, Tokuda Y, Saji S, Iwata H* : Treatment outcomes and prognostic factors for patients with brain metastases from breast cancer of each subtype: a multicenter retrospective analysis. *Breast Cancer Research and Treatment.* 2014 Aug;147(1):103-12. doi: 10.1007/s10549-014-3090-8. Epub 2014 Aug 9, 2014.
- 007 *Shien T, Iwata H, Fukutomi T, Inoue K, Aogi K, Kinoshita T, Ando J, Takashima S, Nakamura K, Shibata T, Fukuda H* : Tamoxifen plus tegafururacil (TUFT) versus tamoxifen plus Adriamycin (doxorubicin) and cyclophosphamide (ACT) as adjuvant therapy to treat node-positive premenopausal breast cancer (PreMBC) : results of Japan Clinical Oncology Group Study 9404. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2014 Sep;74(3):603-9. doi: 10.1007/s00280-014-2545-2. Epub 2014 Jul 24, 2014.
- 008 *Ando M, Yamauchi H, Aogi K, Shimizu S, Iwata H, Masuda N, Yamamoto N, Inoue K, Ohono S, Kuroi K, Hamano T, Sukigara T, Fujiwara Y* : Randomized phase II study of weekly paclitaxel with and without carboplatin followed by cyclophosphamide/epirubicin/5-fluorouracil as neoadjuvant chemotherapy for stage II/IIIA breast cancer without HER2 overexpression. *Breast Cancer Research and Treatment.* 2014 Jun;145(2):401-9. doi: 10.1007/s10549-014-2947-1. Epub 2014 Apr 12, 2014.
- 009 *Shien T, Iwata H, Aogi K, Fukutomi T, Inoue K, Kinoshita T, Takahashi M, Matsui A, Shibata T, Fukuda H* : Tamoxifen versus tamoxifen plus doxorubicin and cyclophosphamide as adjuvant therapy for node-positive postmenopausal breast cancer: results of a Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG9401). *Int J Clin Oncol.* 2014 Dec;19(6):982-8. doi: 10.1007/s10147-013-0657-z. Epub 2014 Jan 7, 2014.
- 010 *Sawaki M* : Anti-HER2 Therapy in Elderly Breast Cancer Patients. *Rev Recent Clin Trials,* 9: 263-266, 2014.
- 011 *Sawaki M, Idota A, Ichikawa M, Gondo N, Horio A, Kondo N, Hattori M, Fujita T, Yatabe Y, Iwata H* : Impact of Intrinsic Subtype on Predicting Axillary Lymph Node Metastasis in Breast Cancer. *Oncology letters* 8: 1707-1712, 2014.
- 012 *Sawaki M* : Trastuzumab emtansine in the treatment of HER2-positive metastatic breast cancer in Japanese patients. *Breast Cancer: Targets and Therapy,* 6: 37-41, 2014.
- 013 *Sawaki M* : Is Intraoperative Radiotherapy a standard technique for Early Breast Cancer? *J Cancer Biol Res* ,2 (1): 1015-1018, 2014.
- 014 *Sawaki M, Kondo N, Horio A, Ushio A, Gondo N, Adachi E, Hattori M, Fujita T, Tachibana H, Kodaira T, Iwata H* : Feasibility of Intraoperative Radiation Therapy for Early Breast Cancer in Japan: A Single-center Pilot Study and Literature Review. *Breast Cancer,* 21: 415-422, 2014.
- 015 *Sugishita M, Imai T, Kikumori T, Mitsuma A,*

Shimokata T, Shibata T, Morita S, Inada-Inoue M, Sawaki M, Hasegawa Y, Ando Y : Pharmacogenetic association between GSTP1 genetic polymorphism and febrile neutropenia in Japanese patients with early breast cancer. *Breast Cancer*, 2014 Jul 10. [Epub ahead of print].

016 *Yamamoto H, Ando M, Aogi K, Iwata H, Tamura K, Yonemori K, Shimizu C, Hara F, Takabatake D, Hattori M, Asakawa T, Fujiwara Y* : Phase I and pharmacokinetic study of trastuzumab emtansine in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol* 45(1), 12, 2015.

017 *Kotani H, Yoshimura A, Adachi Y, Ishiguro J, Hisada T, Ichikawa M, Gondou N, Hattori M, Kondou N, Sawaki M, Fujita T, Iwata H* : Sentinel lymph node biopsy is not necessary in patients diagnosed with ductal carcinoma in situ of the breast by stereotactic vacuum-assisted biopsy. *Breast Cancer*, 2014 Jul 3. [Epub ahead of print].

018 *Inada-Inoue M, Ando Y, Kawada K, Mitsuma A, Sawaki M, Yokoyama T, Sunakawa Y, Ishida H, Araki K, Yamashita K, Mizuno K, Nagashima F, Takekura A, Nagamatsu K, Sasaki Y* : Phase I study of pazopanib alone or combined with lapatinib in Japanese patients with solid tumors. *Cancer Chemother Pharmacol*, 73 (4): 673-83, 2014.

019 澤木正孝 : Learn more from previous clinical trial; NSABP B-41試験からの考察. *がん分子標的治療 第12巻第4号*, メディカルレビュー社, pp95-98 (463-466), 2015.

020 澤木正孝, 岩田広治 : 高齢者乳がん治療の現状と課題. *腫瘍内科*第13巻第2号, 科学評論社, pp198-204, 2014.

021 澤木正孝, 岩田広治 : 乳がん, 最新がん薬物療法学. *日本臨床*72巻 増刊号2 (通巻第1054号)日本臨床社, pp328-332, 2014.

022 藤田崇史, 林 裕倫, 安藤由明, 角田伸行, 吉本信保, 木村万里子, 堀尾章代, 波戸ゆかり, 宮崎千絵子, 岩田広治, 谷田部恭 : 腫瘍非触知乳頭分泌症に対する乳管造影併用マンモトーム生検の有用性. *乳癌の臨床*29(2), 137-142, 2014.

023 服部正也, 岩田広治 : 抗血管新生. *Pharma Medica* 32巻, 25, 2014.

024 服部正也, 岩田広治 : PI3K/AKT/mTOR阻害剤の開発状況. *腫瘍内科*14巻, 228, 2014.

025 服部正也 : CASE54 CAF/AC療法におけるB型肝炎の劇症化. *がん化学療法における有害事象管理の実際*, 120, 2014.

026 服部正也 : CASE58 Taxaneによるアレルギー (taxane-based). *がん化学療法における有害事象管理の実際*, 128, 2014.

027 安立弥生, 服部正也, 石黒淳子, 市川茉莉, 小谷はるる, 久田知可, 吉村章代, 近藤直人, 澤木正孝, 藤田崇史, 安藤正志, 岩田広治 : エリブリン治療後の新規遠隔転移出現

と次化学療法の治療効果についての検討. *乳癌の臨床*30(2), 127-132, 2015.

消化器外科部

【原著】

001 *Osawa T, Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Yamaura H, Inaba Y* : [Long-Term Survival of a Patient with Sigmoid Colon Cancer Showing Multiple Liver Metastases Treated by Performing Partial Hepatectomy, Five Years after Achieving a Complete Response via Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 41(10), 1241-1244, 2014.

002 *Imaoka H, Shimizu Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Ogura T, Obayashi T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Yamaura H, Kato M, Niwa Y, Yamao K* : Ring-enhancement pattern on contrast-enhanced CT predicts adenocarcinoma of the pancreas: a matched case-control study. *Pancreatol*, 14(3), 221-226, 2014.

003 *Hijioka S, Shimizu Y, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Mekky M, Bhatia V, Nagashio Y, Hasegawa T, Shinagawa A, Sekine M, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, MD, Niwa Y, Yamao K* : Can Long-Term Follow-Up Strategies Be Determined Using a Nomogram-Based Prediction Model of Malignancy Among Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas?. *Pancreas*, 43(3), 367-387, 2014.

004 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Mohamed A. Mekky, Nagashio Y, Sekine M, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : A novel technique for endoscopic transpapillary “mapping biopsy specimens” of superficial intraductal spread of bile duct carcinoma (with videos). *GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY*, 79(6), 1020-1025, 2014.

005 *Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Sano T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Kawai R, Shimizu Y* : Complications associated with postoperative adjuvant radiation therapy for advanced rectal cancer. *Int Surg*, 99(2), 100-105, 2014.

006 *Sato T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Bhatia V, Kobayashi N, Endo I, Maeda S, Nakajima A, Kubota K, Yamao K* : Gastroduodenal stenting with Niti-S stent: Long-term benefits and additional stent intervention. *Dig Endosc*, 27(1), 121-129, 2014.

007 *Kubo S, Kinoshita M, Takemura S, Tanaka S, Shinkawa H, Nishioka T, Hamano G, Ito T, Abue M, Aoki M, Nakagawa K, Unno M, Hijioka S, Fujiyoshi*

- T, Shimizu Y, Mizuguchi T, Shirabe K, Nishie A, Oda Y, Takenaka K, Kobarai T, Hisano T, Saiura A, Numao H, Toda M, Kuwae Y, Nakanuma Y, Endo G* : Characteristics of printing company workers newly diagnosed with occupational cholangiocarcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 21(11),809-817,2014.
- 008 *Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawai R, Kawakami J, Asano T, Iwata Y, Kurahashi S, Tsutsuyama M, Shigeyoshi I, Shimizu Y* : The Current Status of Emergency Operations at a High-Volume Cancer Center. *Int Surg*, 99(6),719-722,2014.
- 009 *Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Yamao K, Hirono S, Osanai M, Hijioka S, Kanemitsu Y, Sano T, Senda Y, Bhatia V, Yanagisawa A* : Validation of a Nomogram for Predicting the Probability of Carcinoma in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm in 180 Pancreatic Resection Patients at 3 High-Volume Centers. *Pancreas*,44(3),459-464,2015.
- 010 *Ando M, Shimizu Y, Sano T, Senda Y, Nimura Y, Yamao K, Nagino M, Yanagisawa A* : Poor prognosis of common-type invasive ductal carcinomas that originate in the branching pancreatic duct. *Surg Today*, 24, 2014.
- 011 *Nagashio Y, Hijioka S, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Bhatia V, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Yamao K* : Combination of cyst fluid CEA and CA 125 is an accurate diagnostic tool for differentiating mucinous cystic neoplasms from intraductal papillary mucinous neoplasms. *Pancreatology*,14(6),503-509,2014.
- 012 *Sekine M, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Ito S, Misawa K, Ito Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Ohnishi H, Yamao K* : Clinical course of gastrointestinal stromal tumor diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration. *Digestive Endoscopy*, 27(1),44-52,2014.
- 013 *Uemura N, Kondo T* : Current status of predictive biomarkers for neoadjuvant therapy in esophageal cancer. *World Journal of Gastrointestinal Pathophysiology*, 15(5),322-334,2014.
- 014 *Ueno H, Hase K, Hashiguchi Y, Shimazaki H, Yoshii S, Kudo SE, Tanaka M, Akagi Y, Suto T, Nagata S, Matsuda K, Komori K, Yoshimatsu K, Tomita Y, Yokoyama S, Shinto E, Nakamura T, Sugihara K* : Novel risk factors for lymph node metastasis in early invasive colorectal cancer: a multi-institution pathology review. *Journal of Gastroenterol*,49(9),1314-1323,2014.
- 015 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 水野伸匡, 山雄健次, 木下 平 : 膵癌術後補助化学療法の最近の動向. *消化器外科*,37(4),471-477,2014.
- 016 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 肘岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 永塩美邦, 関根匡成, 坂本康成, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 【胆膵癌の化学療法の最前線】当院における切除不能進行膵癌に対するゲムシタピン+erlotinib併用化学療法の使用経験. *消化器内科*,58(6),798-803,2014.
- 017 脇岡 範, 堤 英治, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部 恭, 丹羽康正, 山雄健次 : 【膵NET:ガイドラインの解釈と診療の実際】膵NENに対するEUSとEUS-FNAの診断の実際 生検診断の有用性と問題点. *胆と膵*,35(7),627-634,2014.
- 018 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平 : 【癌の補助療法アップデート】胃癌の術前補助化学療法 現在の適応と今後の展望. *臨床外科*,69(6),668-672,2014.
- 019 金光幸秀, 志田 大, 塚本俊輔, 落合大樹, 小森康司, 森谷宜皓 : 直腸癌局所再発に対する治療. *日本消化器病学会雑誌*,111(11),2113-2120,2014.
- 020 森田千尋, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策 : 腹腔鏡下胃切除術の術中ナビゲーションシステムにおける局所レジストレーション手法の開発. *MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY*,32,1-6,2014.
- 021 唐澤健一, 林 雄一郎, 二村幸孝, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策 : 個別尤度マップを用いた3次元腹部CT像からの膵臓領域セグメンテーション手法. *MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY*,32,1-8,2014.
- 022 北坂孝幸, 石川浩太, 山田真弘, 木原一輝, 澤野弘明, 水野慎士, 末永康仁, 三澤一成, 森 健策 : 開腹手術映像における遮蔽物除去手法の基礎的検討. *MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY*,32,1-4,2014.
- 023 佐藤健司, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策 : 時空間特徴照合による腹腔鏡手術映像へのタグ付け. *MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY*, 32,1-7,2014.
- 024 金城和寿, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 二宮 豪, 安部哲也, 小森康司, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 木下平 : 幽門周囲リンパ節転移から見た幽門保存胃切除術の適応. *日本臨床外科学会雑誌*,76(10),2671-2678,2014.
- 025 三澤一成 : 【医用画像に基づく計算解剖学の創成と診断・治療支援の高度化】計算解剖学 公募研究からの報告 計算解剖学実現のための数理的解剖情報データベース構築と診療支援システムの臨床応用(2010-2011年度). *INNERVISION*,29(1),49,2014.
- 026 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博 : 【StageIV大腸癌に対する外科的治療戦略】StageIV大腸癌の複数転移臓器切除のは非当科の大腸癌複数転移臓器に対するストラテジー(解説/特集). *外科*,77(1),44-50,2015.

【症例検討】

- 001 **Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Kawai R, Osawa T, Kawakami J, Asano T, Iwata Y, Kurahashi S, Shimizu Y**: Sterile abdominal abscess resulting from remnant laparoscopic clips after sigmoidectomy: a case report and literature review. *Asian Journal of Endoscopic Surgery*,7(3),264-266,2014.
- 002 森本 守, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 谷田部恭, 山雄健次: 原発巣術後に卵巣転移を切除した胆嚢癌の1例. *胆道*,28,234-241,2014.
- 003 松井 聡, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 膵頭十二指腸切除術後3年6カ月で左肝管断端に再発した胆管癌の1例. *胆と膵*,35(9),859-866,2014.
- 004 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博, 谷田部恭: 直腸癌腫転移の1例. *臨床外科*,69(10),1268-1272,2014.
- 005 藤吉俊尚, 脇岡 範, 今岡 大, 原和生, 水野伸匡, 田中 努, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 印刷業に従事し塩素系有機溶剤に暴露の既往がある労災認定された胆管癌の1例. *日本消化器病学会雑誌*,111(12),2346-2354,2014.
- 006 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博: 骨盤内臓全摘術中, 重複尿管を認めた1例. *手術*,68(13),1749-1751,2014.
- 007 山口真澄, 榊原由美子, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 金光幸秀: 術後放射線療法晩期合併症として回腸膀胱瘻をきたした1症例. *東海ストーマリハビリテーション研究会誌*,34,45-50,2014.
- 008 伊藤友一, 倉橋真太郎, 伊藤誠二, 三澤一成, 丹羽康正, 谷田部 恭, 清水泰博: S-1/CDDP療法により組織学的CRが得られた腹膜転移を伴う高度進行胃癌の1例. *癌と化学療法*,42(3),355-358,2015.
- 009 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 浅野智成, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 清水泰博, 篠田雅幸: リピオドールリンパ管造影および選択的胸膜癒着術が有効であった食道癌サルベージ術後難治性乳糜胸の1例. *日本消化器外科学会雑誌*,47(11),659-667,2014.

その他誌上发表

【解説】

- 001 清水泰博: IPMNの手術適応. *医学のあゆみ*,249(2),156-161,2014.
- 002 三澤一成: 【医用画像に基づく計算解剖学の創成と診断・治療支援の高度化】計算解剖学 公募研究からの報告 計算解剖学実現のための数理解剖情報データベース構築と診療支援システムの臨床応用(2010-2011年度). *INNERVISION*, 29(1),49-,2014.

【座談会】

- 001 上坂克彦, 村上義昭, 清水泰博, 元井冬彦, 上野秀樹: 膵癌の外科治療 過去・現在・未来. *膵・胆道癌 Frontier*,5(1),2186-3504,2015.

【Video】

- 001 **Misawa K, Ito S, Ito Y, Kawai R, Uemura N, Natsume S, Kinoshita T, Kimura K, Senda Y, Abe T, Shimizu Y, Kinoshita T**: Reduced-Port Distal Gastrectomy for Gastric Cancer Using Two Needle Devices, a GelPOINTTM Device, and an Umbilical Zigzag Incision. *Journal of Laparoendoscopic & Advanced Surgical Techniques & Part B, Videoscopy*, 24, 2014.

整形外科部

- 001 **Arai E, Sugiura H, Tsukushi S, Nakashima H, Urakawa H, Kozawa E, Ishiguro N, Nishida Y**: Residual tumor after unplanned excision reflects clinical aggressiveness for soft tissue sarcomas. *Tumour Biol*, 35:8043-8049, 2014.
- 002 **Nishida Y, Tsukushi S, Urakawa H, Sugiura H, Nakashima H, Yamada Y, Ishiguro N**: High incidence of regional and in-transit lymph node metastasis in patients with alveolar rhabdomyosarcoma. *Int J Clin Oncol*, 19:536-543, 2014.
- 003 **Urakawa H, Tsukushi S, Hosono K, Sugiura H, Yamada K, Yamada Y, Kozawa E, Arai E, Futamura N, Ishiguro N, Nishida Y**: Clinical factors affecting pathological fracture and healing of unicameral bone cysts. *BMC Musculoskelet Disord*, [Epub ahead of print],2014.
- 004 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 腫瘍用人工関節置換術後に深部感染を来した3例. *中部整災誌*, 57:333-334, 2014.
- 005 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 非浸潤型および浸潤型血管脂肪腫の臨床的特徴と手術法についての検討. *中部整災誌*, 57:751-752, 2014.
- 006 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 腹斜筋内に認めた浸潤型血管脂肪腫の1例. *臨床整形外科*, 49:639-644, 2014.
- 007 吉田雅博, 中島浩敦, 宮本健太郎, 浦野 誠, 黒田 誠: 左上腕骨骨腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍*, 26:1-2, 2014.
- 008 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃, 谷田部 恭: 右下腿軟部腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍*, 26:9-10, 2014.
- 009 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃, 長谷川俊之, 佐々木英一, 谷田部 恭: 左脛骨骨腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍*, 26:21-22, 2014.
- 010 長谷川弘晃, 吉田雅博, 杉浦英志, 伊藤潤平, 佐々木英一, 谷田部 恭: 左大腿部軟部腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍*, 26:31-32, 2014.
- 011 杉浦英志, 西田佳弘, 筑紫 聡, 中島浩敦, 山田健志, 山

田芳久, 長谷川弘晃, 吉田雅博: 軟部肉腫における広範切除術後の局所再発と切除縁についての検討. 日整会誌, 88:575-581, 2014.

泌尿器科部

[原著]

- 001 *Terao C, Terada N, Matsuo K, Kawaguchi T, Yoshimura K, Hayashi N, Shimizu M, Soga N, Takahashi M, Nagahama Cohort Study Group, Kotoura Y, Yamada R, Ogawa O, Matsuda F*: A genome-wide association study of serum levels of prostate-specific antigen in the Japanese population. *J Med Genet*, Aug;51(8):530-6,2014. (英文原著)
- 002 *Takaki H, Soga N, Kanda H, Nakatsuka A, Uraki J, Fujimori M, Yamanaka T, Hasegawa T, Arima K, Sugimura Y, Sakuma H, Yamakado K*: Radiofrequency Ablation versus Radical Nephrectomy. Clinical Outcomes for T1b Renal Cell Carcinoma. *Radiology*, 270, 292-299,2014. (英文原著)
- 003 曾我倫久人: 前立腺癌の診療ナビゲーション-わかりやすく丁寧に: TNM分類II期の前立腺癌の治療法. 臨床泌尿器, 68, 225-229,2014.

婦人科部

- 001 *Hirata K, Kodaira T, Tomita N, Ohshima Y, Ito J, Tachibana H, Nakanishi T, Fuwa N*: Clinical efficacy of alternating chemoradiotherapy by conformal radiotherapy combined with intracavitary brachytherapy for high-risk cervical cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 44(6):556-63, 2014.
- 002 *Nakanishi T, Aoki D, Watanabe Y, Ando Y, Tomotsugu N, Sato Y, Saito T*: A Phase II clinical trial of pegylated liposomal doxorubicin and carboplatin in Japanese patients with platinum-sensitive recurrent ovarian, fallopian tube or primary peritoneal cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 45(5):422-6, 2015.
- 003 *Sogabe M, Nozaki H, Tanaka N, Kubota T, Kaji H, Kuno A, Togayachi A, Gotoh M, Nakanishi H, Nakanishi T, Mikami M, Suzuki N, Kiguchi K, Ikehara Y, Narimatsu H*: Novel glycomarker for ovarian cancer that detects clear cell carcinoma. *J Proteome Res*, 13(3):1624-35, 2014.
- 004 *Hedditch EL, Gao B, Russell AJ, Lu Y, Emmanuel C, Beesley J, Johnatty SE, Chen X, Harnett P, George J; Australian Ovarian Cancer Study Group, Williams RT, Flemming C, Lambrechts D, Despierre E, Lambrechts S, Vergote I, Karlan B, Lester J, Orsulic S, Walsh C, Fasching P,*

- Beckmann MW, Ekici AB, Hein A, Matsuo K, Hosono S, Nakanishi T, Yatabe Y, Pejovic T, Bean Y, Heitz F, Harter P, du Bois A, Schwaab I, Hogdall E, Kjaer SK, Jensen A, Hogdall C, Lundvall L, Engelholm SA, Brown B, Flanagan J, Metcalf MD, Siddiqui N, Sellers T, Fridley B, Cunningham J, Schildkraut J, Iversen E, Weber RP, Berchuck A, Goode E, Bowtell DD, Chenevix-Trench G, deFazio A, Norris MD, MacGregor S, Haber M, Henderson MJ*: ABCA transporter gene expression and poor outcome in epithelial ovarian cancer. *J Natl Cancer Inst*, 106(7). pii: dju149, 2014.
- 005 *Tokunaga H, Nakanishi T, Iwata T, Aoki D, Saito T, Nagase S, Takahashi F, Yaegashi N, Watanabe Y*: Effects of chemotherapy on patients with recurrent cervical cancer previously treated with concurrent chemoradiotherapy: a retrospective multicenter survey in Japan. *Int J Clin Oncol*, 20(3):561-5, 2015.
- 006 *Fujiwara H, Suzuki M, Takeshima N, Takizawa K, Kimura E, Nakanishi T, Yamada K, Takano H, Sasaki H, Koyama K, Ochiai K*: Evaluation of human epididymis protein 4 (HE4) and Risk of Ovarian Malignancy Algorithm (ROMA) as diagnostic tools of type I and type II epithelial ovarian cancer in Japanese women. *Tumour Biol*, 36(2):1045-53, 2015.

放射線診断・I V R部

- 001 *Hagihara A, Ikeda M, Ueno H, Morizane C, Kondo S, Nakachi K, Mitsunaga S, Shimizu S, Kojima Y, Suzuki E, Katayama K, Imanaka K, Tamai C, Inaba Y, Sato Y, Kato M, Okusaka T*: Phase I study of combination chemotherapy using sorafenib and transcatheter arterial infusion with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma. *Cancer Sci*, 105(3):354-8,2014.
- 002 *Yamakado K, Miyayama S, Hirota S, Mizunuma K, Nakamura K, Inaba Y, Maeda H, Matsuo K, Nishida N, Aramaki T, Anai H, Koura S, Oikawa S, Watanabe K, Yasumoto T, Furuichi K, Yamaguchi M*: Subgrouping of intermediate-stage (BCLC stage B) hepatocellular carcinoma based on tumor number and size and Child-Pugh grade correlated with prognosis after transarterial chemoembolization. *Jpn J Radiol*, 3(11):644-9,2014.
- 003 *Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Kinoshita Y, Era S, Takahashi K, Inaba Y*: Visualization of liver uptake function using the uptake contrast-enhanced ratio hepatobiliary phase imaging. *Magn Reson Imaging*, 32(6):654-9,2014.
- 004 *Sato Y, Inaba Y, Murata S, Yamaura H, Kato M,*

- Kawada A, Shimizu Y, Ishiguchi T** : Percutaneous drainage for afferent limb syndrome and pancreatic fistula via the blind end of the jejunal limb after pancreatoduodenectomy or bile duct resection. *J Vasc Interv Radiol*, Epub 2015 Jan 19.
- 005 **Kawada H, Kanematsu M, Goshima S, Kondo H, Watanabe H, Noda Y, Tanahashi Y, Kawai N, Hoshi H** : Multiphase Contrast-Enhanced Magnetic Resonance Imaging Features of Bacillus Calmette-Guerin-Induced Granulomatous Prostatitis in Five Patients. *Korean J Radiol*,16(2):342-8,2015.
- 006 **Kawada H, Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Kashima M, Murata S, Kanematsu M** : Esophageal stenting after penetrating complete esophageal obstruction using a trocar stylet via a gastrostomy route:a case report. *Jpn J Radiol*, 33(1):43-5,2015.
- 007 **Arai Y, Aoyama T, Inaba Y, Okabe H, Ihaya T, Kichikawa K, Ohashi Y, Sakamoto J, Oba K, Saji S** : Phase II study on hepatic arterial infusion chemotherapy using percutaneous catheter placement techniques for liver metastases from colorectal cancer (JFMC28 study). *Asia Pac J Clin Oncol*, 11(1):41-48, 2015.
- 008 **Tanaka T, Arai Y, Inaba Y, Inoue M, Nishiofuku H, Anai H, Hori S, Sakaguchi H, Kichikawa K** : Current role of hybrid CT/angiography system compared with C-arm cone beam CT for interventional oncology. *Br J Radiol*, 87(1041):20140126,2014.
- 009 **Iwasa S, Shimada Y, Inaba Y, Mera K, Yasui H, Ogata Y, Sugihara K, Arai T, Katsumata K, Ikeda S, Akaike M, Kato T, Hamaguchi T, Kato T** : Multicenter Phase II study of FOLFOX6 for Previously Untreated Unresectable Metastatic Colorectal Cancer. *J Integr Oncol*, 3:120,2014.
- 010 **Okusaka T, Aramaki T, Inaba Y, Nakamura S, Morimoto M, Moriguchi M, Sato T, Ikawa Y, Ikeda M, Furuse J** : Phase I study of tivantinib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma. *Cancer Sci*, 105(3):354-8, 2014.
- 011 **加藤弥菜, 稲葉吉隆** : 転移巣切除後の化学療法. *ガイドラインには載っていない消化管がん Practical Treatment*. メディカルビュー社, 111-4, 2014.
- 012 **加藤弥菜, 稲葉吉隆** : 肝動注療法の位置づけとその成績. *腫瘍内科*, 13(5) : 620-6, 2014.
- 013 **佐藤洋造** : 全身化学療法の基礎知識と I V R の役割. *ラドファン*, 12(9) : 12-4, 2014.
- 014 **加藤弥菜** : ソラフェニブ. *消化器がん化学療法レジメンブック2版*. 日本医事新報社, 183-6, 2014.
- 015 **佐藤洋造** : 肝転移に対する R F A の位置づけ. *ガイドラインに沿った大腸癌化学療法の要点と盲点*. 文光堂, 25, 2014.
- 016 **稲葉吉隆, 新楨剛, 森田壮二郎, 間中 大** : ポートの管理方法. *中心静脈ポートの使い方～安全挿入・留置・管理のために～*. 南江堂, 67-74, 2014.
- 017 **稲葉吉隆** : カテーテル断裂時の対応. *中心静脈ポートの使い方～安全挿入・留置・管理のために～*. 南江堂, 84-5, 2014.
- 018 **稲葉吉隆** : 薬液漏れ. *中心静脈ポートの使い方～安全挿入・留置・管理のために～*. 南江堂, 86-7, 2014.
- 019 **加藤弥菜, 稲葉吉隆** : 肝転移巣に対する肝動注療法の位置づけ. *直腸癌に対する補助放射線療法 (化学放射線療法)*. *ガイドラインサポートハンドブック大腸癌2014年版*, 医薬ジャーナル社, 240-5, 2014.
- 020 **稲葉吉隆** : 骨転移の治療にラジオ波凝固療法は有効か? . *骨転移診療ガイドライン*, 南江堂, 28, 56-7, 2014.
- 021 **稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜** : I V R 手技による大腸ステント. *IVR会誌*, 30(1) : 54-7, 2015.

放射線治療部

[原著]

- 001 **Hirata K, Kodaira T, Tomita N, Ohshima Y, Ito J, Tachibana H, Nakanishi T, Fuwa N** : Clinical Efficacy of Alternating Chemoradiotherapy by Conformal Radiotherapy Combined with Intracavitary Brachytherapy for High-risk Cervical Cancer. *Jpn J of Clin Oncol*,44(6):556-63,2014.
- 002 **Tomita N, Kodaira T, Teshima T, Ogawa K, Kumazaki Y, Yamauchi C, Toita T, Uno T, Sumi M, Onishi H, Kenjo M, Nakamura K** : Japanese Structure Survey of High-precision Radiotherapy in 2012 Based on Institutional Questionnaire about the Patterns of Care. *Jpn J of Clin Oncol*,44(6):579-86,2014.
- 003 **Kunieda F, Kiyota N, Tahara M, Kodaira T, Hayashi R, Ishikura S, Mizusawa J, Nakamura K, Fukuda F, Fujii M and Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group** : Randomized Phase II/III Trial of Post-operative Chemoradiotherapy Comparing 3-Weekly Cisplatin with Weekly Cisplatin in High-risk Patients with Squamous Cell Carcinoma of Head and Neck: Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG1008). *Jpn J of Clin Oncol*,44(8):770-4,2014.
- 004 **Hirano D, Kato H, Kodaira T, Yatabe Y, Ueda N, Murakami S, Higuchi Y, Taji H, Nakamura S, Yamamoto K, Kinoshita T** : Salvage therapy with single agent L-asparaginase followed by local irradiation in an elderly patient with CD56-positive primary isolated extramedullary T-cell lymphoblastic lymphoma of the sinus. *Ann Hematol*,(1):173-5,2014.
- 005 **Ijichi K, Hanai N, Kawakita D, Ozawa T, Suzuki H, Hirakawa H, Kodaira T, Murakami S, Hasegawa Y** : Selection of therapeutic treatment with alternating

chemoradiotherapy for larynx preservation in laryngeal carcinoma patients. Jpn J of Clin Oncol,44 (11):1063-9,2014.

- 006 **Makita C, Nakamura T, Takada A, Takayama K, Suzuki M, Ishikawa Y, Azami Y, Kato T, Tsukiyama I, Kikuchi Y, Hareyama M, Murakami M, Fuwa N, Hata M, Inoue T** : Clinical outcomes and toxicity of proton beam therapy for advanced cholangiocarcinoma. Radiat Oncol,9:26,2014.
- 007 **Makita C, Nakamura T, Takada A, Takayama K, Suzuki M, Azami Y, Kato T, Tsukiyama I, Hareyama M, Kikuchi Y, Daimon T, Hata M, Inoue T, Fuwa N** : High-dose proton beam therapy for stage I non-small cell lung cancer Clinical outcomes and prognostic factors. Acta Oncol,54:307-14,2015.
- 008 **立花弘之** : 原体照射法発祥施設である愛知県がんセンターにおける高精度治療の現状と今後. Rad Fan, Vol.12 No.15,2014.

緩和ケア部

- 001 **Baba M, Maeda I, Morita T, Hisanaga T, Ishihara T, Iwashita T, Kaneishi K, Kawagoe S, Kuriyama T, Maeda T, Mori I, Nakajima N, Nishi T, Sakurai H, Shimoyama S, Shinjo T, Shirayama H, Yamada T, Ono S, Ozawa T, Yamamoto R, Tsuneto S** : Independent Validation of the Modified Prognosis Palliative Care Study (PiPS) Predictor Models in Three Palliative Care Settings. J Pain Symptom Manage, 2014 Dec 12. [Epub ahead of print]
- 002 **小森康永** : テーマ化する家族. 家族看護学研究, 19(2):165-168, 2014.
- 003 **小森康永** : パロアルト・グループは、ダブルバインド概念を使ってどのように症例を検討していたのか?. 家族療法研究,31 (2) :149-155, 2014.
- 004 **小森康永** : ドン・D・ジャクソンは、相互作用理論を使ってどのようにブリーフセラピーを牽引したのか?. 家族療法研究,31 (3) :237-243, 2014.
- 005 **Koehler-Ludescher, A.** (小森康永訳) : ポール・ワツラウィックの肖像. 家族療法研究, 31 (3) :244-246, 2014.

その他誌上への発表

- 001 **小森康永** : パラレルチャートを書こう.精神療法, 40(2):290-298, 2014.
- 002 **小森康永** : アウトサイダー・ウィットネスになる.精神療法, 40(3):437-444, 2014.
- 003 **小森康永** : ナラティブ・オンコロジーをやってみた.N : ナラティブとケア,5 : 3-11, 2014.
- 004 **小森康永** : エンド・オブ・ライフ・ケア. 家族看護, 12(1):73-81, 2014.

- 005 **渡辺俊之, 小森康永** : バイオサイコソーシャル・アプローチ入門. 金剛出版,2014.7.
- 006 **下山理史** : 直腸癌局所再発に対する治療戦略-新たな展開 直腸癌局所再発と緩和医療. 臨床外科, 69(10):1220-1226, 2014.
- 007 **下山理史** : 「緩和薬物療法」 上級講座 “ジレンマ症例” から導いた本当に重要な緩和ケアの勘どころ がん疼痛①. 南江堂, 65(13): 46-49, 2014.

看護部

- 001 **戸崎加奈江** : 進行・再発大腸がんの3rd/4th line治療における看護師の役割. がん看護5. 6月号, 南光堂, 掲載記事座談会, 2014.
- 002 **小原真紀子** : 病院薬剤師が繋ぐ医看薬連携, パレット, voi.96, BBプロモーション, P3-6, 2014.
- 003 **小原真紀子** : ジオトリフを実地臨床で適正にご使用いただくために-消化管・皮膚障害への取り組み-. エム・エム・エス・コミュニケーションズ, P7-13, 2014.
- 004 **小原真紀子** : 他職種を学ぶ. C 3 (シーキューブ), VOI.7, インサイト・アイ, P6-7, 2014.
- 005 **山口真由美** : 状況で押さえる! アセスメントポイント 消化器手術後の患者. できる! ICUナースシリーズ ICU患者のフィジカルアセスメント ケアの場面でそのまま使える観察・判断ポイント満載!, メディカ出版, P113~118, 2014.
- 006 **深堀慎一郎** : フィジカルアセスメントはこう進めよう 循環のアセスメント. できる! ICUナースシリーズ ICU患者のフィジカルアセスメント ケアの場面でそのまま使える観察・判断ポイント満載!, メディカ出版, P. 22~29, 2014.
- 007 **深堀慎一郎** : できるナースに学ぶ! ケアのコツ特集 +α でどんな注意が必要 循環器疾患を合併する患者の看護. オンコロジーナース, Vol.1.8 No.3 1.2月号, 日総研, P. 64~70, 2015.
- 008 **山田健司** : がん宣告を受けた患者, ところに寄り添う手術看護~周術期患者・家族の心理とケア. 医歯薬出版株式会社, P.87~92, 2014.
- 009 **野口見知子** : 事例でひもとく手術看護 倫理問題への対処 手術室における倫理的問題. 手術看護エキスパート, 5. 6月号, 日総研, p116-119, 2014.
- 010 **久保 知** : がん放射線療法看護認定看護師育成と認定看護師の課題. JASTRO NEWSLETTER 2014年No.3通巻113号, 日本放射線腫瘍学会, p26-27, 2014.
- 011 **高畑知帆子** : 副作用マネジメントを軸としたチーム医療の確立に向けて. Oncology Epoch26号, 株式会社協和企画, p6-7, 2014.
- 012 **向井未年子** : 緩和ケア, 緩和ケアセンターと緩和ケアチームの変化-新指針が現場にもたらしたもの. がん看護カウンセリングの実践, 青海社, p422-425, 2014.
- 013 **向井未年子** : 抗がん剤と麻薬(オピオイド鎮痛薬)の併用

は可能か？ またどのような点に注意が必要か？. 消化器がん化学療法レジメンブック第2版, 日本医事新報社, p301-304, 2014.

薬剤部

- 001 立松三千子, 梶田正樹, 松崎雅英, 橋本直弥, 前田美恵子, 小原真紀子, 佐藤洋造, 室 圭: 医看薬薬連携—多職種による情報共有への取り組み—, パレット, 96: 3-6, 2014.
- 002 長谷川彩子: 日本臨床腫瘍薬学会2014 学会報告集, 3, 2014.
- 003 前田章光: 抗がん剤治療における悪心・嘔吐に対するオランザピンの有効性. フェルマシア(1): 65, 2015.

6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

疫学・予防部

- 001 *Ali A M, Schmidt M K, Bolla M K, Wang Q, Gago-Dominguez M, Castelao J E, Carracedo A, Garzon V M, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Flyger H, Chang-Claude J, Vrieling A, Rudolph A, Seibold P, Nevanlinna H, Muranen T A, Aaltonen K, Blomqvist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Horio A, John E M, Sherman M, Lissowska J, Figueroa J, Garcia-Closas M, Anton-Culver H, Shah M, Hopper J L, Trichopoulou A, Bueno-de-Mesquita B, Krogh V, Weiderpass E, Andersson A, Clavel-Chapelon F, Dossus L, Fagherazzi G, Peeters P H, Olsen A, Wishart G C, Easton D F, Borgquist S, Overvad K, Barricarte A, Gonzalez C A, Sanchez M J, Amiano P, Riboli E, Key T, Pharoah P D* : Alcohol consumption and survival after a breast cancer diagnosis: a literature-based meta-analysis and collaborative analysis of data for 29,239 cases. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 23 (6): 934-45, 2014.
- 002 *Cai Q, Zhang B, Sung H, Low S K, Kweon S S, Lu W, Shi J, Long J, Wen W, Choi J Y, Noh D Y, Shen C Y, Matsuo K, Teo S H, Kim M K, Khoo U S, Iwasaki M, Hartman M, Takahashi A, Ashikawa K, Matsuda K, Shin M H, Park M H, Zheng Y, Xiang Y B, Ji B T, Park S K, Wu P E, Hsiung C N, Ito H, Kasuga Y, Kang P, Mariapun S, Ahn S H, Kang H S, Chan K Y, Man E P, Iwata H, Tsugane S, Miao H, Liao J, Nakamura Y, Kubo M, Consortium D G-O, Delahanty R J, Zhang Y, Li B, Li C, Gao Y T, Shu X O, Kang D, Zheng W* : Genome-wide association analysis in East Asians identifies breast cancer susceptibility loci at 1q32.1, 5q14.3 and 15q26.1. *Nat Genet*, 46 (8): 886-90, 2014.
- 003 *Chihara D, Ito H, Katanoda K, Shibata A, Matsuda T, Sobue T, Matsuo K* : Incidence of myelodysplastic syndrome in Japan. *J Epidemiol*, 24 (6): 469-73, 2014.
- 004 *Ghoussaini M, Edwards S L, Michailidou K, Nord S, Cowper-Sal Lari R, Desai K, Kar S, Hillman K M, Kaufmann S, Glubb D M, Beesley J, Dennis J, Bolla M K, Wang Q, Dicks E, Guo Q, Schmidt M K, Shah M, Luben R, Brown J, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Klevebring D, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Nielsen S F, Flyger H, Lambrechts D, Thienpont B, Neven P, Wildiers H, Broeks A, Van't Veer L J, Th Rutgers E J, Couch F J, Olson J E, Hallberg E, Vachon C, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Gibson L, Nevanlinna H, Muranen T A, Aittomaki K, Blomqvist C, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Kang D, Choi J Y, Park S K, Noh D Y, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Yatabe Y, Guenel P, Truong T, Menegaux F, Sanchez M, Burwinkel B, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Benitez J, Zamora M P, Perez J I, Menendez P, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Cai Q, Cox A, Cross S S, Reed M W, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, Sawyer E J, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Lindblom A, Margolin S, Teo S H, Yip C H, Lee D S, Wong T Y, Hooning M J, Martens J W, Collee J M, van Deurzen C H, Hopper J L, Southey M C, Tsimiklis H, Kapuscinski M K, Shen C Y, Wu P E, Yu J C, Chen S T, Alnaes G G, Borresen-Dale A L, Giles G G, Milne R L, McLean C, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsarn P, Hartman M, Miao H, Buhari S A, Teo Y Y, Fasching P A, Haeberle L, Ekici A B, Beckmann M W, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Schoemaker M J, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock S J, Lissowska J, Simard J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Brauch H, Bruning T, Koto Y D, Radice P, Peterlongo P, Bonanni B, Volorio S, Dork T, Bogdanova N V, Helbig S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C, Van Asperen C J, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Slager S, Toland A E, Ambrosone C B, Yannoukakos D, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Hamann U, Torres D, Zheng W, Long J, Anton-Culver H, Neuhausen S L, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Maranian M, Healey C S, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, de Santiago I, Carroll J, Caldas C, Brown M A, Lupien M, Kristensen V N, Pharoah P D, Chenevix-Trench G, French J D, Easton D F, Dunning A M, Australian Ovarian Cancer Management G, Australian Ovarian Cancer Management G* : Evidence that breast cancer risk at the 2q35 locus is mediated through IGFBP5 regulation. *Nat Commun*, 4: 4999, 2014.
- 005 *Hidaka A, Sasazuki S, Matsuo K, Ito H, Sawada N, Shimazu T, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S, Group J S* : Genetic polymorphisms of

- ADH1B, ADH1C and ALDH2, alcohol consumption, and the risk of gastric cancer: the Japan Public Health Center-based prospective study. *Carcinogenesis*, 36 (2): 223-31, 2015.
- 006 *Kawaguchi K, Yokoi K, Niwa H, Ohde Y, Mori S, Okumura S, Shiono S, Ito H, Yano M, Shigemitsu K, Hiramatsu Y, Okami J, Saito H* : Trimodality therapy for lung cancer with chest wall invasion: initial results of a phase II study. *Ann Thorac Surg*, 98 (4): 1184-91, 2014.
- 007 *Kobayashi K, Sakurai K, Hiramatsu H, Inada K, Shiogama K, Nakamura S, Suemasa F, Kobayashi K, Imoto S, Haraguchi T, Ito H, Ishizaka A, Tsutsumi Y, Iba H* : The miR-199a/Brm/EGR1 axis is a determinant of anchorage-independent growth in epithelial tumor cell lines. *Sci Rep*, 5: 8428, 2015.
- 008 *Li J, Lindstrom L S, Foo J N, Rafiq S, Schmidt M K, Pharoah P D, Michailidou K, Dennis J, Bolla M K, Wang Q, Van 't Veer L J, Cornelissen S, Rutgers E, Southey M C, Apicella C, Dite G S, Hopper J L, Fasching P A, Haeberle L, Ekici A B, Beckmann M W, Blomqvist C, Muranen T A, Aittomaki K, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kosma V M, Hartikainen J M, Kataja V, Chenevix-Trench G, kConFab I, Phillips K A, McLachlan S A, Lambrechts D, Thienpont B, Smeets A, Wildiers H, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Seibold P, Rudolph A, Giles G G, Baglietto L, Severi G, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Kristensen V, Alnaes G I, Borresen-Dale A L, Nord S, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar R, Seynaeve C, Hooning M, Krieger M, Hollestelle A, van den Ouweland A, Li Y, Hamann U, Torres D, Ulmer H U, Rudiger T, Shen C Y, Hsiung C N, Wu P E, Chen S T, Teo S H, Taib N A, Har Yip C, Fuang Ho G, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tajima K, Kang D, Choi J Y, Park S K, Yoo K Y, Maishman T, Tapper W J, Dunning A, Shah M, Luben R, Brown J, Khor C C, Eccles D M, Nevanlinna H, Easton D, Humphreys K, Liu J, Hall P, Czene K* : 2q36.3 is associated with prognosis for oestrogen receptor-negative breast cancer patients treated with chemotherapy. *Nat Commun*, 5: 4051, 2014.
- 009 *Lin W Y, Camp N J, Ghousaini M, Beesley J, Michailidou K, Hopper J L, Apicella C, Southey M C, Stone J, Schmidt M K, Broeks A, Van't Veer L J, Th Rutgers E J, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Fasching P A, Haeberle L, Ekici A B, Beckmann M W, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Fletcher O, Johnson N, Bolla M K, Wang Q, Dennis J, Sawyer E J, Cheng T, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, Marme F, Surowy H M, Burwinkel B, Guenel P, Truong T, Menegaux F, Mulot C, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Nielsen S F, Flyger H, Benitez J, Zamora M P, Arias Perez J I, Menendez P, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Anton-Culver H, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Lichtner P, Schmutzler R K, Muller-Miyhok B, Brauch H, Bruning T, Ko Y D, Network G, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, Nevanlinna H, Aittomaki K, Blomqvist C, Khan S, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Horio A, Bogdanova N V, Antonenkova N N, Dork T, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, kConFab I, Australian Ovarian Cancer Study G, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Neven P, Wauters E, Wildiers H, Lambrechts D, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Radice P, Peterlongo P, Manoukian S, Bonanni B, Couch F J, Wang X, Vachon C, Purrington K, Giles G G, Milne R L, McLean C, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Teo S H, Yip C H, Hassan N, Vithana E N, Kristensen V, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M J, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C, Van Asperen C J, Garcia-Closas M, Figueroa J, Lissowska J, Brinton L, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Brand J S, Hooning M J, Hollestelle A, Van Den Ouweland A M, Jager A, Li J, Liu J, Humphreys K, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Cai H, Cross S S, Reed M W, Blot W, Signorello L B, Cai Q, Pharoah P D, Perkins B, Shah M, Blows F M, Kang D, Yoo K Y, Noh D Y, Hartman M, Miao H, Chia K S, Putti T C, Hamann U, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Maranian M, Healey C S, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Sangrajarang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Slager S, Toland A E, Yannoukakos D, Shen C Y, Hsiung C N, Wu P E, Ding S L, Ashworth A, Jones M, Orr N, Swerdlow A J, Tsimiklis H, Makalic E, Schmidt D F, Bui Q M, Chanock S J, Hunter D J, Hein R, Dahmen N, Beckmann L, Aaltonen K, Muranen T A, Heikkinen T, Irwanto A, Rahman N, Turnbull C A, Breast, Ovarian Cancer Susceptibility S, Waisfisz Q, Meijers-Heijboer H E, Adank M A, Van Der Luijt R B, Hall P, Chenevix-Trench G, Dunning A, Easton D F, Cox A* : Identification and characterization of novel associations in the CASP8/ALS2CR12 region on chromosome 2 with

breast cancer risk. *Hum Mol Genet*, 24 (1): 285-98, 2015.

- 010 Michailidou K, Beesley J, Lindstrom S, Canisius S, Dennis J, Lush M J, Maranian M J, Bolla M K, Wang Q, Shah M, Perkins B J, Czene K, Eriksson M, Darabi H, Brand J S, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Flyger H, Nielsen S F, Rahman N, Turnbull C, Bocs, Fletcher O, Peto J, Gibson L, Dos-Santos-Silva I, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Rudolph A, Eilber U, Behrens S, Nevanlinna H, Muranen T A, Aittomaki K, Blomqvist C, Khan S, Aaltonen K, Ahsan H, Kibriya M G, Whittemore A S, John E M, Malone K E, Gammon M D, Santella R M, Ursin G, Makalic E, Schmidt D F, Casey G, Hunter D J, Gapstur S M, Gaudet M M, Diver W R, Haiman C A, Schumacher F, Henderson B E, Le Marchand L, Berg C D, Chanock S J, Figueroa J, Hoover R N, Lambrechts D, Neven P, Wildiers H, van Limbergen E, Schmidt M K, Broeks A, Verhoef S, Cornelissen S, Couch F J, Olson J E, Hallberg E, Vachon C, Waisfisz Q, Meijers-Heijboer H, Adank M A, van der Luijt R B, Li J, Liu J, Humphreys K, Kang D, Choi J Y, Park S K, Yoo K Y, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tajima K, Guenel P, Truong T, Mulot C, Sanchez M, Burwinkel B, Marme F, Surowy H, Sohn C, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Gonzalez-Neira A, Benitez J, Zamora M P, Perez J I, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Cai H, Cox A, Cross S S, Reed M W, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Mulligan A M, Sawyer E J, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, kConFab I, Group A, Lindblom A, Margolin S, Teo S H, Yip C H, Taib N A, Tan G H, Hooning M J, Hollestelle A, Martens J W, Collee J M, Blot W, Signorello L B, Cai Q, Hopper J L, Southey M C, Tsimiklis H, Apicella C, Shen C Y, Hsiung C N, Wu P E, Hou M F, Kristensen V N, Nord S, Alnaes G I, Nbc, Giles G G, Milne R L, McLean C, Canzian F, Trichopoulos D, Peeters P, Lund E, Sund M, Khaw K T, Gunter M J, Palli D, Mortensen L M, Dossus L, Huerta J M, Meindl A, Schmutzler R K, Sutter C, Yang R, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Hartman M, Miao H, Chia K S, Chan C W, Fasching P A, Hein A, Beckmann M W, Haeberle L, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Ashworth A, Orr N, Schoemaker M J, Swerdlow A J, Brinton L, Garcia-Closas M, Zheng W, Halverson S L, Shrubsole M, Long J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Brauch H, Hamann U, Bruning T, Network G, Radice P, Peterlongo P, Manoukian S, Bernard L, Bogdanova N V, Dork T, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C, Van Asperen C J, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Huzarski T, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Slager S, Toland A E, Ambrosone C B, Yannoukakos D, Kabisch M, Torres D, Neuhausen S L, Anton-Culver H, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Healey C S, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Simard J, Pharoah P P, Kraft P, Dunning A M, Chenevix-Trench G, Hall P, Easton D F : Genome-wide association analysis of more than 120,000 individuals identifies 15 new susceptibility loci for breast cancer. *Nat Genet*, 2015.
- 011 Milne R L, Burwinkel B, Michailidou K, Arias-Perez J I, Zamora M P, Menendez-Rodriguez P, Hardisson D, Mendiola M, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso M R, Dennis J, Wang Q, Bolla M K, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Schoemaker M, Ko Y D, Brauch H, Hamann U, Network G, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, kConFab I, Australian Ovarian Cancer Study G, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tajima K, Li J, Brand J S, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Lambrechts D, Peuteman G, Christiaens M R, Smeets A, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Hartman M, Hui M, Yen Lim W, Wan Chan C, Marme F, Yang R, Bugert P, Lindblom A, Margolin S, Garcia-Closas M, Chanock S J, Lissowska J, Figueroa J D, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Flyger H, Hooning M J, Kriege M, van den Ouweland A M, Koppert L B, Fletcher O, Johnson N, dos-Santos-Silva I, Peto J, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M J, Long J, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Cox A, Cross S S, Reed M W, Schmidt M K, Broeks A, Cornelissen S, Braaf L, Kang D, Choi J Y, Park S K, Noh D Y, Simard J, Dumont M, Goldberg M S, Labreche F, Fasching P A, Hein A, Ekici A B, Beckmann M W, Radice P, Peterlongo P, Azzollini J, Barile M, Sawyer E, Tomlinson I, Kerin M, Miller N, Hopper J L, Schmidt D F, Makalic E, Southey M C, Hwang Teo S, Har Yip C, Sivanandan K, Tay W T, Shen C Y, Hsiung C N, Yu J C, Hou M F, Guenel P, Truong T, Sanchez M, Mulot C, Blot W, Cai Q, Nevanlinna H, Muranen T A, Aittomaki K, Blomqvist C, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Bogdanova N, Dork T, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Zhang B, Couch F J, Toland A E, Tnbcc, Yannoukakos D, Sangrajrang S, McKay

- J, Wang X, Olson J E, Vachon C, Purrington K, Severi G, Baglietto L, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C, Czene K, Eriksson M, Humphreys K, Darabi H, Ahmed S, Shah M, Pharoah P D, Hall P, Giles G G, Benitez J, Dunning A M, Chenevix-Trench G, Easton D F* : Common non-synonymous SNPs associated with breast cancer susceptibility: findings from the Breast Cancer Association Consortium. *Hum Mol Genet*, 23 (22): 6096-111, 2014.
- 012 *Orr N, Dudbridge F, Dryden N, Maguire S, Novo D, Perrakis E, Johnson N, Ghossaini M, Hopper J L, Southey M C, Apicella C, Stone J, Schmidt M K, Broeks A, Van't Veer L J, Hogervorst F B, Fasching P A, Haeberle L, Ekici A B, Beckmann M W, Gibson L, Aitken Z, Warren H, Sawyer E, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Guenel P, Truong T, Cordina-Duverger E, Sanchez M, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Nielsen S F, Flyger H, Benitez J, Zamora M P, Arias Perez J I, Menendez P, Anton-Culver H, Neuhausen S L, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Hamann U, Brauch H, Justenhoven C, Bruning T, Ko Y D, The G N, Nevanlinna H, Aittomaki K, Blomqvist C, Khan S, Bogdanova N, Dork T, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, Chenevix-Trench G, Beesley J, kConFab I, Australian Ovarian Cancer Study G, Lambrechts D, Moisse M, Floris G, Beuselinck B, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Radice P, Peterlongo P, Peissel B, Pensotti V, Couch F J, Olson J E, Slettedahl S, Vachon C, Giles G G, Milne R L, McLean C, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Kristensen V, Alnaes G G, Nord S, Borresen-Dale A L, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C M, Van Asperen C J, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock S J, Lissowska J, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Klevebring D, Hooning M J, Hollestelle A, van Deurzen C H, Krieger M, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Cox A, Cross S S, Reed M W, Pharoah P D, Dunning A M, Shah M, Perkins B J, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Ashworth A, Swerdlow A, Jones M, Schoemaker M J, Meindl A, Schmutzler R K, Olswold C, Slager S, Toland A E, Yannoukakos D, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsarn P, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Ishiguro J, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Teo S H, Yip C H, Kang P, Ikram M K, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Cai H, Kang D, Choi J Y, Park S K, Noh D Y, Hartman M, Miao H, Lim W Y, Lee S C, Sangrajang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Wu P E, Hou M F, Yu J C, Shen C Y, Blot W, Cai Q, Signorello L B, Luccarini C, Bayes C, Ahmed S, Maranian M, Healey C S, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, Hunter D J, Lindstrom S, Dennis J, Michailidou K, Bolla M K, Easton D F, Dos Santos Silva I, Fletcher O, Peto J* : Fine-mapping identifies two additional breast cancer susceptibility loci at 9q31.2. *Hum Mol Genet*, 2015.
- 013 *Pelucchi C, Lunet N, Boccia S, Zhang Z F, Praud D, Boffetta P, Levi F, Matsuo K, Ito H, Hu J, Johnson K C, Ferraroni M, Yu G P, Peleteiro B, Malekzadeh R, Derakhshan M H, Ye W, Zaridze D, Maximovitch D, Aragonés N, Martin V, Pakseresht M, Pourfarzi F, Bellavia A, Orsini N, Wolk A, Mu L, Arzani D, Kurtz R C, Lagiou P, Trichopoulos D, Muscat J, La Vecchia C, Negri E* : The stomach cancer pooling (StoP) project: study design and presentation. *Eur J Cancer Prev*, 24 (1): 16-23, 2015.
- 014 *Wang Z, Zhu B, Zhang M, Parikh H, Jia J, Chung C C, Sampson J N, Hoskins J W, Hutchinson A, Burdette L, Ibrahim A, Hautman C, Raj P S, Abnet C C, Adjei A A, Ahlbom A, Albanes D, Allen N E, Ambrosone C B, Aldrich M, Amiano P, Amos C, Andersson U, Andriole G, Jr., Andrulis I L, Arici C, Arslan A A, Austin M A, Baris D, Barkauskas D A, Bassig B A, Beane Freeman L E, Berg C D, Berndt S I, Bertazzi P A, Biritwum R B, Black A, Blot W, Boeing H, Boffetta P, Bolton K, Boutron-Ruault M C, Bracci P M, Brennan P, Brinton L A, Brotzman M, Bueno-de-Mesquita H B, Buring J E, Butler M A, Cai Q, Cancel-Tassin G, Canzian F, Cao G, Caporaso N E, Carrato A, Carreon T, Carta A, Chang G C, Chang I S, Chang-Claude J, Che X, Chen C J, Chen C Y, Chen C H, Chen C, Chen K Y, Chen Y M, Chokkalingam A P, Chu L W, Clavel-Chapelon F, Colditz G A, Colt J S, Conti D, Cook M B, Cortessis V K, Crawford E D, Cussenot O, Davis F G, De Vivo I, Deng X, Ding T, Dinney C P, Di Stefano A L, Diver W R, Duell E J, Elena J W, Fan J H, Feigelson H S, Feychting M, Figueroa J D, Flanagan A M, Fraumeni J F, Jr., Freedman N D, Fridley B L, Fuchs C S, Gago-Dominguez M, Gallinger S, Gao Y T, Gapstur S M, Garcia-Closas M, Garcia-Closas R, Gastier-Foster*

- J M, Gaziano J M, Gerhard D S, Giffen C A, Giles G G, Gillanders E M, Giovannucci E L, Goggins M, Gokgoz N, Goldstein A M, Gonzalez C, Gorlick R, Greene M H, Gross M, Grossman H B, Grubb R, 3rd, Gu J, Guan P, Haiman C A, Hallmans G, Hankinson S E, Harris C C, Hartge P, Hattinger C, Hayes R B, He Q, Helman L, Henderson B E, Henriksson R, Hoffman-Bolton J, Hohensee C, Holly E A, Hong Y C, Hoover R N, Hosgood H D, 3rd, Hsiao C F, Hsing A W, Hsiung C A, Hu N, Hu W, Hu Z, Huang M S, Hunter D J, Inskip P D, Ito H, Jacobs E J, Jacobs K B, Jenab M, Ji B T, Johansen C, Johansson M, Johnson A, Kaaks R, Kamat A M, Kamineni A, Karagas M, Khanna C, Khaw K T, Kim C, Kim I S, Kim J H, Kim Y H, Kim Y C, Kim Y T, Kang C H, Jung Y J, Kitahara C M, Klein A P, Klein R, Kogevinas M, Koh W P, Kohno T, Kolonel L N, Kooperberg C, Kratz C P, Krogh V, Kunitoh H, Kurtz R C, Kurucu N, Lan Q, Lathrop M, Lau C C, Lecanda F, Lee K M, Lee M P, Le Marchand L, Lerner S P, Li D, Liao L M, Lim W Y, Lin D, Lin J, Lindstrom S, Linet M S, Lissowska J, Liu J, Ljungberg B, Lloreta J, Lu D, Ma J, Malats N, Mannisto S, Marina N, Mastrangelo G, Matsuo K, McGlynn K A, McKean-Cowdin R, McNeill L H, McWilliams R R, Melin B S, Meltzer P S, Mensah J E, Miao X, Michaud D S, Mondul A M, Moore L E, Muir K, Niwa S, Olson S H, Orr N, Panico S, Park J Y, Patel A V, Patino-Garcia A, Pavanello S, Peeters P H, Peplonska B, Peters U, Petersen G M, Picci P, Pike M C, Porru S, Prescott J, Pu X, Purdue M P, Qiao Y L, Rajaraman P, Riboli E, Risch H A, Rodabough R J, Rothman N, Ruder A M, Ryu J S, Sanson M, Schned A, Schumacher F R, Schwartz A G, Schwartz K L, Schwenn M, Scotlandi K, Seow A, Serra C, Serra M, Sesso H D, Severi G, Shen H, Shen M, Shete S, Shiraishi K, Shu X O, Siddiq A, Sierrasesumaga L, Sierrri S, Loon Sihoe A D, Silverman D T, Simon M, Southey M C, Spector L, Spitz M, Stampfer M, Stattin P, Stern M C, Stevens V L, Stolzenberg-Solomon R Z, Stram D O, Strom S S, Su W C, Sund M, Sung S W, Swerdlow A, Tan W, Tanaka H, Tang W, Tang Z Z, Tardon A, Tay E, Taylor P R, Tettey Y, Thomas D M, Tirabosco R, Tjonneland A, Tobias G S, Toro J R, Travis R C, Trichopoulos D, Troisi R, Truelove A, Tsai Y H, Tucker M A, Tumino R, Van Den Berg D, Van Den Eeden S K, Vermeulen R, Vineis P, Visvanathan K, Vogel U, Wang C, Wang C, Wang J, Wang S S, Weiderpass E, Weinstein S J, Wentzensen N, Wheeler W, White E, Wiencke J K, Wolk A, Wolpin B M, Wong M P, Wrensch M, Wu C, Wu T, Wu X, Wu Y L, Wunder J S, Xiang Y B, Xu J, Yang H P, Yang P C, Yatabe Y, Ye Y, Yeboah E D, Yin Z, Ying C, Yu C J, Yu K, Yuan J M, Zanetti K A, Zeleniuch-Jacquotte A, Zheng W, Zhou B, Mirabello L, Savage S A, Kraft P, Chanock S J, Yeager M, Landi M T, Shi J, Chatterjee N, Amundadottir L T : Imputation and subset-based association analysis across different cancer types identifies multiple independent risk loci in the TERT-CLPTM1L region on chromosome 5p15.33. Hum Mol Genet, 23 (24): 6616-33, 2014.*
- 015 *Hedditch E L, Gao B, Russell A J, Lu Y, Emmanuel C, Beesley J, Johnatty S E, Chen X, Harnett P, George J, Australian Ovarian Cancer Study G, Williams R T, Flemming C, Lambrechts D, Despierre E, Lambrechts S, Vergote I, Karlan B, Lester J, Orsulic S, Walsh C, Fasching P, Beckmann M W, Ekici A B, Hein A, Matsuo K, Hosono S, Nakanishi T, Yatabe Y, Pejovic T, Bean Y, Heitz F, Harter P, du Bois A, Schwaab I, Hogdall E, Kjaer S K, Jensen A, Hogdall C, Lundvall L, Engelholm S A, Brown B, Flanagan J, Metcalf M D, Siddiqui N, Sellers T, Fridley B, Cunningham J, Schildkraut J, Iversen E, Weber R P, Berchuck A, Goode E, Bowtell D D, Chenevix-Trench G, deFazio A, Norris M D, MacGregor S, Haber M, Henderson M J : ABCA transporter gene expression and poor outcome in epithelial ovarian cancer. J Natl Cancer Inst, 106 (7), 2014.*
- 016 *Kuchenbaecker K B, Ramus S J, Tyrer J, Lee A, Shen H C, Beesley J, Lawrenson K, McGuffog L, Healey S, Lee J M, Spindler T J, Lin Y G, Pejovic T, Bean Y, Li Q, Coetzee S, Hazelett D, Miron A, Southey M, Terry M B, Goldgar D E, Buys S S, Janavicius R, Dorfling C M, van Rensburg E J, Neuhausen S L, Ding Y C, Hansen T V, Jonson L, Gerdes A M, Ejlertsen B, Barrowdale D, Dennis J, Benitez J, Osorio A, Garcia M J, Komenaka I, Weitzel J N, Ganschow P, Peterlongo P, Bernard L, Viel A, Bonanni B, Peissel B, Manoukian S, Radice P, Papi L, Ottini L, Fostira F, Konstantopoulou I, Garber J, Frost D, Perkins J, Platte R, Ellis S, Embrace, Godwin A K, Schmutzler R K, Meindl A, Engel C, Sutter C, Sinilnikova O M, Collaborators G S, Damiola F, Mazoyer S, Stoppa-Lyonnet D, Claes K, De Leeneer K, Kirk J, Rodriguez G C, Piedmonte M, O'Malley D M, de la Hoya M, Caldes T, Aittomaki K, Nevanlinna H, Collee J M, Rookus M A, Oosterwijk J C, Breast Cancer Family R, Tihomirova L, Tung N, Hamann U, Isaacs C, Tischkowitz M, Imyanitov E N, Caligo M A, Campbell I G, Hogervorst F B, Hebon, Olah E, Diez O, Blanco I, Brunet J, Lazaro C, Pujana*

- M A, Jakubowska A, Gronwald J, Lubinski J, Sukiennicki G, Barkardottir R B, Plante M, Simard J, Soucy P, Montagna M, Tognazzo S, Teixeira M R, Investigators K C, Pankratz V S, Wang X, Lindor N, Szabo C I, Kauff N, Vijai J, Aghajanian C A, Pfeiler G, Berger A, Singer C F, Tea M K, Phelan C M, Greene M H, Mai P L, Rennert G, Mulligan A M, Tchatchou S, Andrulis I L, Glendon G, Toland A E, Jensen U B, Kruse T A, Thomassen M, Bojesen A, Zidan J, Friedman E, Laitman Y, Soller M, Liljegren A, Arver B, Einbeigi Z, Stenmark-Askmal M, Olopade O I, Nussbaum R L, Rebbeck T R, Nathanson K L, Domchek S M, Lu K H, Karlan B Y, Walsh C, Lester J, Australian Cancer S, Australian Ovarian Cancer Study G, Hein A, Ekici A B, Beckmann M W, Fasching P A, Lambrechts D, Van Nieuwenhuysen E, Vergote I, Lambrechts S, Dicks E, Doherty J A, Wicklund K G, Rossing M A, Rudolph A, Chang-Claude J, Wang-Gohrke S, Eilber U, Moysich K B, Odunsi K, Sucheston L, Lele S, Wilkens L R, Goodman M T, Thompson P J, Shvetsov Y B, Runnebaum I B, Durst M, Hillemanns P, Dork T, Antonenkova N, Bogdanova N, Leminen A, Pelttari L M, Butzow R, Modugno F, Kelley J L, Edwards R P, Ness R B, du Bois A, Heitz F, Schwaab I, Harter P, Matsuo K, Hosono S, Orsulic S, Jensen A, Kjaer S K, Hogdall E, Hasmad H N, Azmi M A, Teo S H, Woo Y L, Fridley B L, Goode E L, Cunningham J M, Vierkant R A, Bruinsma F, Giles G G, Liang D, Hildebrandt M A, Wu X, Levine D A, Bisogna M, Berchuck A, Iversen E S, Schildkraut J M, Concannon P, Weber R P, Cramer D W, Terry K L, Poole E M, Tworoger S S, Bandera E V, Orlow I, Olson S H, Krakstad C, Salvesen H B, Tangen I L, Bjorge L, van Altena A M, Aben K K, Kiemeny L A, Massuger L F, Kellar M, Brooks-Wilson A, Kelemen L E, Cook L S, Le N D, Cybulski C, Yang H, Lissowska J, Brinton L A, Wentzensen N, Hogdall C, Lundvall L, Nedergaard L, Baker H, Song H, Eccles D, McNeish I, Paul J, Carty K, Siddiqui N, Glasspool R, Whittemore A S, Rothstein J H, McGuire V, Sieh W, Ji B T, Zheng W, Shu X O, Gao Y T, Rosen B, Risch H A, McLaughlin J R, Narod S A, Monteiro A N, Chen A, Lin H Y, Permuth-Wey J, Sellers T A, Tsai Y Y, Chen Z, Ziogas A, Anton-Culver H, Gentry-Maharaj A, Menon U, Harrington P, Lee A W, Wu A H, Pearce C L, Coetzee G, Pike M C, Dansonka-Mieszkowska A, Timorek A, Rzepecka I K, Kupryjanczyk J, Freedman M, Noushmehr H, Easton D F, Offit K, Couch F J, Gayther S, Pharoah P P, Antoniou A C, Chenevix-Trench G, Consortium of Investigators of Modifiers of B and Brca* : Identification of six new susceptibility loci for invasive epithelial ovarian cancer. *Nat Genet*, 47 (2): 164-71, 2015.
- 017 *Shitara K, Matsuo K, Muro K, Doi T, Ohtsu A* : Correlation between overall survival and other endpoints in clinical trials of second-line chemotherapy for patients with advanced gastric cancer. *Gastric Cancer*, 17 (2): 362-70, 2014.
- 018 *Tajika M, Matsuo K, Ito H, Chihara D, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Matsumoto K, Nakamura T, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : Risk of second malignancies in patients with gastric marginal zone lymphomas of mucosa associate lymphoid tissue (MALT). *J Gastroenterol*, 49 (5): 843-52, 2014.
- 019 *Chihara D, Izutsu K, Kondo E, Sakai R, Mizuta S, Yokoyama K, Kaneko H, Kato K, Hasegawa Y, Chou T, Sugahara H, Henzan H, Sakamaki H, Suzuki R, Suzumiya J* : High-dose chemotherapy with autologous stem cell transplantation for elderly patients with relapsed/refractory diffuse large B cell lymphoma: a nationwide retrospective study. *Biol Blood Marrow Transplant*, 20 (5): 684-9, 2014.
- 020 *Chihara D, Kagami Y, Kato H, Yoshida N, Kiyono T, Okada Y, Kinoshita T, Seto M* : IL2/IL-4, OX40L and FDC-like cell line support the in vitro tumor cell growth of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Leuk Res*, 38 (5): 608-12, 2014.
- 021 *Ueda N, Chihara D, Kohno A, Tatekawa S, Ozeki K, Watamoto K, Morishita Y* : Predictive value of circulating angiopoietin-2 for endothelial damage-related complications in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Biol Blood Marrow Transplant*, 20 (9): 1335-40, 2014.
- 022 *Sugimoto Y, Wakai K, Nakagawa H, Suma S, Sasakabe T, Sakamoto T, Takashima N, Suzuki S, Ogawa S, Ohnaka K, Kuriyama N, Arisawa K, Mikami H, Kubo M, Hosono S, Hamajima N, Tanaka H, Group J M S* : Associations between polymorphisms of interleukin-6 and related cytokine genes and serum liver damage markers: a cross-sectional study in the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *Gene*, 557 (2): 158-62, 2015.
- 023 *Fukumoto K, Ito H, Matsuo K, Tanaka H, Yokoi K, Tajima K, Takezaki T* : Cigarette smoke inhalation and risk of lung cancer: a case-control study in a large Japanese population. *Eur J Cancer Prev*, 2014.
- 024 *Glubb D M, Maranian M J, Michailidou K, Pooley K A, Meyer K B, Kar S, Carlebur S, O'Reilly M, Betts J A, Hillman K M, Kaufmann S, Beesley J, Canisius S, Hopper J L, Southey M C, Tsimiklis H, Apicella C, Schmidt M K, Broeks A, Hogervorst F*

- B, van der Schoot C E, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Fasching P A, Ruebner M, Ekici A B, Beckmann M W, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Fletcher O, Johnson N, Pharoah P D, Bolla M K, Wang Q, Dennis J, Sawyer E J, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Yang R, Surowy H, Guenel P, Truong T, Menegaux F, Sanchez M, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Nielsen S F, Flyger H, Gonzalez-Neira A, Benitez J, Zamora M P, Arias Perez J I, Anton-Culver H, Neuhausen S L, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Schmutzler R K, Brauch H, Ko Y D, Bruning T, Network G, Nevanlinna H, Muranen T A, Aittomaki K, Blomqvist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tanaka H, Dork T, Bogdanova N V, Helbig S, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, kConFab I, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Lambrechts D, Zhao H, Weltens C, van Limbergen E, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Rudolph A, Seibold P, Radice P, Peterlongo P, Barile M, Capra F, Couch F J, Olson J E, Hallberg E, Vachon C, Giles G G, Milne R L, McLean C, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Teo S H, Yip C H, See M H, Cornes B, Cheng C Y, Ikram M K, Kristensen V, Norwegian Breast Cancer S, Zheng W, Halverson S L, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C, Van Asperen C J, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock S J, Lissowska J, Czene K, Klevebring D, Darabi H, Eriksson M, Hoening M J, Hollestelle A, Martens J W, Collee J M, Hall P, Li J, Humphreys K, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Cai H, Cox A, Cross S S, Reed M W, Blot W, Signorello L B, Cai Q, Shah M, Ghoussaini M, Kang D, Choi J Y, Park S K, Noh D Y, Hartman M, Miao H, Lim W Y, Tang A, Hamann U, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Durda K, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Olswold C, Slager S, Toland A E, Yannoukakos D, Shen C Y, Wu P E, Yu J C, Hou M F, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Jones M, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Healey C S, Brown M A, Ponder B A, Chenevix-Trench G, Thompson D J, Edwards S L, Easton D F, Dunning A M, French J D* : Fine-Scale Mapping of the 5q11.2 Breast Cancer Locus Reveals at Least Three Independent Risk Variants Regulating MAP3K1. *Am J Hum Genet*, 96 (1): 5-20, 2015.
- 025 *Hara M, Nakamura K, Nanri H, Nishida Y, Hishida A, Kawai S, Hamajima N, Kita Y, Suzuki S, Mantjoro E M, Ohnaka K, Uemura H, Matsui D, Oze I, Mikami H, Kubo M, Tanaka H, Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study G* : Associations between hOGG1 Ser326Cys polymorphism and increased body mass index and fasting glucose level in the Japanese general population. *J Epidemiol*, 24 (5): 379-84, 2014.
- 026 *Hishida A, Takashima N, Turin T C, Kawai S, Wakai K, Hamajima N, Hosono S, Nishida Y, Suzuki S, Nakahata N, Mikami H, Ohnaka K, Matsui D, Katsuura-Kamano S, Kubo M, Tanaka H, Kita Y* : GCK, GCKR polymorphisms and risk of chronic kidney disease in Japanese individuals: data from the J-MICC Study. *J Nephrol*, 27 (2): 143-9, 2014.
- 027 *Hishida A, Wakai K, Naito M, Suma S, Sasakabe T, Hamajima N, Hosono S, Horita M, Turin T C, Suzuki S, Kairupan T S, Mikami H, Ohnaka K, Watanabe I, Uemura H, Kubo M, Tanaka H, Group J M S* : Polymorphisms of genes involved in lipid metabolism and risk of chronic kidney disease in Japanese - cross-sectional data from the J-MICC study. *Lipids Health Dis*, 13: 162, 2014.
- 028 *Katsuura-Kamano S, Uemura H, Arisawa K, Yamaguchi M, Hamajima N, Wakai K, Okada R, Suzuki S, Taguchi N, Kita Y, Ohnaka K, Kairupan T S, Matsui D, Oze I, Mikami H, Kubo M, Tanaka H* : A polymorphism near MC4R gene (rs17782313) is associated with serum triglyceride levels in the general Japanese population: the J-MICC Study. *Endocrine*, 47 (1): 81-9, 2014.
- 029 *Nakane H, Hirano M, Ito H, Hosono S, Oze I, Matsuda F, Tanaka H, Matsuo K* : Impact of metallothionein gene polymorphisms on the risk of lung cancer in a Japanese population. *Mol Carcinog*, 2014.
- 030 *Nishino Y, Tsuji I, Tanaka H, Nakayama T, Nakatsuka H, Ito H, Suzuki T, Katanoda K, Sobue T, Tominaga S, Three-Prefecture Cohort Study G* : Stroke mortality associated with environmental tobacco smoke among never-smoking Japanese women: a prospective cohort study. *Prev Med*, 67: 41-5, 2014.
- 031 *Taniguchi C, Tanaka H, Nakamura N, Saka H, Oze I, Ito H, Tachibana K, Tokoro A, Nozaki Y, Nakamichi N, Sakakibara H* : Varenicline is more effective in attenuating weight gain than nicotine patch 12 months after the end of smoking cessation therapy: an observational study in Japan. *Nicotine Tob Res*, 16 (7): 1026-9, 2014.
- 032 *Zheng W, McLerran D F, Rolland B A, Fu Z, Boffetta P, He J, Gupta P C, Ramadas K, Tsugane*

- S, Irie F, Tamakoshi A, Gao Y T, Koh W P, Shu X O, Ozasa K, Nishino Y, Tsuji I, Tanaka H, Chen C J, Yuan J M, Ahn Y O, Yoo K Y, Ahsan H, Pan W H, Qiao Y L, Gu D, Pednekar M S, Sauvaget C, Sawada N, Sairenchi T, Yang G, Wang R, Xiang Y B, Ohishi W, Kakizaki M, Watanabe T, Oze I, You S L, Sugawara Y, Butler L M, Kim D H, Park S K, Parvez F, Chuang S Y, Fan J H, Shen C Y, Chen Y, Grant E J, Lee J E, Sinha R, Matsuo K, Thornquist M, Inoue M, Feng Z, Kang D, and Potter J D* : Burden of total and cause-specific mortality related to tobacco smoking among adults aged ≥ 45 years in Asia: a pooled analysis of 21 cohorts. *PLoS Med*, 11 (4): e1001631, 2014.
- 033 *Ebi H, Oze I, Nakagawa T, Ito H, Hosono S, Matsuda F, Takahashi M, Takeuchi S, Sakao Y, Hida T, Faber A C, Tanaka H, Yatabe Y, Mitsudomi T, Yano S, Matsuo K* : Lack of Association between the BIM Deletion Polymorphism and the Risk of Lung Cancer with and without EGFR Mutations. *J Thorac Oncol*, 10 (1): 59-66, 2015.
- 034 *Fujiyama T, Oze I, Yagi H, Hashizume H, Matsuo K, Hino R, Kamo R, Imayama S, Hirakawa S, Ito T, Takigawa M, Tokura Y* : Induction of cytotoxic T cells as a novel independent survival factor in malignant melanoma with percutaneous peptide immunization. *J Dermatol Sci*, 75 (1): 43-8, 2014.
- 035 *Ito Y, Miyashiro I, Ito H, Hosono S, Chihara D, Nakata-Yamada K, Nakayama M, Matsuzaka M, Hattori M, Sugiyama H, Oze I, Tanaka R, Nomura E, Nishino Y, Matsuda T, Ioka A, Tsukuma H, Nakayama T, Group T J* : Long-term survival and conditional survival of cancer patients in Japan using population-based cancer registry data. *Cancer Sci*, 2014.
- 036 *Kato Y, Hotta K, Takigawa N, Nogami N, Kozuki T, Sato A, Ichihara E, Kudo K, Oze I, Tabata M, Shinkai T, Tanimoto M, Kiura K* : Factor associated with failure to administer subsequent treatment after progression in the first-line chemotherapy in EGFR-mutant non-small cell lung cancer: Okayama Lung Cancer Study Group experience. *Cancer Chemother Pharmacol*, 73 (5): 943-50, 2014.
- 037 *Nogami N, Takigawa N, Hotta K, Segawa Y, Kato Y, Kozuki T, Oze I, Kishino D, Aoe K, Ueoka H, Kuyama S, Harita S, Okada T, Hosokawa S, Inoue K, Gemba K, Shibayama T, Tabata M, Takemoto M, Kanazawa S, Tanimoto M, Kiura K* : A phase II study of cisplatin plus S-1 with concurrent thoracic radiotherapy for locally advanced non-small-cell lung cancer: The Okayama Lung Cancer Study Group Trial 0501. *Lung Cancer*, 87 (2): 141-7, 2015.
- 038 *Oze I, Matsuo K, Kawakita D, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Hatooka S, Hasegawa Y, Shinoda M, Tajima K, Tanaka H* : Coffee and green tea consumption is associated with upper aerodigestive tract cancer in Japan. *Int J Cancer*, 135 (2): 391-400, 2014.
- 039 *Wada K, Nagata C, Tamakoshi A, Matsuo K, Oze I, Wakai K, Tsuji I, Sugawara Y, Mizoue T, Tanaka K, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S, Sasazuki S, Research Group for the D, Evaluation of Cancer Prevention Strategies in J* : Body mass index and breast cancer risk in Japan: a pooled analysis of eight population-based cohort studies. *Ann Oncol*, 25 (2): 519-24, 2014.
- 040 *Zhang Y, Su H J, Pan K F, Zhang L, Ma J L, Shen L, Li J Y, Liu W D, Oze I, Matsuo K, Yuasa Y, You W* : Methylation status of blood leukocyte DNA and risk of gastric cancer in a high-risk Chinese population. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 2014.
- 041 *Ebi H, Oze I, Nakagawa T, Ito H, Hosono S, Matsuda F, Takahashi M, Takeuchi S, Sakao Y, Hida T, Faber A C, Tanaka H, Yatabe Y, Mitsudomi T, Yano S, Matsuo K* : Lack of Association between the BIM Deletion Polymorphism and the Risk of Lung Cancer with and without EGFR Mutations. *J Thorac Oncol*, 10 (1): 59-66, 2015.
- 042 *Glubb D M, Maranian M J, Michailidou K, Pooley K A, Meyer K B, Kar S, Carlebur S, O'Reilly M, Betts J A, Hillman K M, Kaufmann S, Beesley J, Canisius S, Hopper J L, Southey M C, Tsimiklis H, Apicella C, Schmidt M K, Broeks A, Hogervorst F B, van der Schoot C E, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsarn P, Fasching P A, Ruebner M, Ekici A B, Beckmann M W, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Fletcher O, Johnson N, Pharoah P D, Bolla M K, Wang Q, Dennis J, Sawyer E J, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Yang R, Surowy H, Guenel P, Truong T, Menegaux F, Sanchez M, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Nielsen S F, Flyger H, Gonzalez-Neira A, Benitez J, Zamora M P, Arias Perez J I, Anton-Culver H, Neuhausen S L, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Schmutzler R K, Brauch H, Ko Y D, Bruning T, Network G, Nevanlinna H, Muranen T A, Aittomaki K, Blomqvist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tanaka H, Dork T, Bogdanova N V, Helbig S, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, kConFab I, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Lambrechts D, Zhao H, Weltens C, van Limbergen E, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Rudolph A, Seibold P, Radice P, Peterlongo P, Barile M, Capra F, Couch F J, Olson J E, Hallberg E, Vachon C, Giles G G,*

- Milne R L, McLean C, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Teo S H, Yip C H, See M H, Cornes B, Cheng C Y, Ikram M K, Kristensen V, Norwegian Breast Cancer S, Zheng W, Halverson S L, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C, Van Asperen C J, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock S J, Lissowska J, Czene K, Klevebring D, Darabi H, Eriksson M, Hoening M J, Hollestelle A, Martens J W, Collee J M, Hall P, Li J, Humphreys K, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Cai H, Cox A, Cross S S, Reed M W, Blot W, Signorello L B, Cai Q, Shah M, Ghousaini M, Kang D, Choi J Y, Park S K, Noh D Y, Hartman M, Miao H, Lim W Y, Tang A, Hamann U, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Durda K, Sangrajang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Olswold C, Slager S, Toland A E, Yannoukakos D, Shen C Y, Wu P E, Yu J C, Hou M F, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Jones M, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Healey C S, Brown M A, Ponder B A, Chenevix-Trench G, Thompson D J, Edwards S L, Easton D F, Dunning A M, French J D : Fine-Scale Mapping of the 5q11.2 Breast Cancer Locus Reveals at Least Three Independent Risk Variants Regulating MAP3K1. *Am J Hum Genet*, 96 (1): 5-20, 2015.
- 043 Hidaka A, Sasazuki S, Matsuo K, Ito H, Sawada N, Shimazu T, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S, Group J S : Genetic polymorphisms of ADH1B, ADH1C and ALDH2, alcohol consumption, and the risk of gastric cancer: the Japan Public Health Center-based prospective study. *Carcinogenesis*, 36 (2): 223-31, 2015.
- 044 Kobayashi K, Sakurai K, Hiramatsu H, Inada K, Shiogama K, Nakamura S, Suemasa F, Kobayashi K, Imoto S, Haraguchi T, Ito H, Ishizaka A, Tsutsumi Y, Iba H : The miR-199a/Brm/EGR1 axis is a determinant of anchorage-independent growth in epithelial tumor cell lines. *Sci Rep*, 5: 8428, 2015.
- 045 Kuchenbaecker K B, Ramus S J, Tyrer J, Lee A, Shen H C, Beesley J, Lawrenson K, McGuffog L, Healey S, Lee J M, Spindler T J, Lin Y G, Pejovic T, Bean Y, Li Q, Coetzee S, Hazelett D, Miron A, Southey M, Terry M B, Goldgar D E, Buys S S, Janavicius R, Dorfling C M, van Rensburg E J, Neuhausen S L, Ding Y C, Hansen T V, Jonson L, Gerdes A M, Ejlertsen B, Barrowdale D, Dennis J, Benitez J, Osorio A, Garcia M J, Komenaka I, Weitzel J N, Ganschow P, Peterlongo P, Bernard L, Viel A, Bonanni B, Peissel B, Manoukian S, Radice P, Papi L, Ottini L, Fostira F, Konstantopoulou I, Garber J, Frost D, Perkins J, Platte R, Ellis S, Embrace, Godwin A K, Schmutzler R K, Meindl A, Engel C, Sutter C, Sinilnikova O M, Collaborators G S, Damiola F, Mazoyer S, Stoppa-Lyonnet D, Claes K, De Leeneer K, Kirk J, Rodriguez G C, Piedmonte M, O'Malley D M, de la Hoya M, Caldes T, Aittomaki K, Nevanlinna H, Collee J M, Rookus M A, Oosterwijk J C, Breast Cancer Family R, Tihomirova L, Tung N, Hamann U, Isaccs C, Tischkowitz M, Imyanitov E N, Caligo M A, Campbell I G, Hogervorst F B, Hebon, Olah E, Diez O, Blanco I, Brunet J, Lazaro C, Pujana M A, Jakubowska A, Gronwald J, Lubinski J, Sukiennicki G, Barkardottir R B, Plante M, Simard J, Soucy P, Montagna M, Tognazzo S, Teixeira M R, Investigators K C, Pankratz V S, Wang X, Lindor N, Szabo C I, Kauff N, Vijai J, Aghajanian C A, Pfeiler G, Berger A, Singer C F, Tea M K, Phelan C M, Greene M H, Mai P L, Rennert G, Mulligan A M, Tchatchou S, Andrulis I L, Glendon G, Toland A E, Jensen U B, Kruse T A, Thomassen M, Bojesen A, Zidan J, Friedman E, Laitman Y, Soller M, Liljegren A, Arver B, Einbeigi Z, Stenmark-Askmal M, Olopade O I, Nussbaum R L, Rebbeck T R, Nathanson K L, Domchek S M, Lu K H, Karlan B Y, Walsh C, Lester J, Australian Cancer S, Australian Ovarian Cancer Study G, Hein A, Ekici A B, Beckmann M W, Fasching P A, Lambrechts D, Van Nieuwenhuysen E, Vergote I, Lambrechts S, Dicks E, Doherty J A, Wicklund K G, Rossing M A, Rudolph A, Chang-Claude J, Wang-Gohrke S, Eilber U, Moysich K B, Odunsi K, Sucheston L, Lele S, Wilkens L R, Goodman M T, Thompson P J, Shvetsov Y B, Runnebaum I B, Durst M, Hillemanns P, Dork T, Antonenkova N, Bogdanova N, Leminen A, Pelttari L M, Butzow R, Modugno F, Kelley J L, Edwards R P, Ness R B, du Bois A, Heitz F, Schwaab I, Harter P, Matsuo K, Hosono S, Orsulic S, Jensen A, Kjaer S K, Hogdall E, Hasmad H N, Azmi M A, Teo S H, Woo Y L, Fridley B L, Goode E L, Cunningham J M, Vierkant R A, Bruinsma F, Giles G G, Liang D, Hildebrandt M A, Wu X, Levine D A, Bisogna M, Berchuck A, Iversen E S, Schildkraut J M, Concannon P, Weber R P, Cramer D W, Terry K L, Poole E M, Tworoger S S, Bandera E V, Orlow I, Olson S H, Krakstad C, Salvesen H B, Tangen I L, Bjorge L, van Altena A M, Aben K K, Kiemeny L A, Massuger L F, Kellar M, Brooks-Wilson A, Kelemen L E, Cook L S, Le N

- D, Cybulski C, Yang H, Lissowska J, Brinton L A, Wentzensen N, Hogdall C, Lundvall L, Nedergaard L, Baker H, Song H, Eccles D, McNeish I, Paul J, Carty K, Siddiqui N, Glasspool R, Whittemore A S, Rothstein J H, McGuire V, Sieh W, Ji B T, Zheng W, Shu X O, Gao Y T, Rosen B, Risch H A, McLaughlin J R, Narod S A, Monteiro A N, Chen A, Lin H Y, Permuth-Wey J, Sellers T A, Tsai Y Y, Chen Z, Ziogas A, Anton-Culver H, Gentry-Maharaj A, Menon U, Harrington P, Lee A W, Wu A H, Pearce C L, Coetzee G, Pike M C, Dansonka-Mieszkowska A, Timorek A, Rzepecka I K, Kupryjanczyk J, Freedman M, Noushmehr H, Easton D F, Offit K, Couch F J, Gayther S, Pharoah P P, Antoniou A C, Chenevix-Trench G, Consortium of Investigators of Modifiers of B and Brca : Identification of six new susceptibility loci for invasive epithelial ovarian cancer. *Nat Genet*, 47 (2): 164-71, 2015.*
- 046 *Lin W Y, Camp N J, Ghousaini M, Beesley J, Michailidou K, Hopper J L, Apicella C, Southey M C, Stone J, Schmidt M K, Broeks A, Van't Veer L J, Th Rutgers E J, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Fasching P A, Haeberle L, Ekici A B, Beckmann M W, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Fletcher O, Johnson N, Bolla M K, Wang Q, Dennis J, Sawyer E J, Cheng T, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, Marme F, Surowy H M, Burwinkel B, Guenel P, Truong T, Menegaux F, Mulot C, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Nielsen S F, Flyger H, Benitez J, Zamora M P, Arias Perez J I, Menendez P, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Anton-Culver H, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Lichtner P, Schmutzler R K, Muller-Myhok B, Brauch H, Bruning T, Ko Y D, Network G, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, Nevanlinna H, Aittomaki K, Blomqvist C, Khan S, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Horio A, Bogdanova N V, Antonenkova N N, Dork T, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, kConFab I, Australian Ovarian Cancer Study G, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Neven P, Wauters E, Wildiers H, Lambrechts D, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Radice P, Peterlongo P, Manoukian S, Bonanni B, Couch F J, Wang X, Vachon C, Purrington K, Giles G G, Milne R L, McLean C, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Teo S H, Yip C H, Hassan N, Vithana E N, Kristensen V, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M J, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C, Van Asperen C J, Garcia-Closas M, Figueroa J, Lissowska J, Brinton L, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Brand J S, Hooning M J, Hollestelle A, Van Den Ouweland A M, Jager A, Li J, Liu J, Humphreys K, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Cai H, Cross S S, Reed M W, Blot W, Signorello L B, Cai Q, Pharoah P D, Perkins B, Shah M, Blows F M, Kang D, Yoo K Y, Noh D Y, Hartman M, Miao H, Chia K S, Putti T C, Hamann U, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Maranian M, Healey C S, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Slager S, Toland A E, Yannoukakos D, Shen C Y, Hsiung C N, Wu P E, Ding S L, Ashworth A, Jones M, Orr N, Swerdlow A J, Tsimiklis H, Makalic E, Schmidt D F, Bui Q M, Chanock S J, Hunter D J, Hein R, Dahmen N, Beckmann L, Aaltonen K, Muranen T A, Heikkinen T, Irwanto A, Rahman N, Turnbull C A, Breast, Ovarian Cancer Susceptibility S, Waisfisz Q, Meijers-Heijboer H E, Adank M A, Van Der Luijt R B, Hall P, Chenevix-Trench G, Dunning A, Easton D F, Cox A : Identification and characterization of novel associations in the CASP8/ALS2CR12 region on chromosome 2 with breast cancer risk. *Hum Mol Genet*, 24 (1): 285-98, 2015.*
- 047 *Michailidou K, Beesley J, Lindstrom S, Canisius S, Dennis J, Lush M J, Maranian M J, Bolla M K, Wang Q, Shah M, Perkins B J, Czene K, Eriksson M, Darabi H, Brand J S, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Flyger H, Nielsen S F, Rahman N, Turnbull C, Bocs, Fletcher O, Peto J, Gibson L, Dos-Santos-Silva I, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Rudolph A, Eilber U, Behrens S, Nevanlinna H, Muranen T A, Aittomaki K, Blomqvist C, Khan S, Aaltonen K, Ahsan H, Kibriya M G, Whittemore A S, John E M, Malone K E, Gammon M D, Santella R M, Ursin G, Makalic E, Schmidt D F, Casey G, Hunter D J, Gapstur S M, Gaudet M M, Diver W R, Haiman C A, Schumacher F, Henderson B E, Le Marchand L, Berg C D, Chanock S J, Figueroa J, Hoover R N, Lambrechts D, Neven P, Wildiers H, van Limbergen E, Schmidt M K, Broeks A, Verhoef S, Cornelissen S, Couch F J, Olson J E, Hallberg E, Vachon C, Waisfisz Q, Meijers-Heijboer H, Adank M A, van der Luijt R B, Li J, Liu J, Humphreys K, Kang D, Choi J Y, Park S K, Yoo K Y, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tajima K, Guenel P, Truong T, Mulot C, Sanchez M, Burwinkel B, Marme F, Surowy H, Sohn C, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Gonzalez-Neira A, Benitez J, Zamora M P, Perez J I, Shu X*

- O, Lu W, Gao Y T, Cai H, Cox A, Cross S S, Reed M W, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Mulligan A M, Sawyer E J, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, kConFab I, Group A, Lindblom A, Margolin S, Teo S H, Yip C H, Taib N A, Tan G H, Hooning M J, Hollestelle A, Martens J W, Collee J M, Blot W, Signorello L B, Cai Q, Hopper J L, Southey M C, Tsimiklis H, Apicella C, Shen C Y, Hsiung C N, Wu P E, Hou M F, Kristensen V N, Nord S, Alnaes G I, Nbes, Giles G G, Milne R L, McLean C, Canzian F, Trichopoulos D, Peeters P, Lund E, Sund M, Khaw K T, Gunter M J, Palli D, Mortensen L M, Dossus L, Huerta J M, Meindl A, Schmutzler R K, Sutter C, Yang R, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Hartman M, Miao H, Chia K S, Chan C W, Fasching P A, Hein A, Beckmann M W, Haeberle L, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Ashworth A, Orr N, Schoemaker M J, Swerdlow A J, Brinton L, Garcia-Closas M, Zheng W, Halverson S L, Shrubsole M, Long J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Brauch H, Hamann U, Bruning T, Network G, Radice P, Peterlongo P, Manoukian S, Bernard L, Bogdanova N V, Dork T, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C, Van Asperen C J, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Huzarski T, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Slager S, Toland A E, Ambrosone C B, Yannoukakos D, Kabisch M, Torres D, Neuhausen S L, Anton-Culver H, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Healey C S, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Simard J, Pharoah P P, Kraft P, Dunning A M, Chenevix-Trench G, Hall P, Easton D F : Genome-wide association analysis of more than 120,000 individuals identifies 15 new susceptibility loci for breast cancer. *Nat Genet*, 2015.
- 048 Nogami N, Takigawa N, Hotta K, Segawa Y, Kato Y, Kozuki T, Oze I, Kishino D, Aoe K, Ueoka H, Kuyama S, Harita S, Okada T, Hosokawa S, Inoue K, Gemba K, Shibayama T, Tabata M, Takemoto M, Kanazawa S, Tanimoto M, Kiura K : A phase II study of cisplatin plus S-1 with concurrent thoracic radiotherapy for locally advanced non-small-cell lung cancer: The Okayama Lung Cancer Study Group Trial 0501. *Lung Cancer*, 87 (2): 141-7, 2015.
- 049 Orr N, Dudbridge F, Dryden N, Maguire S, Novo D, Perrakis E, Johnson N, Ghossaini M, Hopper J L, Southey M C, Apicella C, Stone J, Schmidt M K, Broeks A, Van't Veer L J, Hogervorst F B, Fasching P A, Haeberle L, Ekici A B, Beckmann M W, Gibson L, Aitken Z, Warren H, Sawyer E, Tomlinson I, Kerin M J, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Guenel P, Truong T, Cordina-Duverger E, Sanchez M, Bojesen S E, Nordestgaard B G, Nielsen S F, Flyger H, Benitez J, Zamora M P, Arias Perez J I, Menendez P, Anton-Culver H, Neuhausen S L, Brenner H, Dieffenbach A K, Arndt V, Stegmaier C, Hamann U, Brauch H, Justenhoven C, Bruning T, Ko Y D, The G N, Nevanlinna H, Aittomaki K, Blomqvist C, Khan S, Bogdanova N, Dork T, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma V M, Hartikainen J M, Chenevix-Trench G, Beesley J, kConFab I, Australian Ovarian Cancer Study G, Lambrechts D, Moisse M, Floris G, Beuselinck B, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Radice P, Peterlongo P, Peissel B, Pensotti V, Couch F J, Olson J E, Slettedahl S, Vachon C, Giles G G, Milne R L, McLean C, Haiman C A, Henderson B E, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg M S, Labreche F, Dumont M, Kristensen V, Alnaes G G, Nord S, Borresen-Dale A L, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Andrulis I L, Knight J A, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar R A, Seynaeve C M, Van Asperen C J, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock S J, Lissowska J, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Klevebring D, Hooning M J, Hollestelle A, van Deurzen C H, Kriege M, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Cox A, Cross S S, Reed M W, Pharoah P D, Dunning A M, Shah M, Perkins B J, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Ashworth A, Swerdlow A, Jones M, Schoemaker M J, Meindl A, Schmutzler R K, Olswold C, Slager S, Toland A E, Yannoukakos D, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Ishiguro J, Wu A H, Tseng C C, Van Den Berg D, Stram D O, Teo S H, Yip C H, Kang P, Ikram M K, Shu X O, Lu W, Gao Y T, Cai H, Kang D, Choi J Y, Park S K, Noh D Y, Hartman M, Miao H, Lim W Y, Lee S C, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Wu P E, Hou M F, Yu J C, Shen C Y, Blot W, Cai Q, Signorello L B, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Maranian M, Healey C S, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso M R, Alvarez N, Herrero D, Tessier D C, Vincent D, Bacot F, Hunter D J, Lindstrom S, Dennis J, Michailidou K, Bolla M K, Easton D F, Dos Santos Silva I, Fletcher O and Peto J : Fine-mapping identifies two additional breast cancer susceptibility loci at 9q31.2. *Hum Mol Genet*, 2015.

- 050 *Pelucchi C, Lunet N, Boccia S, Zhang Z F, Praud D, Boffetta P, Levi F, Matsuo K, Ito H, Hu J, Johnson K C, Ferraroni M, Yu G P, Peleteiro B, Malekzadeh R, Derakhshan M H, Ye W, Zaridze D, Maximovitch D, Aragonés N, Martin V, Pakseresht M, Pourfarzi F, Bellavia A, Orsini N, Wolk A, Mu L, Arzani D, Kurtz R C, Laggiou P, Trichopoulos D, Muscat J, La Vecchia C, Negri E* : The stomach cancer pooling (StoP) project: study design and presentation. *Eur J Cancer Prev*, 24 (1): 16-23, 2015.
- 051 *Sugimoto Y, Wakai K, Nakagawa H, Suma S, Sasakabe T, Sakamoto T, Takashima N, Suzuki S, Ogawa S, Ohnaka K, Kuriyama N, Arisawa K, Mikami H, Kubo M, Hosono S, Hamajima N, Tanaka H, Group J M S* : Associations between polymorphisms of interleukin-6 and related cytokine genes and serum liver damage markers: a cross-sectional study in the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *Gene*, 557 (2): 158-62, 2015.
- 052 千原 大 : 【マントル細胞リンパ腫】 悪性リンパ腫の疫学. 血液フロンティア, 24 (9): 1309-1313, 2014.
- 053 千原 大 : 血液腫瘍の発症頻度の日米比較. 血液内科, 69 (1): 107-111, 2014.
- 054 田中英夫, 細野覚代, 伊藤秀美 : わが国の肝癌発生の現況と見通し. 臨床消化器内科, 29 (7) : 203-207, 2014.
- 055 田中英夫 : がん予防に役立つ生活習慣指導. 診断と治療, 102 (5): 648-650, 2014.

腫瘍病理学部

【原著】

- 001 *Higa M, Katagiri C, Shimizu-Okabe C, Tsumuraya T, Sunagawa M, Nakamura M, Ishiuchi S, Takayama C, Kondo E, Matsushita M* : Identification of a novel cell-penetrating peptide targeting human glioblastoma cell lines as a cancer-homing transporter. *Biochem Biophys Res Commun*, 457(2):206-12, 2015.
- 002 *Muhammad K, Alrefai H, Marienfeld R, Pham DA, Murti K, Patra AK, Avots A, Bukur V, Sahin U, Kondo E, Klein-Hessling S, Serfling E* : NF- κ B factors control the induction of NFATc1 in B lymphocytes. *Eur J Immunol*, Nov;44(11):3392-402, 2014.
- 003 *Nakata S, Tanaka H, Ito Y, Hara M, Fujita M, Kondo E, Kanemitsu Y, Yatabe Y, Nakanishi H* : Deficient HER3 expression in poorly-differentiated colorectal cancer cells enhances gefitinib sensitivity. *Int J Oncol*, Oct;45(4):1583-93, 2014.
- 004 *Ruma IMW, Putranto EW, Kondo E, Watanabe R, Saito K, Inoue Y, Yamamoto K, Nakata S, Kaihata M, Murata H and Sakaguchi M* : Extract of *Cordyceps militaris* inhibits angiogenesis and suppresses tumor

growth of human malignant melanoma cells. *Int J Oncol*, Jul;45(1):209-18, 2014.

分子腫瘍学部

- 001 *Fernandez-Cuesta L, Plenker D, Osada H, Sun R, Menon R, Leenders F, Ortiz-Cuaran S, Peifer M, Bos M, DaBler J, Malchers F, Schottle J, Vogel W, Dahmen I, Koker M, Ullrich RT, Wright GM, Russell PA, Wainer Z, Solomon B, Brambilla E, Nagy-Mignotte H, Moro-Sibilot D, Brambilla CG, Lantuejoul S, Altmuller J, Becker C, Nurnberg P, Heuckmann JM, Stoelben E, Petersen I, Clement JH, Sanger J, Muscarella LA, la Torre A, Fazio VM, Lahortiga I, Perera T, Ogata S, Parade M, Brehmer D, Vingron M, Heukamp LC, Buettner R, Zander T, Wolf J, Perner S, Ansen S, Haas SA, Yatabe Y, Thomas RK* : CD74-*NRG1* fusions in lung adenocarcinoma. *Cancer Discovery*, 4: 415-22, 2014.
- 002 *Suda K, Mizuuchi H, Murakami I, Uramoto H, Tanaka F, Sato K, Takemoto T, Iwasaki T, Sekido Y, Yatabe Y, Mitsudomi T* : CRKL amplification is rare as a mechanism for acquired resistance to kinase inhibitors in lung cancers with epidermal growth factor receptor mutation. *Lung Cancer*, 85: 147-51, 2014.
- 003 *Tanaka I, Osada H, Fujii M, Fukatsu A, Hida T, Horio Y, Kondo Y, Sato A, Hasegawa Y, Tsujimura T, Sekido Y* : LIM-domain protein AJUBA suppresses malignant mesothelioma cell proliferation via Hippo signaling cascade. *Oncogene*, 34:73-83, 2015.
- 004 *Li Q, Wang W, Machino Y, Yamada T, Kita K, Oshima M, Sekido Y, Tsuchiya M, Suzuki Y, Nanya K, Iida S, Nakamura K, Iwakiri S, Itoi K, Yano S* : Therapeutic activity of glycoengineered anti-GM2 antibodies against malignant pleural mesothelioma. *Cancer Sci*, 106: 102-7, 2015.
- 005 *Yamashita R, Sato M, Kakumu T, Hase T, Yogo N, Maruyama E, Sekido Y, Kondo M, Hasegawa Y* : Growth inhibitory effects of miR-221 and miR-222 in non-small cell lung cancer cells. *Cancer Med*, 4:551-64, 2015.
- 006 *Nakaguro M, Kiyonari S, Kishida S, Cao D, Murakami-Tonami Y, Ichikawa H, Takeuchi I, Nakamura S, Kadomatsu K* : Nucleolar protein PES1 is a marker of neuroblastoma outcome and is associated with neuroblastoma differentiation. *Cancer Sci*, 106: 237-43, 2015.

遺伝子医療研究部

【原著】

- 001 **Kato H, Karube K, Yamamoto K, Takizawa J, Tsuzuki S, Yatabe Y, Kanda T, Katayama M, Ozawa Y, Ishitsuka K, Okamoto M, Kinoshita T, Ohshima K, Nakamura S, Morishima Y, Seto M** : Gene expression profiling of Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma of the elderly reveals alterations of characteristic oncogenetic pathways. *Cancer Sci*, 105: 537-544, 2014.
- 002 **Chihara D, Kagami Y, Kato H, Yoshida N, Kiyono T, Okada Y, Kinoshita T, Seto M** : IL2/IL-4, OX40L and FDC-like cell line support the in vitro tumor cell growth of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Leuk Res*, 38(5):608-612, 2014.
- 003 **Hocking TD, Boeva V, Rigai G, Schleiermacher G, Janoueix-Lerosey I, Delattre O, Richer W, Bourdeaut F, Suguro M, Seto M, Bach F, Vert JP** : SegAnnDB: interactive Web-based genomic segmentation. *Bioinformatics*, 30: 1539-1546, 2014.
- 004 **Suguro M, Yoshida N, Umino A, Kato H, Tagawa H, Nakagawa M, Fukuhara N, Karnan S, Takeuchi I, Hocking TD, Arita K, Karube K, Tsuzuki S, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M** : Clonal heterogeneity of lymphoid malignancies correlates with poor prognosis. *Cancer Sci*, 105:897-904, 2014.
- 005 **Arita K, Tsuzuki S, Ohshima K, Sugiyama T, Seto M** : Synergy of Myc, cell cycle regulators and the Akt pathway in the development of aggressive B-cell lymphoma in a mouse model. *Leukemia*, 28:2270-2272, 2014.
- 006 **Yoshida N, Karube K, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Imaizumi Y, Taira N, Uike N, Umino A, Arita K, Suguro M, Tsuzuki S, Kinoshita T, Ohshima K, Seto M** : Molecular characterization of chronic-type adult T-cell leukemia/lymphoma. *Cancer Res*, 74: 6129-6138, 2014.

腫瘍免疫学部

- 001 **Ito T, Kawazu H, Murata T, Iwata S, Arakawa S, Sato Y, Kuzushima K, Goshima F, Kimura H** : Role of latent membrane protein 1 in chronic active Epstein-Barr virus infection-derived T/NK-cell proliferation. *Cancer Med*, 3: 787-795, 2014.
- 002 **Inaguma Y, Akahori Y, Murayama Y, Shiraiishi K, Tsuzuki-Iba S, Endoh A, Tsujikawa J, Demachi-Okamura A, Hiramatsu K, Saji H, Yamamoto Y, Yamamoto N, Nishimura Y, Takahashi T, Kuzushima K, Emi N, Akatsuka Y** : Construction

and molecular characterization of a T-cell receptor-like antibody and CAR-T cells specific for minor histocompatibility antigen HA-1H. *Gene Ther*, 21:575-584, 2014.

- 003 **岡村文字, 葛島清隆** : 人工抗原提示細胞を用いた抗腫瘍CTLの誘導と抗原の同定. *臨床免疫・アレルギー科*, 62(6): 645-648, 2014.
- 004 **張 エイ, 鈴木元晴, 上田格弘, 巽美奈子, 劉 天懿, 葛島清隆, 植村靖史** : iNKT細胞による樹状細胞の機能修飾. *臨床免疫・アレルギー科*, 62: 307-313, 2014.

感染腫瘍学部

学会誌への発表

- 001 **Kato H, Karube K, Yamamoto K, Takizawa J, Tsuzuki S, Yatabe Y, Kanda T, Katayama M, Ozawa Y, Ishitsuka K, Okamoto M, Kinoshita T, Ohshima K, Nakamura S, Morishima Y, Seto M** : Gene expression profiling of Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma of the elderly reveals alterations of characteristic oncogenetic pathways. *Cancer Sci*, 105: 537-544, 2014.
- 002 **Yamashita Y, Ito Y, Isomura H, Takemura N, Okamoto A, Motomura K, Tsujiuchi T, Natsume A, Wakabayashi T, Toyokuni S, Tsurumi T** : Lack of presence of the human cytomegalovirus in human glioblastoma. *Mod Pathol*, 27:922-929, 2014.
- 003 **Kanda T, Miyata M, Kano M, Kondo S, Yoshizaki T, Iizasa H** : Clustered microRNAs of the Epstein-Barr virus cooperatively downregulate an epithelial cell-specific metastasis suppressor. *J Virol*, 89: 2684-2697, 2015.

その他誌上への発表

- 004 **Thirion M, Kanda T, Murakami Y, Ochiya T, Iizasa H** : MicroRNAs and oncogenic human viruses. In: Babashah S, editor. *MicroRNAs: Key Regulators of Oncogenesis*. Switzerland, Springer International Publishing, 155-182, 2014.

分子病態学部

【原著】

- 001 **Hirai H, Fujishita T, Kurimoto K, Miyachi H, Kitano S, Inamoto S, Itatani Y, Saitou M, Maekawa T, Taketo MM** : CCR1-mediated accumulation of myeloid cells in the liver microenvironment promoting mouse colon cancer metastasis. *Clin Exp Metastasis*, 31(8): 977-989, 2014.

【原著】

- 001 **Kasahara K, Kawakami Y, Kiyono T, Yonemura S, Kawamura Y, Era S, Matsuzaki F, Goshima N, Inagaki M** : Ubiquitin-proteasome system controls ciliogenesis at the initial step of axoneme extension. *Nat Commun*, 5 : 5081, 2014.
- 002 **Oakes V, Wang W, Harrington B, Lee WJ, Beamish H., Chia KM, Pinder A, Goto H, Inagaki M, Pavay S, Gabrielli B** : Cyclin A/Cdk2 regulates Cdh1 and claspin during late S/G2 phase of the cell cycle. *Cell Cycle*, 13: 3302-3311, 2014.
- 003 **Ohta M, Ashikawa T, Nozaki Y, Kozuka-Hata H, Goto H, Inagaki M, Oyama M, Kitagawa D** : Direct interaction of Plk4 with STIL ensures formation of a single procentriole per parental centriole. *Nat Commun*, 5: 5267, 2014.
- 004 **Kitagawa M, Fung SYS, Hameed UFS, Goto H, Inagaki M, Lee SH** : Cdk1 Coordinates Timely Activation of MKlp2 Kinesin with Relocation of the Chromosome Passenger Complex for Cytokinesis. *Cell Rep*, 7: 166-179, 2014.
- 005 **Kakeno M, Matsuzawa K, Matsui T, Akita H, Sugiyama I, Ishidate F, Nakano A, Takashima S, Goto H, Inagaki M, Kaibuchi K, Watanabe T** : Plk1 phosphorylates CLIP-170 and regulates its binding to microtubules for chromosome alignment. *Cell Struct Funct*, 39: 45-59, 2014.
- 006 **Ikawa K, Satou A, Fukuhara M, Matsumura S, Sugiyama N, Goto H, Fukuda M, Inagaki M, Ishihama Y, Toyoshima F** : Inhibition of endocytic vesicle fusion by Plk1-mediated phosphorylation of vimentin during mitosis. *Cell Cycle*, 13: 126-137, 2014.
- 007 **Hyder CL, Kemppainen K, Isoniemi KO, Imanishi SY, Goto H, Inagaki M, Fazeli E, Eriksson JE, Törnquist K** : Sphingolipids inhibit vimentin-dependent cell migration. *J Cell Sci*, 128: 2057-2069, 2015.
- 008 **Tanaka H, Goto H, Inoko A, Makihara H, Enomoto A, Horimoto K, Matsuyama M, Kurita K, Izawa I, Inagaki M** : Cytokinetic failure-induced tetraploidy develops into aneuploidy, triggering skin aging in phospho-vimentin deficient mice. *J Biol Chem*, 290: 12984-12998, 2015.
- 009 **Bargagna-Mohan P, Lei L, Thompson A, Shaw C, Kasahara K, Inagaki M, Mohan R** : Vimentin Phosphorylation Underlies Myofibroblast Sensitivity to Withaferin A In Vitro and during Corneal Fibrosis. *PLoS One*, 17: e0133399, 2015.

【総説および単行本】

- 010 **Goto H, Inagaki M** : New Insights into Roles of

Intermediate Filament (IF) Phosphorylation and Progeria Pathogenesis. *IUBMB Life*, 66: 195-200, 2014.

- 011 **Goto H, Inagaki M** : Method for generation of antibodies specific for site-and post-translational modifications. *Monoclonal Antibodies, Methods and Protocols*, Second Edition, “Methods in molecular biology” series, eds. Ossipow V. and Fischer N. Humana Press, 1131: 21-31, 2014.
- 012 **Goto H, Kasahara K, Inagaki M** : Novel insights into Chk1 regulation by phosphorylation. *Cell Struct Funct*, 40: 43-50, 2015.
- 013 **Goto H, Tanaka H, Kasahara K, Inagaki M** : Phospho-specific antibody probes of intermediate filament (IF) proteins. *Intermediate Filament Proteins, Methods in Enzymology*, eds. Omary B and Liem R, Elsevier. In press.
- 014 後藤英仁 : チェックポイントキナーゼ1 (Chk1) による細胞周期の制御. 生体の科学, 公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団/医学書院, 65: 364-369, 2014.
- 015 後藤英仁, 田中宏樹, 稲垣昌樹 : 染色体不安定性とがん化・分化・老化-特集 染色体不安定性制御と疾患-, 月刊細胞, ニューサイエンス社, 47: 13-16 (223-226), 2015.
- 016 笠原広介, 稲垣昌樹 : 一次繊毛を制御するAuroraAシグナル. 実験医学増刊 知る・見る・活かす! シグナリング研究 2015, 88-92, 2015.